福音小学校構内遺跡 II

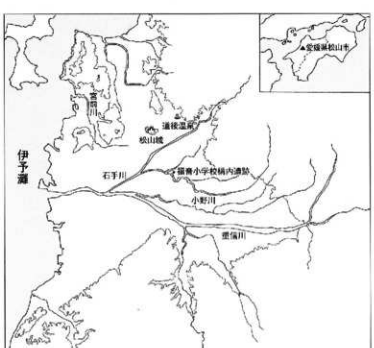
－古墳時代以降編－

2003

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

福音小学校構内遺跡 II

—古墳時代以降編—



2003

松山市教育委員会
財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版1　松山市福音寺地区（北上空より）〔▼松山市立福音小学校〕

巻頭図版２　出土鉄製品

序

本書は、市立福音小学校建設に伴い平成元年度に松山市教育委員会が発掘調査を実施し、その結果を財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センターがまとめたものです。

周辺におきましては、昭和40年代の国道11号線バイパス建設に伴う事前調査をはじめ、筋違A～P遺跡、北久米浄瑩寺遺跡3～5次調査など弥生時代から飛鳥時代にかけての重要な遺跡の調査が進められてきました。また、南東に位置する国指定史跡の来住廃寺は、「回廊状遺構」や「久米評」の文字が線刻された須恵器の検出等により全国的に注目されており、学術調査並びに保存整備事業が継続されています。

その中において福音小学校構内遺跡は、弥生時代から中世にかけての複合遺跡です。特に古墳時代中期の大規模集落跡が見つかり、近接する星岡・東山古墳群と共に注目される重要な遺跡であります。

調査報告書は、膨大な考古学資料となるため分冊にて刊行する予定です。今回の古墳時代以降編は既刊されている弥生時代編に続く第二弾となるものです。

本報告書を刊行できますことは、埋蔵文化財に対し深いご理解とご協力をお寄せいただいた市民の方々の賜と心から感謝申し上げます。また、本書が文化財保護、教育文化の向上、今後の調査研究の一助となれば幸いに存じます。

平成15年3月31日

財団法人　松山市生涯学習振興財団
理事長　中村時広

例　　言

1．本書は、松山市教育委員会（松山市立埋蔵文化財センター）が1989（平成元）年７月～翌年３月に実施した松山市立福音小学校新設工事に伴う埋蔵文化財調査の発掘調査報告書である。1995（平成７）年に刊行された「－弥生時代編－」の続編である。

2．遺構の実測は、宮崎泰好の責任のもと、相原浩二、山本健一、武正良浩が中心に行い、愛媛大学・松山大学の学生、一般の方々他の援助を受けた。遺構の撮影は宮崎泰好、大西朋子が行った。

3．遺構は呼称を略号化して記述した。竪穴式住居：ＳＢ、溝：ＳＤ、井戸：ＳＥ、道路遺構：ＳＦ、土坑：ＳＫ、柱穴：ＳＰ、掘立柱建物：掘立、波板状凹凸遺構（波板）、性格不明遺構：ＳＸである。

4．遺物の実測・トレース、遺構図の合成・トレースは、武正良浩の指示のもと、木下奈緒美、岩本美保、村上真由美、舟生谷道代、多知川富美子、矢野久子、田崎真理ほかが行った。

5．出土鉄製品の保存処理は、松山市立埋蔵文化財センター内で実施し、山本健一、池田學ほかが行った。

6．遺構図の縮尺は、竪穴式住居址は１／60、掘立柱建物址は１／80を原則とし、他は縮分値をスケール下に記した。遺物実測図の縮尺は、土器１／４、石器・鉄器１／３を原則とし、各々の縮分値をスケールドに記した。

7．本書に使用した方位はすべて磁北である。

8．写真図版は武正良浩と大西朋子が協議し、遺物の撮影及び図版作成は大西が行った。また、航空写真は国際航業株式会社に業務委託して撮影したものを使用した。

（※遺構・遺物写真図版は別冊に掲載）

9．本書にかかわる遺物・記録類は、松山市立埋蔵文化財センター（松山市考古館）・松山市文化財情報館で収蔵保管している。

10．本書の執筆・編集は、西尾幸則・相原浩二の指示のもと武正良浩が行い、浄書は木下奈緒美、村上真由美、岩本美保の協力を得た。

11．発掘調査及び整理調査・本書刊行にあたっては、下條信行・松原弘宣・田崎博之・村上恭通・吉山広・三吉秀充（愛媛大学）、石野博信（徳島文理大学）、木本雅康（長崎外国語大学）、近江俊秀（奈良県教育委員会）、合田幸美（財団法人大阪府文化財協会）、藤田直也（財）とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター）、太田賢一（埼玉県吉見町役場）、岡田敏彦・柴田昌児（財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター）、冨山尚夫（愛媛県歴史文化博物館）、平岡敬一（松山市教育委員会学習施設課）、山城武志・柴田正芳・奥村康男（松山市教育委員会文化財課）、栗山茂敏・梅木謙一・宮内慎一・山本健一・加島次郎・吉岡和哉・栗原伸二（財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）ほか、多くの先生方・職員に数々の貴重なご指導・ご教示・ご配慮を頂いた。記して感謝申し上げます。〈敬称略〉

12．製版　写真図版175線
印刷　オフセット印刷
用紙　カラー写真　マットコート135kg　本文　マットコート90kg
製本　アジロ綴じ

本 文 目 次

第Ⅰ章　はじめに
1．調査に至る経緯……1
2．調査組織……1
3．刊行組織……1

第Ⅱ章　遺跡の概要
1．遺跡の立地……2
2．歴史的環境……2

第Ⅲ章　調査の概要
1．調査の経緯……5
2．層　　位……5
3．遺構と遺物
〔1〕竪穴式住居址（ＳＢ）〈古墳時代前期〉……15
〈古墳時代中期〉……21
〈古墳時代後期〉……86
〔2〕掘立柱建物址（掘立）……99
〔3〕土坑（ＳＫ）……112
〔4〕溝（ＳＤ）……118
〔5〕波板状凹凸遺構（波板）……124
〔6〕性格不明遺構（ＳＸ）……130
〔7〕井戸（ＳＥ）……139
〔8〕柱穴（ＳＰ）……141
〔9〕各区グリッド・表採……144
〔10〕土製・石製品・鉄製品……145
4．小　　結……153

第Ⅳ章　調査の成果と課題　－古墳時代以降編－……159

挿 図 目 次

第 1 図　福音小学校構内遺跡と周辺の主要遺跡分布図［S＝1／50,000］……3
第 2 図　福音寺地区各遺跡調査地位置図［S＝1／3,000］……7
第 3 図　松山市立福音小学校施設配置図［S＝1／800］……9
第 4 図　遺構配置図（弥生時代～中世の全検出遺構）［S＝1／800］……11
第 5 図　調査区土層図（1区西壁）［S＝1／80］……13
第 6 図　SB（竪穴式住居址）&掘立（掘立柱建物址）概略図［S=1／1,000］……14
第 7 図　SB125 測量図［S＝1／80］……16
第 8 図　SB125 出土遺物実測図［S＝1／4］……17
第 9 図　SB126 測量図［S＝1／60］……18
第 10 図　SB126 出土遺物実測図［S－1／4］……18
第 11 図　SB163 測量図［S＝1／60］……19
第 12 図　SB163 出土遺物実測図［S＝1／4］……19
第 13 図　SB 7　測量図［S＝1／60］……20
第 14 図　SB 7　出土遺物実測図(1)［S＝1／4］……21
第 15 図　SB 7　出土遺物実測図(2)［S＝1／4］・［S＝1／2］……22
第 16 図　SB 8　測量図［S＝1／40］……23
第 17 図　SB 8　出土遺物実測図［S＝1／4］……23
第 18 図　SB 10 測量図［S＝1／60］……24
第 19 図　SB 10 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］……25
第 20 図　SB 18 測量図［S＝1／60］……26
第 21 図　SB 18 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］・［S＝1／1］……27
第 22 図　SB 24 測量図［S－1／40］……28
第 23 図　SB 24 出土遺物実測図［S＝1／4］……28
第 24 図　SB 33 測量図［S＝1／60］……29
第 25 図　SB 33 出土遺物実測図［S＝1／4］……29
第 26 図　SB 39 測量図［S＝1／60］……30
第 27 図　SB 39 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］……31
第 28 図　SB 47 測量図［S＝1／20］……32
第 29 図　SB 47 出土遺物実測図［S＝1／4］……32
第 30 図　SB 52 測量図［S＝1／60］……33
第 31 図　SB 52 出土遺物実測図［S－1／4］……33
第 32 図　SB 62 測量図［S＝1／60］……34
第 33 図　SB 62 出土遺物実測図(1)［S＝1／4］……35
第 34 図　SB 62 出土遺物実測図(2)［S－1／4］・［S－1／2］……36
第 35 図　SB 81 測量図［S＝1／60］……37
第 36 図　SB 81 出土遺物実測図［S＝1／4］……38

第37図　ＳＢ82 測量図［Ｓ＝1／60］……39
第38図　ＳＢ82 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……39
第39図　ＳＢ93 測量図［Ｓ＝1／60］……40
第40図　ＳＢ93 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……40
第41図　ＳＢ94 測量図［Ｓ＝1／60］……41
第42図　ＳＢ94 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……41
第43図　ＳＢ95 測量図［Ｓ＝1／60］……42
第44図　ＳＢ95 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……42
第45図　ＳＢ97 測量図［Ｓ＝1／60］……43
第46図　ＳＢ97 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］・［Ｓ＝1／2］……44
第47図　ＳＢ102 測量図［Ｓ＝1／60］……45
第48図　ＳＢ102 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］・［Ｓ＝1／3］……46
第49図　ＳＢ103 測量図［Ｓ＝1／60］……47
第50図　ＳＢ103 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……47
第51図　ＳＢ107 測量図［Ｓ＝1／60］……48
第52図　ＳＢ107 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……48
第53図　ＳＢ108 測量図［Ｓ＝1／60］……49
第54図　ＳＢ108 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……49
第55図　ＳＢ137 測量図［Ｓ＝1／60］……50
第56図　ＳＢ137 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……51
第57図　ＳＢ131・132 測量図［Ｓ＝1／60］……52
第58図　ＳＢ131・132 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……53
第59図　ＳＢ 3 測量図［Ｓ＝1／60］……54
第60図　ＳＢ 3 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］・［Ｓ＝1／2］……55
第61図　ＳＢ 1 測量図［Ｓ＝1／60］……56
第62図　ＳＢ 1 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……57
第63図　ＳＢ 5 測量図［Ｓ＝1／60］……58
第64図　ＳＢ 5 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］・［Ｓ＝1／3］・［Ｓ＝1／2］……59
第65図　ＳＢ13 測量図［Ｓ＝1／40］……60
第66図　ＳＢ13 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……60
第67図　ＳＢ14 測量図［Ｓ＝1／60］……61
第68図　ＳＢ14 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……61
第69図　ＳＢ16 測量図［Ｓ＝1／40］……62
第70図　ＳＢ16 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……63
第71図　ＳＢ17 測量図［Ｓ＝1／60］……64
第72図　ＳＢ17 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］・［Ｓ＝1／3］……65
第73図　ＳＢ26 測量図［Ｓ＝1／60］……66
第74図　ＳＢ26 出土遺物実測図［Ｓ＝1／4］……67

第75図　SB46 測量図［S＝1／40］……68
第76図　SB46 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］……69
第77図　SB49 測量図［S＝1／60］……70
第78図　SB49 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／3］……71
第79図　SB57 測量図［S＝1／60］……72
第80図　SB57 出土遺物実測図［S＝1／4］……72
第81図　SB70 測量図［S＝1／40］……73
第82図　SB70 出土遺物実測図［S＝1／4］……73
第83図　SB71 測量図［S＝1／60］……74
第84図　SB71 出土遺物実測図［S＝1／4］……74
第85図　SB73 測量図［S＝1／60］……75
第86図　SB73 出土遺物実測図［S＝1／4］……75
第87図　SB85 測量図［S＝1／80］……76
第88図　SB85 出土遺物実測図［S＝1／4］……77
第89図　SB98 測量図［S＝1／80］……78
第90図　SB98 出土遺物実測図［S＝1／4］……79
第91図　SB109 測量図［S＝1／60］……80
第92図　SB109 出土遺物実測図［S＝1／4］……80
第93図　SB113 測量図［S＝1／60］……81
第94図　SB113 出土遺物実測図［S＝1／4］……81
第95図　SB127 測量図［S＝1／60］……82
第96図　SB127 出土遺物実測図［S＝1／4］……82
第97図　SB128 測量図［S＝1／60］……83
第98図　SB128 出土遺物実測図［S＝1／4］……83
第99図　SB6 測量図［S＝1／60］……84
第100図　SB6 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］・［S＝1／1］……84
第101図　SB19 測量図［S＝1／60］……85
第102図　SB19 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］……85
第103図　SB83 測量図［S＝1／40］……86
第104図　SB83 出土遺物実測図［S＝1／4］……86
第105図　SB138 測量図［S＝1／60］……87
第106図　SB138 出土遺物実測図［S＝1／4］……87
第107図　SB4 測量図［S＝1／40］……88
第108図　SB4 出土遺物実測図［S＝1／4］……88
第109図　SB11 測量図［S＝1／60］……89
第110図　SB11 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／1］……89
第111図　SB65 測量図［S＝1／80］……90
第112図　SB65 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］……91

第113図　ＳＢ 80 測量図［Ｓ＝１／40］……92
第114図　ＳＢ 80 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……92
第115図　ＳＢ101 測量図［Ｓ＝１／80］……93
第116図　ＳＢ101 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……93
第117図　ＳＢ121 測量図［Ｓ＝１／60］……94
第118図　ＳＢ121 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］・［Ｓ＝１／２］……95
第119図　ＳＢ129 測量図［Ｓ＝１／60］……96
第120図　ＳＢ129 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……96
第121図　ＳＢ164・165 測量図［Ｓ＝１／60］……97
第122図　ＳＢ164 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……97
第123図　掘立２①（上）・②（下）測量図［Ｓ＝１／80］……98
第124図　掘立２② 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……98
第125図　掘立５ 測量図［Ｓ＝１／80］……100
第126図　掘立５ 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……100
第127図　掘立７ 測量図［Ｓ＝１／80］……100
第128図　掘立７ 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……100
第129図　掘立８ 測量図［Ｓ＝１／80］……101
第130図　掘立８ 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……101
第131図　掘立10 測量図［Ｓ＝１／80］……101
第132図　掘立10 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……101
第133図　掘立11 測量図［Ｓ＝１／80］……102
第134図　掘立11 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……102
第135図　掘立13 測量図［Ｓ＝１／80］……102
第136図　掘立13 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……102
第137図　掘立14 測量図［Ｓ＝１／80］……103
第138図　掘立14 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……103
第139図　掘立15 測量図［Ｓ＝１／80］……104
第140図　掘立15 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］・［Ｓ＝１／１］……104
第141図　掘立17 測量図［Ｓ＝１／80］……105
第142図　掘立17 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……105
第143図　掘立20 測量図［Ｓ＝１／80］……105
第144図　掘立20 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……105
第145図　掘立43 測量図［Ｓ＝１／80］……106
第146図　掘立43 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……106
第147図　掘立51 測量図［Ｓ＝１／80］……106
第148図　掘立51 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……106
第149図　掘立54 測量図［Ｓ＝１／80］……107
第150図　掘立54 出土遺物実測図［Ｓ＝１／４］……107

第151図　掘立64 測量図［S－1／80］……108
第152図　掘立64 出土遺物実測図［S＝1／4］……108
第153図　掘立72 測量図［S＝1／80］……109
第154図　掘立72 出土遺物実測図［S＝1／4］……109
第155図　掘立81 測量図［S＝1／80］……109
第156図　掘立81 出土遺物実測図［S－1／4］……109
第157図　掘立82 測量図［S＝1／80］……110
第158図　掘立82 出土遺物実測図［S＝1／4］……110
第159図　掘立83 測量図［S－1／80］……110
第160図　掘立83 出土遺物実測図［S＝1／4］……110
第161図　掘立85 測量図［S＝1／80］……111
第162図　掘立85 出土遺物実測図［S＝1／4］……111
第163図　ＳＫ73 測量図［S＝1／40］……113
第164図　ＳＫ73 出土遺物実測図［S－1／4］……113
第165図　ＳＫ110 測量図［S＝1／40］……113
第166図　ＳＫ110 出土遺物実測図［S＝1／4］……113
第167図　ＳＫ133 測量図［S－1／40］……113
第168図　ＳＫ133 出土遺物実測図［S＝1／4］……113
第169図　ＳＫ141 測量図［S＝1／60］……114
第170図　ＳＫ141 出土遺物実測図［S＝1／4］……114
第171図　ＳＫ182 測量図［S＝1／60］……114
第172図　ＳＫ182 出土遺物実測図［S＝1／4］……114
第173図　ＳＫ209 測量図［S＝1／40］……115
第174図　ＳＫ209 出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／1］……115
第175図　ＳＫ221 測量図［S－1／40］……115
第176図　ＳＫ221 出土遺物実測図［S＝1／4］……115
第177図　ＳＫ226 測量図［S＝1／20］……117
第178図　ＳＫ226 出土遺物実測図［S－1／4］……117
第179図　ＳＤ１ 測量図［S－1／60］……118
第180図　ＳＤ１ 出土遺物実測図［S＝1／4］……118
第181図　ＳＤ３ 測量図［S＝1／80］……119
第182図　ＳＤ３ 出土遺物実測図(1)［S－1／4］……120
第183図　ＳＤ３ 出土遺物実測図(2)［S＝1／4］……121
第184図　ＳＤ30・31 測量図［S＝1／300］……122
第185図　ＳＤ30 出土遺物実測図［S＝1／4］……122
第186図　ＳＤ31 出土遺物実測図［S＝1／4］……122
第187図　ＳＤ91 測量図［S＝1／60］……123
第188図　ＳＤ91 出土遺物実測図［S－1／4］……124

第189図　波板状凹凸遺構 測量図［S＝1／800］……126
第190図　波板状凹凸遺構 測量図［S＝1／40］……127
第191図　波板状凹凸遺構出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］……128
第192図　SX533 測量図［S＝1／80］……129
第193図　SX533 出土遺物実測図(1)［S＝1／4］……131
第194図　SX533 出土遺物実測図(2)［S＝1／4］……132
第195図　SX533 出土遺物実測図(3)［S＝1／4］・［S＝1／3］・［S＝1／2］・［S＝1／1］……133
第196図　SX534 測量図［S＝1／80］……134
第197図　SX534 出土遺物実測図(1)［S＝1／4］……136
第198図　SX534 出土遺物実測図(2)［S＝1／2］・［S＝1／1］……137
第199図　SX535 測量図［S＝1／60］……138
第200図　SX535 出土遺物実測図［S＝1／4］……138
第201図　SE 1 測量図［S＝1／40］……139
第202図　SE 1 出土遺物実測図［S＝1／4］……139
第203図　SE 2 測量図［S＝1／60］……139
第204図　SE 2 出土遺物実測図［S＝1／4］……140
第205図　SP（1区）出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］・［S＝1／1］……141
第206図　SP（2区）出土遺物実測図［S＝1／4］・［S＝1／2］……142
第207図　SP（3区・5区）出土遺物実測図［S＝1／4］……143
第208図　各区グリッド・表採 出土遺物実測図［S＝1／4］……144
第209図　玉類・石製品（各区出土）実測図［S＝1／2］・［S＝1／1］……146
第210図　石器類（5区出土）実測図［S＝1／3］・［S＝1／2］……147
第211図　鉄器類（SB内出土）実測図(1)［S＝1／3］……148
第212図　鉄器類（SK内出土）実測図(2)［S＝1／3］……149
第213図　鉄器類（SD・SP・SX内出土）実測図(3)［S＝1／3］……150
第214図　鉄器類（各区出土）実測図(4)［S＝1／3］……151
第215図　筋違B遺跡 遺構配置図［S＝1／200］……152
第216図　筋違B遺跡（SB03内）出土鉄器実測図［S＝1／3］……152
第217図　弥生時代・古墳時代前期 遺構概略図［S＝1／1,000］……154
第218図　古墳時代中期 遺構概略図［S＝1／1,000］……155
第219図　古墳時代後期 遺構概略図［S＝1／1,000］……156

表　目　次

表1　竪穴式住居址一覧……162
表2　掘立柱建物址一覧……164
表3　土坑一覧……167
表4　溝一覧……170
表5　性格不明遺構一覧……171
表6　井戸一覧……173
表7　出土遺物観察表　土製品……174
（竪穴式住居址内遺物→掘立柱建物址内遺物→土坑内遺物→
溝内遺物→性格不明遺構内遺物→井戸内遺物）
表8　出土遺物観察表　石製品・ガラス製品……189
表9　出土遺物観察表　鉄製品……190

巻頭図版1　松山市福音寺地区（北上空より）　〔▼　松山市立福音小学校〕
巻頭図版2　出土鉄製品

第Ⅰ章　はじめに

1．調査に至る経緯

1988（昭和63）年、松山市教育委員会総務課（現学習施設課。以下総務課）より松山市福音寺町に市立素鷺・北久米・石井東小学校の分離新設小学校を建設する旨の申し出が松山市教育委員会文化教育課（現文化財課。以下、文化教育課）にあった。

当該地は、松山市埋蔵文化財包蔵地「116川附遺物包含地」内にあり、周知の遺跡として知られている。同包蔵地内及び周辺では、縄文時代後期～中世にかけての重要な遺跡が多く確認されている。

これらのことを踏まえ、1988年に確認のための踏査を実施し、翌年7月から本格調査を開始した。

2．調査組織

調 査 地　愛媛県松山市福音寺町362・1 他45筆
遺 跡 名　福音小学校構内遺跡
調査期間　屋外調査：1989（平成元）年7月12日～1990（平成2）年3月31日
対象面積　23,237.91㎡　調査面積　18,081㎡
調査委託　松山市教育委員会総務課（屋外調査当時）
調査主体　松山市教育委員会文化教育課（屋外調査当時）
調査担当　調 査 員：宮崎泰好（平成3年退職）
調査補助員：山本健一、相原浩二、宮内慎一、高尾和長、河野史知、水本完児、加島次郎、武正良浩（以上、現財団法人松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター）、真木 潔（現松山市河川水路課）、大森一成（平成10年退職）

3．刊行組織（平成15年3月31日現在）

松山市教育委員会	教育長	中矢 陽三
事務局	局長	武井 正浩
	企画官	川口 岸雄
	企画官	石丸 修
文化財課	課長	馬場 洋
	主幹	八木 方人
	副主幹	田城 武志
財団法人松山市生涯学習振興財団	理事長	中村 時広
	事務局長	二宅 泰生
	事務局次長	菅 嘉晃
	事務局次長	森 和朋
埋蔵文化財センター	所長	中川 隆
	専門監	野本 力
	次長兼調査係長	西尾 幸則
	担当	武正 良浩・大西 朋子

第Ⅱ章　遺跡の概要

1．遺跡の立地

松山平野は、伊予灘と燧灘とを二分するように北に突き出た高縄半島のつけね部分にあたる。高縄半島の中央部には半島の最高峰、東三方ヶ森をはじめとして、伊之子山、北三方ヶ森、高縄山からなる高縄山地が形成されている。この高縄山に源を発した河川が伊予灘に流れ出て形成された沖積平野が松山平野である。本遺跡が所在する松山市福音寺町周辺には、内川、小野川、前川、川附川などの大小河川が流れている。そのうち小野川は、平井谷に水源を発し、平井町付近で扇状地を形成し、途中星ノ岡、東山など所謂「伊予三山」と呼ばれている独立丘陵群の南方を蛇行しながら流れ、やがて石手川に合流する。この二河川に挟まれた地域は、舌状に形成されていることから「来住の舌状台地」とも呼ばれ、肥沃な農耕地となっている。また小野川が蛇行しながら、長い年月の中で台地を舌状に形成していった名残が、現在も小野川周辺に残存している。近年、この舌状台地の中央を南北に走る国道11号線のバイパスが建設され、周辺の環境も急速に変わりつつある。当遺跡は、伊予三山の北東、バイパスの北側に近接する。

2．歴史的環境

当遺跡周辺には、数多くの遺跡の存在が明らかになっている。以下、これらの遺跡について時代別に記述する。

旧石器時代

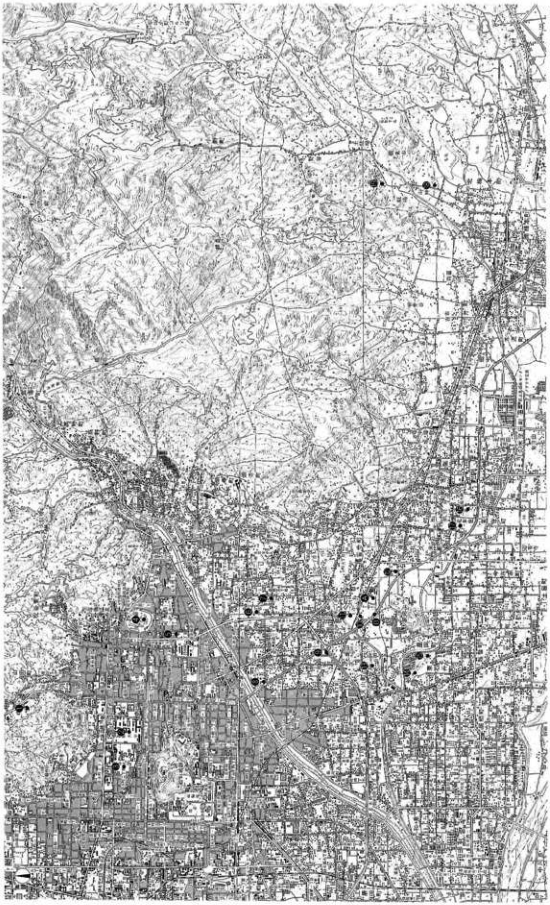
当地域における旧石器時代の遺物は、東山麓が森古墳調査においてサヌカイト製ナイフ形石器1点、天山天主が森遺跡において瑠璃質安山岩製ナイフ形石器1点、釜ノ口遺跡において赤色チャート製ナイフ形石器1点、小型の尖頭器1点が出土している〔長井数秋　1986〕。また、筋違F・H遺跡でサヌカイト製ナイフ形石器が各1点が出土しているが、いずれも遺構に伴ったものではない。

縄文時代

縄文時代の遺跡は、現在までのところ後～晩期に限られている。久米山田池周辺では、後～晩期の土器が採集され、久米窪田Ⅰ遺跡においても、後期と推定される土器が出土している。また、久米窪田森元遺跡では、後期後葉の約40点の破片が土坑から出土しており、数少ないこの時期の一括資料として貴重なものである〔栗田茂敏　1989〕。

弥生時代

弥生時代の遺跡は、当遺跡が立地する微高地や東の来住台地上において、集落遺跡として弥生時代の痕跡を認めることができる。まず久米窪田Ⅲ遺跡では、中期の竪穴式住居址や土坑墓などが検出されている〔吉本弘他　1981〕。同Ⅳ・Ⅴ遺跡は、弥生・古墳・中世の複合遺跡であったが、前・中期の竪穴式住居址や土坑状遺構、土坑墓などが確認されている〔阪本安光他　1981〕。また、来住遺跡は、白鳳時代の来住廃寺の寺域内で検出された弥生時代の遺構であるが、後期を中心とした竪穴式住居址や土坑、土坑墓などが確認されている〔小笠原好彦他　1979〕。福音寺地区では前期～後期の集落関連遺構・遺物が検出されている。筋違F・L遺跡の土坑からは前期に比定される土器片が出土している。福音小学校構内遺跡からは中～後期の竪穴式住居址、土坑、底溝状遺構、土器溜り、区画溝（ＳＤ３）、壺棺群等の遺構が検出されている。遺物には概期の土器、分銅形土製品（２点）等がある。



第1図　福音小学校構内遺跡と周辺の主要遺跡分布図［S＝1／50,000］

注目されるのは、土器溜りから多量に出土した絵画・記号土器である〔梅木謙一　1995〕。

古墳時代

当遺跡の南西方に位置する天山、星ノ岡、東山の各独立丘陵には、円墳を中心とする小規模な古墳が多数分布している。6世紀から7世紀中葉にいたる時期の群集墳地帯である。

古墳時代の集落は、当遺跡から北久米浄蓮寺遺跡群に至る福音寺地域全体に広く認められる。北久米浄蓮寺遺跡3次調査地では住居廃絶時における祭祀行為の一端が明らかにされた〔橋本雄…　1994〕。両遺跡の南に隣接する国道11号線の建設に先立って行われた調査においては、福音寺遺跡筋違地区、星岡遺跡北下地区をはじめとして、古墳時代の遺構・遺物が多く出土している。特に当遺跡に近接する筋違遺跡は、近年の土地開発に伴い十数次にわたる発掘調査が行われている。中でも集落内における祭祀事例が明らかにされたL・N遺跡の調査成果は注目される〔山之内志郎他　2001〕。また、当遺跡周辺からは朝鮮半島系遺物が多く出土している。石室内に木棺・人骨が遺存し、古墳時代後期の葬送儀礼の一端が明らかにされた栗佐池古墳は、当遺跡の東方5.8kmに位置する〔栗田茂敏　2003〕。

古代・中世・近世

古代に至ると、当遺跡の南東方向に展開する来住台地上の「官衙遺跡群」の存在が目を引く。7世紀代を中心とした政治関連施設と考えられる遺構が次々と確認され全国的にも注目されている。また、鷹子遺跡において、13～14世紀に属する地境の溝などが確認されている。

中世の遺跡・遺構は、来住廃寺21次調査地において確認された大規模な総柱の掘立柱建物群があげられる。また、鷹子遺跡において、13～14世紀に属する地境の溝などが確認されている。

近世の遺跡・遺構は、来住廃寺15次調査において確認された土坑墓があげられる。17世紀前半の肥前系陶器の削り出し高台を伴う皿が副葬されていた〔西尾幸則他　1993〕。

【遺跡の概要　参考文献】

小笠原好彦・西尾幸則他　1979「来住廃寺」『松山市文化財調査報告書12』松山市教育委員会

青木　弘・阪本　安光　1981「来住V遺跡、久米窪田Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」『一般国道11号線松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』愛媛県教育委員会・㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター

長井　数秋　1986「先土器時代　松山平野の遺跡」『愛媛県史　資料編考古』愛媛県史編纂委員会

栗山　茂敏　1989「久米窪田森元遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅱ』松山市教育委員会

武正　良浩　1991「福音小学校構内遺跡」『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ』松山市教育委員会

西尾　幸則・山本　健一他　1993「来住廃寺遺跡　第15次調査」松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

橋本　雄一　1994「北久米浄蓮寺遺跡3次調査」松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

梅木　謙一　1995『福音小学校構内遺跡－弥生時代編－』松山市文化財調査報告書50

山之内志郎・加島次郎他　2001「筋違L・N遺跡」『福音寺地区の遺跡Ⅲ』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

栗田　茂敏・加島次郎他「栗佐池古墳」『松山市文化財調査報告書92』松山市教育委員会

第Ⅲ章　調査の概要

1．調査の経緯

福音小学校構内遺跡の発掘調査は、平成元（1989）年７月から翌年３月まで行われた。調査対象地は、耕作地として活用するため、旧来微高地であったと考えられる土地を広くフラットに開発されていた。そのため遺物包含層及び地山の大半が削平を受けており、遺跡の遺存状況は必ずしも良好と言えるものではなかった。調査対象面積は23,237.91㎡に及ぶが、調査工程により学校施設が建つ箇所を中心に記録保存のための発掘調査を実施した。結果、最終的な実施面積は18,081㎡余りとなった。

遺跡の遺存状況は良くないものの、遺構・遺物は予測以上に検出された。このため現場での遺構測量、遺物取り上げ作業等は、野外調査最終日まで行われた。その後、記録資料・出土遺物を古照資料館（現松山市下水道中央浄化センター敷地内）・松山市立埋蔵文化財センター（松山市考古館）に移し、継続的に整理作業を進めた。成果報告の第一弾として1995年に「－弥生時代編－」（以下、前編）を刊行した。前編では、弥生時代と認定した遺構と遺物（主に土器）について報告した。今回は、古墳時代以降の遺構と遺物を中心に報告する。また、前編刊行後の整理調査において弥生期であると追認した資料（遺構・遺物）と未掲載資料も合わせて報告する。

2．層位

層序については、前編で詳述した通りであるが、調査区が広域であることと遺構の時期的重複が多いため、再度、基本土層の確認を行っておきたい（内容は前編とほぼ同じである）。

本調査の基本層序は、表土（第Ⅰ層）、灰色土（第Ⅱ層）、灰茶褐色土（第Ⅲ層）、茶褐色粘質土（第Ⅳ層）、黒色土（第Ⅴ層）、黄褐色粘質土（第Ⅵ層）、灰色粘質土（間層Ａ）である。

第Ⅰ層－近現代の造成工事による客土で、地表下10～47cmの厚さを測る。

第Ⅱ層－旧耕作土である。調査区の大半は以前田畑として利用されていた。

第Ⅲ層－所謂、床土と呼ばれるもので、田畑など耕作土下に人為的に張られる土壌である。

第Ⅳ層－厚さ１～62cmの堆積で、中世以降の田畑の耕作によるものと考えたい。

第Ⅴ層－厚さ２～40cmの堆積で、弥生時代～古墳時代の遺物を包含する。

第Ⅵ層－最下層とした本層は、検出地点により様々な状況がみられる。粘質土だけが堆積している地点もあれば、砂礫を含有する地点も存在する。所謂地山と呼ばれるものであり、無遺物層である。

間層Ａ－２ｂ区に限り検出され、第Ⅳ層下で検出された。古墳時代～中世の遺物を包含する。

遺構は、第Ⅳ層中、第Ⅴ層上面、第Ⅴ層中、第Ⅵ層上面で確認した。第Ⅳ層中検出の遺構は近世、第Ⅴ層上面～第六層上面検出の遺構は弥生時代～中世のものである。

なお、調査対象地は１～５区に分割し調査を進めた。２区と３区は整理の便宜上、２ａ区と２ｂ区に、３ａ区と３ｂ区に分けた（註1）。また、調査対象地全体を30ｍの中グリッドに分け、さらに６ｍの小グリッドで区切り調査を進めた。以下、調査区ごとの層位関係を記す。

１区　第Ⅰ層は主に西端で検出されており厚さ10～28cmを測る。東側では検出されていない。第Ⅱ層は厚さ15～25cmを測る。第Ⅲ層は厚さ３～13cmを測る。第Ⅱ層・第Ⅲ層はほぼフラットな検出状況で、

調査直前まで農耕作が営まれていたことによる。第Ⅳ層は厚さ35～62cmを測る。第Ⅴ層は調査区西端のみで検出され、厚さ２～38cmを測る。調査区中央付近から西端にかけて緩傾斜堆積をなす。第Ⅵ層は地山である。

２ａ・２ｂ区　第Ⅰ層は１区と同じく主に西端で検出されている。第Ⅱ層は厚さ１～41cmを測る。第Ⅲ層は削平が著しく、上に２ａ区西側で検出された。第Ⅳ層は厚さ１～17cmを測る。第Ⅱ層・第Ⅳ層は共にフラットな検出状況である。調層Ａは２ｂ区で検出され、厚さ１～17cmを測る。第Ⅴ層は１区同様、２ａ区西端のみでの検出である。第Ⅵ層は地山である。

３ａ・３ｂ区　第Ⅰ層・第Ⅴ層は、ほとんど見られない。第Ⅱ層は厚さ10～24cmを測る。第Ⅲ層は厚さ１～42cmを測る。第Ⅳ層は厚さ１～16cmを測る。第Ⅵ層は地山である。

４区　第Ⅰ層は南東側で一部見られる。第Ⅱ層は厚さ15～38cmを測る。第Ⅲ層は厚さ４～10cmを測る。第Ⅳ層は厚さ１～30cmを測る。第Ⅱ層～第Ⅳ層はフラットな検出状況である。第Ⅴ層は厚さ10～40cmを測る。第Ⅵ層は地山である。

５区　第Ⅴ層は調査区の東側で見られる。第Ⅱ～第Ⅳ層は４区と同様である。

（註１）：1995に刊行されている「－弥生時代編－」の２区を２ａ区、２区西を２ｂ区、３区を３ａ区、３区西を３ｂ区と改め、以下、記する。

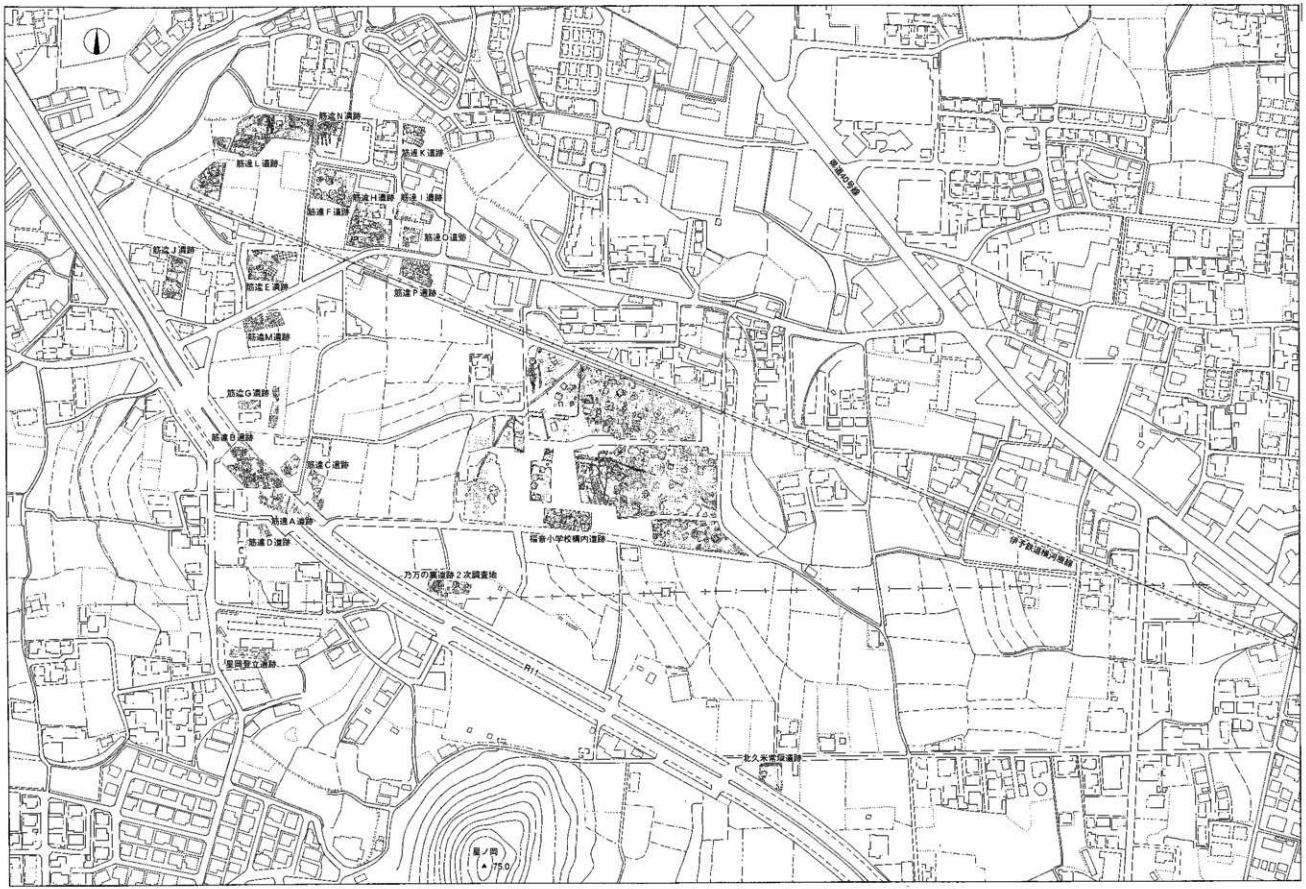
３．遺構と遺物

調査の結果、竪穴式住居址（ＳＢ）131棟、掘建柱建物址（掘立）114棟、溝状遺構（溝を含む、ＳＤ）75条、井戸（ＳＥ）２基、土坑（ＳＫ）236基、波板状凹凸遺構（波板）183基、性格不明遺構（ＳＸ）25基、壺棺墓５基、塚３基、柱穴（ＳＰ）11,000基など弥生時代中期から中近世にかけて多数の遺構を検出した（註２）。

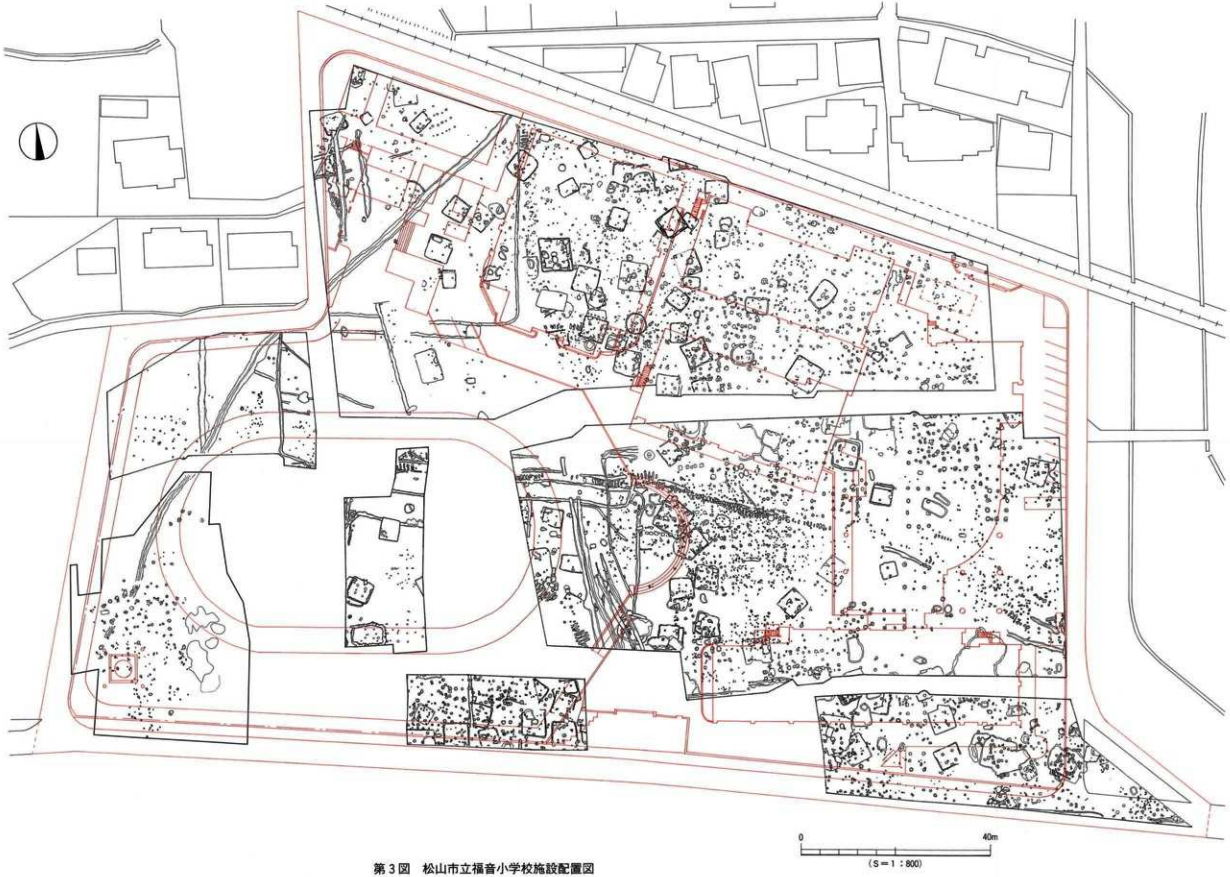
弥生時代の竪穴式住居址は、平面プランで円形と方形のものが見られる。調査区１区中央に位置するＳＢ15からは、分銅形土製品１点が出土している。また、１区西側～５区北側にかけて検出長144ｍ、幅80～160cm、深さ20～80cmを測る大溝が検出されている。さらに５区中央では、18ｍ×16ｍ×厚さ約50cmの範囲で土器溜りが検出されている。弥生後期の土器が多量（テンパコ400個相当）に出土し、その中には約100点の絵画・記号土器が含まれていた。

以下、主に古墳時代以降の遺構・遺物について記述する。

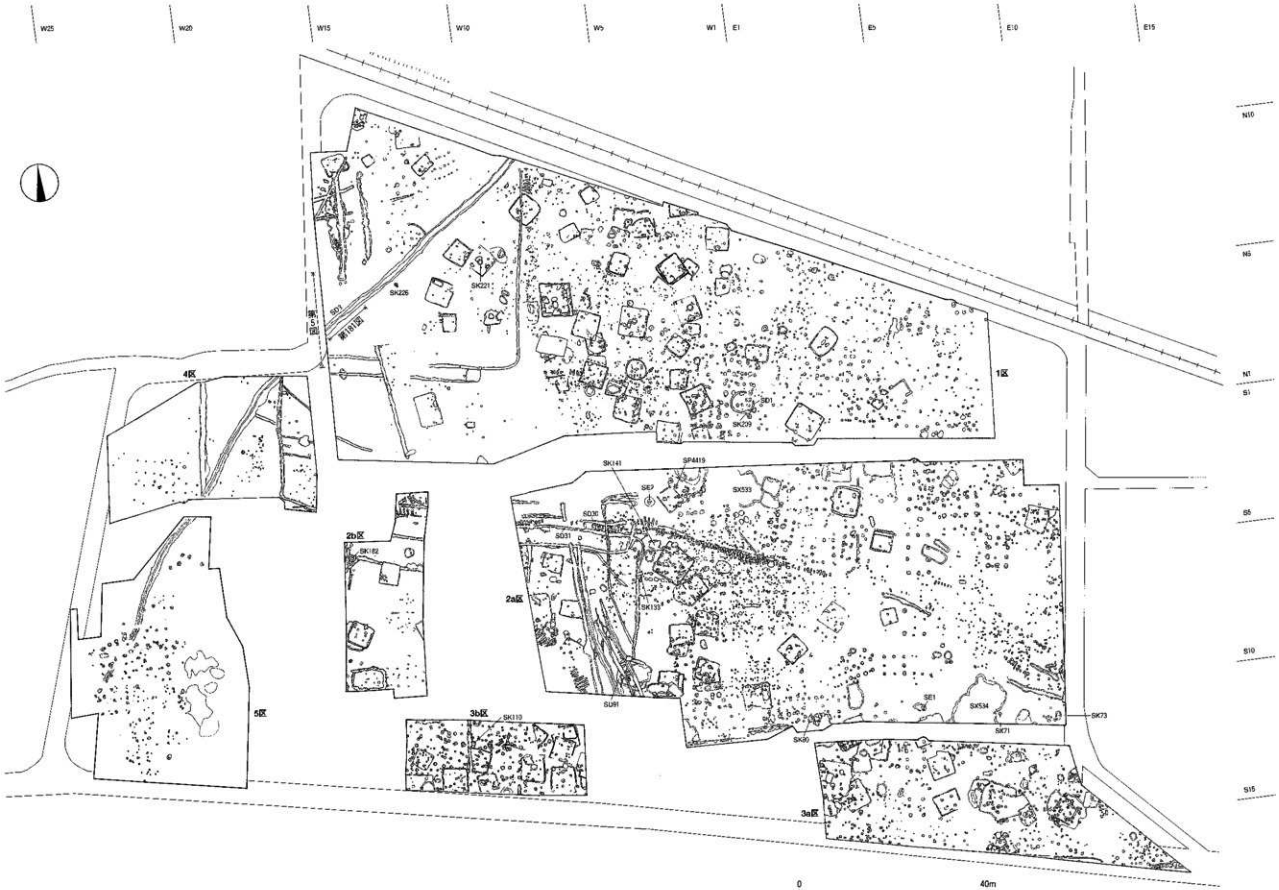
（註２）：本報告内容の一部は、1991『松山市埋蔵文化財調査年報Ⅲ』、1995『福音小学校構内遺跡－弥生時代編－』や各種研究機関誌等に掲載されているが、その内容に相違点が有る場合、本報告をもって訂正したものとする。



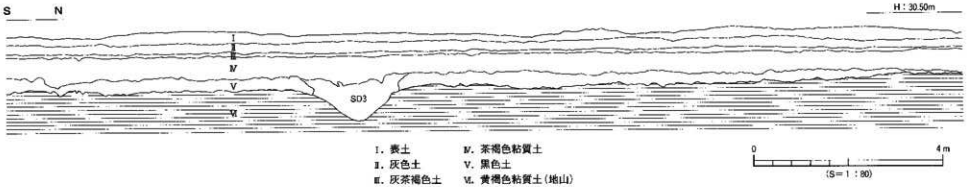
第２図　福音寺地区各遺跡調査地位置図



第３図　松山市立福音小学校施設配置図



第４図　遺構配置図（弥生時代～中世の全検出遺構）



第5図　調査区土層図（1区西壁）

第6図　SB(竪穴式住居址)＆掘立(掘立柱建物址)概略図

〔1〕竪穴式住居址（ＳＢ）

〈古墳時代前期〉

ＳＢ125（第７図）　２ａ区西側、グリッドＳ４・Ｓ５Ｗ４・Ｗ５に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸7.33m、短軸6.85m、深さ11cm、床面積50.21㎡を測る。埋土は暗灰色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.49m）と土坑（ＳＫ154）を検出した。なお本住居址北壁中央に焼土魂が検出された。構造施設痕として周壁溝が検出された。

ＳＫ154：住居址の東壁際中央に位置する。平面形態は楕円形、断面形状は舟底状を呈する。検出規模は長さ0.71m、幅0.54m、深さ20cmを測る。埋土は黒灰色土である。土師器のセットが良好な状態で出土している。

ＳＢ125内出土遺物（第８図）

土師器　壺（１～５）：１は頸部から大きく外反する口縁部。端部は先細りで丸みを持つ。内面には粘土接合痕が看取できる。２は楕円形を呈す体部から直上に立ち上がる口縁部を持つ。端部付近で短く外反し、先細りする。３の口縁部は体部から「く」の字状に屈曲し、内湾気味に立ち上がる。体部は球形を呈する。４は球形の胴部から直線的に伸びる口縁部を持つ。５の口縁部は外傾して立ち上がる。底部は平底を呈す。内外面共に指頭痕が目立つ。６は小型丸底壺。緩く屈曲し、内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。体部は球形を呈す。塊（７～９）：７は低脚塊。底部はつまみ出しにより低脚を形成する。内湾して立ち上がる口縁部を持ち、端部は面をなす。８・９は底部から内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。端部は丸細く収める。高坏（10～18）：10・11は坏底部と脚柱部の接合に粘土塊挿入法を採る。12は口縁部を一部欠くもののほぼ完存品。13・14は坏部で坏底部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。端部は短く外反し、丸く収められる。15は脚裾部のみを欠損する。16は坏部で坏底部から緩やかに立ち上がる口縁部を持つ。17・18は大きく開く脚部を持つ。皿（20～23）：全て小皿で底部回転糸切り痕を看取。（※４・６・７・11は、ＳＫ154内一括出土）

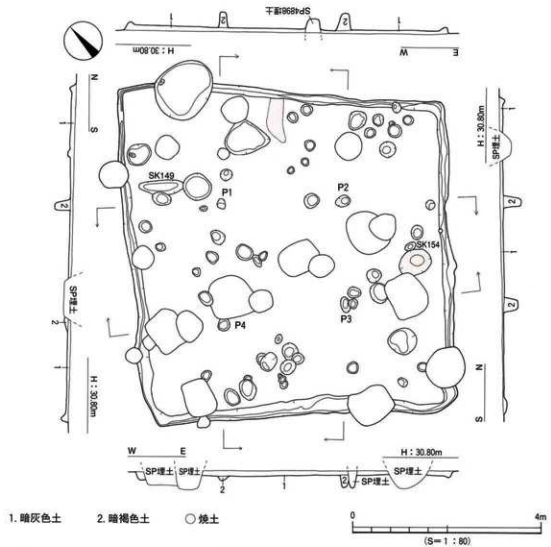
陶磁器　白磁碗（19）：混入品。玉縁状口縁から体部中位にかけ灰白色の釉がかかる。底部は削り出し高台。白磁碗Ⅳ類。

瓦器　皿（24・25）：混入品。13世紀代と考えられるものである。

須恵器　鉢（26・27）：混入品。共に12世紀代と考えられる東播系須恵器の片口鉢である。

時　　期：混入品を除く他の出土遺物から古墳時代前期後半～中期前葉と考える。

ＳＢ126（第９図）　２ａ区西側、グリッドＳ７Ｗ４に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸5.35m、短軸5.15m、深さ10cm、床面積27.55㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間2.2m）を検出した。遺物は、土師器、須恵器、鉄製品（922～925）が出土している。



第７図　SB125測量図

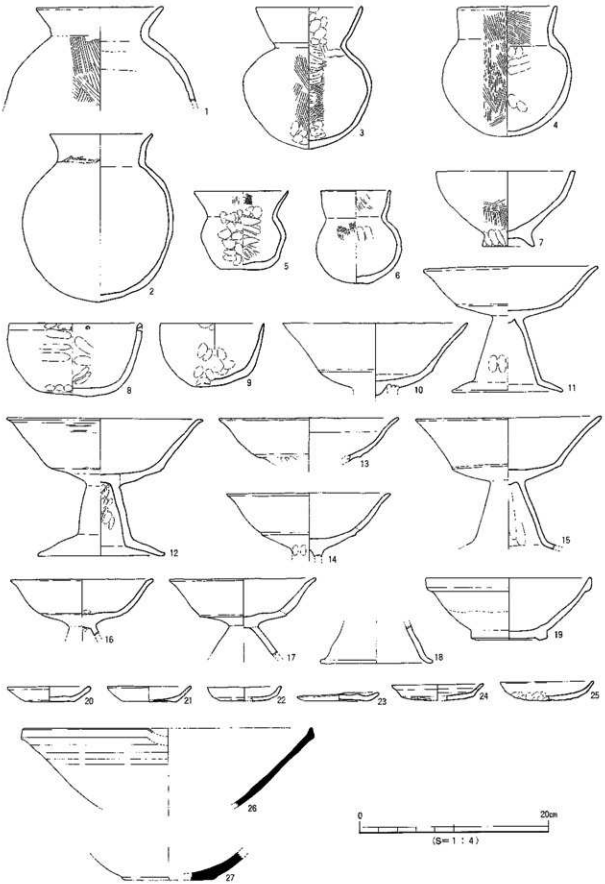
ＳＢ126内出土遺物（第10・211図）

土師器　甕（28・29）：共に「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。29の口縁端部は僅かに内湾し、面をなす。高坏（30・31）：30は坏部で水平に伸びる坏底部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。端部は短く外反し、先細りする。31は坏底部からラッパ状に広がる脚柱部。器台（32）：小型器台の台部で側面「ハ」字状を呈する。台部中位に焼成前穿孔３つを看取。

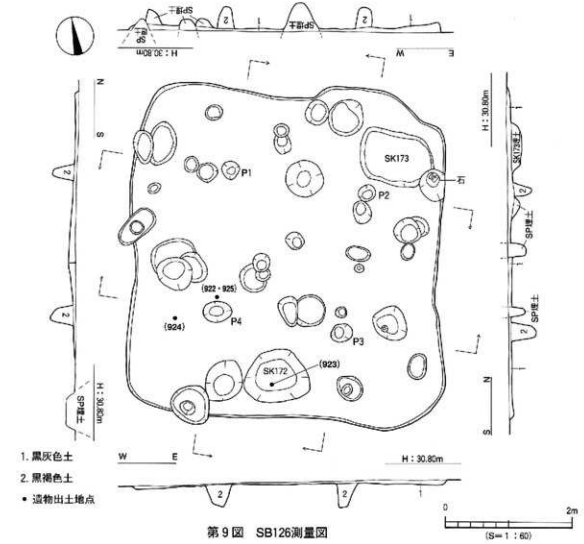
須恵器　甕（33）：混入品。口頸部は「く」字状に屈折し、頸部直下外面に格子叩き痕が残る。内面は横ナデ調整を看取。亀山窯系で13世紀代のものと考える。

時　　期：混入品を除く他の出土遺物から古墳時代前期後半～中期前葉と考える。

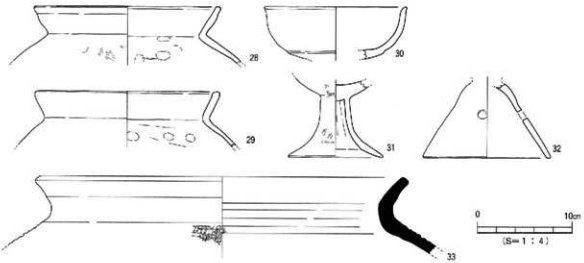
ＳＢ163（第11図）　２ｂ区西側、グリッドＳ３・Ｓ４W15・W16に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸5.45m、短軸5.15m、深さ10㎝、床面積28.07㎡を測る。埋土は黒色シルトである。



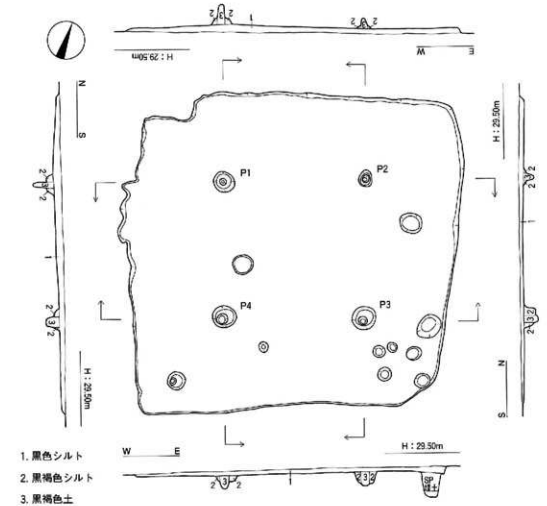
第8図　SB125出土遺物実測図



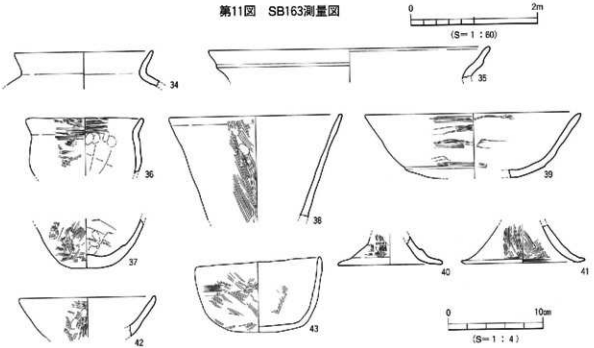
第9図　SB126測量図



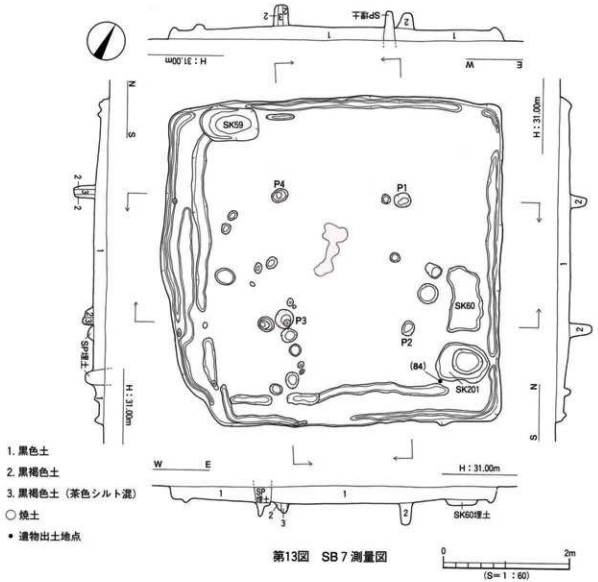
第10図　SB126出土遺物実測図



第11図　SB163測量図



第12図　SB163出土遺物実測図



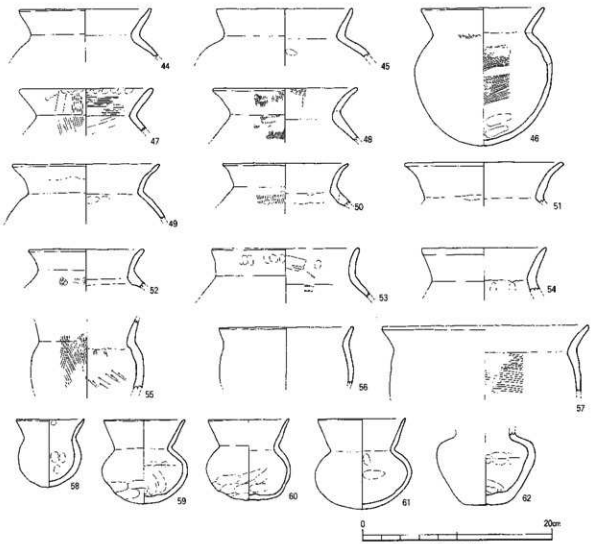
第13図　SB７測量図

内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.26m）が検出された。

ＳＢ163内出土遺物（第12図）

土師器　甕（34～37）：34は「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。35は大型甕の口縁部。中位は段をなすように肥厚される。大型鉢の可能性もある。36・37は同一個体と思われるものである。緩く外反する口縁部を持ち、端部は丸く収まる。壺（38）：直線的に外傾する口縁部。高坏（39～41）：39は坏部。坏底部と口縁部の境に弱い段を持つ。40・41は脚裾部。埦（42・43）：42は外傾する口縁部。端部は上方へ細く仕上げられる。43は水平に伸びる底部から内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。内外面にハケ目調整が施される。

時　　期：出土遺物から古墳時代前期後半～中期前葉と考える。



第14図　SB７出土遺物実測図(1)

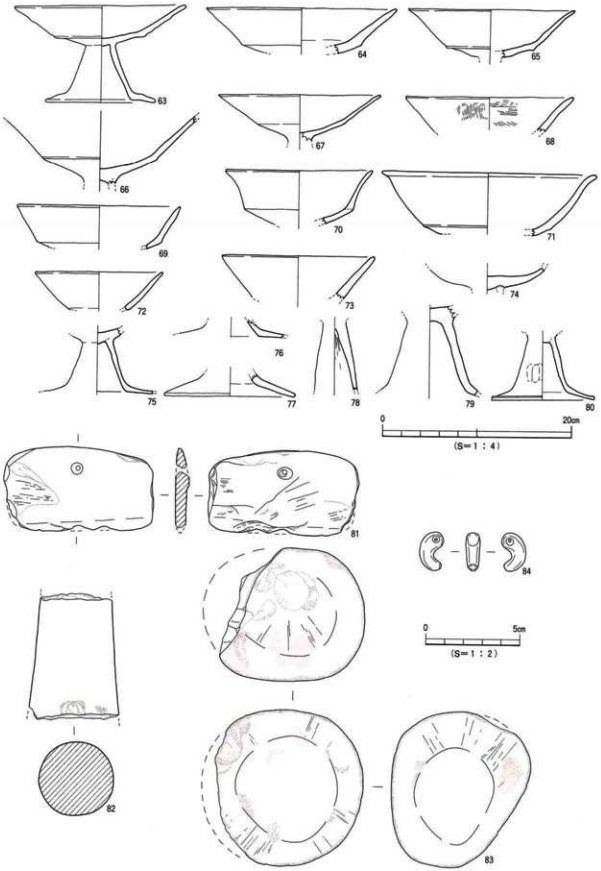
〈古墳時代中期〉

ＳＢ７（第13図）　１区中央北寄り、グリッドＮ７Ｗ３に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.45m、短軸5.20m、深さ28cm、床面積28.34㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、平均柱間約2.03m）と土坑（ＳＫ59・60・201）を検出した。なお本住居址中央部では焼土が検出された。施設構造痕として周壁溝が検出された。

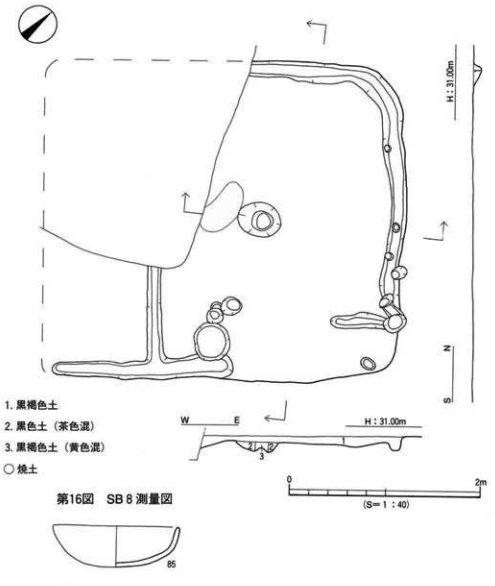
ＳＫ60：住居址の東壁際やや南寄りに位置する。平面形態は長方形、断面形状は皿状を呈す。検出規模は長さ1.03m、幅0.51m、深さ８cmを測る。埋土は黒褐色土である。

ＳＢ７出土遺物（第14図）

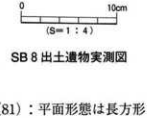
土師器　甕（44～57）：44～52は頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。53～57は緩やかに屈曲し、立ち上がる口縁部を持つ。壺（58～62）：58～61は小型丸底壺である。58の頸部は如意形に屈曲する。62は小型壺である。底部は厚く、平底を呈す。高坏（63～80）：63は水平に伸びる坏底部から直線的に外傾する口縁部を持ち、屈曲部は明瞭な段を有する。脚部は柱部から鋭く屈曲し水平



第15図　SB7出土遺物実測図(2)



第16図　SB８測量図



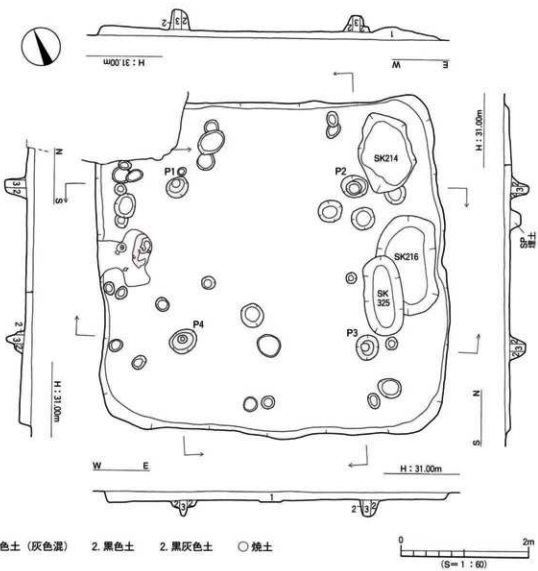
第17図　SB８出土遺物実測図

に伸びる裾部へ続く。64～66、69は坏屈曲部に明瞭な段を有する。67、68、70～73は坏屈曲部の段が不明瞭になる。74は坏底部が内湾する。75～80は高坏脚部。

石製品　石包丁（81）：平面形態は長方形を呈する。刃部は直線的な両刃である。穿孔は両面から施される。緑泥片岩製。棒状製品（82）：両端は欠損。側面は丹念に成形され、断面真円状を呈す。磨石（83）：拳大の円礫。研磨面には赤色顔料が付着する。勾玉（84）：入念に研磨され、仕上がりは良好である。穿孔は両面から施される。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＢ８（第16図）　１区中央北寄り、グリッドＮ６・Ｎ７Ｗ２・Ｗ３に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸3.50＋αｍ、短軸3.40ｍ、深さ10㎝、床面積11.9㎡以上を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は柱壁間溝が２条と本住居址中央部で焼土が検出された。施設構造痕は周壁溝が検出さ



第18図　SB10測量図

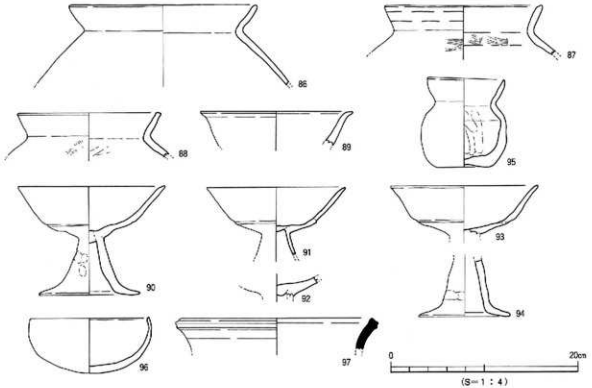
れた。

ＳＢ８出土遺物（第17図）

土師器　坏（85）：内湾する口縁部を持つ。端部は丸く収められる。

時　　期：出土遺物の形態とＳＢ７に切られていることから古墳時代中期前半以前と考える。

ＳＢ10（第18図）　１区南側中央、グリッドＮ２Ｗ６に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸5.5m、短軸5.45m、深さ18cm、床面積29.98㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、平均柱間2.7m）と土坑（ＳＫ214・216）を検出した。なお本住居址西壁中央に造り付けの竈痕が検出された。

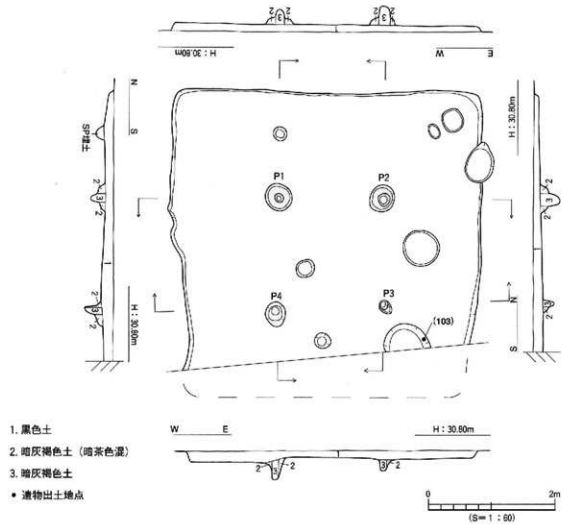


第19図　SB10出土遺物実測図

竈：①配置－前庭部を考慮して主柱穴Ｐ１－Ｐ４の中間にあたる西壁際中央に位置し、一部が壁に接する。②形態－壁に接する現状Ｔ字形の「粘土土塁」があり、燃焼部は短い袖部で区画される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ86cm、幅82cm、高さ18cmを測る。③遺物－燃焼部から高坏が出土している。

ＳＫ214：住居址の北東隅に位置する。平面形態は不整楕円形、断面形状は舟底状を呈す。検出規模は長さ1.27m、幅0.86m、深さ14cmを測る。埋土は黒灰色土である。

ＳＫ216：住居址の東壁際中央に位置する。平面形態は楕円形、断面形状は舟底状を呈す。検出規模は長さ1.57m、幅0.95m、深さ18cmを測る。埋土は黒褐色土である。



第20図　SB18測量図

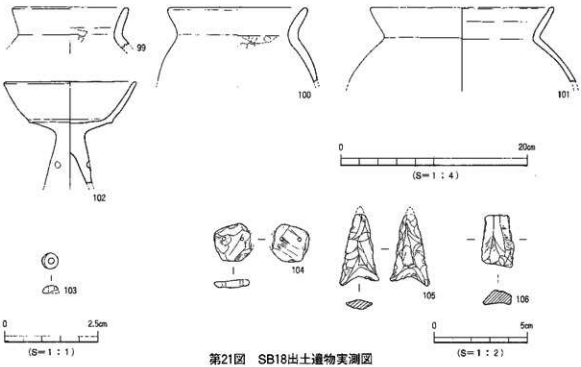
ＳＢ10内出土遺物（第19図）

土師器　壺（86～88）：頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。86は口縁端部直下で僅かに内湾する。88の口縁端部は面をなす。高坏（89～94）：89は坏部の口縁部。細く仕上げられる端部は短く外反する。90は坏部の一部を欠くのみの完形品。坏部と脚柱部の接合は、円孔の穿たれている坏底部に脚柱部を接合し、円孔上方から粘土塊を挿入する粘土塊挿入法を採る。91は水平に伸びる坏底部から直線的に外傾する口縁部を持ち、屈曲部は明瞭な段を有する。接合は枘法。92は坏部と脚柱部の基部。接合は枘法を採る。93・94は同一個体と考えられる。壺（95）：平底を呈す小型壺。塊（96）：内湾する口縁部を持つ。端部は丸細く収められる。

須恵器　甕（97）：強い回転ナデにより口縁端部の面は僅かに凹む。７世紀代以降のものである可能性があり、混入品と思われる。

石製品　砥石（98）：３面の擦痕と５箇所の敲打痕、２箇所の被敲打痕を共有する。和泉砂岩製。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第21図　SB18出土遺物実測図

ＳＢ18（第20図）　１区南壁際中央、グリッドＮ１Ｗ４に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.0m、短軸4.3＋αm、深さ18cm、床面積21.5㎡以上を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱間約1.74m）を検出した。構造施設痕として周壁溝が一部検出された。

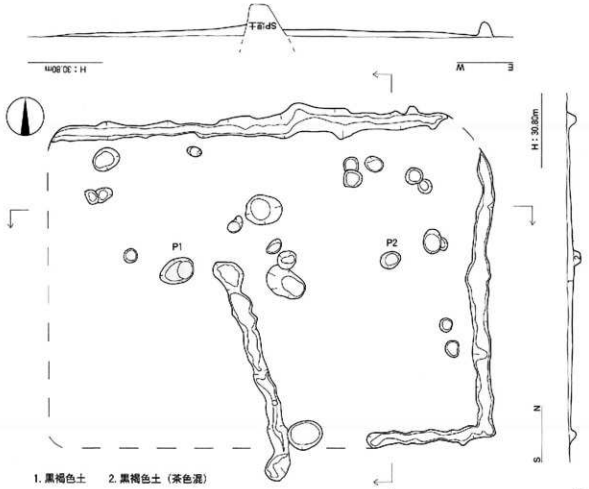
ＳＢ18内出土遺物（第21図）

土師器　甕（99～101）：99・100は頸部で緩やかに外反する口縁部を持つ。101は「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。全て端部は丸く収められる。高坏（102）：水平に伸びる坏底部から直線的に外傾する口縁部を持ち、屈曲部は明瞭な段を有する。

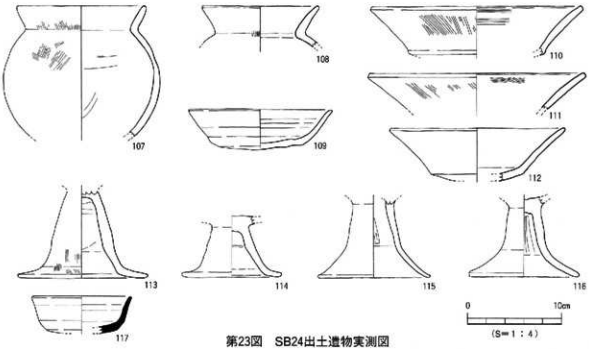
石製品　臼玉（103）：側面断面が直線で円筒形を呈する。端面の片側が欠損。滑石製。有孔円板（104）：形態は隅丸正方形を呈する。穿孔は器体の中軸を３分割するように２孔を伴う。石鏃（105）：打製の凹基無茎式石鏃。先端部欠損。石核（106）：サヌカイト。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

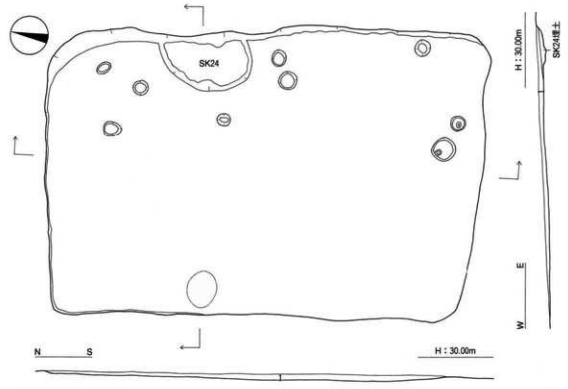
ＳＢ24（第22図）　１区西側、グリッドＮ３Ｗ８に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸4.75m＋α、短軸3.55m、深さ10cm、床面積16.86㎡以上を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は主柱穴　**（P1・P2、配置：直線、柱穴間2.2m）**と柱壁間溝１条を検出した。施設構造痕として周壁溝が一部検出された。



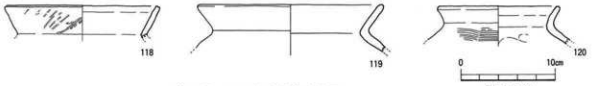
第22図　SB24測量図



第23図　SB24出土遺物実測図



第24図　SB33測量図



第25図　SB33出土遺物実測図

ＳＢ24内出土遺物（第23図）

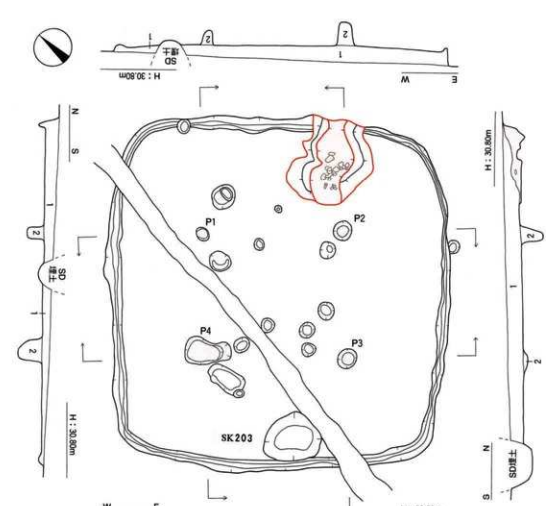
土師器　甕（107・108）：共に頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。坏（109）：平底を呈する底部から外傾する口縁部を持つ。高坏（110～116）：110～112は坏底部から外反する口縁部を持つ。113～116は脚部である。113は脚柱部中位が僅かに膨れる。

須恵器　坏身（117）：７世紀代に属するものである。混入品の可能性が高い。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＢ33（第24図）　１区南西寄り、グリッドＮ３・Ｎ４Ｗ12・Ｗ13に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸7.0m、短軸4.7m、深さ10cm、床面積32.9㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は、土坑（ＳＫ24）を検出した。

ＳＫ24：住居址の東壁際やや北寄りに位置する。平面形態は楕円形、断面形状は皿状を呈す。検出規模は長さ1.37m、幅0.91m、深さ11cmを測る。埋土は黒色土である。



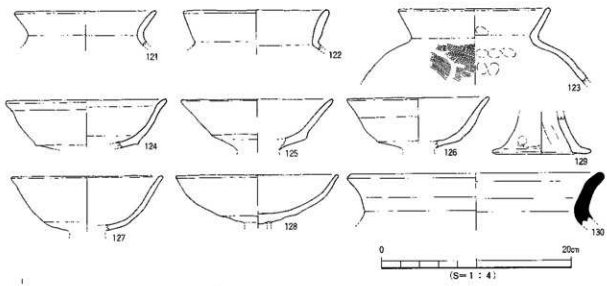
第26図　SB39測量図

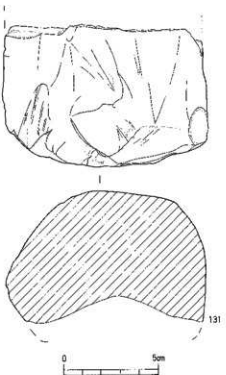
ＳＢ33内出土遺物（第25図）

土師器　甕（118～120）：全て頸部が「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部。118の口端面はナデにより凹む。口縁部外面にはヨコナデ後の篦状工具痕を看取。焼成も良好で精緻な仕上げが伺える。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＢ39（第26図）　１区北西側、グリッドＮ９・Ｎ10Ｗ８・Ｗ９に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸5.65m、短軸5.35m、深さ25cm、床面積30.23㎡を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱間2.15m）と土坑（ＳＫ203）を検出した。なお本住居址北壁中央やや東寄りに造り付けの竈痕が検出された。施設構造痕としては周壁溝が検出された。





第27図　SB39出土遺物実測図

竈　：①配置－北壁際中央やや東寄りに位置し、一部が壁に接する。②形態－馬蹄形を呈する。燃焼部は粘土を構築材とする袖部で区画される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ140cm、幅140cm、高さ35cmを測る。③遺物－燃焼部に高坏が残存する。

ＳＫ203：住居址の南壁際中央に位置する。平面形態は楕円形、断面形状は逆台形状を呈す。検出規模は長さ0.93m、幅0.7m、深さ38cmを測る。埋土は暗茶褐色土である。

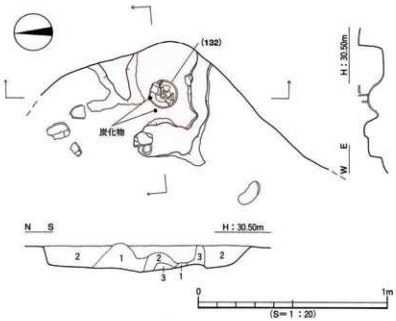
ＳＢ39内出土遺物（第27図）

土師器　**壺**（121～123）：121は外反する口縁部。122・123は頸部で「く」の字状に屈曲する口縁部。122は口縁部が肥厚される。**高坏**（124～129）：124～126は口縁屈曲部の段が明瞭である。128は坏部が浅い塊形を呈す。129は器厚にボリュームがある脚裾部。

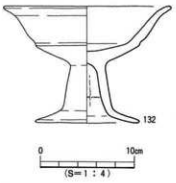
須恵器　**甕**（130）：混入品。中世の須恵器系陶器の十瓶山系か。

石製品　**砥石**（131）：石英粗面岩製で据置用と思われる。燃焼痕跡があることから他の用途に転用されたと考える。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第28図　SB47測量図



第29図　SB47出土遺物実測図

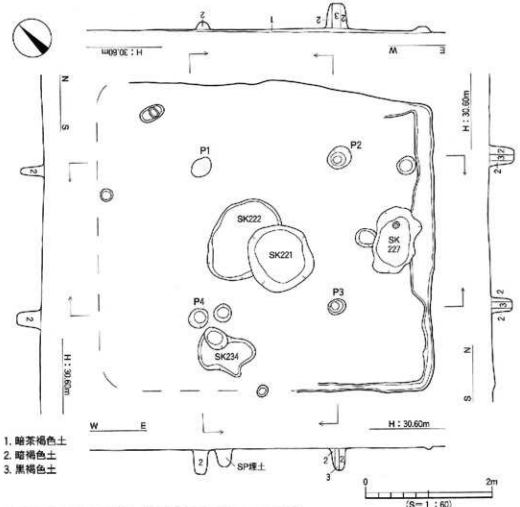
ＳＢ47（第28図）　１区中央やや西寄り、グリッドＮ６・Ｎ７Ｗ９に位置する。竪穴式住居の内部施設と考えられる造り付けの竈痕のみの検出である。竈中央部には高坏（完形品）が坏部を上向きに設置される。住居の平面形態は隅丸方形を呈していたものと推察する。

竈：①配置－北東隅に位置し、一部が壁に接する。②形態－馬蹄形を呈する。燃焼部は粘土を構築材とする袖部で区画される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部･煙出部は認められない。検出規模は、長さ60㎝、幅50㎝、高さ15㎝を測る。③遺物－燃焼部に高坏が残存する。

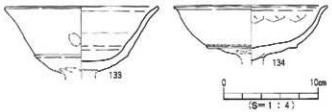
ＳＢ47内出土遺物（第29図）

土師器　高坏（132）：坏底部から外反して立ち上がる口縁部を持つ。脚裾部は緩やかに大きく開く。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第30図　SB52測量図



第31図　SB52出土遺物実測図

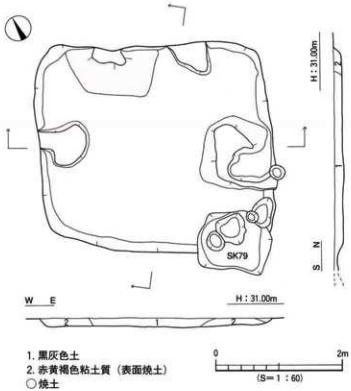
ＳＢ52（第30図）　１区西側、グリッドＮ７・Ｎ８Ｗ10に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸4.62m、短軸3.85＋αm、床面積17.79㎡以上を測る。埋土は暗茶褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱間2.3m）と土坑（ＳＫ227）を検出した。施設構造痕として周壁溝が検出された。

ＳＫ227：住居址の東壁際中央に位置する。平面形態は楕円形、断面形状は舟底状を呈す。検出規模は長さ1.06m、幅0.71m、深さ30cmを測る。埋土は暗褐色土である。

ＳＢ52内出土遺物（第31図）

土師器　高坏（133・134）：共に高坏の坏部である。133は134と比較して深さのある坏部となる。134は坏底部から内湾気味に立ち上がり、端部で短く外反する口縁部を持つ。先端は細く仕上げられる。脚部との接合は柄法を採る。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第32図　SB62測量図

ＳＢ62（第32図）　２ａ区中央北壁際、グリッドＳ２Ｗ１に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸3.58m、短軸3.3m、深さ14cm、床面積11.81㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は北壁に２基、西壁中央に１基、東壁中央に１基、計４基の造り付けの竈痕が検出された。

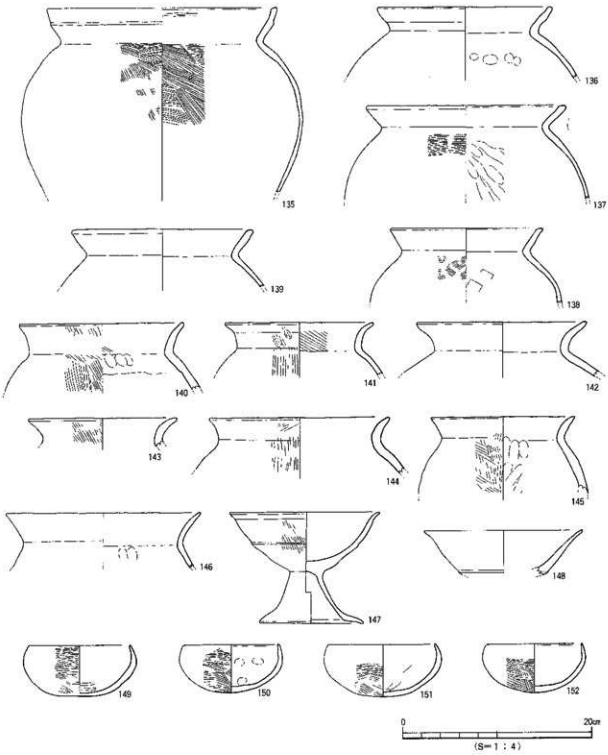
竈：①配置－各々一部が壁に接する。②形態－不明。馬蹄形を呈すると思われる。燃焼部と考えられる箇所には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ50～80cm、幅65～135cm、高さ14cmを測る。③遺物－燃焼部に甑が残存する。

ＳＢ62内出土遺物（第33・34図）

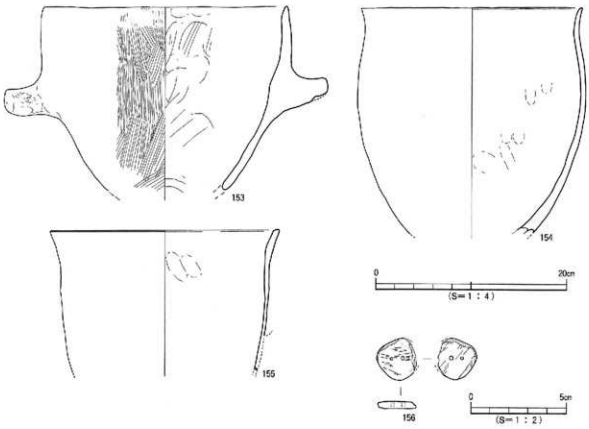
土師器　甕（135～146）：135は口縁部中位で僅かに肥厚され、鈍い稜を持つ。136～142は頸部が「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。143～145は「Ｓ」字状を呈する口縁部を持つ。口縁端部は細く仕上げられる。146は器厚が薄く、口縁端部も先細りする。高坏（147・148）：147は内湾気味に立ち上がる坏底部と同じライン上に口縁部が接合される。端部は短く外反し、細く仕上げられる。148は直線的に外反する口縁部。埦（149～152）：口縁部が内湾気味に立ち上がる。外面はハケメ調整が看取される。甑（153～155）：153は底部から内湾して立ち上がり、直立する口縁部に続く。体部中位に水平に伸びる把手が接続される。154・155は体部が内湾気味に立ち上がり、外反する口縁部へと続く。

石製品　有孔円板（156）：若干不整ながら正方形態を呈す。穿孔は器体の中軸を３分割するように２孔を伴う。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第33図　SB62出土遺物実測図(1)

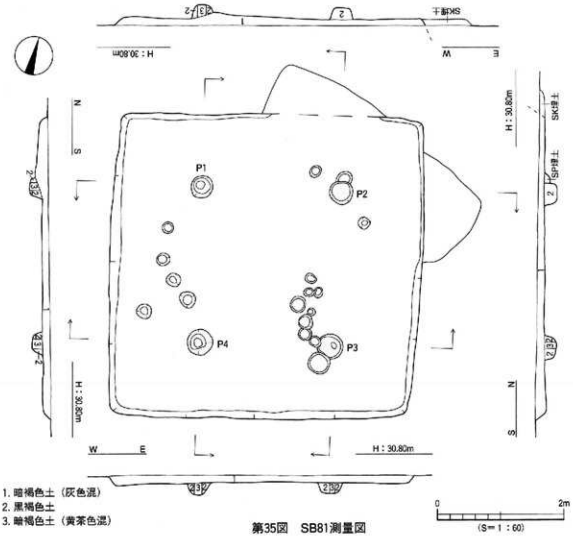


第34図　SB62出土遺物実測図(2)

ＳＢ81（第35図）　３ａ区北壁側中央やや西寄り、グリッドＳ13Ｅ４・Ｅ５に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸4.93m、短軸4.86m、深さ13㎝、床面積23.96㎡を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、柱間2.35m）を検出した。

ＳＢ81内出土遺物（第36図）

土師器　甕（157・158）：頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。壺（159・160）：159は外反して立ち上がる厚手の口縁部。160は口縁部が外傾して立ち上がる。体部は扁球形を呈す。高坏（161～172）：161は完形品。水平に伸びる坏底部から緩いＳ字ライン状に立ち上がる口縁部を持つ。脚部は柱部から鋭く屈曲し、斜め下方に伸びる裾部へ続く。162は内湾して伸びる坏底部から外反する口縁部を持つ。脚柱部は中位で若干膨らみ、緩やかな角度をもって裾部へ続く。163は坏底部と口縁部の屈曲が不明瞭である。口縁端部は短く外反する。坏部と脚部の器高比は約１：２である。164の坏部外面は強いヨコナデにより段をなす。直下気味の脚柱部は接地面の広い裾部へ続く。165・166は坏部。167は坏底部と口縁部の接合段が坏部側面中位にある。口縁端部は細く仕上げられる。168～172は脚柱部である。甑（173）：平底の底部から内湾して立ち上がり、直立する口縁部に続く。体部中位に上向きに伸びる把手が接続される。底部中央に円孔、周囲に４つの楕円孔が看取できる。鉢（174）：頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。丸細い端部は短く水平に伸びる。塊（175）：底部から内湾して立ち上



第35図　SB81測量図

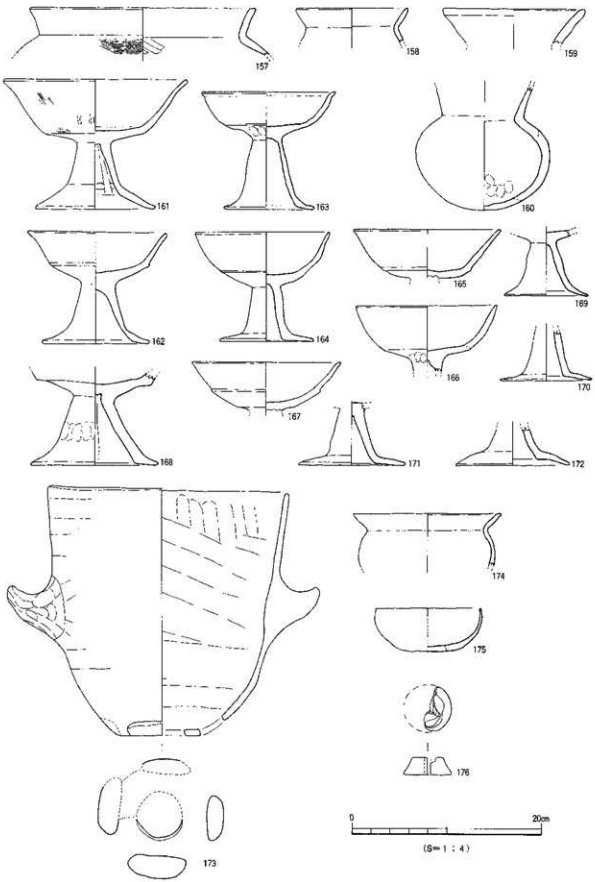
がる口縁部。

石製品　紡錘車（176）：２分の１の残存。断面台形状を呈す。

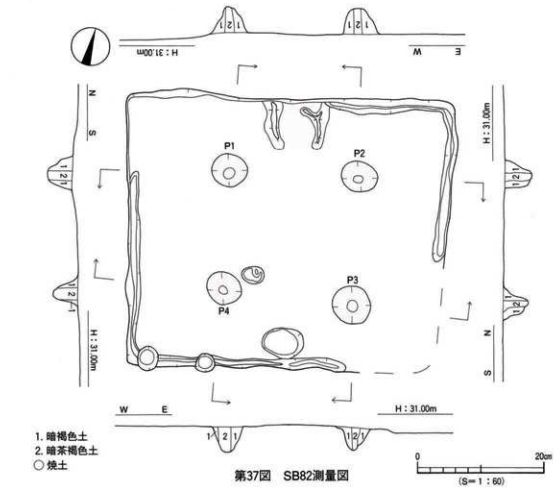
時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＢ82（第37図）　３ａ区中央部、グリッドＳ14Ｅ５に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸5.1m、短軸4.25m、床面積21.68㎡を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱間約2.03m）を検出した。なお本住居址北壁中央に造り付けの竈痕が検出された。構造施設痕として周壁溝が検出された。

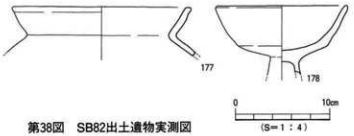
竈：①配置－北壁中央際に位置し、一部が壁に接する。②形態－馬蹄形を呈する。燃焼部は粘土を構築材とする袖部で区画される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ82cm、幅100cm、高さ９cmを測る。③遺物－燃焼部に高坏が残存する。



第36図　SB81出土遺物実測図



第37図　SB82測量図



第38図　SB82出土遺物実測図

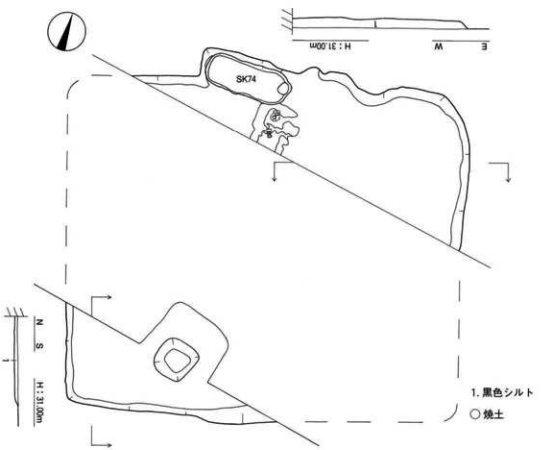
ＳＢ82内出土遺物（第38図）

土師器　甕（177）：頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部で中位が肥厚する。高坏（178）：坏底部と内湾して立ち上がる口縁部の接合部に明瞭な段を持つ。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＢ93（第39図）　２ａ区と３ａ区にかかる、グリッドＳ11・Ｓ12Ｅ４・Ｅ５に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸6.35m、短軸5.4m、深さ３cm、床面積34.29m^2を測る。埋土は黒色シルトである。内部施設は本住居址北壁側中央に竈痕が検出された。遺物は、土師器、鉄片（934）が出土した。

竈：①配置－北壁中央に位置する。②形態－馬蹄形を呈する。燃焼部は粘土を構築材とする袖部で区画される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ70cm、幅70cm、高さ11cmを測る。③遺物－燃焼部に高坏が残存する。



第39図　SB93測量図

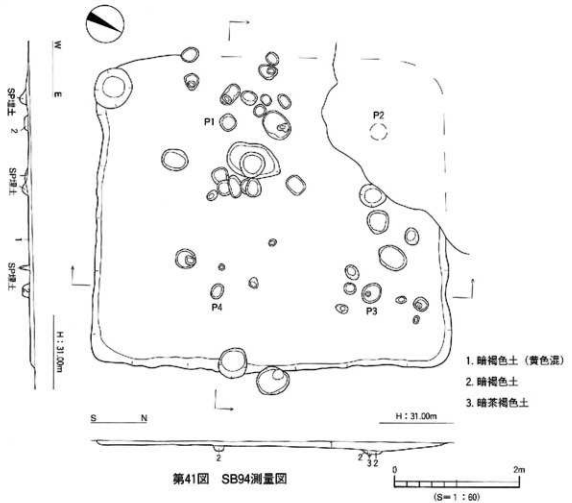
第40図　SB93出土遺物実測図

ＳＢ93内出土遺物（第40・211図）

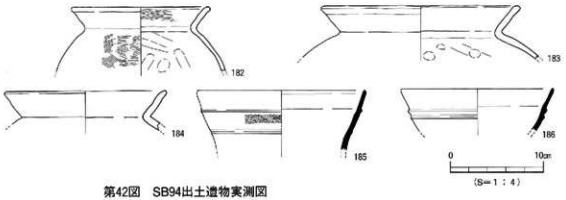
土師器　高坏（179・180）：共に水平に伸びる坏底部から内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。端部は丸く収められる。脚柱部も共に緩く屈曲して裾部へ続く。埦（181）：直立気味に立ち上がる口縁部。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＢ94（第41図）　３ａ区西側、グリッドＳ13・Ｓ14Ｅ２に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸5.75m、短軸5.05m、深さ14cm、床面積29.04㎡を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は



第41図　SB94測量図



第42図　SB94出土遺物実測図

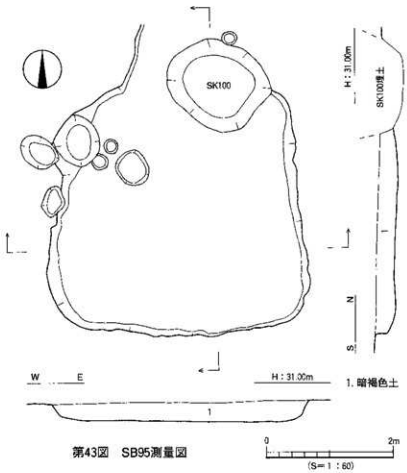
主柱穴（P1・3・4、配置:方形、平均柱穴間約2.55m）を検出した。

ＳＢ94内出土遺物（第42図）

土師器　甕（182～184）：全て頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持ち、端部は丸く仕上げられる。

須恵器　壺（185）：僅かに外傾して立ち上がる口縁部。突出する二つの稜間に波状文が施される。高坏（186）：無蓋高坏の口縁部で外面中位に二段の稜を有する。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

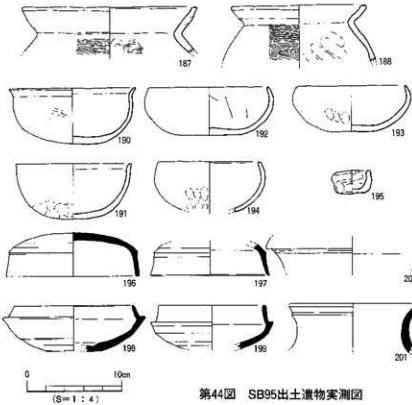


第43図　SB95測量図

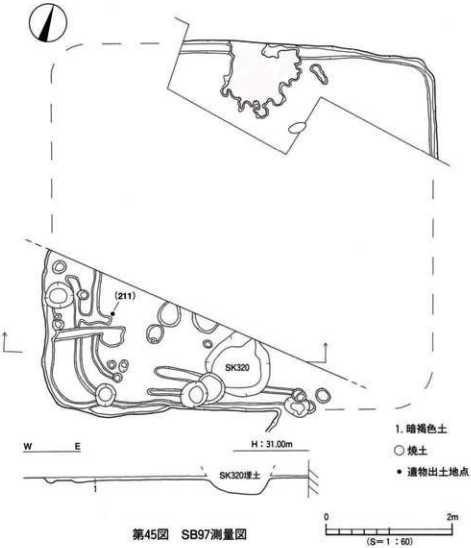
ＳＢ95（第43図）　3ａ区西側、グリッドＳ12Ｅ2に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸4.2m、短軸3.72m、深さ31cm、床面積15.62㎡を測る。埋土は暗褐色土である。

ＳＢ95内出土遺物（第44図）

土師器　甕（187～189）：187・188は頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持ち、端部は面をなす。189は内湾して立ち上がる体部と外反する口縁部が接続され、頸部付近で「S」字状を呈する。**埦**（190～194）：190・191は口縁端部が短く外反し、内面に面をなす。192・193は水平に伸びる底



第44図　SB95出土遺物実測図



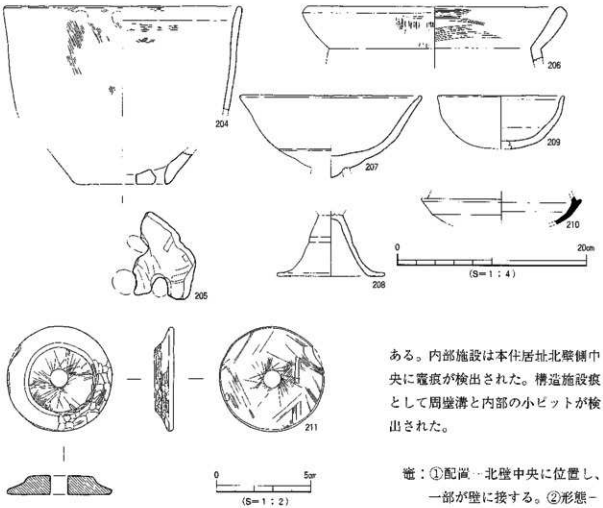
第45図　SB97測量図

部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。手捏（195）：底部は平底で、塊形を呈す。

須恵器　坏蓋（196・197）：天井部と口縁部の接合部外面は、断面三角形の稜をなす。坏身（198・199）：198の立ち上がりは内傾して短く、端部は細く仕上げられる。199の立ち上がり端部は丸く収められる。体部は立ち上がりに対して浅い。壺（200～202）：200は外反する口縁部を持ち、上下に拡張される端部直下には突線が1条巡る。201は肩部から外反する口縁部を持つ。202は扁球状を呈する体部から緩やかに立ち上がる口縁部を持つ。口縁端部は面をなす。甕（203）：体部は扁球状を呈す。体部上半部には2段の回転カキ目帯間に櫛歯状工具による縦方向の刺突列点文が看取される。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＢ97（第45図）　２ａ区と３ａ区にかかる、グリッドＳ12Ｅ１・Ｅ２に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸6.0m、短軸4.2＋αm、深さ5cm、床面積25.2㎡以上を測る。埋土は暗褐色土で



第46図　SB97出土遺物実測図

ある。内部施設は本住居址北壁傍中央に竈痕が検出された。構造施設痕として周壁溝と内部の小ピットが検出された。

竈：①配置－北壁中央に位置し、一部が壁に接する。②形態－馬蹄形を呈する。燃焼部は粘土を構築材とする袖部で区画される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ118cm、幅120cm、高さ18cmを測る。③遺物－燃焼部に高坏が残存する。

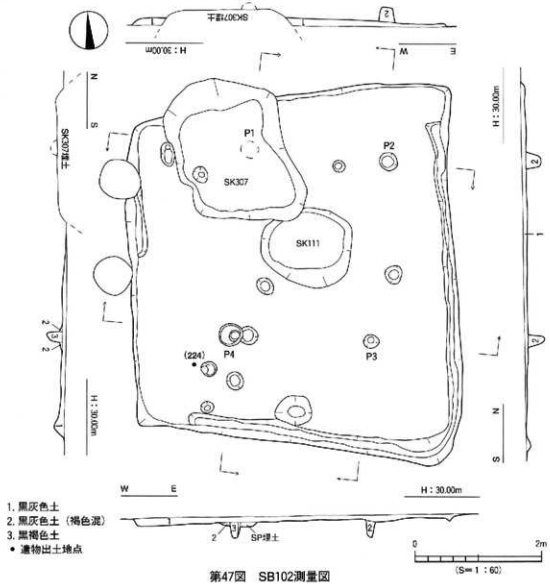
ＳＢ97内出土遺物（第46図）

土師器　甑（204・205）：204は底部方向から直立して立ち上がる口縁部。205は平底を呈する底部。中心に位置する円孔１つと周囲に配置される楕円孔２つを看取する。甕（206）：７世紀代以降と考えられる大型甕の口縁部である。頸部で大きく屈曲し、やや内湾気味に立ち上がる。混入品か。高坏（207・208）：207は坏部で坏底部から緩やかに立ち上がる口縁部を持つ。208は脚柱部で柱部中位に擬凹線が１条巡る。塊（209）：口縁端部は僅かに外反し、丸細く収める。

須恵器　坏身（210）：小片。受部端部は丸く仕上げられる。混入品か。

石製品　紡錘車（211）：断面形は台形状を呈し、側面は段を有する。結晶片岩製。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



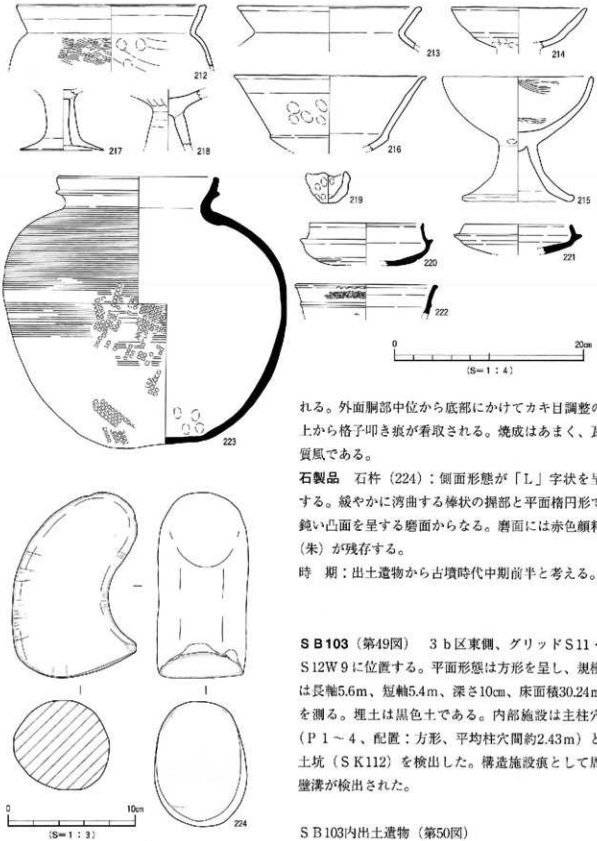
第47図　SB102測量図

SB102（第47図）　3b区東側、グリッドS11W10に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.9m、短軸5.25m、深さ12cm、床面積30.98㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は主柱穴（P**2～4**、配置：方形、平均柱穴間約2.53m）を検出した。

SB102内出土遺物（第48図）

土師器　甕（212・213）：共に体部から「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。212は口縁端部で肥厚され、面をなす。213の口縁端部は丸く収まる。高坏（214～218）：214・215は坏底部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。216の口縁部は直線的に外傾し、端部で短く外反する。217・218は脚柱部。手捏（219）：底部から内湾して立ち上がる口縁部を持ち、側面塊形を呈す。

須恵器　坏身（220・221）：220の口縁部は内反気味に立ち上がり、端部は内面に段を有す。221は水平に伸びる受部から短く内傾する立ち上がりを持つ。高坏（222）：無蓋高坏の口縁部である。壺（223）：頸部中位に断面三角形の突帯が巡らされる。外面肩部から胴部中位にかけてカキ目調整が施さ



第48図　SB102出土遺物実測図

れる。外面胴部中位から底部にかけてカキ目調整の上から格子叩き痕が看取される。焼成はあまく、瓦質風である。

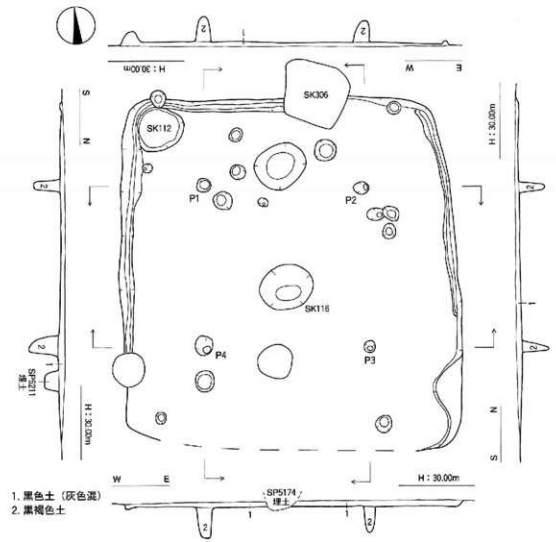
石製品　石杵（224）：側面形態が「L」字状を呈する。緩やかに湾曲する棒状の握部と平面楕円形で鈍い凸面を呈する磨面からなる。磨面には赤色顔料（朱）が残存する。

時　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

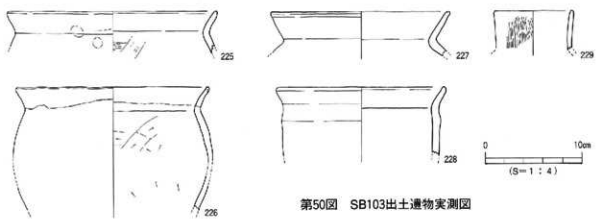
SB103（第49図）　3b区東側、グリッドS11・S12W9に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.6m、短軸5.4m、深さ10cm、床面積30.24㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（P1～4、配置：方形、平均柱穴間約2.43m）と土坑（SK112）を検出した。構造施設痕として周壁溝が検出された。

SB103内出土遺物（第50図）

土師器　甕（225～228）：225～227は「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。226・228は粗雑な仕上



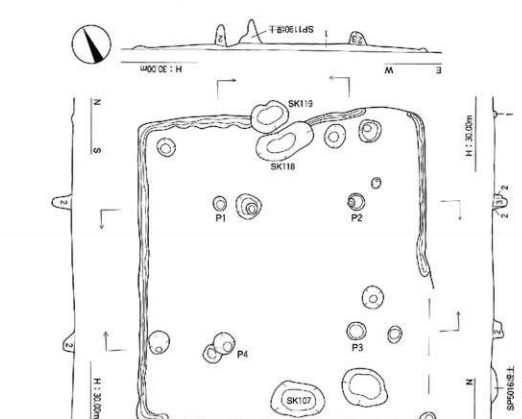
第49図　SB103測量図



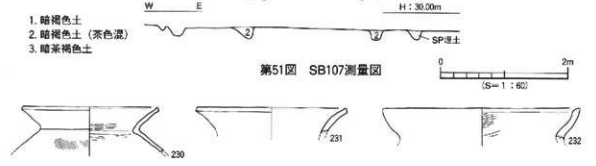
第50図　SB103出土遺物実測図

げで、粘土帯が容易に看取される。228は深鉢の可能性もある。壺(229)：直立する口縁部を持つ小型壺。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第51図　SB107測量図

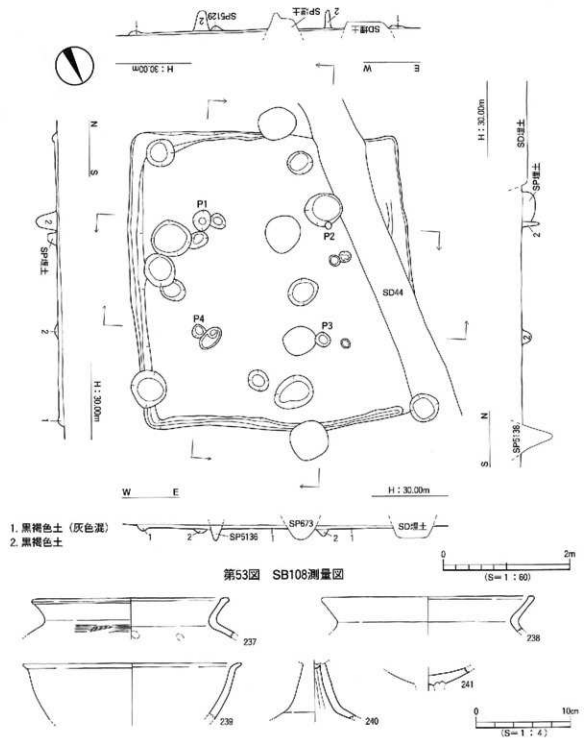


第52図　SB107出土遺物実測図

ＳＢ107（第51図）　３ｂ区東側、グリッドＳ10・Ｓ11Ｗ９に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸4.85m、短軸4.5m、深さ10cm、床面積21.83㎡を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.14m）と土坑（ＳＫ107）を検出した。構造施設痕として周壁溝が検出された。

ＳＢ107内出土遺物（第52図）

土師器　甕（230～233）：全て頸部が「く」の字状に屈曲する口頸部を持つが、口縁部の立ち上がり形

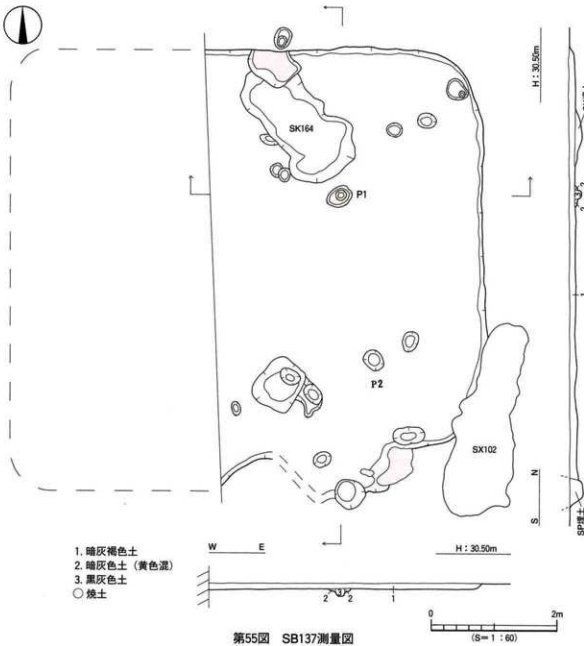


第53図　SB108測量図

第54図　SB108出土遺物実測図

態に差異が認められる。230は頸部で鋭く屈曲し、罐部は外方向に面をなす。231の口縁部は大きく外反し、罐部は面仕上げとなる。232は内湾する口縁部。塊（234）：底部は平底を呈し、直線的に外傾する口縁部を持つ。高坏（235・236）：235は坏部で、外反しつつ立ち上がる口縁部を持つ。236はラッパ状に開く脚柱部。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



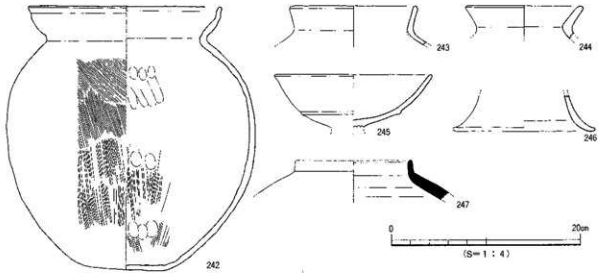
第55図　SB137測量図

ＳＢ108（第53図）　３ｂ区中央、グリッドＳ11W12に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸4.7m、短軸4.43m、深さ８cm、床面積20.82㎡を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約1.89m）を検出した。構造施設痕として周壁溝が検出された。

ＳＢ108内出土遺物（第54図）

土師器　甕（237・238）：共に「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、端部は丸く仕上げられる。鉢（239）：内湾し立ち上がる口縁部の端は、短く外反する。高坏（240・241）：240は脚柱部。241は坏底部。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第56図　SB137出土遺物実測図

SB137（第55図）　2a区西壁際、グリッドS5・S6W9・W10に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸7.35m、短軸4.2+αm、深さ12cm、床面積30.87㎡以上を測る。埋土は暗灰褐色土である。内部施設は主柱穴（P1・2、配置：方形、柱穴間2.65m）と土坑（SK164）が検出された。なお北壁中央及び南壁際東寄りに焼土塊（竈痕?）が検出された。

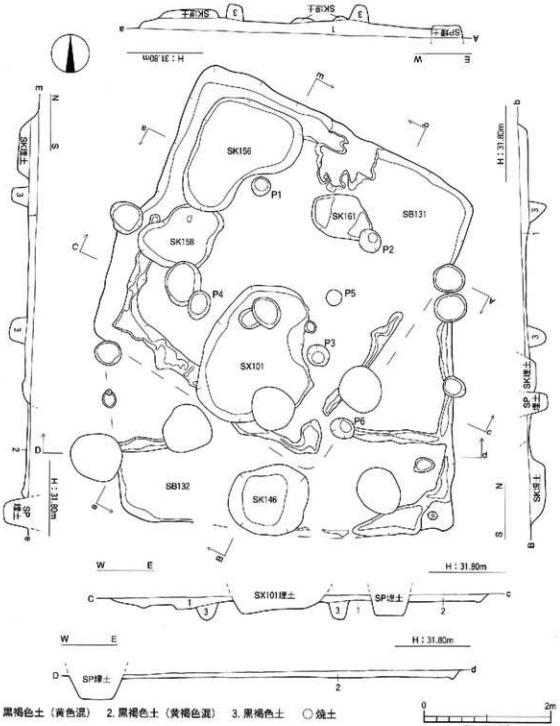
SK164：住居址の北壁中央に位置し、一部焼土塊と重複する。平面形態は不整長方形、断面形状は皿状を呈す。検出規模は長さ2.14m、幅0.98m、深さ16cmを計る。埋土は暗褐色土である。

SB137内出土遺物（第56図）

土師器　甕（242～244）：全て「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。242は完存品。口縁部上位に屈曲部を持ち、短く内傾する。体部は球形を呈し、底部は平底になる。243は直線的に短く立ち上がる口縁部を持つ。244は口頸部で鋭く屈折する。端部は丸く収められる。高坏（245・246）：245は坏底部から緩やかに立ち上がる口縁部で、接合部は弱い段をなす。246は大きく外反する脚裾部。

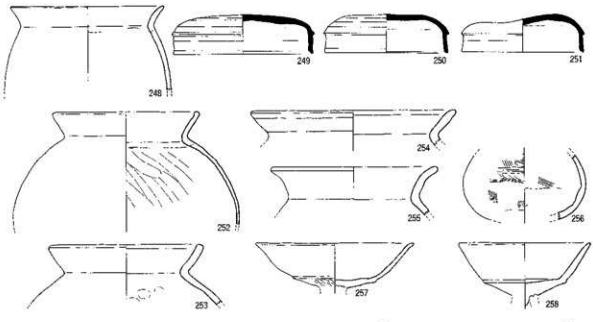
須恵器　壺（247）：混入品。9世紀以降と考えられる短頸壺。短く直立する口縁部で、端部は丸く収められる。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



第57図　SB131・132測量図

ＳＢ131（第57図）　２ａ区南西側、グリッドＳ８・Ｓ９Ｗ４に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.15＋αｍ、短軸5.05ｍ、深さ20㎝、床面積26㎡以上を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.09ｍ）が検出された。なお北壁中央に竈痕が検出された。



第58図　SB131・132出土遺物実測図

竈：①配置－北壁中央際に位置し、一部が壁に接する。②形態－馬蹄形を呈すると思われる。燃焼部は粘土を構築材とする袖部で区画される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ96cm、幅110cm、高さ11cmを測る。③遺物－燃焼部に土師器片（高坏？）が残存する。

ＳＢ131内出土遺物（第58図）

土師器　甕（248）：口縁部は緩く屈曲して立ち上がる。端部は先細りする。

須恵器　坏蓋（249～251）：全て天井部は平坦で、口縁端部内面に段を有する。249は天井部から直線的に下る口縁部を持つ。250・251は天井部と口縁部の境をなす稜が鋭く、断面三角形状を呈す。

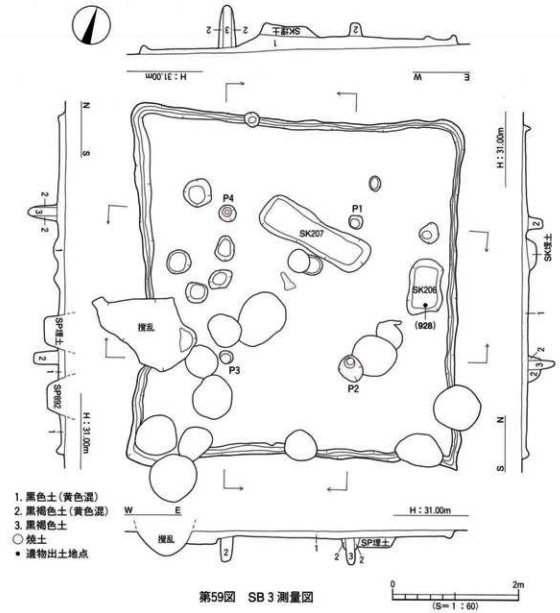
時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

ＳＢ132（第57図）　２ａ区南西側、グリッドＳ８・Ｓ９Ｗ４に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸4.25＋αm、短軸5.45m、深さ10cm、床面積23.16㎡以上を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ４～６、配置：方形、平均柱穴間約2.13m）が検出された。

ＳＢ132内出土遺物（第58図）

土師器　甕（252～255）：全て「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。252の口縁端部は内傾する面を持つ。253の口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は面をなす。254・255の口縁端部は丸く収められる。255の口縁部は中位で緩く屈曲し外反する。壺（256）：直線的に外傾する口縁部を有する壺の体部と考える。高坏（257・258）：共に、坏底部から外傾する口縁部を持つ坏部。257は端部が短く外反する。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。



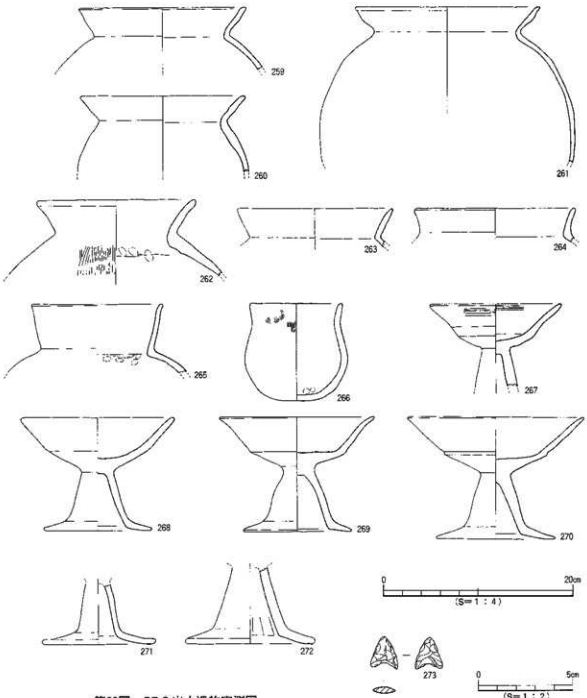
第59図　SB３測量図

ＳＢ３（第59図）　１区南側中央、グリッドＮ２Ｗ３に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.5m、短軸5.2m、深さ20cm、床面積28.6m²を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.1m）と土坑（ＳＫ206）を検出した。なお本住居址中央部では焼土が検出された。施設構造痕として周壁溝と内部の小ピットが一部検出された。遺物は、土師器、石錘、鉄製品（928・929）が出土した。

ＳＫ206：住居址の東壁際中央に位置する。平面形態は長方形、断面形状は逆台形状を呈する。検出規模は長さ0.86m、幅0.55m、深さ18cmを測る。埋土は黒灰色土である。

ＳＢ３内出土遺物（第60・211図）

土師器　甕（259～264）：全て頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。端部が僅か

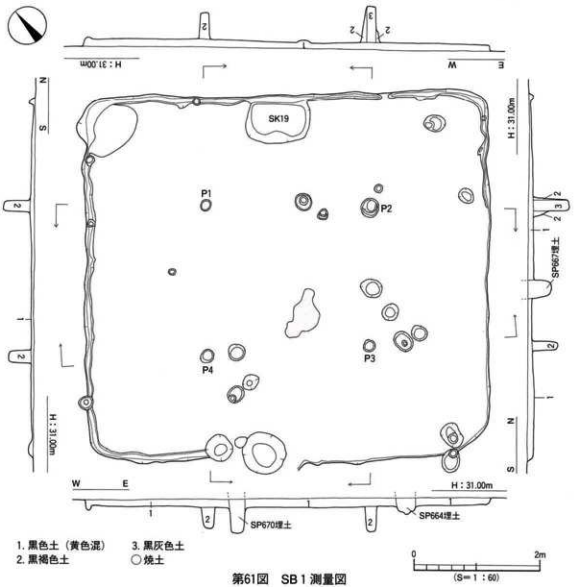


第60図　SB３出土遺物実測図

に面をなす259と260～264のように丸く収めるものがある。壺（265・266）：265は口縁部は頸部から外傾しつつ直線的に立ち上がる。266は半底を呈し、如意形に立ち上がる口縁部を持つ。高坏（267～272）：267～268の坏部は屈曲部の稜線が不明瞭である。269の坏部は丸細に仕上げられる口縁端部が僅かに外反する。269・270の脚部は柱の中位が膨らむ。271・272は脚部が残存するもので外傾する柱部に大きく外反する裾部をもつ。

石製品　石鏃（273）：円基式でサヌカイト製。

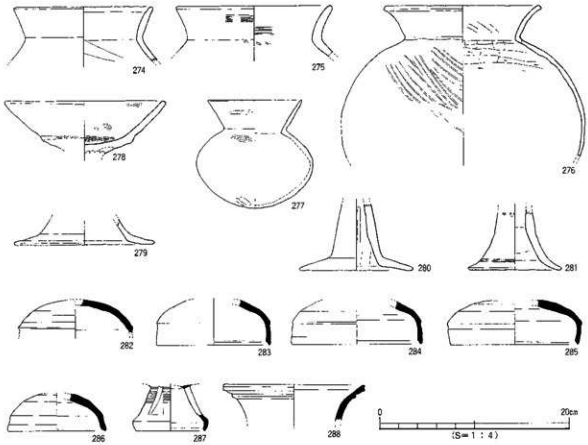
時　　期：出土遺物から古墳時代中期中葉と考える。



第61図　SB1測量図

SB1（第61図）　1区南側中央、グリッドN1E1に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸6.45m、短軸5.9m、深さ7cm、床面積38.06㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（P1～4、配置：方形、平均柱穴間約2.5m）と土坑（SK19）を検出した。本住居址中央部では焼土が検出された。後世の削平により遺存状況は悪いが施設構造痕として周壁溝と内部の小ピットも一部検出された。

SK19：住居址の北壁際中央に位置する。平面形態は長方形、断面形状は逆台形状を呈する。検出規模は長さ1.0m、幅0.66m、深さ24cmを測る。埋土は黒灰色土である。



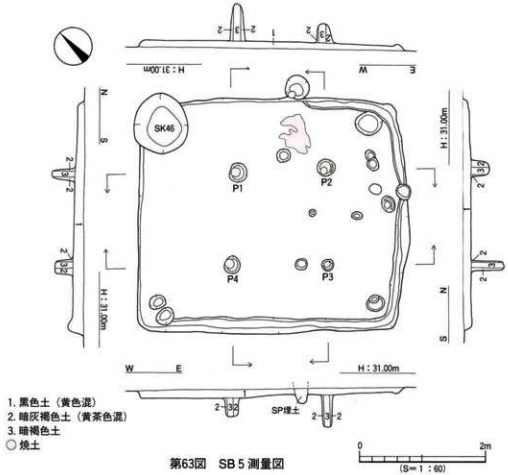
第62図　SB1出土遺物実測図

ＳＢ１内出土遺物（第62図）

土師器　甕（274～276）：頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ甕である。小型丸底壺（277）：扁平の体部に外傾する口頸部をもつ。内面は黒色。高坏（278～281）：278は坏部で屈曲部に明瞭な段をもつ。280は脚部で直線的に立ち上がる脚柱部に大きく外反する裾部をもつ。281は緩やかに広がる裾部をもつ脚部である。

須恵器　坏蓋（282～286）：282～285には天井部と口縁部の境に短く突出するような稜を持つ。有蓋高坏（287）：三方透孔の可能性がある短脚の脚部。外面にはカキ目調整が施される。甕（288）：口縁端部は下方に拡張され、口縁下に断面三角形のシャープな凸帯が巡る。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。



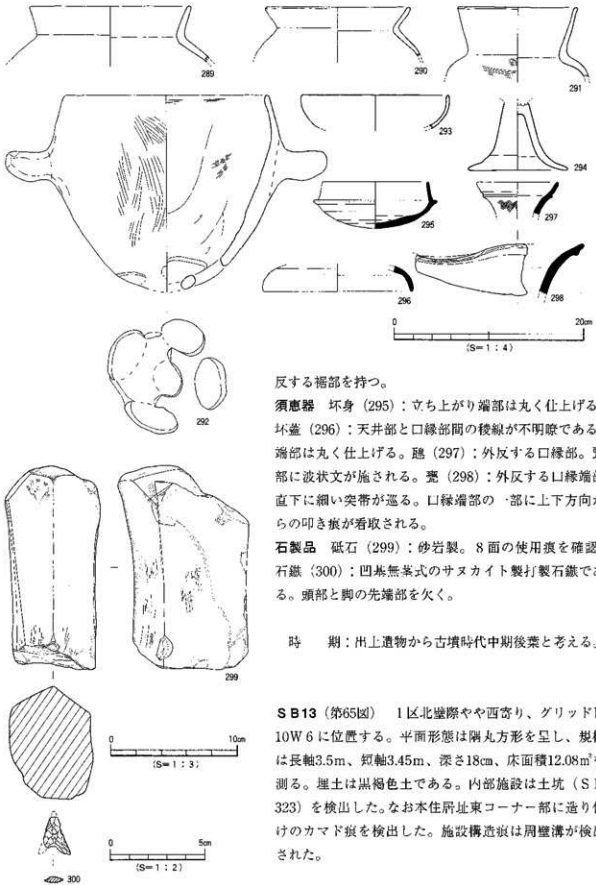
第63図　SB5測量図

SB5（第63図）　1区中央、グリッドN4W3・W4に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸4.29m、短軸3.75m、深さ16cm、床面積16.09㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（P1～4、配置：方形、平均柱穴間1.53m）を検出した。なお本住居址北壁中央に造り付けの竈が検出された。施設構造痕として周壁溝と内部の小ピットが一部検出された。

竈：①配置－北壁中央際に位置する。②形態－不明。燃焼部の構築材には粘土が使用されている。また焼土が遺存し、その直下は土坑状に掘り窪められる。埋土には焼土、粘土と炭化物が混じる。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ68cm、幅50cm、高さ16cmを測る。③遺物－土師器片。

ＳＢ５内出土遺物（第64図）

土師器　甕（289・290）：共に頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。290は口縁端部が僅かに内湾する。小型丸底壺（291）：直線的に立ち上がる口縁部をもつ。端部は僅かに外反する。甑（292）：丸底の底部より体部が外傾して立ち上がり、口縁部は内湾する。端部は丸細く仕上げる。底部中央に小振りの楕円孔、周囲に４つの楕円孔が看取できる。胴部上位に把手が付く。坏（293）：内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。高坏（294）：脚部のみの残存で外傾する柱部に大きく外



第64図　SB5出土遺物実測図

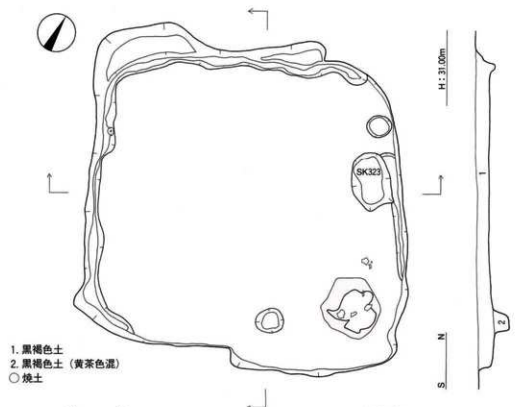
反する裾部を持つ。

須恵器　坏身（295）：立ち上がり端部は丸く仕上げる。坏蓋（296）：天井部と口縁部間の稜線が不明瞭である。端部は丸く仕上げる。甕（297）：外反する口縁部。頸部に波状文が施される。甕（298）：外反する口縁端部直下に細い突帯が巡る。口縁端部の一部に上下方向からの叩き痕が看取される。

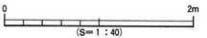
石製品　砥石（299）：砂岩製。8面の使用痕を確認。石鏃（300）：凹基無茎式のサヌカイト製打製石鏃である。頭部と脚の先端部を欠く。

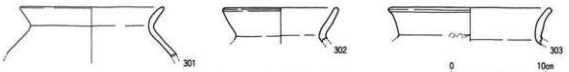
時　期：出土遺物から古墳時代中期後葉と考える。

SB13（第65図）　I区北壁際やや西寄り、グリッドN10W6に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸3.5m、短軸3.45m、深さ18cm、床面積12.08㎡を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は土坑（SK323）を検出した。なお本住居址東コーナー部に造り付けのカマド痕を検出した。施設構造痕は周壁溝が検出された。



第65図　SB13測量図





第66図　SB13出土遺物実測図

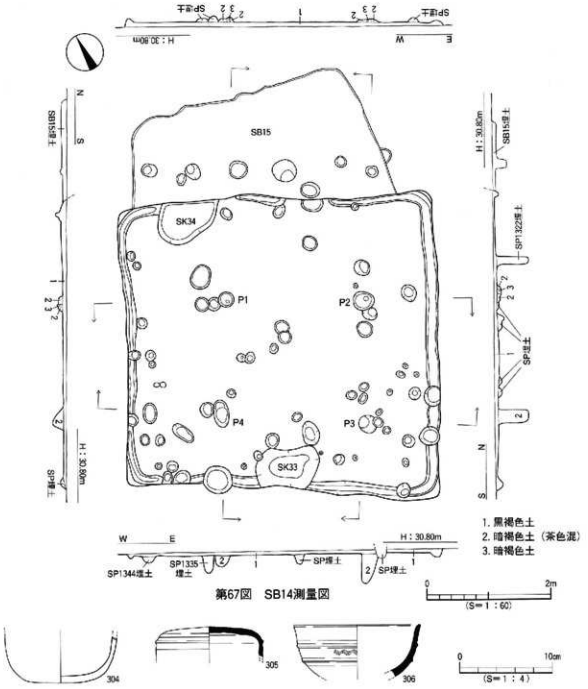
竈　：①配置－南東隅に位置する。②形態－不明。竈の構築材には、粘土を使用したものと思われる。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ70cm、幅55cm、高さ11cmを測る。③遺物－土師器片。

ＳＫ323：住居址の北壁際中央に位置する。平面形態は長方形、断面形状は舟底状を呈す。検出規模は、長さ0.6m、幅0.4m、深さ17cmを測る。埋土は黒褐色土である。

ＳＢ13内出土遺物（第66図）

土師器　甕（301～303）：全て頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。端部は丸く収められる。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

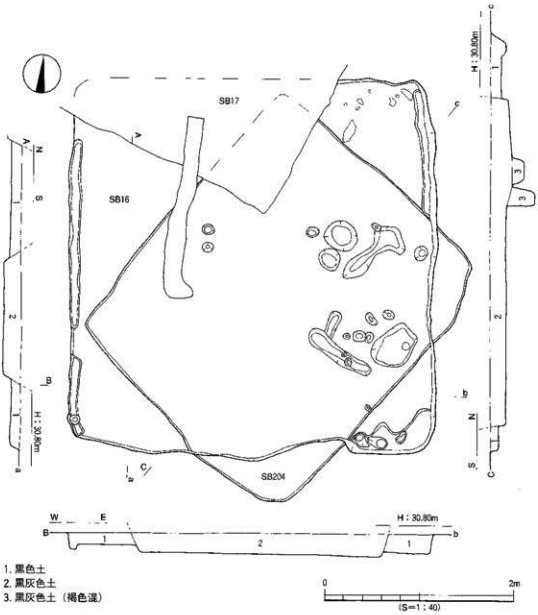


第67図　SB14測量図

第68図　SB14出土遺物実測図

ＳＢ14（第67図）　１区中央やや西寄り、グリッドＮ３・Ｎ４Ｗ６・Ｗ７に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.07m、短軸4.98m、深さ６㎝、床面積25.25㎡を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.11m）と土坑（ＳＫ33・34）を検出した。施設構造裏として周壁溝と内部の小ピットが一部検出された。

ＳＫ33：住居址の南壁際中央に位置する。平面形態は長方形、断面形状は舟底状を呈す。検出規模は長さ1.75m、幅0.70m、深さ18㎝を測る。埋土は黒褐色土である。



第69図　SB16測量図

ＳＫ34：住居址の北壁際左側に位置する。平面形態は半円形、断面形状は舟底状を呈す。検出規模は長さ1.05m、幅0.50m、深さ14cmを測る。埋土は黒褐色土である。

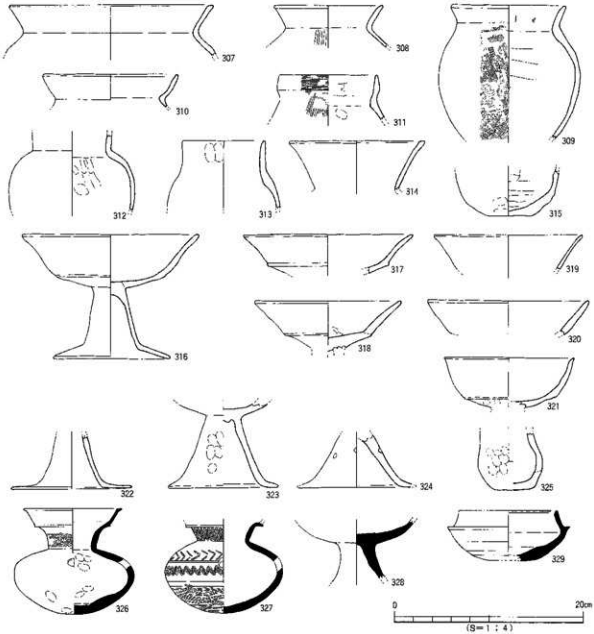
ＳＢ14内出土遺物（第68図）

土師器　埦（304）：水平に伸びる底部から内湾して直立する口縁部を持つ。

須恵器　坏蓋（305）：天井部と口縁部の境に突出する稜を持つ。高坏（306）：無蓋高坏の口縁部。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

ＳＢ16（第69図）　１区中央やや西寄り、グリッドＮ４・Ｎ５Ｗ６・Ｗ７に位置する。ＳＢ17に先行し、ＳＢ204上に建てられる。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸4.0m、短軸3.9m、深さ20cm、床面積15.6㎡を測る。埋土は黒色土である。施設構造痕は不明。

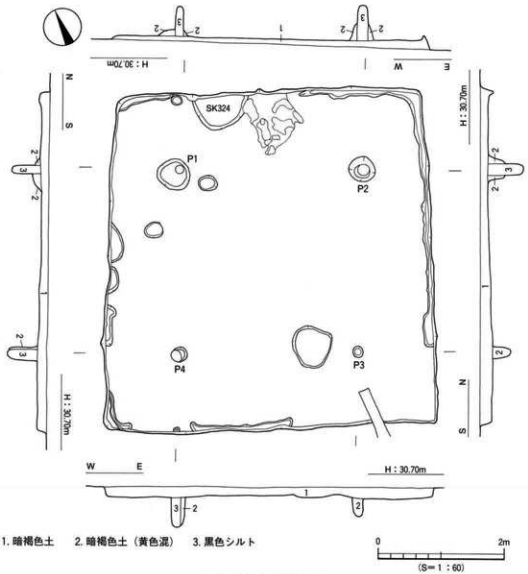


第70図　SB16出土遺物実測図

ＳＢ204：ＳＢ16に先行する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸3.5m、短軸3.0m、深さ19cm、床面積10.5㎡を測る。埋土は黒色土（黄褐色混）である。

ＳＢ16内出土遺物（第70図）

土師器　甕（307～310）：全て頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。壺（311～315）：311は擬二重口縁を呈し、口縁端部は先細りする。312は球形を呈する胴部から直立気味に立ち上がる頸部を持つ。313は直立して立ち上がる口縁部を持つ。314は大きく外反する口縁部。端部は僅かに肥厚され面を持つ。315は平底の底部。高坏（316～324）：316は水平に伸びる坏底部から外反気味に開く口縁部を持つ。屈曲部の段は不明瞭である。脚部は柱部から鋭く屈曲し、斜め下方に伸びる裾部へ続く。317～321は坏部。317・318は屈曲部に明瞭な段を有する。322～324は脚柱部。ミニチュア土器（325）：口縁部欠損。壺形を呈するものと考えられる。



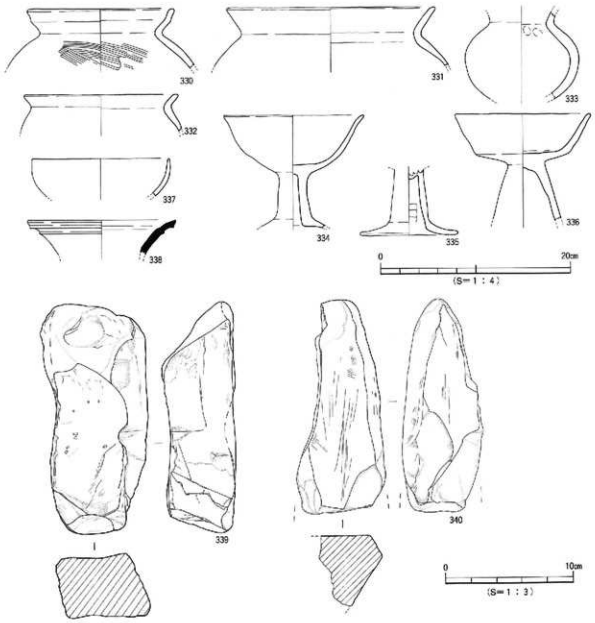
第71図　SB17測量図

須恵器　甕（326・327）：共に体部が扁球形を呈し、外反する口縁部を持つ。高坏（328）：無蓋高坏の基部。坏身（329）：体部は回転篦削りが施される。口縁端部は内傾する面を持つ。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

ＳＢ17（第71図）　１区中央、グリッドＮ５Ｗ６・Ｗ７に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.5m、短軸5.3m、深さ18cm、床面積29.15㎡を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間2.95m）と土坑（ＳＫ324）を検出した。なお本住居址北壁中央に造り付けの竈痕が検出された。構造施設痕として周壁溝が一部検出された。

竈　：①配置－北壁中央際に位置し、一部が壁に接する。②形態－馬蹄形を呈し、燃焼部は粘土を構築材とする袖部で区画されると思われる。燃焼部には焼土が遺存する。煙出部の一部と考えら



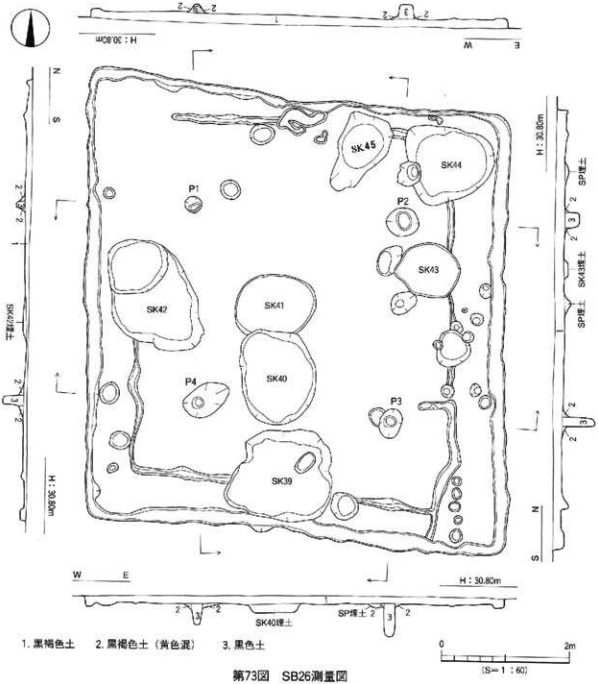
第72図　SB17出土遺物実測図

れる僅かな突出部が壺後方にある。検出規模は、長さ50cm、幅70cm、高さ11cmを測る。③遺物－燃焼部に土師器片（高坏？）が残存する。

ＳＫ324：住居址の北壁際中央やや左に位置し、竈に隣接する。平面形態は半円形、断面形状は皿状を呈す。検出規模は長さ0.9m、幅0.59m、深さ９cmを測る。埋土は黒色土である。

ＳＢ17内出土遺物（第72図）

土師器　甕（330～332）：330は口縁部中位で鈍い稜を持ち、僅かに屈曲する。壺（333）：扁球形を呈する体部を持つ。高坏（334～336）：334は坏底部から緩やかに立ち上がる口縁部を持つ。端部は短く外反し、丸く収められる。335は直下する柱部から大きく開く裾部を持つ。336は水平に伸びる坏底部から鋭く屈曲する口縁部を持つ。塊（337）：緩やかに立ち上がる口縁部。

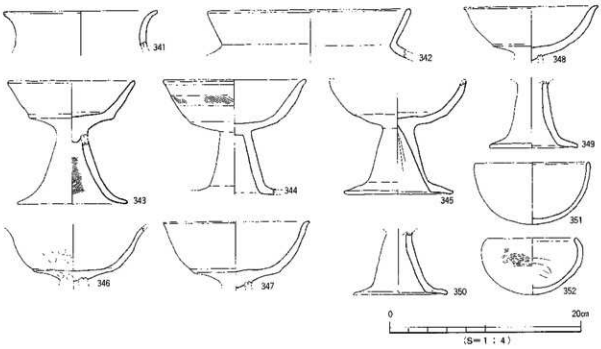


第73図　SB26測量図

須恵器　壺（338）：口縁端部は上下に拡張され、口縁下に断面三角形のシャープな凸帯が巡る。
石製品　砥石（339・340）：共に石英粗面岩製で据置用と思われる。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

ＳＢ26（第73図）　１区西側、グリッドＮ６Ｗ７・Ｗ８に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸7.2m、短軸6.65m、深さ15cm、床面積47.88㎡を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は主柱穴



第74図　SB26出土遺物実測図

（P1～4、配置：方形、平均柱穴間約3.19m）と土坑（SK45）を検出した。なお本住居址北壁中央に造り付けの竈痕が検出された。構造施設痕として二重に回る周壁溝が検出された。

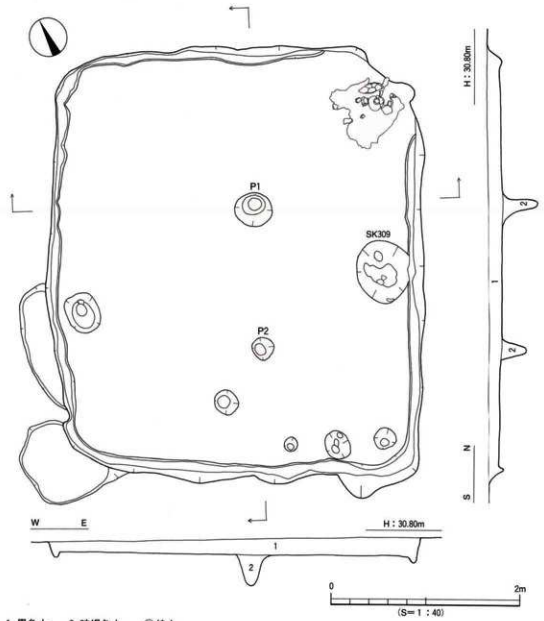
竈　：①配置　北壁中央に位置し、一部は壁に接する。②形態－不明。竈の構築材には、粘土を使用したものと思われる。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ43cm、幅80cm、高さ12cmを測る。③遺物－土師器片。

SK45：住居址の北壁際中央やや右に位置し、竈に接する。平面形態は不整楕円形、断面形状は逆台形状を呈す。検出規模は長さ1.3m、幅0.8m、深さ60cmを測る。埋土は茶褐色土である。

SB26内出土遺物（第74図）

土師器　甕（341・342）：341は「S」字状を呈する口縁部を持つ。端部は丸細く仕上げられる。342は「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。高坏（343～350）：343は水平に伸びる坏底部から直線的に外傾する口縁部を持ち、屈曲部は明瞭な段を有する。344～347は口縁屈曲部の段が不明瞭である。348と349は同一個体である。坏部と脚部の接合は柄法を採る。350は脚柱部である。椀（351・352）：351は偏断面半円状を呈す。口縁端部は丸く仕上げられる。352は口縁端部で内反する。

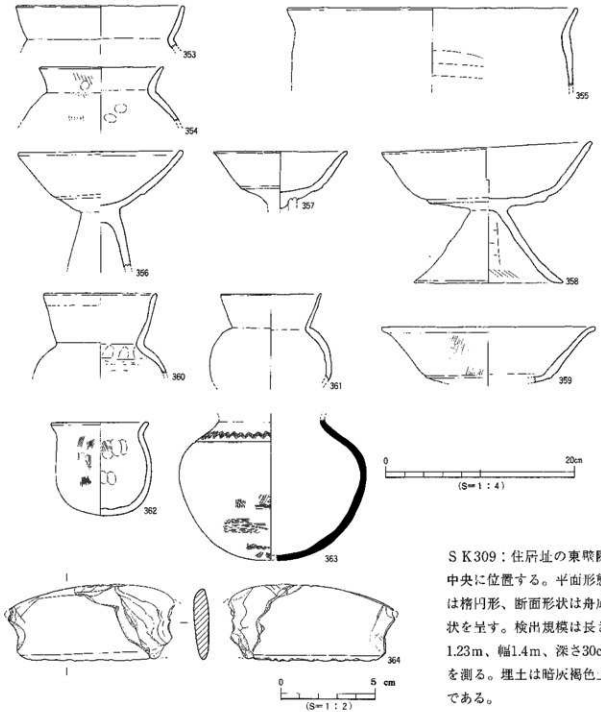
時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。



第75図　SB46測量図

ＳＢ46（第75図）　１区中央やや北寄り、グリッドＮ７Ｗ５・Ｗ６に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸4.5m、短軸3.95m、深さ20cm、床面積17.78㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１・２、配置：直線、柱穴間1.5m）と土坑（ＳＫ309）を検出した。なお本住居址北東コーナー部に造り付けの竈痕が検出された。施設構造痕としては周壁溝が検出された。

竈：①配置－北東隅に位置し、一部は壁に接する。②形態－崩壊しているため、断言は避けるが馬蹄形を呈し、竈の構築材に粘土を使用したものと思われる。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部･煙出部は明確ではないが、後方に短い突出部が存在する。検出規模は、長さ65cm、幅69cm、高さ24cmを測る。③遺物－燃焼部に高坏が据え置かれる。

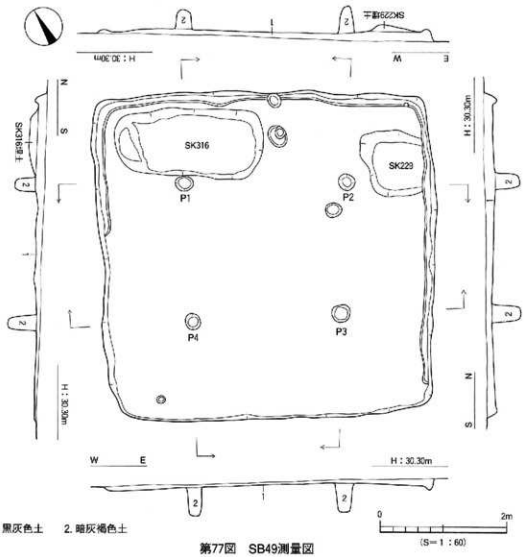


第76図　SB46出土遺物実測図

ＳＫ309：住居址の東壁際中央に位置する。平面形態は楕円形、断面形状は舟底状を呈す。検出規模は長さ1.23m、幅1.4m、深さ30cmを測る。埋土は暗灰褐色土である。

ＳＢ46内出土遺物（第76図）

土師器　甕（353・354）：共に頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部。353は僅かに内反して立ち上がる。甑（355）：口縁部は緩い「く」の字状を呈する。高坏（356～359）：356は坏底部と口縁接合部の段が不明瞭である。357～359は坏底部から外傾する口縁部を持つ。358の脚柱部は外反して開き、裾部は認められない。壺（360・361）：共に内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。体部は扁球形を呈す。鉢（362）：「Ｓ」字状の口縁部を持つ。内面は指頭痕を顕著に看取する。



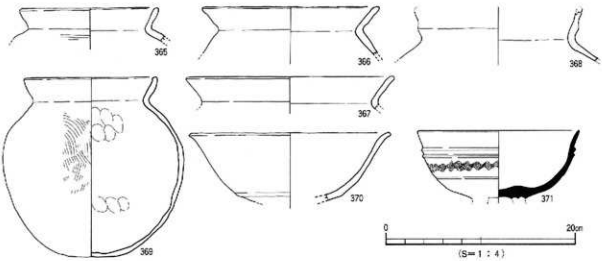
第77図　SB49測量図

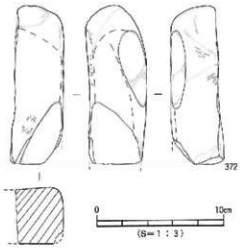
須恵器　壺（363）：肩部直上に波状文が施される。
石製品　石庖丁（364）：抉りの片側を一部欠く。弧背直刃形を呈す。結晶片岩製。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

ＳＢ49（第77図）　１区西側、グリッドＮ７Ｗ11・Ｗ12に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.3m、短軸5.2m、深さ13cm、床面積27.56㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.34m）と土坑（ＳＫ229・316）を検出した。施設構造案として周壁溝が検出された。

ＳＫ229：住居址の東壁左側に位置する。平面形態は方形、断面形状は皿状を呈す。検出規模は長さ1.04m、幅1.0m、深さ13cmを測る。埋土は暗褐色土である。





第78図　SB49出土遺物実測図

ＳＫ316：住居址の北壁左側に位置する。平面形態は長方形、断面形状は皿状を呈す。検出規模は長さ2.34ｍ、幅1.08ｍ、深さ12cmを測る。埋土は暗褐色土である。

ＳＢ49内出土遺物（第78図）

土師器　甕（365～369）：全て頸部が「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部。367以外は口縁部中位が肥厚される。369は完形品。高坏（370）：坏底部から外反して立ち上がる口縁部を持つ。口縁屈曲部の段は不明瞭である。

須恵器　高坏（371）：無蓋高坏の坏部である。口縁部は外反し、口縁下には断面三角形状の凸帯が２重に巡る。坏部中位に精緻な櫛描波状文が施される。

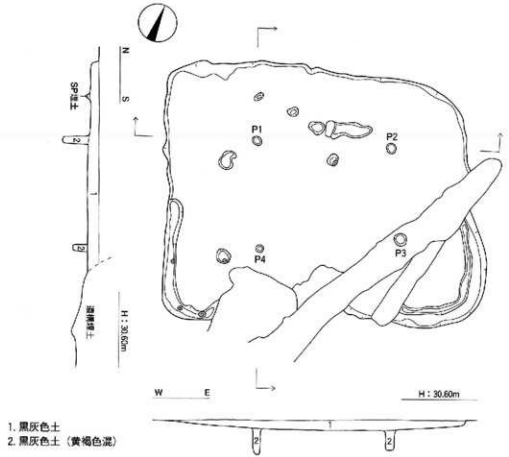
石製品　砥石（372）：石英粗面岩製。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

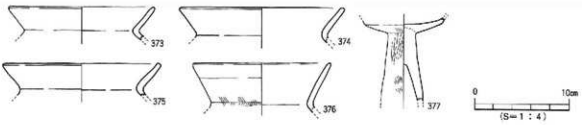
ＳＢ57（第79図）　１区西側、グリッドN12W14・W15に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸5.15ｍ、短軸4.15ｍ、深さ15cm、床面積21.37㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約1.89ｍ）を検出した。施設構造痕として周壁溝が検出された。

ＳＢ57内出土遺物（第80図）

土師器　甕（373～375）：全て頸部が「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。374・375



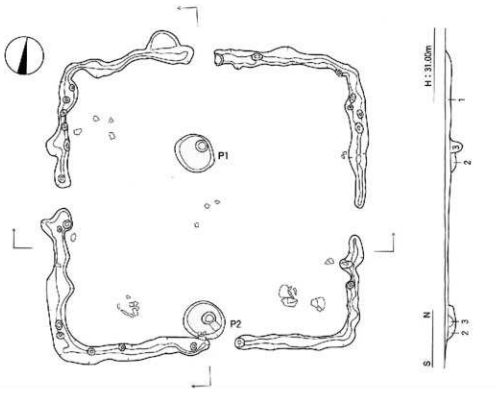
第79図　SB57測量図



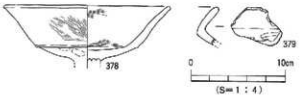
第80図　SB57出土遺物実測図

は口縁端部が面をなす。壺（376）：広口壺の口縁部で頸部から直線的に外傾する。高坏（377）：坏底部から直下する脚柱部を持つ。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。



第81図　SB70測量図



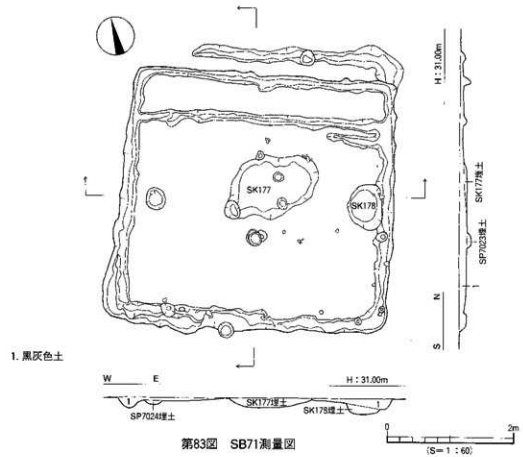
第82図　SB70出土遺物実測図

ＳＢ70（第81図）　２ａ区中央部やや東寄り、グリッドＳ７・Ｓ８Ｅ３・Ｅ４に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸3.3m、短軸3.2m、深さ8cm、床面積10.56㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１・２、配置：直線、柱穴間1.85m）を検出した。施設構造痕として周壁溝と内部の小ピットが検出された。

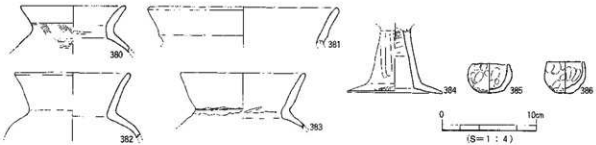
ＳＢ70内出土遺物（第82図）

土師器　高坏（378）：水平に伸びる坏底部から外反する口縁部。端部は丸く収める。甕（379）：頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期と考える。



第83図　SB71測量図



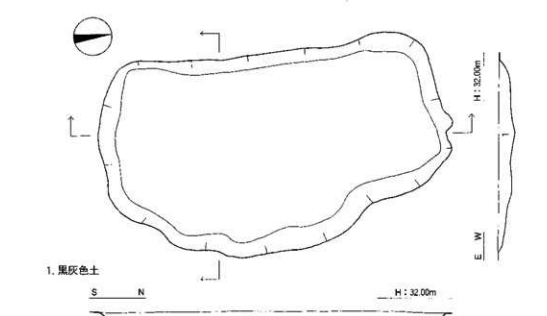
第84図　SB71出土遺物実測図

ＳＢ71（第83図）　２ａ区中央部やや北東寄り、グリッドＳ４・Ｓ５Ｅ３・Ｅ４に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸4.7m、短軸4.6m、深さ16cm、床面積21.62㎡を測る。埋土は黒灰色土である。施設構造痕として周壁溝と内部の小ピットが検出された。

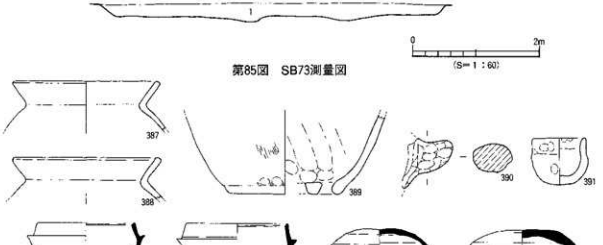
ＳＢ71内出土遺物（第84図）

土師器　甕（380・381）：380は頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。381の口縁端部は面をなす。壺（382・383）：共に頸部が「く」の字状に屈曲し、直線的に外傾して立ち上がる口縁部を持つ。383は口縁部中位で肥厚される。高坏（384）：脚柱部と杯部の接合部は鋭く折れ曲がる。ミニチュア土器（385・386）：内外面共に指頭痕を顕著に残す。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。



第85図　SB73測量図

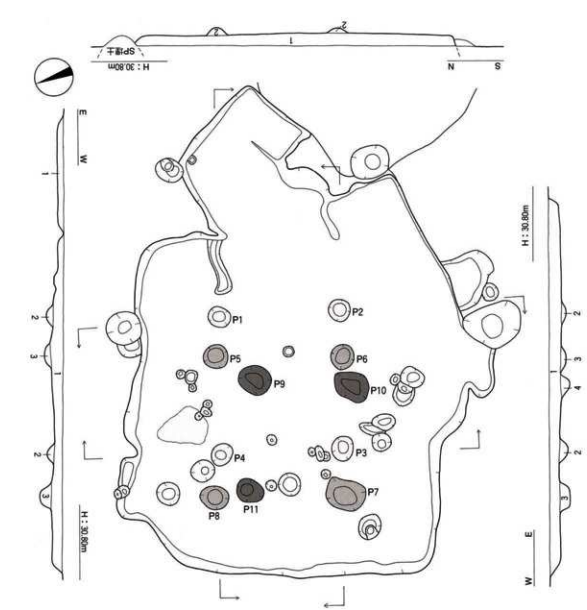


第86図　SB73出土遺物実測図

ＳＢ73（第85図）　２ａ区中央部南壁寄り、グリッドＳ９・Ｓ10Ｅ２に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸5.52m、短軸3.06m、深さ30cm、床面積16.89㎡を測る。埋土は黒灰色土である。

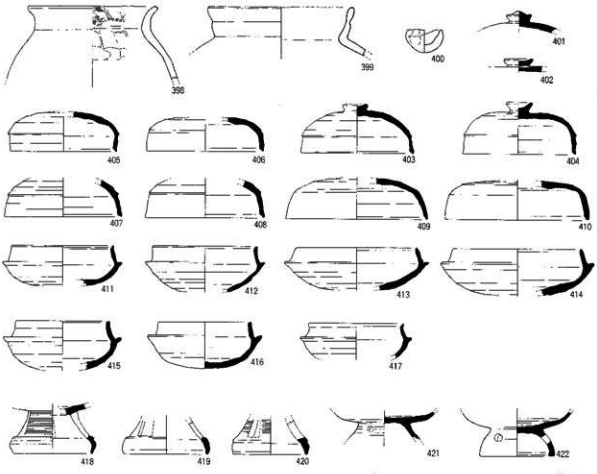
ＳＢ73内出土遺物（第86図）

土師器　甕（387・388）：共に口縁部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。387は口縁端部が面を持ち、388は丸く仕上げられる。甑（389・390）：389は平底を呈す底部から内湾気味に立ち上がる体部を持つ。底部端に小振りの楕円孔１つが看取できる。390は上向きの把手。焼成、胎土が同じであることから389と390は同一個体である可能性が高い。手捏（391）：内外面共に指頭痕を看取。口縁部は短く外反する。



第87図　SB85測量図

須恵器　坏身（392）：底部は厚く、丸底を呈する。内傾する口縁部を持ち、端部内面は段をなす。焼成はあまい。坏蓋（393・394）：丸みを帯びる天井部中央は僅かに凹む。口縁端部内面は段をなす。394は口縁端部は丸くなり、内面に段を持たない。高坏（395～397）：395は有蓋高坏の坏部である。396は有蓋高坏の脚部（完形品）である。脚柱部には三方の透かし孔が開けられる。側面はカキ目調整が施される。397は高坏の脚裾部である。裾端部は上下に拡張され、端面は回転ナデにより凹む。器厚が薄く7世紀代に属するものである。



第88図　SB85出土遺物実測図

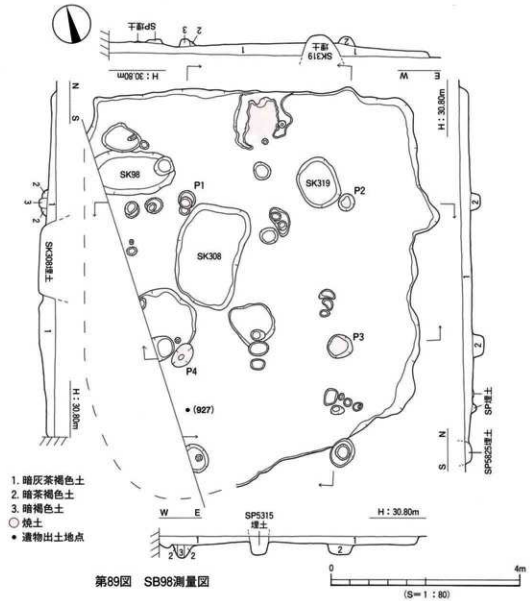
時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半～後期前半と考える。

ＳＢ85（第87図）　３ａ区中央部、グリッドＳ14Ｅ６・Ｅ７・Ｅ８に位置する。平面形態は複合方形を呈し、規模は長軸10.35m、短軸7.5m、床面積57.73㎡を測る。埋土は暗灰褐色土である。内部施設は１期：主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.78m）、２期：主柱穴（**Ｐ５～８**、配置：方形、平均柱穴間約2.88m）、３期：主柱穴（**Ｐ９～11**、配置：方形、平均柱穴間約2.23m）を検出した。なお本住居址北壁側中央やや西寄りに焼土塊が検出された。

ＳＢ85内出土遺物（第88図）

土師器　甕（398・399）：398は短く緩やかに外反する口縁部を持つ。粗雑な作りで、内面に粘土帯、指頭圧痕が顕著に看取される。399の口縁部は内湾し、口縁中位に屈曲部を持つ。手捏（400）：底部は丸底で、塊形を呈す。

須恵器　坏蓋（401～410）：401は擬宝珠つまみ。402～404は有蓋高坏の坏蓋である。403・404は天井部と口縁部の接部に断面三角形状の突出部を有する。403～409は口縁端部内面に段を有する。坏身



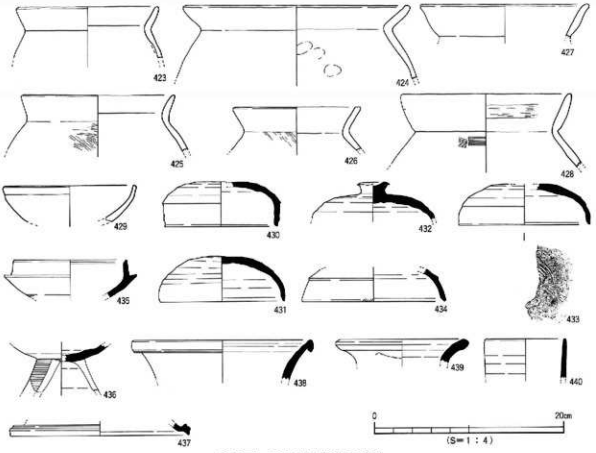
第89図　SB98測量図

(411～417)：412は体部外面の回転篦削り痕が顕著に残る。高坏（418～422)：418～420は有蓋高坏の脚部である。421・422は無蓋高坏の脚部である。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

ＳＢ98（第89図）　３ａ区西側、グリッドＳ12・Ｓ13Ｅ１・Ｅ２に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸8.43m、短軸7.0＋αm、深さ25cm、床面積59.01㎡以上を測る。埋土は暗灰茶褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約3.26m）を検出した。なお本住居址北壁側中央に竈痕が検出された。遺物は、土師器、須恵器、鏃（927）が出土した。

竈：①配置－北壁中央に位置し、一部は壁に接する。②形態－馬蹄形を呈し、竈の構築材には粘土が使用される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ118cm、幅123cm、高さ27cmを測る。③遺物－燃焼部から土師器片（甕？）が出土。



第90図　SB98出土遺物実測図

ＳＢ98内出土遺物（第90・211図）

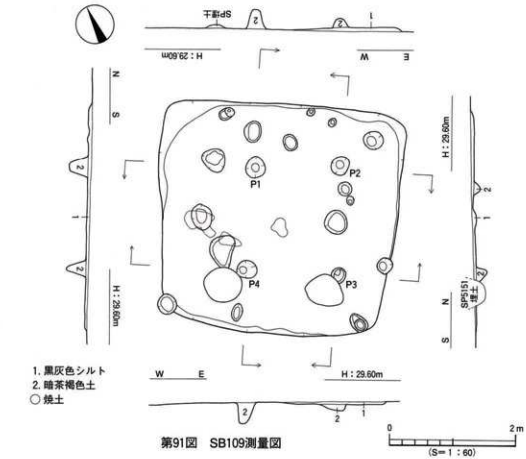
土師器　甕（423～428）：全て頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部を持つが、頸部の屈曲度や口縁端部の仕上げ等に差異が見られる。428は口縁外面が肥厚される。塊（429）：底部から内湾して立ち上がる口縁部。端部は外面方向に面をなす。

須恵器　坏蓋（430～434）：430・431は天井部に鈍削り痕が顕著に残り、口縁端部内面に段を有す。432は有蓋高坏の坏蓋である。433は内面中央に同心円文のあて具痕が看取される。434は天井部と口縁部の境に断面三角形の稜を持つ。坏身（435）：受部から内傾する立ち上がりを持つ。端部は内面に段をなす。高坏（436・437）：436は脚基部で脚部外面にカキ目が施される。437は脚裾部である。壺（438・439）：438は外反する口縁部で、端部は下方に拡張される。439は短く外反する口縁部。鉢（440）：直立する口縁部で、端部は丸細く収められる。台付鉢と考える。

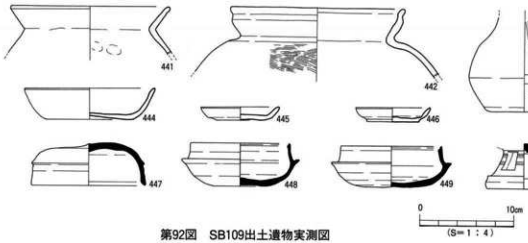
時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

ＳＢ109（第91図）　３ｂ区西側、グリッドＳ10W10・W11に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸3.85m、短軸3.67m、深さ５cm、床面積14.13㎡を測る。埋土は黒灰色シルトである。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間1.6m）を検出した。なお本住居址中央やや西寄りに焼土塊が検出された。

ＳＢ109内出土遺物（第92図）



第91図　SB109測量図

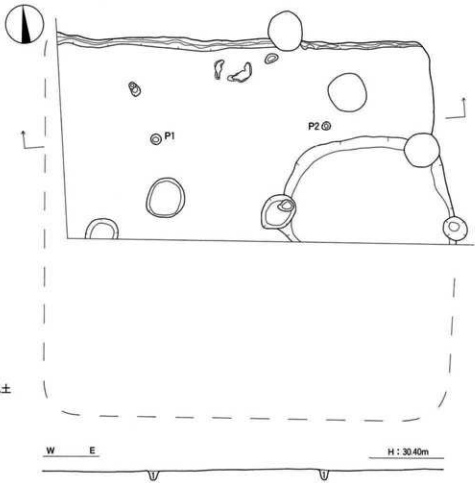


第92図　SB109出土遺物実測図

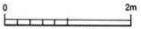
土師器　甕（441・442）：共に「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。442の口縁端部はつまみ出されるように短く外反する。壺（443）：器壁が厚い小壺。平底を呈する。内外面全体に2次焼成を受けた痕跡がある。皿（444～446）：全て外傾する口縁部を持つ。445・446は底部に回転糸切り痕を看取。混入品か。

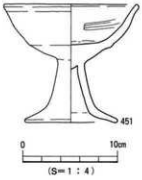
須恵器　坏蓋（447）：天井部と口縁部の境に断面三角形状の稜を持つ。坏身（448・449）：共に立ち上がり端部内面に段を有する。高坏（450）：脚柱部外面にカキ目を看取。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。



第93図　SB113測量図





第94図　SB113出土遺物実測図

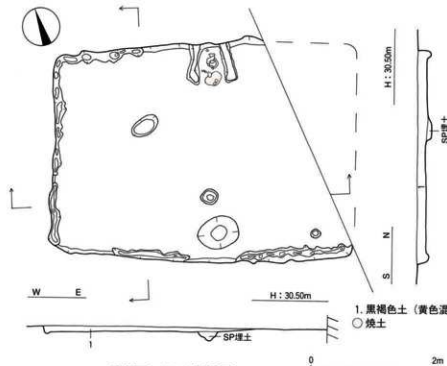
ＳＢ113（第93図）　３ｂ区南西隅、グリッドＳ11・Ｓ12Ｗ14・Ｗ15に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.8＋αｍ、短軸3.4＋αｍ、床面積19.72㎡以上を測る。埋土は黒灰色シルトである。内部施設は主柱穴（Ｐ１・２、配置：方形、平均柱穴間2.75ｍ）を検出した。なお本住居址北壁中央に竈痕が検出された。

竈：①配置－北壁中央に位置する。②形態－不明。竈の構築材には、粘土を使用したものと思われる。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ34㎝、幅57㎝、高さ８㎝を測る。③遺物－土師器片。

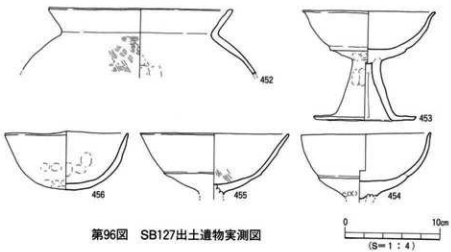
ＳＢ113内出土遺物（第94図）

土師器　高坏（451）：坏部は、坏底部から内湾して立ち上がり、端部付近で僅かに外反する。脚柱部は直線的に開き、屈曲して裾部へと続く。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。



第95図　SB127測量図



第96図　SB127出土遺物実測図

SB127（第95図）　2a区西側、グリッドS5・S6W8・W9に位置する。

平面形態は長方形を呈し、規模は長軸3.7m、短軸2.75m、深さ15cm、床面積10.18㎡を測る。埋土は黒褐色土である。

内部施設は北壁中央に竈痕が検出された。構造施設痕として周壁溝と内部の小ピットが検出された。

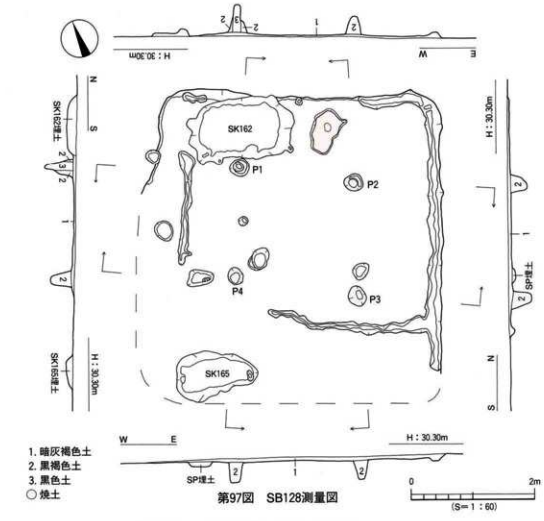
竈：①配置－北壁中央に位置し、一部は壁に接する。②形態－馬蹄形を呈し、竈の構築材には粘土が使用される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は認められない。検出規模は、長さ67cm、幅82cm、高さ14cmを測る。③遺物－燃焼部から高坏が出土。

SB127内出土遺物（第96図）

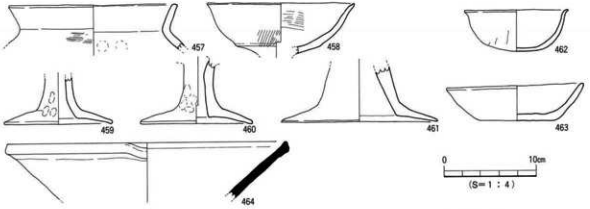
土師器　**甕**（452）：「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、口縁端面は内傾する。高坏（453～455）：453・454は坏底部から内湾して立ち上がる口縁部を持ち、端部付近で短く外反する。455の口縁部は坏底部から外傾して立ち上がる。**塊**（456）：完存品。底部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。端部は先細りする。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。

SB128（第97図）　2a区西側、グリッドS4W9に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸3.65m、短軸3.5+αm、深さ7cm、床面積12.78㎡以上を測る。埋土は暗灰褐色土である。内部施設は主柱穴（P1～4、配置：方形、平均柱穴間約1.94m）が検出された。なお北壁中央やや東寄りに



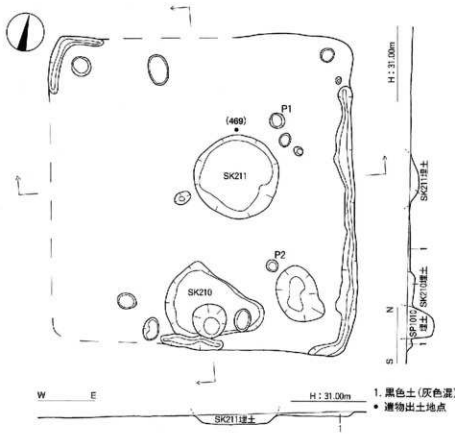
第97図　SB128測量図



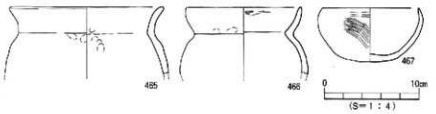
第98図　SB128出土遺物実測図

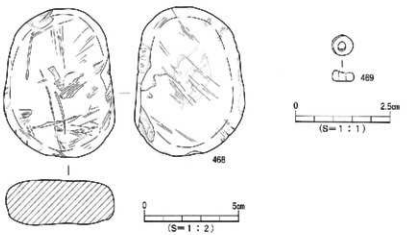
竈痕が検出された。構造施設痕として周壁溝が検出された。

竈：①配置－北壁中央。②形態－不明。竈の構築材には粘土を使用。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は未確認。検出規模は、長さ35cm、幅74cm、高さ７cmを測る。③遺物－高坏。



第99図　SB6測量図





第100図　SB6出土遺物実測図

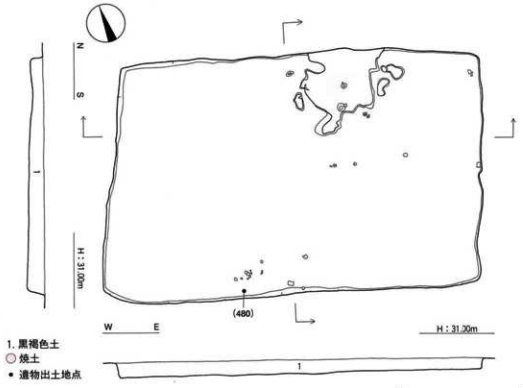
SB128内出土遺物
(第98図)

土師器　甕(457)：「く」の字状に緩やかに屈曲する口頸部を持ち、口縁端面は丸く収める。

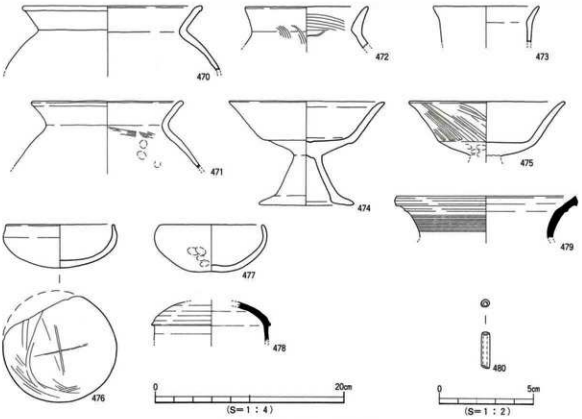
高坏(458～461)：458は坏部で内湾して立ち上がる口縁部を持つ。坏底部と口縁部の接点は、不明瞭な段をなす。459～461は脚柱部である。塊(462)：完存品。底部から内湾して立ち上がる口縁部を持ち、端部は短く外反する。坏(463)：水平に伸びる底部から弱く内湾する口縁部をなす。

須恵器　鉢(464)：混入品。13世紀代と考えられる東播系須恵器の片口鉢である。

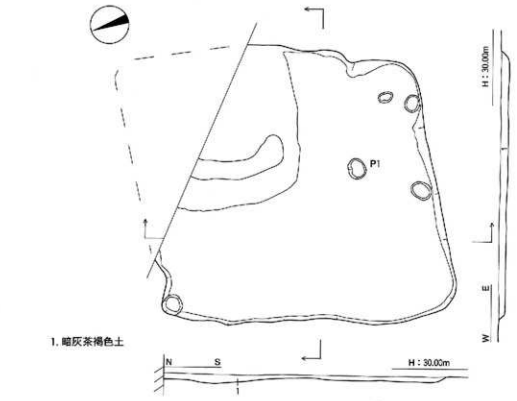
時　期：出土遺物から古墳時代中期後半と考える。



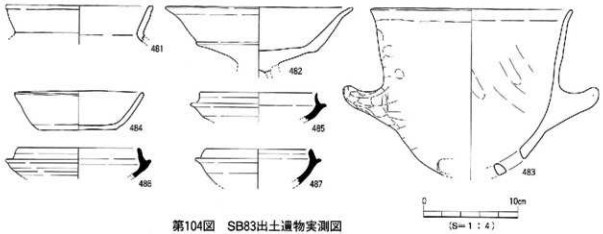
第101図　SB19測量図



第102図　SB19出土遺物実測図



第103図　SB83測量図



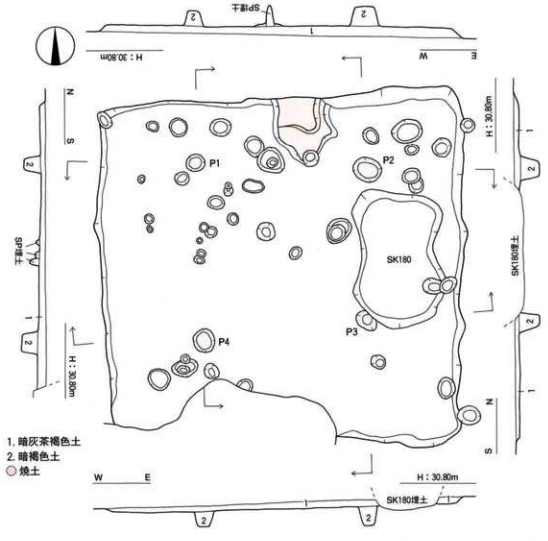
第104図　SB83出土遺物実測図

〈古墳時代後期〉

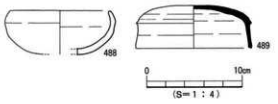
ＳＢ６（第99図）　１区中央、グリッドＮ５・Ｎ６Ｗ３に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.15m、短軸4.85m、深さ７㎝、床面積24.98㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１・２、柱穴間2.3m）を検出した。後世の削平により遺存状況が悪く、主柱穴は本来４基あったものと考えられる。施設構造痕として周壁溝が一部検出された。遺物は、土師器、石製品、鉄片（931）が出土した。

ＳＢ６内出土遺物（第100・211図）

土師器　甕（465・466）：共に頭部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。466の口縁



第105図　SB138測量図



第106図　SB138出土遺物実測図

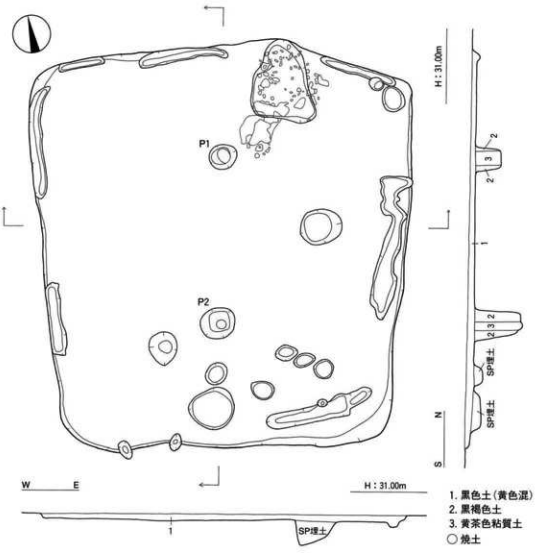
部は内湾気味に立ち上がり、端部は細く仕上げる。塊（467）：内湾しつつ立ち上がる口縁部。

石製品　砥石（468）：手持ち用で2面の擦痕を有する。石英粗面岩製。臼玉（469）：滑石製。

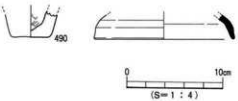
時期：出土遺物から古墳時代後期前半と考える。

S B19（第101図）　1区中央西寄り、グリッドN４・N５W７・W８に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸6.0m、短軸3.9m、深さ24cm、床面積23.4㎡を測る。埋土は黒褐色土である。内部施設は、住居址北壁中央やや東寄りに造り付けの竈痕を検出した。

竈：①配置－北壁中央。②形態－馬蹄形を呈し、一部は壁に接する。竈の構築材には粘土を使用。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は未確認。検出規模は、長さ120cm、幅117cm、高さ10cmを測る。③遺物－高坏。



第107図　SB 4 測量図



第108図　SB 4 出土遺物実測図

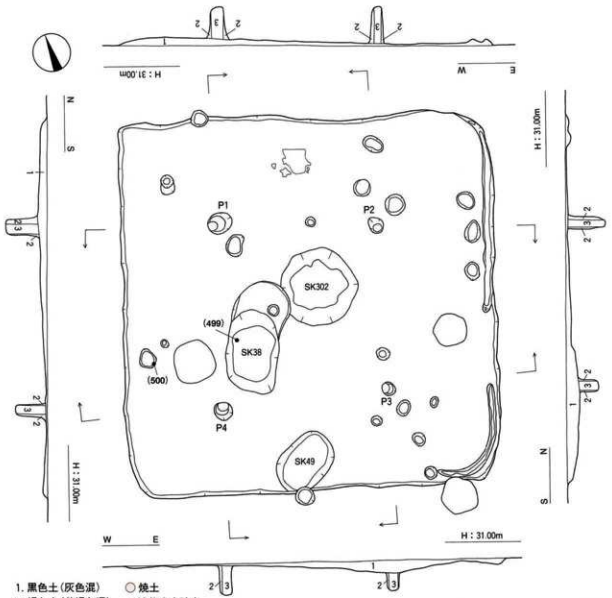
ＳＢ19内出土遺物（第102図）

土師器　甕（470～473）：470・471は「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。472・473は頸部で緩やかに外反する口縁部を持つ。高坏（474・475）：共に坏部と脚部の接合に納法を採る。475は外面にハケメ調整を看取。塊（476・477）：共に内湾して立ち上がる口縁部を持つ。476の底面には十文字の篦記号を看取。

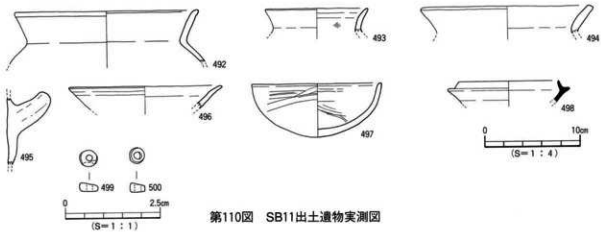
須恵器　坏蓋（478）：天井部と口縁部の境に断面三角形の突出する稜を持つ。壺（479）：口縁端部は上下方に拡張され、口縁下に断面三角形のシャープな凸帯が巡る。凸帯直下にカキ目調整を施す。

石製品　管玉（480）：碧玉岩製。

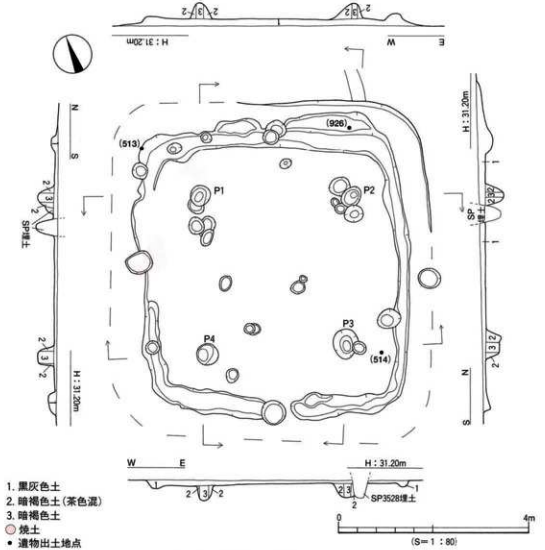
時　　期：出土遺物から古墳時代後期前半と考える。



第109図　SB11測量図



第110図　SB11出土遺物実測図



第111図　SB65測量図

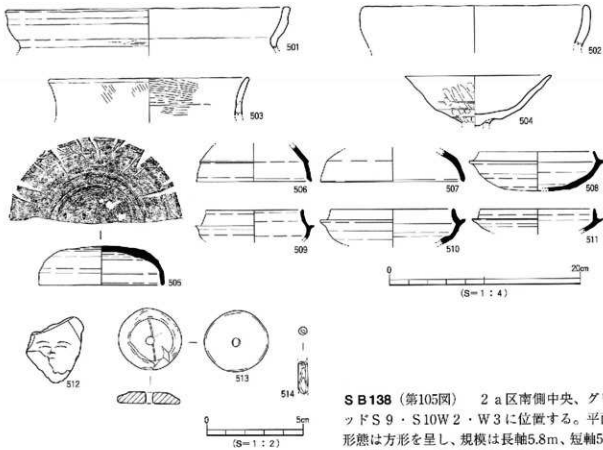
ＳＢ83（第103図）　３ａ区北壁際中央、グリッドＳ14・15Ｅ10に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸3.1m、短軸2.89m、床面積8.96㎡を測る。埋土は暗灰茶褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１、配置：直線）を検出した。

ＳＢ83内出土遺物（第104図）

土師器　甕（481）：頸部が「く」の字状に屈曲する口縁部。高坏（482）：水平に伸びる坏底部から直線的に立ち上がる口縁部を持つ。口縁端部は短く外反する。坏底部には柄が作られている。甑（483）：丸底の底部から内湾して立ち上がり、外傾する口縁部に続く。体部中位に上向きに伸びる把手が接続される。底部に３つの孔が看取できる。坏（484）：水平に伸びる底部から緩やかに外傾する口縁部を持つ。

須恵器　坏身（485～487）：共に口縁部の形態が異なる。485は短く外反して細く収められる。486は内傾する。487は短く内湾して丸く収める。

時　　期：出土遺物から古墳時代後期前半と考える。



第112図　SB65出土遺物実測図

ＳＢ138（第105図）　２ａ区南側中央、グリッドＳ９・Ｓ10Ｗ２・Ｗ３に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸5.8m、短軸5.8m、深さ10cm、床面積33.64㎡を測る。埋土は暗灰茶褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.68m）が検出された。なお北壁中央に竈痕が検出された。

竈：①配置－北壁中央に位置し、一部は壁に接する。②形態－「粘土土塁」形を呈し、竈の構築材には粘土を使用。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は未確認。検出規模は、長さ112cm、幅103cm、高さ13cmを測る。③遺物－土師器片が出土。

ＳＢ138内出土遺物（第106図）

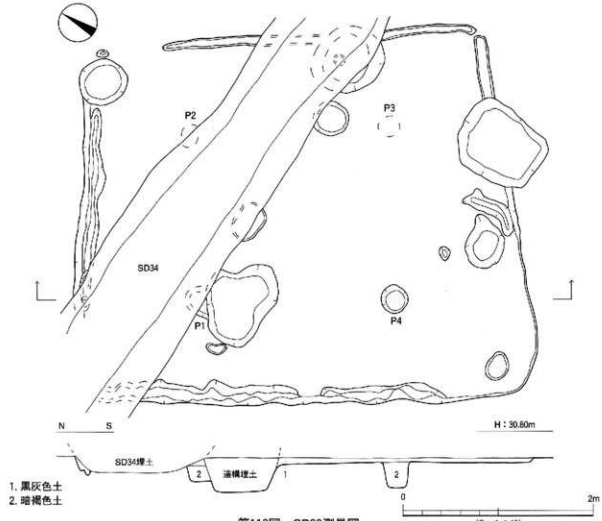
土師器　坏（488）：底部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。端部は丸細く仕上げる。

須恵器　坏蓋（489）：天井部と口縁部の境は断面三角形状の稜をなす。端部内面は弱い段を持つ。

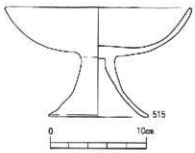
時　　期：出土遺物から古墳時代後期前半と考える。

ＳＢ４（第107図）　１区南側中央、グリッドＮ３Ｗ３に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸4.3m、短軸4.0m、深さ10cm、床面積17.2㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１・２、配置：直線、柱穴間1.8m）を検出した。なお本住居址北壁やや東寄りに造り付けの竈痕が検出された。施設構造痕として周壁溝と内部の小ピットが一部検出された。

竈：①配置－北壁中央やや右側に位置し、一部は壁に接する。②形態－「粘土土塁」形を呈し、竈の構築材には粘土を使用。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部・煙出部は未確認。検出規模は、長さ83cm、幅64cm、高さ８cmを測る。③遺物－土師器片が出土。



第113図　SB80測量図



第114図　SB80出土遺物実測図

ＳＢ４内出土遺物（第108図）

土師器　壺（490）：作り方、焼成共に粗雑感のある小型壺の底部。平底を呈する。

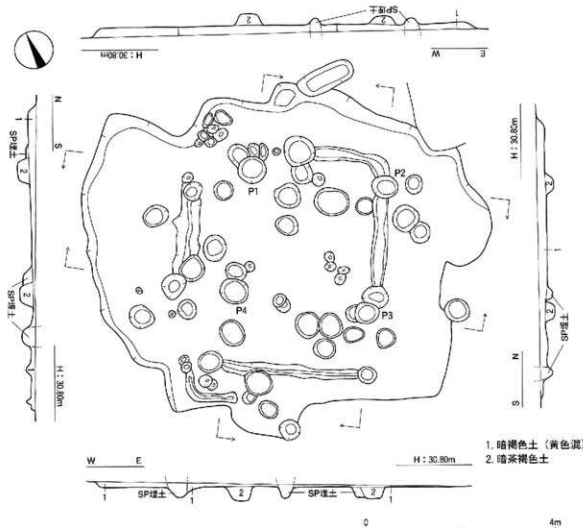
須恵器　坏蓋（491）：焼成は堅緻で赤褐色を呈する。

時　　期：出土遺物から古墳時代後期後半と考える。

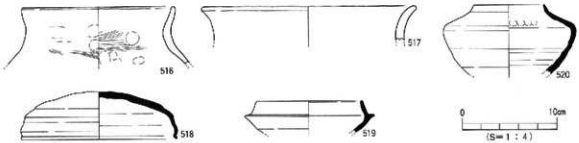
ＳＢ11（第109図）　１区中央、グリッドＮ５Ｗ５に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸6.1m、短軸5.9m、深さ20cm、床面積35.99㎡を測る。埋土は黒色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.68m）と土坑（ＳＫ49）を検出した。なお本住居址北壁中央に造り付けの竈痕が検出された。出土遺物は、土師器・須恵器・臼玉・鉄鏃（920）である。

ＳＢ11内出土遺物（第110・211図）

土師器　甕（492～494）：492は頸部で「く」の字状に屈曲し、外上方に開く口縁部を持つ。493は緩やかに屈曲し、立ち上がる口縁部を持つ。494の口縁端部は面を持つ。甑（495）：上向きの把手部。



第115図　SB101測量図



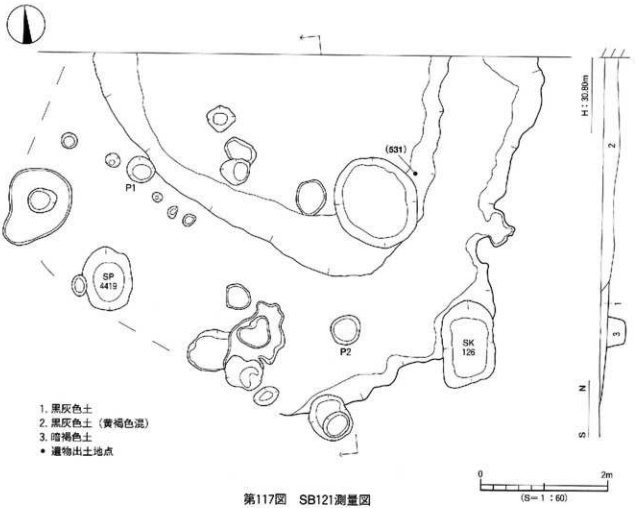
第116図　SB101出土遺物実測図

高坏（496）：坏部の口縁部。僅かに外反する端部は丸く収められる。塊（497）：内湾し立ち上がる口縁部を持つ。内外面共、ミガキにより丹念な仕上げを施す。

須恵器　坏身（498）：6世紀後葉～7世紀初頭段階に属するものである。

石製品　臼玉（499・500）：共に滑石製。499は端面の片側が未研磨で凹凸が著しい。

時　　期：出土遺物から古墳時代後期後半と考える。



第117図　SB121測量図

ＳＢ65（第111図）　２ａ区北側中央部、グリッドＳ３・Ｓ４Ｅ２・Ｅ３に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸4.8m、短軸4.2m、深さ10cm、床面積20.16㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間3.2m）を検出した。なお本住居址西壁中央に造り付けの竈痕が検出された。施設構造痕として周壁溝が検出された。遺物は、土師器、須恵器、土製品、石製品、鋳造鉄斧（926）が出土した。

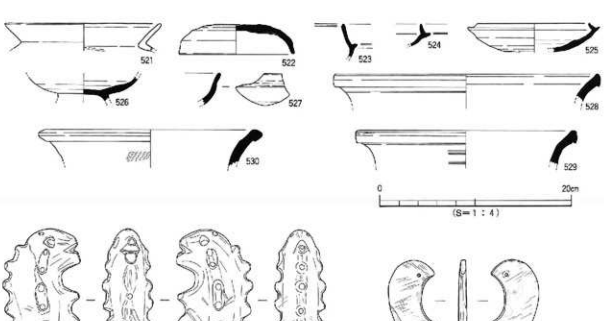
ＳＢ65内出土遺物（第112・211図）

土師器　甕（501～503）：501は口縁部中位で肥厚され、鈍い稜をなす。502は内湾する口縁部。503は僅かに外反する口縁部で、端部は面をなす。高坏（504）：水平に伸びる坏底部から外傾する口縁部を持つ。外面は指頭圧痕が顕著に看取される。

須恵器　坏蓋（505～507）：505は２分の１を欠損する。外面には自然釉が付着し、「×」印の篦記号を看取。505・507は口縁端部内面には段を形成しない。506は口縁端部内面に段を有し、天井部と口縁部の境は僅かな凸帯をなす。坏身（508～511）：508・510は口縁部が短く内反して立ち上がる。端部には段はなく、丸く収められる。509は有蓋高坏の口縁部。

土製品　絵画土器（512）：鋭利な用品（工具）で剌突的に人面模様が描かれる。土器形態は不明。

石製品　紡錘車（513）：研磨により段をなす。滑石製。管玉（514）：両端は欠損する。滑石製。



第118図　SB121出土遺物実測図

時　　期：出土遺物から古墳時代後期後半と考える。

ＳＢ80（第113図）　２ａ区北壁側中央やや西寄り、グリッドＳ２・Ｓ３Ｗ４・Ｗ５に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸4.77m、短軸3.95m、深さ14cm、床面積18.84㎡を測る。埋土は黒灰色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１・４、配置：方形、柱穴間2.05m）を検出した。施設構造痕として周壁溝が検出された。

ＳＢ80内出土遺物（第114図）

土師器　高坏（515）：坏部は、坏底部から緩やかに内湾して立ち上がる口縁部を持つ。端部は丸く収める。脚部は、脚基部から裾部へ緩やかに外反して開く。坏部と脚部の器高比は、１：１である。

７世紀代に属するものと考えられる。

時　　期：掘立54に先行していることと出土遺物から古墳時代後期以降と考える。

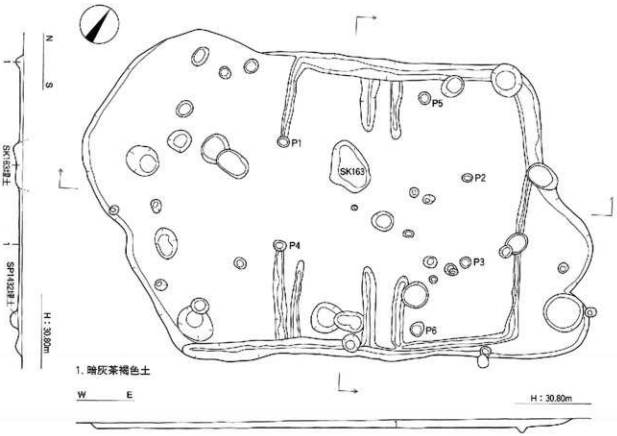
ＳＢ101（第115図）　３ａ区中央、グリッドＳ15Ｅ９に位置する。平面形態は花弁形を呈し、規模は長軸8.65m、短軸7.5m、深さ18cm、床面積64.88㎡以上を測る。埋土は暗褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間約2.73m）を検出した。

ＳＢ101内出土遺物（第116図）

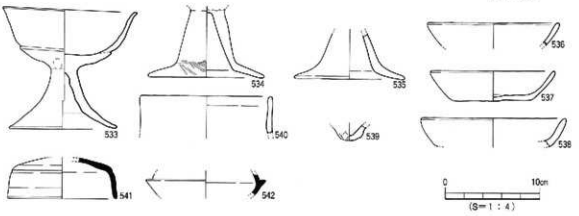
土師器　甕（516・517）：516は頸部から緩やかに外反して立ち上がる口縁部を持ち、端部で僅かに内傾する。517は丁寧なナデにより調整されている。

須恵器　坏蓋（518）：６世紀後半に位置付けられるものである。坏身（519）：内傾する立ち上がりの端部は丸く仕上げられる。壺（520）：口頸部が短く内傾する短頸壺である。

時　　期：出土遺物から古墳時代後期後半と考える。



第119図　SB129測量図



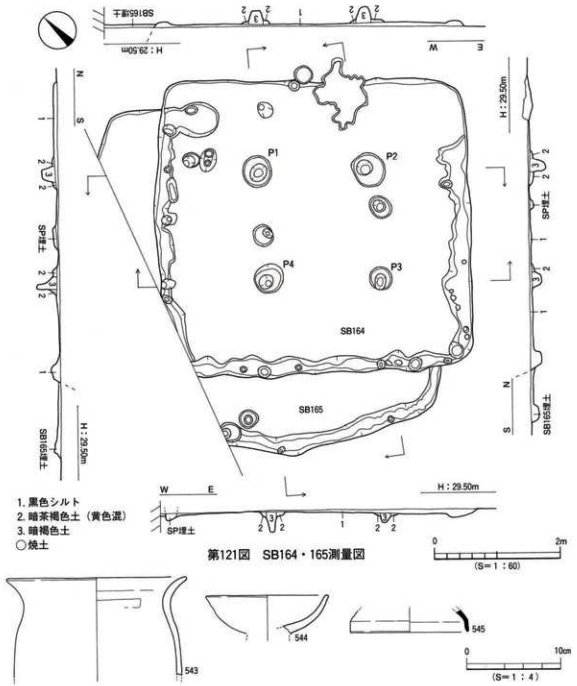
第120図　SB129出土遺物実測図

ＳＢ121（第117図）　２ａ区北壁際中央、グリッドＳ１・Ｓ２Ｗ３・Ｗ４に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸7.50＋αｍ、短軸7.0＋αｍ、深さ12cm、床面積52.50㎡以上を測る。埋土は黒灰色土である。

ＳＢ121内出土遺物（第118図）

土師器　甕（521）：「く」の字状に鋭く屈曲する口頸部を持つ。

須恵器　坏蓋（522）：ほぼ水平に伸びる天井部を持つ。天井部と口縁部の境は緩やかな稜をなす。坏

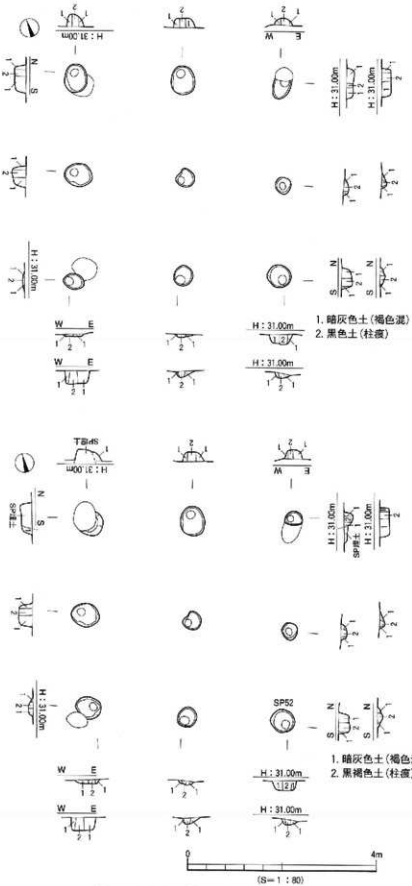


第121図　SB164・165測量図

第122図　SB164出土遺物実測図

身（523～525）：523は立ち上がり内面に段を有す。524・525は6世紀後半に位置づけられるものである。高坏（526・527）：共に無蓋高坏である。壺（528～530）：528・529は外反する口縁部を持ち、端部は下方に拡張される。530は口縁端部外面に断面三角形状の突帯が巡らされる。頸部に格子叩き痕を看取。

石製品　子持勾玉（531）：蛇紋岩製。「凹」字状の突起が腹部に1つ、背部に3つ、側面に各3つ削り出されている。上部には貫通孔1、未貫通孔1、「V」字状の切り込み1つが施される。扁平勾玉（532）：滑石製。穿孔は両面から施される。時　期：出土遺物から古墳時代後期後半と考える。



第123図　掘立２①(上)・②(下)測量図

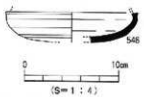
ＳＢ129（第119図）　２ａ区西側、グリッドＳ５・Ｓ６Ｗ４に位置する。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は長軸7.3m、短軸4.95m、深さ13cm、床面積36.14㎡を測る。埋土は暗灰茶褐色土である。内部施設は主柱穴（Ｐ１～６、配置：長方形、長軸柱穴間2.93m、短軸柱穴間1.5m）と柱壁間溝７条を検出した。構造施設痕として周壁溝が検出された。

ＳＢ129内出土遺物

（第120図）

土師器　高坏（533～535）：533は一部欠損するもののほぼ完存品。側面「Ｓ」字状を呈する口縁部が坏底部に接続される。脚柱部はラッパ状に開く。534・535は脚裾部。坏（536～538）：537の底面には回転糸切り痕を看取。混入品。手捏（539）：体部は底部から内湾して立ち上がる。側面壺形を呈する。

須恵器　鉢（540）：台付鉢の口縁部。坏蓋（541）：天井部と口縁部の境は凹線状



第124図　掘立２②出土遺物実測図

をなす。口縁端部は丸く収める。坏身（542）：水平方向に短く伸びる受部から内反して立ち上がる口縁部を持つ。

時　期：出土遺物から古墳時代後期後半と考える。

ＳＢ164（第121図）　２ｂ区西側、グリッドＳ４・Ｓ５W15・W16に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸5.09m、短軸4.75m、深さ６cm、床面積24.18㎡を測る。埋土は黒色シルトである。内部施設は主柱穴（Ｐ１～４、配置：方形、平均柱穴間1.8m）が検出された。なお北壁中央に竈痕が検出された。構造施設痕として周壁溝と内部の小ピットが検出された。

竈：①配置－北壁中央やや右側に位置し、一部は壁に接する。②形態－馬蹄形を呈し、竈の構築材には粘土が使用される。燃焼部には焼土が遺存する。煙道部と考えられる突出部がある。検出規模は、長さ119cm、幅74cm、高さ12cmを測る。③遺物－土師器片が出土。

ＳＢ164内出土遺物（第122図）

土師器　甕(543)：緩やかに外反する口縁部を持つ。体部は長胴形を呈すると思われる。高坏（544）：坏部。内湾して立ち上がる口縁部を持つ。

須恵器　坏蓋（545）：７世紀前半と考えられるものである。

時　期：出土遺物から古墳時代後期後半と考える。

〔２〕掘立柱建物址（掘立）

掘立２-①（第123図上）　１区東側、グリッドＮ２・３Ｅ６・７に位置する。桁行と梁行が２間の総柱建物である。柱穴は、Ｐ①～⑨の９基で構成される。建物の規模は、桁行全長4.55m、梁行全長4.42mである。南北方向の主軸は磁北から18度東へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立２-②（第123図下）　１区東側、グリッドＮ２・３Ｅ６・７に位置する。桁行と梁行が２間の総柱建物である。柱穴は、Ｐ①～⑨の９基で構成される。建物の規模は、桁行全長4.42m、梁行全長4.32mである。南北方向の主軸は磁北から18度東へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立２出土遺物（第124図）

須恵器　坏身（546）：ＳＰ32内出土。６世紀後半に位置づけられるものである。

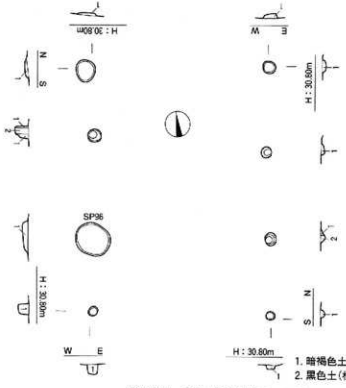
時　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期後半以降と考える。

掘立５（第125図）　１区東側、グリッドＮ３Ｅ６・７に位置する。桁行３間、梁行１間の南北棟である。柱穴は、Ｐ①～⑧の８基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.15m、梁行全長3.80mである。主軸は磁北から６度東へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

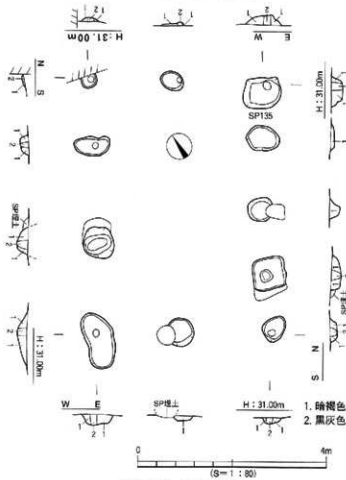
掘立５出土遺物（第126図）

土師器　甕（547）：ＳＰ96内出土。「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。端部は丸く収まる。

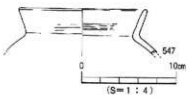
時　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代中期前半以降と考える。



第125図　掘立５測量図 (S＝１：80)



第127図　掘立７測量図



第126図　掘立５出土遺物実測図

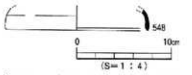
掘立７（第127図）　１区東側、グリッドＮ４Ｅ５・６に位置する。桁行３間、梁行２間の南北棟である。柱穴は、Ｐ①～⑪の11基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.37m、梁行全長3.74mである。主軸は磁北から33度東へ振る。柱穴の平面形態は方形、円形～楕円形を呈する。

掘立７出土遺物（第128図）

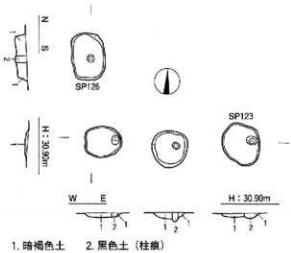
須恵器　坏蓋（548）：ＳＰ135内出土。６世紀前半に位置づけられるものである。

時　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期前半以降と考える。

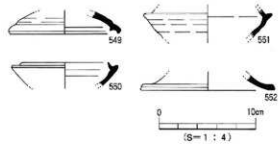
掘立８（第129図）　１区東側、グリッドＮ４Ｅ７・８に位置する。桁行２間分、梁行１間分を検出した。建物の規模は、桁行3.35m以上、梁行1.88m以上を測る。東西方向の主軸は磁北から86度東へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。



第128図　掘立７出土遺物実測図



第129図　掘立８測量図（S＝1：80）

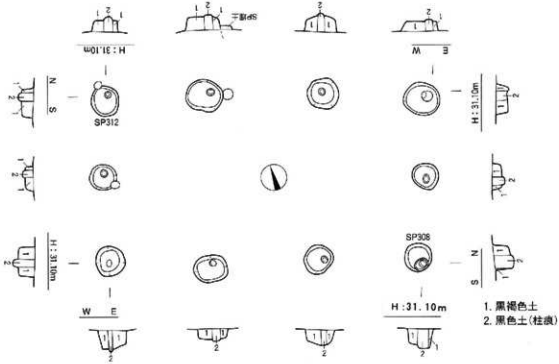


第130図　掘立８出土遺物実測図

掘立８出土遺物（第130図）

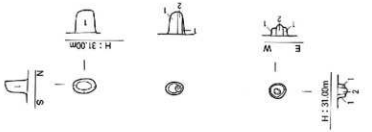
須恵器　坏蓋（549）：ＳＰ126内出土。７世紀前半に位置づけられるものである。坏身（550・551）：共にＳＰ126内出土。550は７世紀前半に位置づけられるものである。551は６世紀前半に位置づけられるものである。高坏（552）：ＳＰ123内出土。７世紀代に位置づけられるものである。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期後半以降と考える。

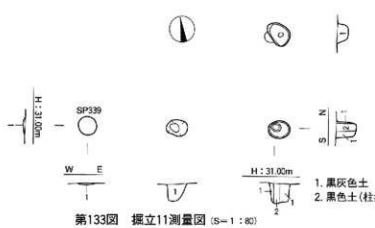


第131図　掘立10測量図

第132図　掘立10出土遺物実測図



第134図　掘立11出土遺物実測図



第133図　掘立11測量図 (S=1:80)

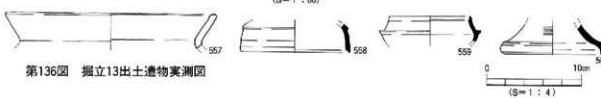
掘立10（第131図）　1区東側、グリッドN2・3E2・3に位置する。桁行3間、梁行2間の東西棟である。柱穴は、P①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長6.56m、梁行全長3.55mである。主軸は磁北から74度西へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立10　出土遺物

（第132図）

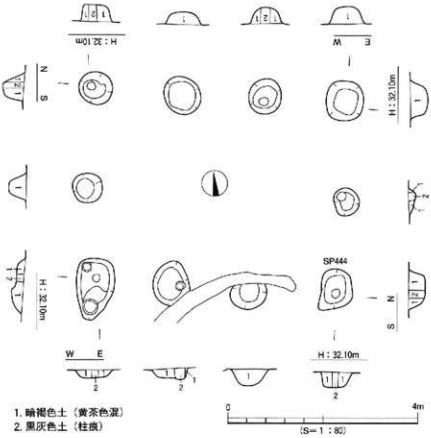
須恵器　坏蓋（553）：SP308内出土。6世紀代に位置づけられるものである。坏身(554)：SP312内出土。7世紀前半に位置づけられるものである。

時　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期後半以降と考える。

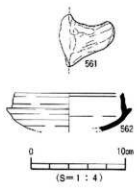


第135図　掘立13測量図

第136図　掘立13出土遺物実測図



第137図　掘立14測量図

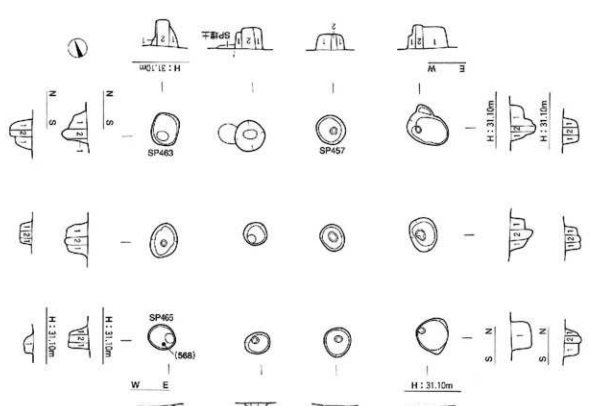


第138図　掘立14
出土遺物実測図

掘立11（第133図）　1区東側、グリッドN2・3E2に位置する。桁行2間分、梁行2間の東西棟である。柱穴はP①～⑦を検出した。建物の規模は、桁行3.94m以上、梁行全長3.93mである。主軸は磁北から82度西へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立11　出土遺物（第134図）
弥生土器　壺（555）：SP339内出土。弥生時代後期後葉に比定される壺の底部である。
須恵器　坏身（556）：SP339内出土。6世紀前半に位置づけられるものである。
時　　期：出土遺物は古墳時代後期前半を示唆しているが、構成柱穴の規模からさらに下る後世を考える。

掘立13（第135図）　1区中央、グリッドN1・2W1・2に位置する。桁行2間、梁行2間の総柱建物である。柱穴は、P①～⑧の8基で構成される。建物の規模は、桁行全長4.30m、梁行全長4.10mである。東西方向の主軸は磁北から82度西へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。
掘立13出土遺物（第136図）
土師器　甕（557）：SP437内出土。「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、端部は僅かに内傾する。
須恵器　坏蓋（558）：SP438内出土。天井部と口縁部の境をなす稜は、断面三角形状を呈する。口縁部はやや開き気味に下り、端部内面に段を有す。坏身（559）：SP438内出土。受部から内傾する立ち上がりの端部は、内面に段をなす。高坏（560）：SP443内出土。有蓋高坏の脚裾部。
時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代中期後半以降と考える。



第139図　掘立15測量図

第140図　掘立15出土遺物実測図

掘立14（第137図）　1区中央、グリッドN２・３W１・２に位置する。桁行３間、梁行２間の東西棟である。柱穴は、P①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.40m、梁行全長4.10mである。主軸は磁北から83度西へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

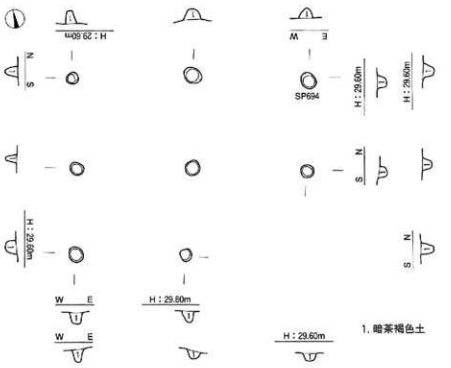
掘立14出土遺物（第138図）

土師器　甑（561）：ＳＰ444内出土。体部から短く水平方向に伸びる把手である。

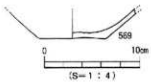
須恵器　坏身（562）：ＳＰ444内出土。６世紀前半に位置づけられるものである。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期前半以降と考える。

掘立15（第139図）　1区中央、グリッドN３W１・２に位置する。桁行３間、梁行２間の総柱建物で



第141図　掘立17測量図 (S=1:80)



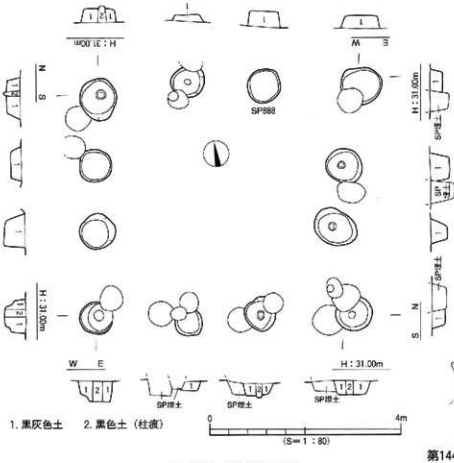
第142図　掘立17
出土遺物実測図

ある。柱穴は、P①～⑫の12基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.30m、梁行全長4.35mである。東西方向の主軸は磁北から73度西へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

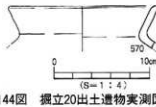
掘立15出土遺物
(第140図)

須恵器　坏蓋(563・564)：共にSP463内出土で6世紀前半に位置づけられるものである。坏身(565・566)：共にSP457内出土で6世紀中頃に位置づけられるものである。高坏(567)：SP457内出土。有蓋高坏の脚裾部。

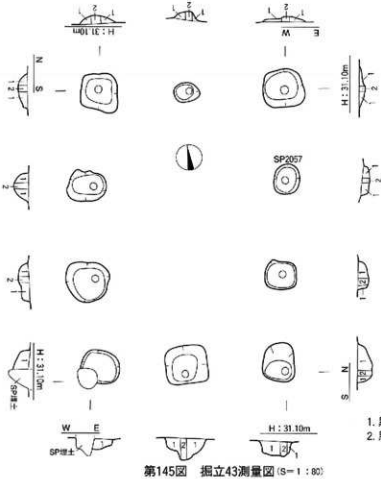
石製品　臼玉(568)：SP465内出土。完存品で緑色片岩製。



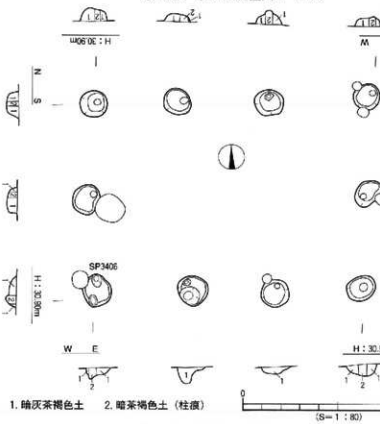
第143図　掘立20測量図



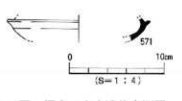
第144図　掘立20出土遺物実測図



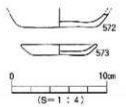
第145図　掘立43測量図（S＝1：80）



第147図　掘立51測量図



第146図　掘立43出土遺物実測図



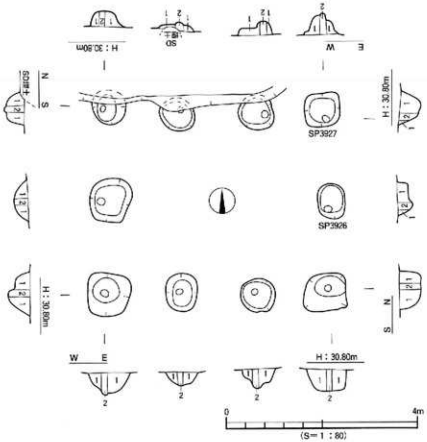
第148図　掘立51出土遺物実測図

上下端面及び側面には研磨調整が施される。

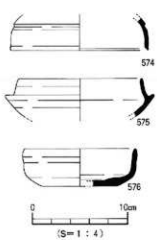
時　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期以降と考える。

掘立17（第141図）

4区中央、グリッドS・N1W20・21に位置する。桁行2間、梁行2間の総柱建物である。検出した柱穴は、P①～⑧の8基である。建物の規模は、桁行全長4.97m、梁行全長3.75mである。東西方向の主軸は磁北から78度西へ振る。柱穴の平面形態は円形を呈する。



第149図　掘立54測量図



第150図　掘立54
出土遺物実測図

掘立17出土遺物（第142図）

土師器　坏（569）：ＳＰ694内出土。口縁端部は欠損。底部に回転糸切り痕を看取。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から中世前期以降と考える。

掘立20（第143図）　１区中央、グリッドＮ１・２Ｗ２・３に位置する。桁行３間、梁行３間の東西棟である。柱穴は、Ｐ①～⑫の12基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.30m、梁行全長4.70mである。主軸は磁北から80度西へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立20出土遺物（第144図）

土師器　甕（570）：ＳＰ888内出土。「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、端部は僅かに外反する。

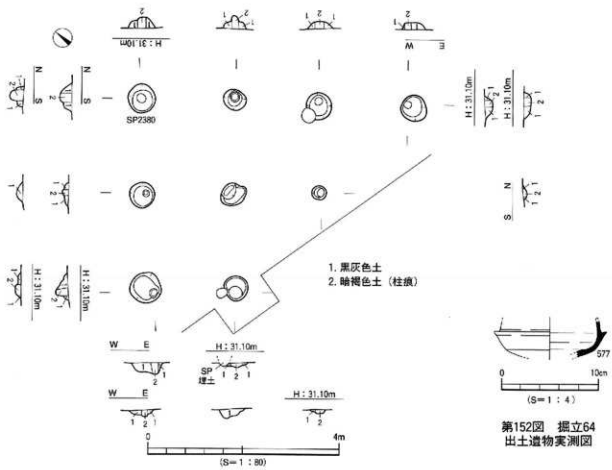
時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期以降と考える。

掘立43（第145図）　２ａ区東側、グリッドＳ５・６Ｅ７・８に位置する。桁行３間、梁行２間の南北棟である。柱穴は、Ｐ①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長6.15m、梁行全長3.90mである。主軸は磁北から12度東へ振る。柱穴の平面形態は方形、円形～楕円形を呈する。

掘立43出土遺物（第146図）

須恵器　坏身（571）：ＳＰ2057内出土。６世紀後半に位置づけられるものである。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期後半以降と考える。



第151図　掘立64測量図

第152図　掘立64
出土遺物実測図

掘立51（第147図）　２ａ区中央、グリッドＳ５・６Ｗ２・３に位置する。桁行３間、梁行２間の東西棟である。柱穴は、Ｐ①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.76m、梁行全長4.19mである。主軸は磁北から88度東へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立51出土遺物（第148図）

土師器　坏（572）：ＳＰ3406内出土。円盤状の底部から外上方に立ち上がる口縁部をなす。焼成はあまく瓦質的である。皿（573）：ＳＰ3406内出土。平底の底部から短く外上方に立ち上がる口縁部を持つ。焼成はあまく、色調は内外面共に灰白色である。

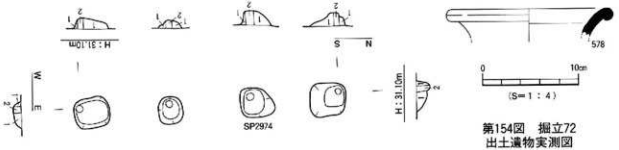
時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古代以降と考える。

掘立54（第149図）　２ａ区西側、グリッドＳ２・３Ｗ３・４に位置する。桁行３間、梁行２間の東西棟である。柱穴は、Ｐ①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長4.72m、梁行全長3.52mである。主軸は磁北から90度西へ振る。柱穴の平面形態は方形、円形～楕円形を呈する。

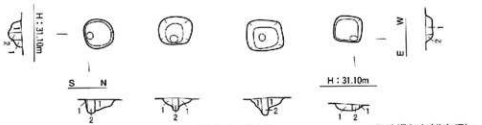
掘立54出土遺物（第150図）

須恵器　坏蓋（574）：ＳＰ3926内出土。６世紀前半に位置づけられるものである。坏身（575・576）：共にＳＰ3927内出土。575は６世紀後半に、576は７世紀後半に位置づけられるものである。

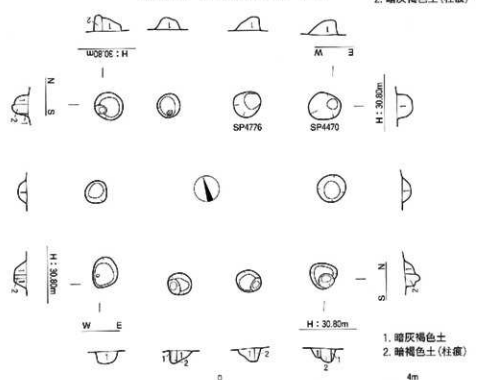
時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期前半以降と考える。



第154図　掘立72
出土遺物実測図



第153図　掘立72測量図 (S＝1：80)



第155図　掘立81測量図

第156図　掘立81出土遺物実測図

掘立64（第151図）

3a区東側、グリッドS16・17E11に位置する。桁行3間、梁行2間の総柱建物である。検出した柱穴は、P①～⑨の9基である。建物の規模は、桁行全長5.55m、梁行全長4.17mである。東西方向の主軸は磁北から38度西へ振る。柱穴の平面形態は円形を呈する。

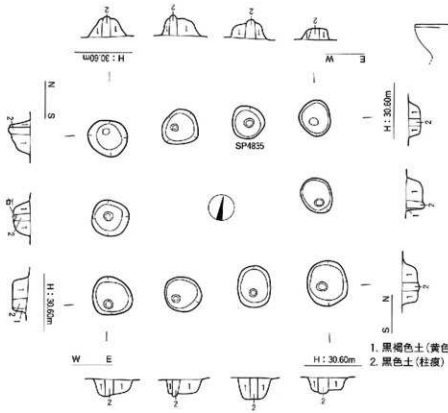
掘立64出土遺物
（第152図）

須恵器　高坏（577）：SP2380内出土。有蓋高坏の坏部。5世紀後半～6世紀初頭に位置づけられるものである。

時　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代中期前半以降と考える。

掘立72（第153図）

3a区西側、グリ



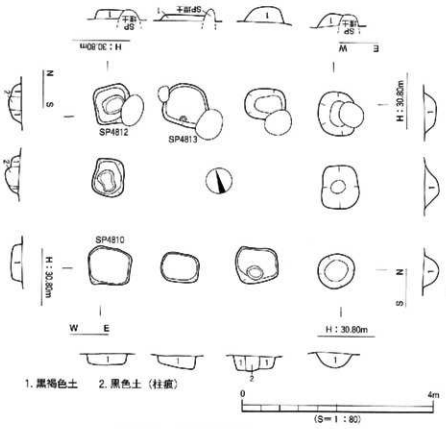
第157図　掘立82測量図（S＝1：80）

第158図　掘立82
出土遺物実測図

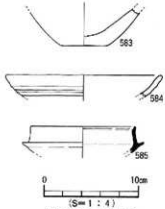
ドS12・13E4に位置する。桁行3間、梁行1間の南北棟である。柱穴は、P①～⑧の8基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.55m、梁行全長3.75mである。主軸は磁北から7度東へ振る。柱穴の平面形態は方形、楕円形を呈する。

掘立72出土遺物
（第154図）

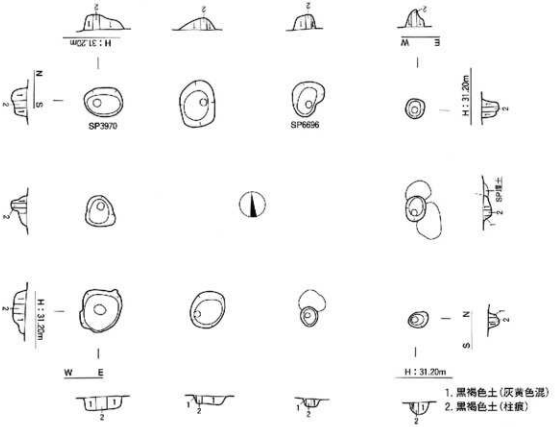
須恵器　甕（578）：SP2974内出土。外反する口縁部で端部は玉縁状に収められる。8世紀代のもの



第159図　掘立83測量図



第160図　掘立83
出土遺物実測図



第161図　掘立85測量図

第162図　掘立85出土遺物実測図

と思われる。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古代以降と考える。

掘立81（第155図）　２ａ区西側、グリッドＳ４・５Ｗ４・５に位置する。桁行３間、梁行２間の東西棟である。柱穴は、Ｐ①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長4.88m、梁行全長3.52mである。主軸は磁北から75度西へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立81出土遺物（第156図）

瓦　器　埦（579）：ＳＰ4470内出土。全体的に摩滅しているが、内外面共に横方向の磨きが看取される。和泉型Ⅱ―３期またはⅢ―１期と思われる。

土師器　皿（580）：ＳＰ4776内出土。摩滅しているが底面は回転糸切りと思われる。

陶磁器　皿（581）：ＳＰ4776内出土。中近世の国産陶磁器。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から中世以降と考える。

掘立82（第157図）　２ａ区南側、グリッドＳ９・10Ｗ４に位置する。桁行３間、梁行２間の東西棟である。柱穴は、Ｐ①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長4.50m、梁行全長3.65mである。主軸は磁北から76度東へ振る。柱穴の平面形態は円形～楕円形を呈する。

掘立82出土遺物（第158図）

土師器　甕（582）：ＳＰ4835内出土。「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、内湾する口縁部。端部は丸く収められる。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代中期前半以降と考える。

掘立83（第159図）　２ａ区西側、グリッドＳ５Ｗ４・５に位置する。桁行３間、梁行２間の東西棟である。柱穴は、Ｐ①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長5.00m、梁行全長3.50mである。主軸は磁北から74度西へ振る。柱穴の平面形態は方形を呈する。

掘立83出土遺物（第160図）

弥生土器　壺（583）：ＳＰ4812内出土。弥生時代後期に比定されるもので底部は平底を呈する。

土師器　坏（584）：ＳＰ4810内出土。内湾して立ち上がる体部を持ち、口縁外面は横撫でが施され外傾する。端部は丸く仕上げる。

須恵器　坏身（585）：ＳＰ4813内出土。水平に伸びる受部から直立する立ち上がりを持つ。端部内面は段をなす。５世紀後半～６世紀初頭に位置づけられるものである。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古代以降と考える。

掘立85（第161図）　２ａ区東側、グリッドＳ３・４Ｅ６・７に位置する。桁行３間、梁行２間の東西棟である。柱穴は、Ｐ①～⑩の10基で構成される。建物の規模は、桁行全長6.70m、梁行全長4.40mである。主軸は磁北から83度西へ振る。柱穴の平面形態は方形、円形～楕円形を呈する。

掘立85出土遺物（第162図）

須恵器　坏蓋（586）：ＳＰ3970内出土。有蓋高坏の坏蓋である。中窪みのつまみを持つ。５世紀後半。

高坏（587）：ＳＰ6696内出土。坏底部及び基部の小片。外面は黒褐色を呈す。５世紀後半。

時　　期：出土遺物及び構成柱穴の規模から古墳時代後期以降と考える。

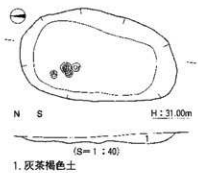
〔３〕土坑（ＳＫ）

ＳＫ73（第163図）　２ａ区東側、グリッドＳ11Ｅ９に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長軸1.77m、短軸1.17m、深さ0.1mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は灰茶褐色土である。出土遺物は土師器が出土した。

ＳＫ73内出土遺物（第164図）

土師器　皿（588～591）：全て完存品で、底面は回転糸切りである。口縁部は、いずれも底部から内湾気味に短く立ち上がる。13世紀前半に位置づけられるものである。

時　　期：出土遺物から中世前期と考える。



第163図　SK73測量図

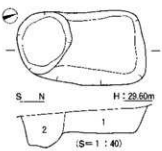
第164図　SK73出土遺物実測図

ＳＫ110（第165図）　３ｂ区中央、グリッドＳ10Ｗ12に位置する。平面形態は長方形を呈し、規模は長軸1.38ｍ、短軸0.81ｍ、深さ0.27ｍを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は暗灰茶褐色土で３～５㎝大の丸礫が含まれる。出土遺物は土師器、釘（949）が出土した。

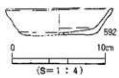
ＳＫ110内出土遺物（第166・212図）

土師器　坏（592）：底部を一部欠くもののほぼ完形品。底面は回転糸切りである。口縁部は、底部から外傾して立ち上がる。口縁直下外面には成形時の撫で際みが残存し、稜をなす。13世紀前半に位置づけられるものである。

時　期：出土遺物から中世前期と考える。



第165図　SK110測量図



第166図　SK110出土遺物実測図

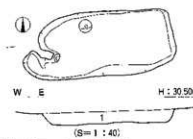
ＳＫ133（第167図）　２ａ区西側、グリッドＳ５Ｗ６に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長軸1.65ｍ、短軸0.70ｍ、深さ0.13ｍを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物は土師器、須恵器が出土した。

ＳＫ133内出土遺物（第168図）

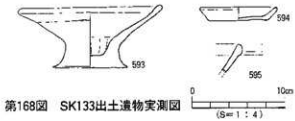
土師器　坏（593）：円柱状の高台を有する坏の完存品。底部の切り離しは回転糸切りで、高台内面は断面逆「Ｕ」字状に抉られる。口縁部は内湾気味に立ち上がり、端部は丸く収められる。12世紀代。皿（594）：ほぼ完形品。底面には回転糸切り痕、板状圧痕を看取。

陶磁器　白磁碗（595）：白磁碗Ⅳ類。

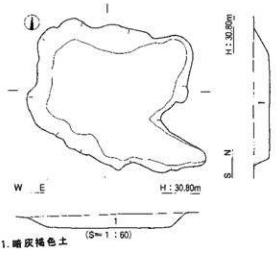
時　期：出土遺物から中世前期と考える。



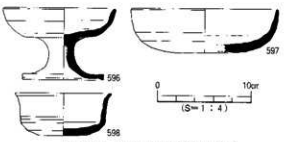
第167図　SK133測量図



第168図　SK133出土遺物実測図



第169図　SK141測量図



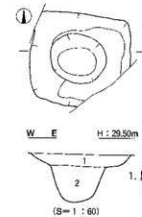
第170図　SK141出土遺物実測図

ＳＫ141（第169図）　２ａ区西側、グリッドＳ４Ｗ５に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸2.40m、短軸2.20m、深さ0.24mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は暗灰褐色土である。出土遺物は土師器、須恵器が出土した。

ＳＫ141内出土遺物（第170図）

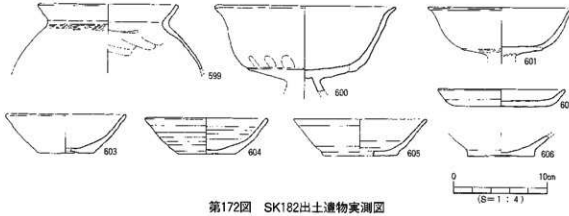
須恵器　高坏（596）：一部欠くもののほぼ完形の短脚高坏。坏部は緩やかに内湾して立ち上がる口縁を持ち、端部内面は肥厚される。大きく外反して下る脚部の裾端部は下方に拡張される。坏（597・598）：597の口縁部は底部から内湾して立ち上がり、細く尖る。598は無高台坏身。底部は平底を呈し、回転篦切り痕が看取できる。口縁は中位より外反し、細く収める。

時　　期：出土遺物から７世紀末から８世紀前半と考える。

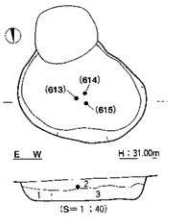


第171図　SK182測量図

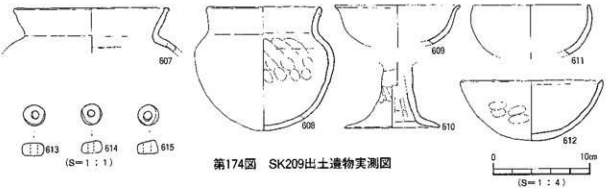
ＳＫ182（第171図）　２ｂ区北側、グリッドＳ３Ｗ16に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は長軸1.59m、短軸1.50m、深さ0.78mを測る。断面形態は舟底状を呈する。埋土は上層が黒色シル



第172図　SK182出土遺物実測図



第173図　SK209測量図



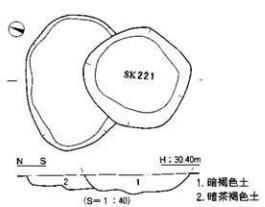
第174図　SK209出土遺物実測図

ト、下層が黒色土である。出土遺物は土師器、須恵器小片、鉄製品（939～948）が出土した。

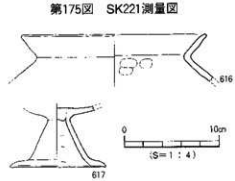
ＳＫ182内出土遺物（第172・212図）

土師器　甕（599）：「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、若干内湾する口縁部。端部は外方向に面をなす。高坏（600・601）：共に坏部のみの残存。水平に伸びる坏底部から内湾気味に立ち上がる口縁部を持ち、端部は短く外反する。皿（602）：底部は平底を呈す。坏（603～606）：全て回転台成形による。603・604は突出しない平底から内湾気味に立ち上がる口縁部を持つ。口縁内外面には成形時の横撫で痕が残る。605・606の底部は円盤高台状の突出した平底をなす。

時　期：599～601は下層出土である。出土遺物から下層が埋没した上限を古墳時代中期前半とする。602～606は上層出土である。出土遺物から上層が埋没した上限を10世紀前半とする。



第175図　SK221測量図



第176図　SK221出土遺物実測図

ＳＫ209（第173図）　１区東側、グリッドＮ２Ｗ１に位置する。平面形態は楕円形を呈し、規模は長軸1.30m、短軸0.89m、深さ0.21mを測る。断面形態は舟底状を呈する。埋土は黒灰色土である。出土遺物は土師器、須恵器小片、石製品が出土した。

ＳＫ209内出土遺物（第174図）

土師器　甕（607・608）：607は「く」の字状に屈曲

する口頸部を持ち、端部付近には成形時の撫で窪みが残る。608は一部を欠くもののほぼ完形品。口縁部は体部から緩やかに外反して立ち上がる。端部は丸く収める。体部は肩部に最大径を持つ球形を呈し、底部は丸底になる。高坏（609・610）：609は坏部で底部から内湾気味に立ち上がる口縁部を持ち、端部は短く外反する。610は脚柱部。埦（611・612）：611は内湾して立ち上がる口縁部を持つ。端部は細く尖る。612は完存品。底部から内湾して立ち上がる口縁部を持ち、端部内面は仕上げ段階の横撫でにより弱い稜をなす。

石製品　臼玉（613～615）：全て完存品で緑色片岩製。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

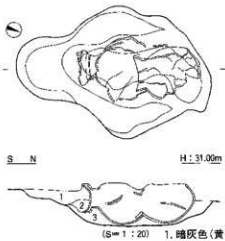
ＳＫ221（第175図）　１区西側、グリッドＮ８Ｗ10に位置する。平面形態は円形を呈し、規模は長軸1.10m、短軸1.04m、深さ0.20mを測る。断面形態は舟底状を呈する。埋土は暗褐色土である。出土遺物は土師器が出土した。

ＳＫ221内出土遺物（第176図）

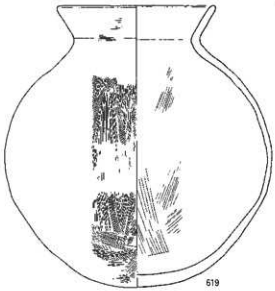
土師器　甕（616）：「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、端部は丸細く仕上げられる。高坏（617）：脚柱部。坏底部から直線的に外傾し、裾部へ続く。

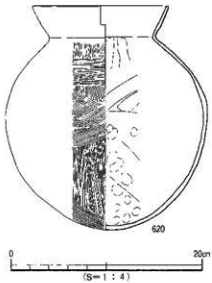
時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半と考える。

ＳＫ226【土器棺墓】（第177図）　１区西側、グリッドＮ８Ｗ10に位置する。墓壙の平面形態は不整楕円形を呈し、規模は長軸0.98m、短軸0.71m、深さ0.23mを測る。墓壙南側は階段状に掘られ、東・西側小口には横穴が設けられている。断面形態は舟底状を呈する。土器棺は連結方式を採用し、壺（618）の打ち欠いた底部に壺（619）の口縁部を挿入し、甕（620）の底部で壺（618）口縁部を塞いでいる。土器棺を覆っていたと思われる覆土及び棺上部は後世の削平を受けている。また、棺は土圧によりつぶれたものと思われ、棺内に土砂の流入が見られる。

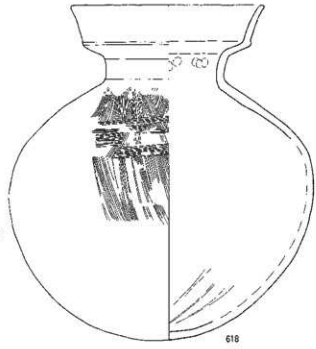


第177図　SK226測量図





第178図　SK226出土遺物実測図

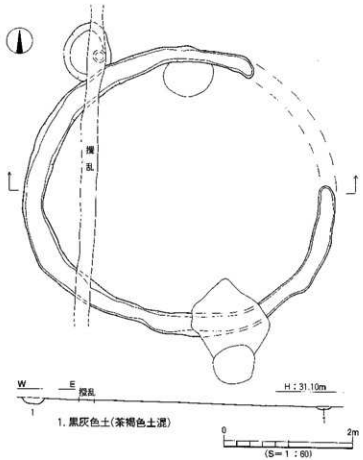


土器棺はほぼ水平に安置され、主軸方位はS－23°－Eである。墓壙埋土は黒灰色土である。墓壙内の出土遺物は棺である土師器のみが出土し、人骨・副葬品等は確認されていない。

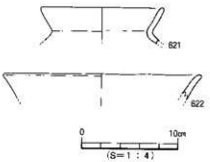
SK226内出土遺物（第178図）

土師器　壺（618・619）：共に復元完形品。618の口縁部は複合口縁を呈し、屈折部外面は鋭い稜をなす。口縁拡張部は緩やかに外反し、端部は丸く収める。体部は球形で底部は丸底となる。頸部から胴部上半にかけては、縦方向、横方向を交互に繰り返す丁寧且つ精緻な刷毛目調整が施される。また、胴下半部から底部にかけては入念なミガキ調整が施される。619は「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、端部は丸細く仕上げられる。体部は球形を呈し、底部はやや厚くなる。甕（620）：復元完形品。「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、口縁部は内湾気味に立ち上がる。全体的に器壁が薄く、精緻な仕上げが施される。

時　期：出土遺物から古墳時代前期前半と考える。



第179図　SD１測量図



第180図　SD１出土遺物実測図

〔4〕溝（SD）

SD1（第179図）　調査区の１区西側、グリッドＮ２Ｗ１・２に位置する。平面形態は「C」字状を呈し、規模は直径4.8m、検出全長11.58m、幅0.42m、深さ0.12m、面積13.2㎡を測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒灰色土である。出土遺物は土師器が出土した。

ＳＤ１内出土遺物（第180図）

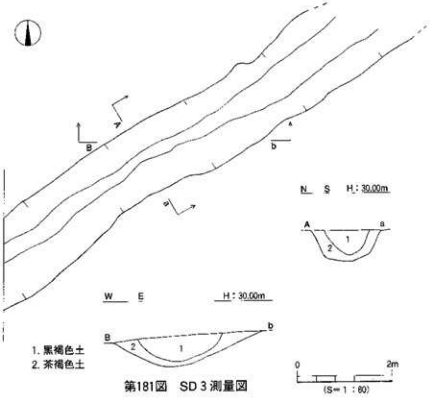
土師器　甕（621・622）：621は「く」の字状に屈曲する口縁部を持つ。622は口縁部片。端部は横撫でにより僅かに外反する。焼成は良好で色調は赤褐色を呈する。

時　　期：出土遺物及び掘立13を切っていることから古墳時代中期後半以降と考える。

SD３（第181図）　調査区の１区西側～４区～５区に位置する。北東から南西方向に方位をとる（主軸方位Ｎ－135°－Ｗ）。検出長144m、幅0.80～1.60m、深さ0.20～0.80mを測る。断面は緩やかな弓状を呈する。埋土は１層黒褐色土、２層茶褐色土である。遺物は１層から弥生土器（弥生時代後期後葉～終末）、鋤先（950）が出土している。弥生時代後期後葉の土器については既に報告済みである。

ＳＤ３内出土遺物（第182・183・213図）

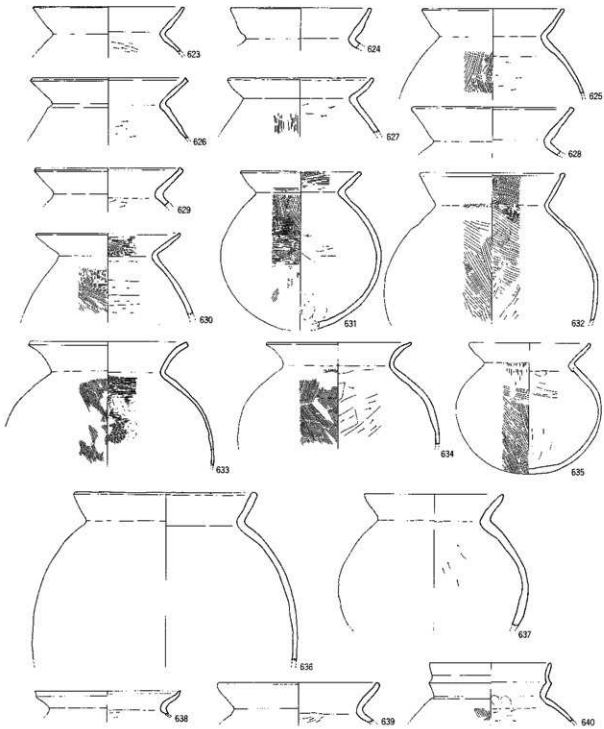
弥生土器　甕（623～640）：全て「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。623～632、635～637は屈曲部



第181図　SD3測量図

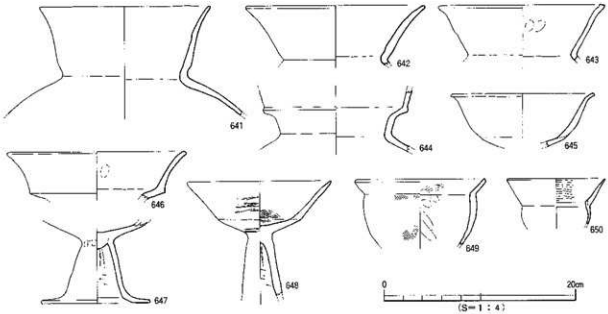
から直線的に外傾して立ち上がる口縁部をなす。633・634は屈曲部から外反して開く口縁部を持つ。640は口縁部中位に屈折部を持ち、外反する口縁部を有す。626・628・629・632の口縁端部は僅かに肥厚され、面をなす。634・637・638・640は口縁端部が先細りする。壺（641～644）：641～643は「く」の字状に屈曲する頸部から弱く外反して伸びる口縁部を持つ。641・642の端部は先細りして収められる。644は、二重口縁を呈する口縁部。屈折部は外面に突出し、鈍い稜をなす。高坏（645～648）：645は坏部で坏底部から緩やかに内湾して立ち上がり、端部付近で外反する口縁部を持つ。646は坏部で外面に鋭い屈曲部を持ち、大きく外反する口縁部をなす。647は脚柱部。坏底部と脚部の接合は柏法を採る。648は坏底部から直線的に外傾して立ち上がる口縁部を持つ。端部は先細りする。鉢（649）：内湾する胴部に「く」の字状に屈曲する口頸部が接続する。小型丸底壺（650）：逆「ハ」の字状の口縁部を持つ。

時　　期：出土遺物から弥生時代後期後葉頃には溝としての機能が失われ、古墳時代前期前半頃までに埋没したものと考える。



第182図　SD３出土遺物実測図(1)

ＳＤ30（第184図）　調査区の２区西側に位置する。東西方向に方位をとる（主軸方位Ｎ－102°－Ｅ）。検出長9.9m、幅1.07m、深さ0.16mを測る。断面は緩やかなじ字状を呈する。埋土は暗灰色土である。



第183図　SD３出土遺物実測図(2)

ＳＤ30内出土遺物（第185図）

須恵器　甕（651）：扁球状を呈する体部からラッパ状に立ち上がる口縁部を持つ。円孔部分は欠損。6世紀前半に位置づけられるものである。

時　　期：出土遺物から古墳時代後期前半以降と考える。

ＳＤ31（第184図）　調査区の２区西側に位置する。東西～南北方向に方位をとる（主軸方位Ｎ－105°－Ｅ～Ｎ－12°－Ｅ）。検出長51.8m、幅0.98m、深さ0.19mを測る。断面は緩やかなＵ字状を呈する。埋土は暗灰褐色土である。

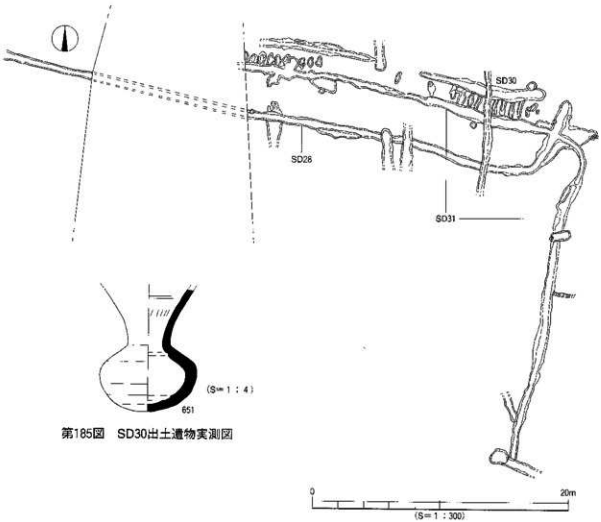
ＳＤ31内出土遺物（第186図）

土師器　甕（652・653）：652は緩やかに屈曲する口頸部を持つ。端部は丸く収まる。653は復元完形品。平底を呈する底部から緩やかに立ち上がる長胴の体部を持つ。口頸部は僅かに内湾した後、短く外反する。端部は丸く収まる。内外面共に指頭痕が顕著に看取できる。手捏（655・656）：655の体部は底部から内湾して立ち上がる。偏面境形を呈す。先細りする端部は短く直立する。656は偏面小壺形を呈す。口縁端部は欠損。

弥生土器　壺（654）：混入品。弥生時代後期に位置づけられる壺形土器の口縁部。外面に竹管文を看取。

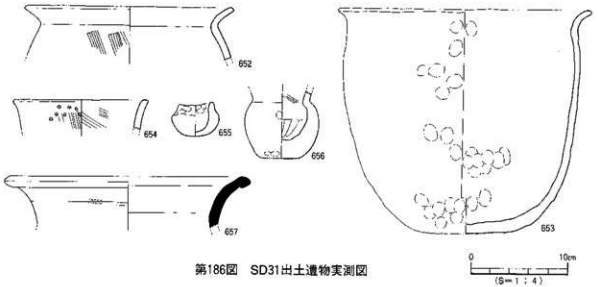
須恵器　甕（657）：口縁端部外面は帯状に肥厚される。頸部に格子叩き痕を看取。

時　　期：出土遺物から古墳時代後期後半以降と考える。

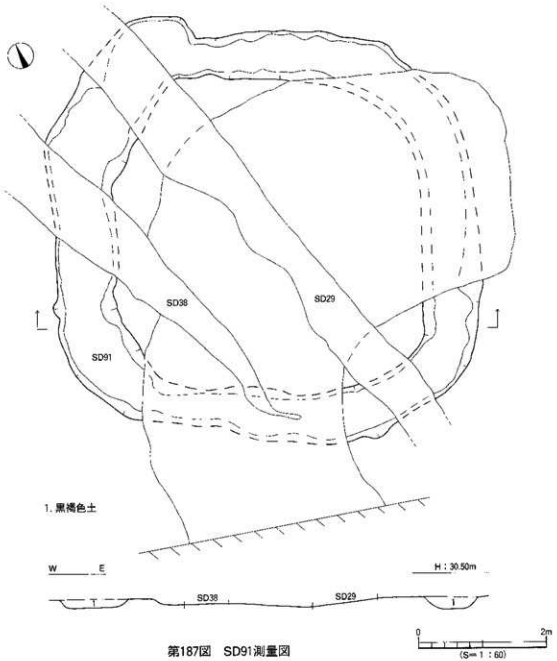


第185図　SD30出土遺物実測図

第184図　SD30・31測量図



第186図　SD31出土遺物実測図

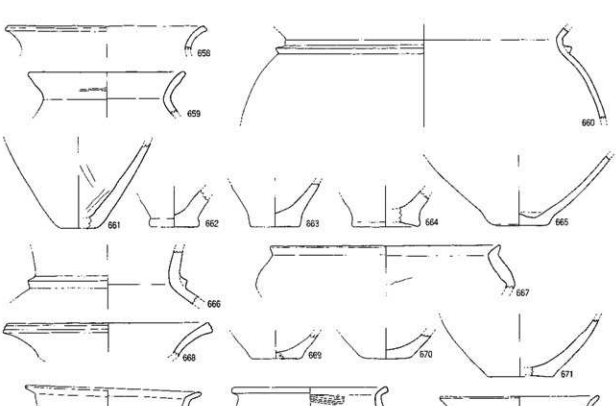


第187図　SD91測量図

ＳＤ91（第187図）　調査区の２ａ区西側、グリッドＳ８・９Ｗ６・７に位置する。平面形態は隅丸方形を呈し、規模は長軸6.4m、短軸6.2m、検出全長20.2m、幅1.26m、深さ0.08mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は黒褐色土である。出土遺物は弥生土器、土師器が出土した。

ＳＤ91内出土遺物（第188図）

弥生土器　甕（658～665）：658は外反する口縁部で端部は面をなし、外方へ短くつまみ出される。659は口縁部外面が肥厚される。660の頸部には断面三角形の凸帯が貼り付けられる。661～665は底部である。664は弱い上げ底を呈する。壺（666～671）：666は外反する頸部。屈曲部には断面三角形の凸帯が貼り付けられる。667は複合口縁壺の複合口縁部で、口縁端部が外側に小さく突出する。668は外反して大きく開く口縁部。端面には２条の沈線が巡る。669～671は底部。鉢（672・673）：共に小型品で、頸



第188図　SD91出土遺物実測図

部内面に稜をなす。672は復元完形品。底部は平底で、内面の色調は黒色を呈する。673は緩やかに外反する口縁部を持つ。

土師器　高坏（674）：内湾して立ち上がる口縁部片で、端部は短く外反する。混入品と考える。

時　　期：出土遺物から弥生時代後期後葉と考える。

［5］波板状凹凸遺構（波板）

調査当時、道路に関連する構造施設の一部である「波板状凹凸遺構（波板）」と認識せず、性格不明遺構（ＳＸ）」として扱った。以下、整理段階において波板状凹凸遺構と認定したものには［波板］及び「波板状」を併記する（参照：遺構一覧表Ｐ171～Ｐ173）。

ＳＸ71［波板］（第189図）　２ａ区東側、グリッドＳ５Ｅ１に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸0.81m、短軸0.33m、深さ0.05mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は灰褐色土である。出土遺物は須恵器が出土した。

出土遺物（第191図）

須恵器　甕（680）：口頸部は欠損し体部のみの残存。６世紀後半に位置づけられるものである。円孔は

体部中位に穿たれる。

ＳＸ74［波板］（第189図）　２ａ区東側、グリッドＳ５Ｅ１に位置する。平面形態は楕円形を呈し、検出規模は長軸1.0m、短軸0.30m、深さ0.03mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は灰褐色土である。出土遺物は須恵器が出土した。

出土遺物（第191図）

須恵器　甕（675）：口縁部は短く外傾して開き、端部外面は断面四角形の帯状に肥厚される。７世紀前半に位置づけられるものである。

ＳＸ80［波板］（第189図）　２ａ区東側、グリッドＳ６Ｅ２に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸0.58m、短軸0.32m、深さ0.02mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は灰褐色土である。出土遺物は須恵器が出土した。

出土遺物（第191図）

須恵器　甑（681）：口頸部は欠損する。体部中位には波状文と円孔が施される。６世紀前半に位置づけられるものである。

ＳＸ134［波板］（第189図）　２ａ区中央、グリッドＳ５Ｗ１に位置する。平面形態は不整円形を呈し、検出規模は長軸1.43m、短軸1.38m、深さ0.17mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は灰褐色土である。出土遺物は土師器、須恵器（７世紀前半に比定）が出土した。

出土遺物（第191図）

須恵器　甕（676・677）：共に短く外反して開く口縁部をなす。676の端部外面は断面四角形の帯状に肥厚される。677の口縁端部は玉縁状に収められる。甕釜（678）：つまみ部と天井部のみの残存である。つまみ（口径3.6cm、つまみ高1.9cm）は環状で、直線的に上方へ伸びる。端部は丸く収まる。

土師器　手捏（679）：内外面共に指頭痕を看取。体部は底部から内湾気味に立ち上がり、端部は先細りする。

ＳＸ138［波板］（第189図）　２ａ区中央、グリッドＳ５Ｗ２に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸1.04m、短軸0.38m、深さ0.17mを測る。断面形態は舟底状を呈する。埋土は暗灰茶褐色土である。出土遺物は土師器小片、須恵器が出土した。

出土遺物（第191図）

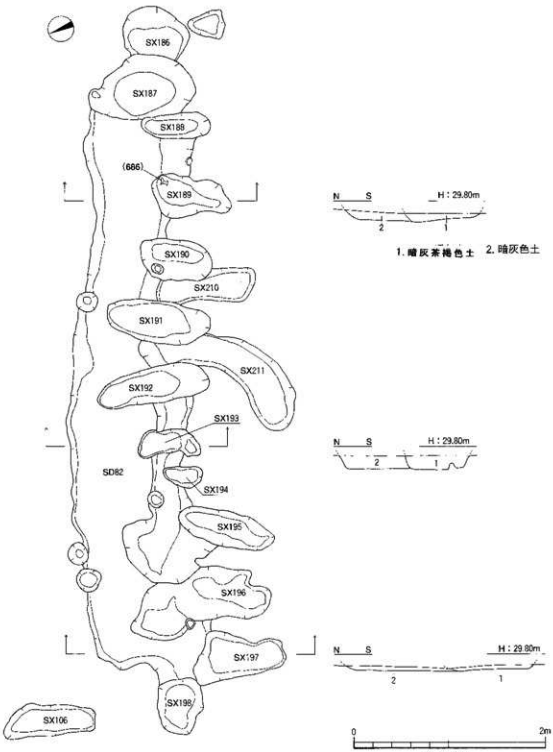
須恵器　甕（683）：口頸部は欠損する。体部中位の外面はカキ目調整、内面は同心円文の叩き痕が看取される。７世紀前半に比定する。

ＳＸ164［波板］（第189図）　２ａ区中央、グリッドＳ５Ｗ２に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸1.45m、短軸0.48m、深さ0.15mを測る。断面形態は舟底状を呈する。埋土は暗灰茶褐色土である。出土遺物は須恵器が出土した。

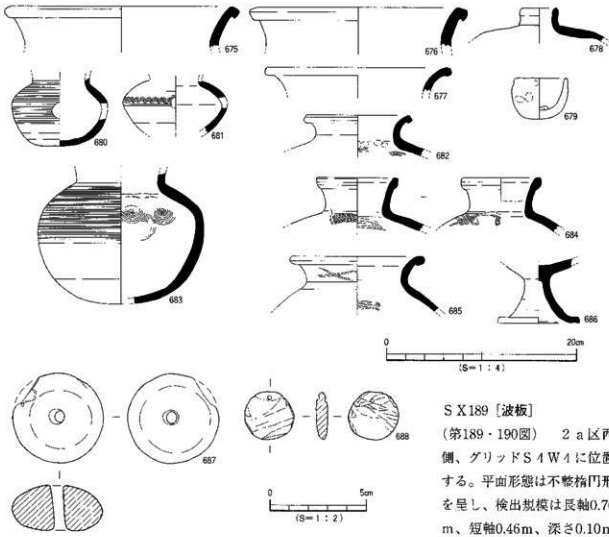
出土遺物（第191図）

須恵器　壺（682）：口縁部は短く外反して開き、端部は玉縁状に収める。７世紀前半に比定する。

第189図　波板状凹凸遺構 測量図



第190図　波板状凹凸遺構 測量図



第191図　波板状凹凸遺構 出土遺物実測図

ＳＸ189［波板］（第189・190図）　２ａ区西側、グリッドＳ４Ｗ４に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸0.76m、短軸0.46m、深さ0.10mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は暗灰茶褐色土である。出土遺物は須恵器が出土した。

出土遺物（第191図）

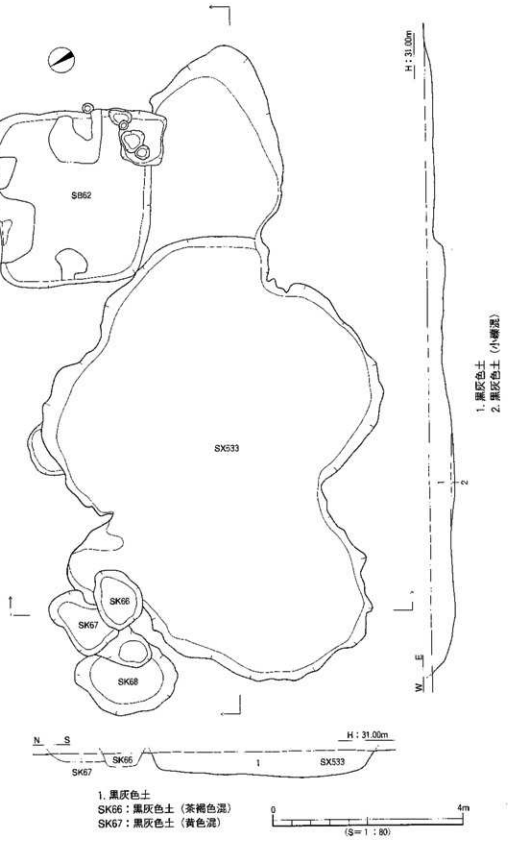
須恵器　高坏（686）：ラッパ状に開く脚柱部。７世紀前半に位置づけられるものである。

ＳＸ195［波板］（第189・190図）　２ａ区西側、グリッドＳ３Ｗ５に位置する。平面形態は楕円形を呈し、検出規模は長軸1.01m、短軸0.38m、深さ0.04mを測る。断面形態は皿状を呈する。埋土は暗灰茶褐色土である。出土遺物は須恵器が出土した。

出土遺物（第191図）

須恵器　横瓶（684）：口縁部は僅かに外反し、端部は外方に肥厚される。６世紀末～７世紀前半に比定される。壺（685）：口縁部は短く外反して開き、端部は玉縁状に収められる。頸部外面には篦記号が認められる。７世紀前半に位置づけられるものである。

ＳＸ202［波板］（第189図）　２ａ区西側、グリッドＳ６Ｗ９に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、



第192図　SX533測量図

検出規模は長軸2.25m、短軸0.57m、深さ0.19mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。堆土は暗灰褐色土である。出土遺物は石製品が出土した。

出土遺物（第191図）

石製品　円板（688）：形態は正円形を呈する。器体の周縁に偏して1孔（未貫通孔）を伴う。色調は暗青灰色を呈し、石材はやや軟質の蛇紋岩系と思われる。

ＳＸ群［波板］（第189図）

出土遺物（第191図）

土製品　紡錘車（687）：平面形は正円で、断面形は楕円形を呈す。穿孔は焼成前に施され、両側から穿たれる。弥生時代後期以降に比定する。

時　期：遺構の検出状況及び出土遺物から古墳時代終末～古代と考える。

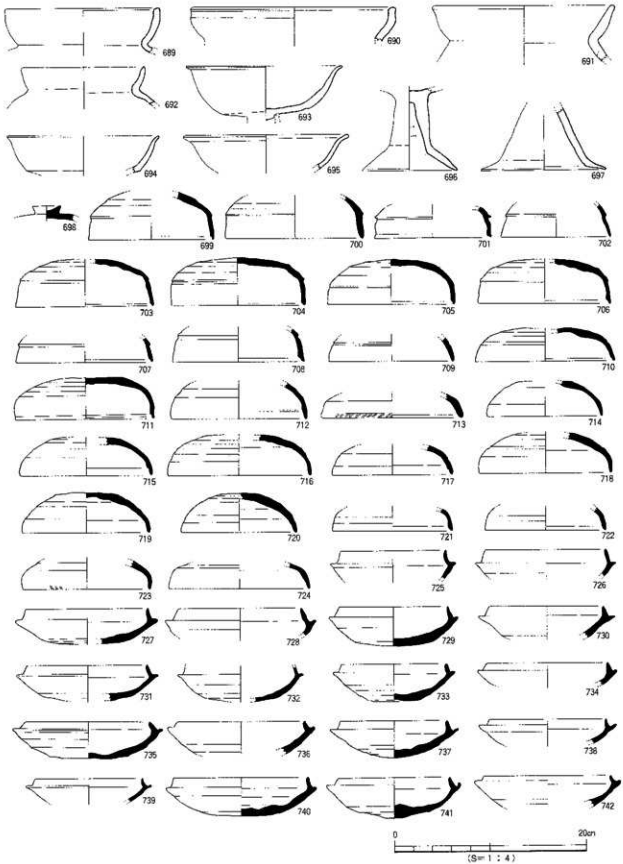
〔6〕性格不明遺構（ＳＸ）

ＳＸ533（第192図）　２ａ区中央、グリッドＳ２・３Ｗ１・２に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸13.60m、短軸6.90m、深さ0.45mを測る。断面形態は舟底状を呈する。堆土は黒灰色土である。遺物は土師器、須恵器、石製品が出土した。

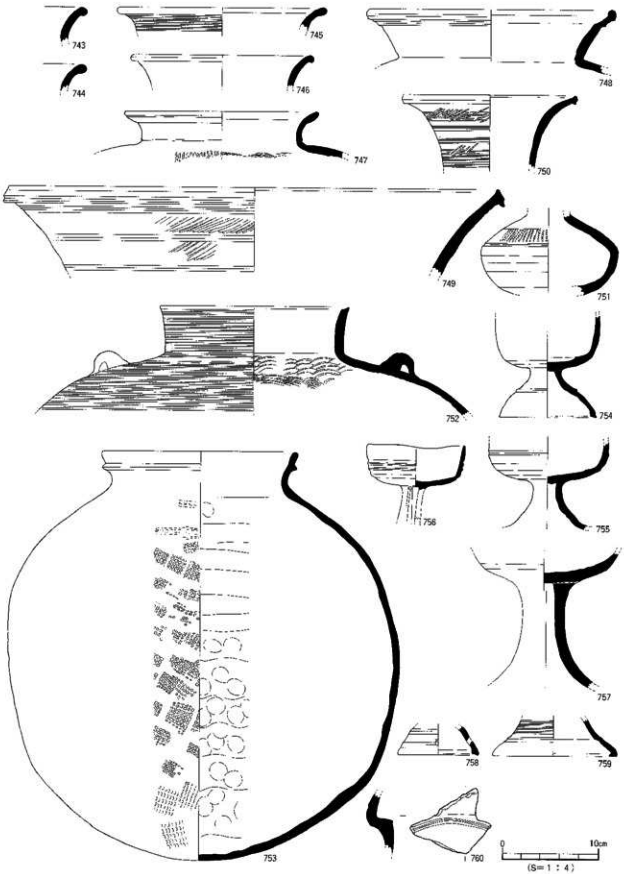
ＳＸ533内出土遺物（第193・194・195図）

土師器　甕（689～692）：全て「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、内湾する口縁部。690は口縁部中位に緩やかに折れ、短く直立する。691は口縁部中位が肥厚され、端部は丸細く収める。高坏（693～697）：693～695は坏底部から内湾して立ち上がる口縁部を持ち、端部付近で短く外反する坏部。696・697は脚柱部。696は円筒状の柱部から外傾して開く裾部へ続く。

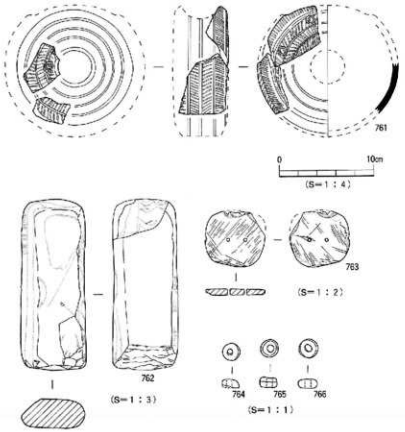
須恵器　坏蓋（698～724）：698は有蓋高坏の坏蓋つまみ部。699～702は天井部と口縁部の境に突出する稜を有する。703～710は天井部と口縁部の境が凹線状に稜をなす。711～724は天井部と口縁部間の稜が不明瞭、或いは稜を持たない。713・723の口縁端部には「ノ」字状の篦描き文が施される。坏身（725～742）：６世紀後半～７世紀前半に位置づけられるものである。甕（743～749）：743～748の口縁部は短く外反して開き、端部は玉縁状に収められる。745の外面端部下はカキ目調整が施される。748の口縁端部は上方に肥厚される。端部下には断面三角形状の突線が巡る。749は大型甕の口縁部。緩やかに外反し、端部は上下方に拡張される。端面に１条、口縁部に２条突線が巡る。壺（750～753）：750は広口壺の口縁部。端部は上下方に拡張され、中央は突出し稜をなす。４段のカキ目調整後、２段の波状文が施される。751は長頸壺で体部中位に最大径を持つ。上半部には２条の凹線間に縦列刺突文が施される。752は四耳壺の口頸部。外反気味に立ち上がる口縁部外面はカキ目調整が施される。753は体部が球形を呈する中型の壺。丸底の底部から内湾して立ち上がる体部外面には格子叩き痕が顕著に看取さ



第193図　SX533出土遺物実測図(1)



第194図　SX533出土遺物実測図(2)

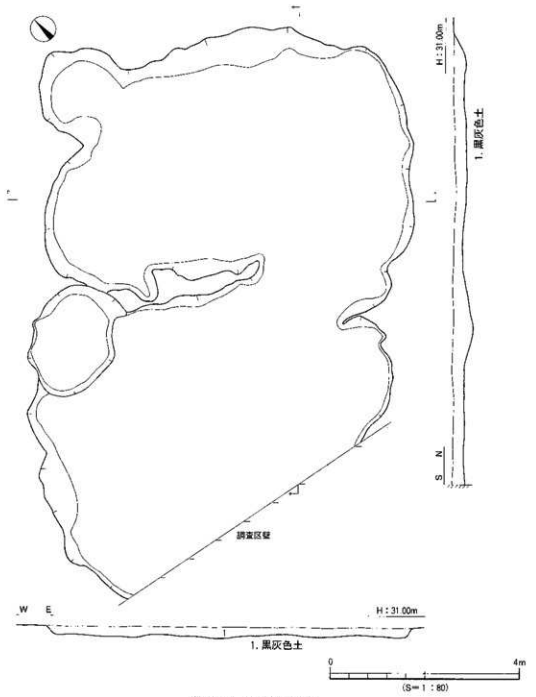


第195図　SX533出土遺物実測図(3)

れる。口頸部は体部から「く」字状に屈曲し、外傾する。口縁中位には断面三角形状の突帯が巡り、突帯部を起点に僅かに曲がる。端部は丸く収まる。塊（754・755）：共に脚付塊。754は塊部の端を欠損する。内湾気味に開いた裾端部内面は不明瞭な段をなす。脚部中位には1条の突帯が巡る。755の塊部中位には凹線が巡る。脚部はラッパ状に開く。高坏（756・757）：756の坏部は水平に伸びる坏底部から直立する口縁部を持つ。口縁部中位には2条の突線が巡る。757は大型品。脚台（758・759）：758は高坏の脚部。外面にはカキ目調整が施される。759は壺、或いは塊の脚台と考える。脚柱部と裾部は1条の突線により区分される。裾端部は平坦な面をなす。提瓶（760）：5世紀後半に位置づけられるものである。特殊壺（761）：口縁部、体部の小片。特殊扁壺と考える。

石・ガラス製品　石斧（762）：柱状片刃石斧。刃部には使用痕が認められる。有孔円板（763）：形態は隅丸正方形を呈する。器体の中軸を3分割するように2孔を伴う。色調は濃緑色を呈し、石材はやや硬質の結晶片岩系と思われる。臼玉（764・765）：共に緑色片岩製。764は側面断面が直線で、円筒形を呈する。上下端面に研磨痕は認められない。765は側面中央部が膨らみ、弱い稜をなす。上下端面に研磨痕を看取。ガラス小玉（766）：完存品。色調は明青色を呈する。上下・側面共に丁寧な研磨が施される。

時　　期：出土遺物には大きな時期差が認められる。遺物・遺構は概ね古墳時代中期前半から古代にかけて廃棄・埋没したものと考える。なお、甕（748）と同一個体と考えられる破片が北西120mに位置するSB56内から出土している。



第196図　SX534測量図

ＳＸ534（第196図）　２ａ区東側、グリッドＳ11Ｅ６・７に位置する。平面形態は双楕円形を呈し、検出規模は長軸11.70m、短軸7.70m、深さ0.25mを測る。断面形態は舟底状を呈する。堆土は黒灰色土である。出土遺物は土師器、須恵器、石製品が出土した。

ＳＸ534内出土遺物（第197・198図）

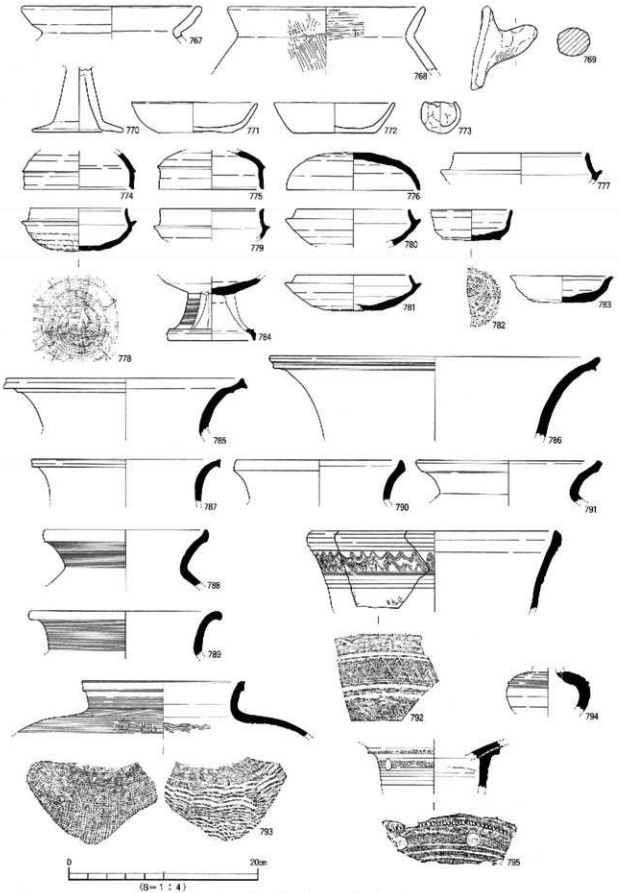
土師器　甕（767・768）：共に「く」の字状に屈曲する口頸部を持つ。甑（769）：斜め上方に伸びる把手。高坏（770）：脚柱部。直線的に外傾して下る柱部。坏（771・772）：共に水平に伸びる底部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。771は底部に回転糸切り後の板状圧痕を看取。手捏（773）：完存品。内外面共に指頭痕を看取。体部は底部から内湾して立ち上がり、端部は先細りする。

須恵器　坏蓋（774～776）：774・775は天井部と口縁部の境に突出する稜をなす。口縁端部内面には段を有す。６世紀前半に比定される。776は６世紀後半に比定される。坏身（777～781）：778は５世紀前半に比定されるもので、底面に篦記号を看取。780・781は共に６世紀後半に比定される。坏（782・783）：782の底部には回転篦切り後の篦記号を看取。783は焼成が非常にあまく、内外面には回転成形痕が顕著に残る。高坏（784）：外面カキ目調整が施される脚部。５世紀末。甕（785～792）：全て外反する口縁部を持つ。785の口縁端部は上下に拡張され、直下に断面二角形の突帯が巡る。786の口縁端部は短く内湾し、丸く収められる。直下には２条の突帯が巡る。788・790の口縁端部は上方に拡張される。791の口縁端部は斜め下方に肥厚され、端部は面をなす。788・789の口縁部外面はカキ目調整が施される。792の口縁部外面には端部直下に１条、中位に２条の凹線が巡る。２条凹線の上下には波状文が施される。壺（793）：短く外反する口頸部を持ち、外面はカキ目調整が施される。口縁端部は先細りし、直下には突線が巡る。甑（794）：円孔は未確認。７世紀前半に比定される。器台（795）：装飾付器台の基部。基部直下には上から棒状工具による刻み目、波状文、凹線文の後、スタンプ状の円形文が施される。

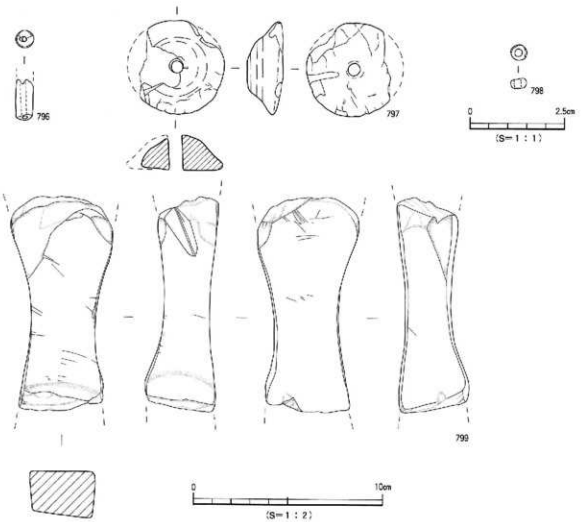
土製品　土錘（796）：管状土錘。両端部は欠損する。

石製品　紡錘車（797）：側面断面が台形状を呈する。臼玉（798）：側面中央部が膨らみ、弱い稜をなす。緑色片岩製。砥石（799）：石英粗面岩製の擬灰仕上げ用。４面を使用している。

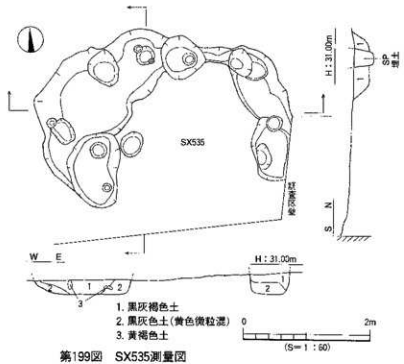
時　期：出土遺物には大きな時期差が認められる。遺物・遺構は概ね古墳時代中期前半から古代にかけて廃棄・埋没したものと考える。



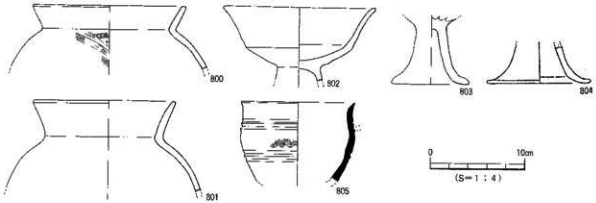
第197図　SX534出土遺物実測図(1)



第198図　SX534出土遺物実測図(2)



第199図　SX535測量図



第200図　SX535出土遺物実測図

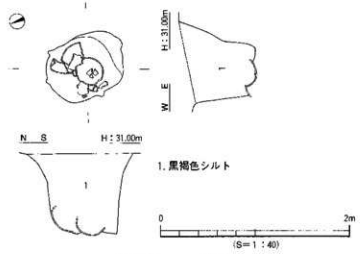
ＳＸ535（第199図）　２ａ区中央南側、グリッドＳ11Ｅ１に位置する。平面形態は不整楕円形を呈し、検出規模は長軸3.83m、短軸3.17m、深さ0.21mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒灰褐色土である。出土遺物は土師器、須恵器が出土した。

ＳＸ535内出土遺物（第200図）

土師器　甕（800・801）：共に「く」の字状に屈曲する口頸部を持ち、端部は丸く収められる。高坏（802～804）：802は坏部で内湾する坏底部から外反して立ち上がる口縁部をなす。803・804は脚柱部。

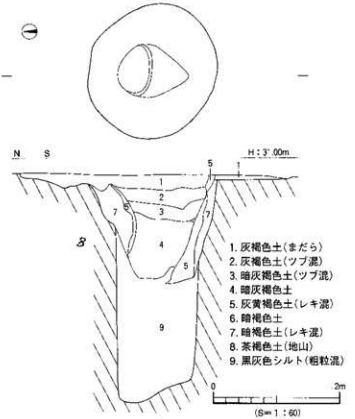
須恵器　瓶（805）：把手付瓶の体部。２条の突線により口縁部、体部、底部に区分される。突線間には波状文が施される。５世紀後半に比定する。

時　　期：出土遺物から古墳時代中期前半以降と考える。



第201図　SE１測量図

第202図　SE１出土遺物実測図



第203図　SE２測量図

〔7〕井戸（SE）

SE１（第201図）　２a区東側、グリッドS11E４に位置する。平面形態は楕円形を呈し、検出規模は長軸0.90m、短軸0.68m、深さ0.85mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。埋土は黒褐色シルトである。出土遺物は土師器、須恵器が出土した。

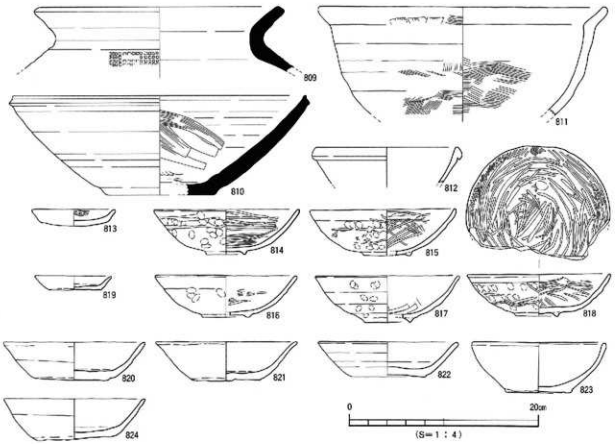
SE１内出土遺物（第202図）

土師器　壺（806）：体部から緩やかに外反する口頸部をなす。外面には煤が付着する。

須恵器　高坏（807）：口縁端部、脚裾部共に欠損する。焼成はあまく、灰白色を呈する。坏身（808）：６世紀後半に位置づけられるものである。

時　期：出土遺物から古墳時代後期後半以降に廃棄・埋没したと考える。

SE２（第203図）　２a区中央北側、グリッドS２W５に位置する。平面形態は円形を呈し、検出規模は長軸2.18m、短軸2.00m、深さ3.60mを測る。断面形態は逆台形状を呈する。堰土は



第204図　SE２出土遺物実測図

灰褐色土である。出土遺物は土師器、須恵器、瓦器が出土した。

ＳＥ２内出土遺物（第204図）

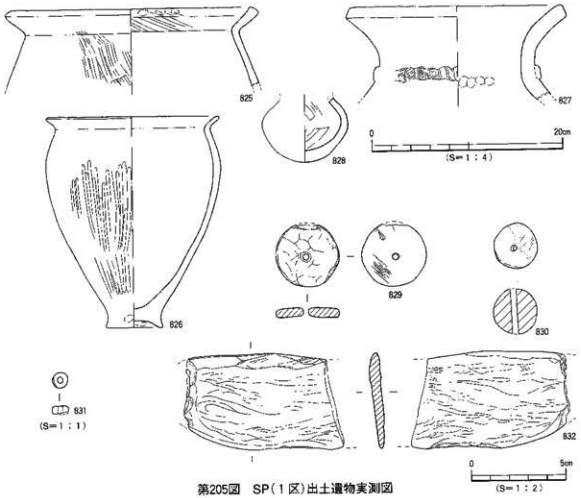
須恵器　甕（809）：12世紀後半に比定される亀山焼甕の口頸部である。頸部外面下に格子叩き痕、内外面共に横撫で調整を看取。捏鉢（810）：12世紀前半に比定される東播系の捏鉢。擬高台を呈する底部から直線的に伸びる体部をなす。端面は横撫でにより僅かに凹む。

陶磁器　白磁碗（812）：白磁碗Ⅳ類。12世紀後半に比定する。

瓦　器　皿（813）：口縁部は横撫でされる。底部外面に指頭痕、口縁内面には幅狭の圏線状暗文を看取。埦（814～818）：底部には全て断面三角形状の輪高台が付く。口縁端部は丸く収めるもの（814～816）と先細りするもの（817・818）がある。平行線状の暗文が多くみられる。13世紀初頭に比定。

土師器　土鍋（811）：口縁部は上方から指圧により折り曲げられる為、短く内湾する。端部は丸く仕上げられる。外面に煤付着。皿（819）：底部に回転糸切り後の板状圧痕を看取。坏（820～824）：全て回転台土師器坏で、切り離し技法は回転糸切りによる。823の底部は円盤高台状の突出した平底をなす。

時　　期：出土遺物から中世前期後半以降に廃棄・埋没したと考える。



第205図　SP(1区)出土遺物実測図

〔8〕柱穴（SP）

1区出土遺物（第205図）

SP1452　**土師器**　甕（825）：頸部は強く屈曲する。口縁部は肥厚され、端部はつまみ出しにより上方に伸びる。内外面共、粗いハケ目調整が施される。7世紀前半に比定する。

SP1563　**弥生土器**　甕（826）：外面胴部下半にはミガキ調整が施される。底部はくびれて上げ底を呈する。弥生時代後期前半に比定する。

SP1534　**弥生土器**　壺（827）：外反する口頸部。頸部には指頭押圧文の凸帯1条が巡る。弥生時代中期前半に比定する。

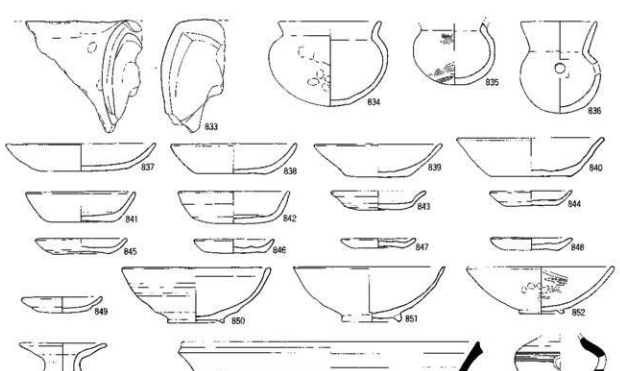
SP895　**土師器**　甕（828）：小型の粗製甕で体部のみ完存。古墳時代前期に比定する。

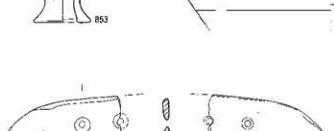
SP1009　**土製品**　紡錘車（829）：平面形は正円で、断面形は長方形を呈す。弥生時代後期以降に比定する。

SP436　**土製品**　土製丸玉（830）：縦断面は円形を呈する。

SP324　**石製品**　臼玉（831）：上端面は研磨仕上げ。下端面は一部欠損。緑色片岩製。

SP1228　**石製品**　石包丁（832）：約3／4の残存。自然面を多く残す。





第206図　SP(2区)出土遺物実測図

2a・2b区出土遺物（第206図）

SP4209　**土師質土製品**　置き竈(833)：焚口の左側周辺部である。廂表側には指頭圧痕が顕著に残る。内面には煤付着。

SP2486　**土師器**　**鉢**（834）：内湾して立ち上がる体部から短く外反する口頸部を持つ。

SP6402　**土師器**　壺（835）：体部のみの残存。外面は粗いハケ目調整が施される。

SP6681　**土師器**　甕（836）：外傾して伸びる口縁部を持つ。球形を呈する体部には焼成前穿孔が施される。

SP4264　**土師器**　皿（837）：復元完形品。底部の切り離し技法は摩滅の為、不明瞭。

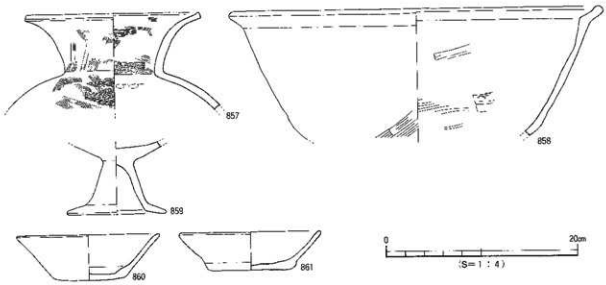
SP6188　**土師器**　坏（838）：完存品。底部外面に回転糸切り痕を看取。

SP6250　**土師器**　坏（839）：底部は回転篦切りで、切り離し後軽い撫で調整が施される。

SP4103　**土師器**　坏（840）：底部切り離しは回転糸切りによる。焼成は良好である。

SP6931　**土師器**　坏（841）：底部外面に回転糸切り後の板状圧痕を看取。

SP6218　**土師器**　坏（842）：外面に手持ちの篦削り調整痕。底部内面には3本列びの指頭圧痕、外面には板状圧痕を看取。

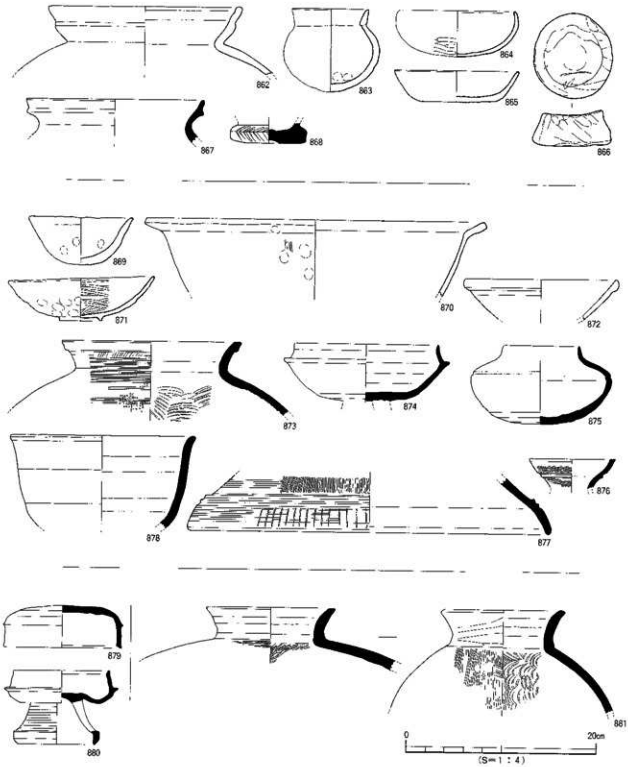


第207図　SP(3区・5区)出土遺物実測図

SP4059　**陶磁器**　皿（843）：近世の国産陶磁器。
SP4709　**土師器**　皿（844）：底部に回転糸切り痕。内面は赤黒く変色し、煤付着。
SP4703　**土師器**　皿（845）：底部に回転糸切り痕看取。
SP4888　**土師器**　皿（846～848）：一括資料。846・848は底部外面に回転糸切り後の板状圧痕、内面に親指大の指頭痕を看取。
SP4461　**瓦　器**　皿（849）：口縁部は横撫でされ、底部内外面に指頭痕が残る。
SP4115　**土師器**　埦（850）：体部外面に成形時の横撫で痕を残す。底部には断面三角形の高台が貼り付けられる。
SP4794　**土師器**　埦（851）：底部篦切りによる回転台成形土師器。
SP4889　**瓦　器**　埦（852）：体部内面には幅狭の圏線状暗文が施される。
SP6973　**土師器**　坏（853）：中空の円柱状を呈する底部を持つ。口縁部の一部を欠損。
SP4718　**須恵器**　鉢（854）：東播系の捏鉢。中世前期に比定する。
SP4419　**須恵器**　甕（855）：体部のみの残存。6世紀後半。
SP3501　**石製品**　石包丁（856）：弧背直刃型。結晶片岩製で1／2の残存。

3a・3b区出土遺物（第207図）
SP5052　**弥生土器**　壺（857）：外傾する頸部に外反する口縁部を持つ。後期末葉に比定する。
SP5161　**土師器**　土鍋（858）：体部は外傾して立ち上がる。口縁部は肥厚され、内側のみ強い横撫でにより内湾する。体部内面は煤付着。
SP5128　**土師器**　高坏（859）：脚柱部。柱部内側に篦削り痕を看取。

5区出土遺物（第207図）
SP7119　**土師器**　坏（860・861）：共に完存品。底部篦切りによる回転台成形土師器。



第208図　各区グリッド・表採出土遺物実測図

〔9〕各区グリッド・表採（第208図）

1区　**土師器**　**甕**（862）：口縁部は内湾気味に立ち上がり、中位外面と端部内面に段を有する。

壺（863）：体部は球形を呈する小型丸底壺。坏（864・865）：864は底部から内湾して立ち上がる口縁部を持つ。865は底部に回転糸切り痕を看取。支脚（866）：側断面台形状を呈す。上端面は凹み、底部は平坦になる。

須恵器 壺（867）：内湾して立ち上がる口頸部。頸部中間に1条の突帯を巡らす。擂鉢（868）：厚い円盤状の底部。端面には篦状工具による刺突文が施される。

2区 **土師器** 鉢（869）：手捏成形による。端部は僅かに外反し、先細りする。土鍋（870）：内湾気味に立ち上がる体部から短く外傾する口縁部を持つ。

瓦 器 塊（871）：底部には断面三角形の高台が貼り付けられる。体部内面には幅狭の圏線状暗文を看取。

陶磁器 塊（872）：白磁碗Ⅳ類。

須恵器 甕（873）：短く外反する口頸部を持つ。口縁端部外面は帯状の突帯により肥厚される。口縁部外面中位には縦方向のハケ目調整、頸部外面にはカキ目調整、格子叩き痕が看取される。高坏（874）：坏部のみ完存。壺（875～877）：875は短頸壺。876は小壺の口縁部で中位に断面三角形の突帯1条が巡る。突帯の上下には波状文が施される。877は脚付壺の脚端部。鉢（878）：色調は灰白色を呈する。口縁端部は僅かに外反する。

3区 **須恵器** 坏蓋（879）：天井部は平坦で口縁部との境に断面三角形状の鋭い稜を有する。高坏（880）：復元完形品。5世紀中頃に比定する。

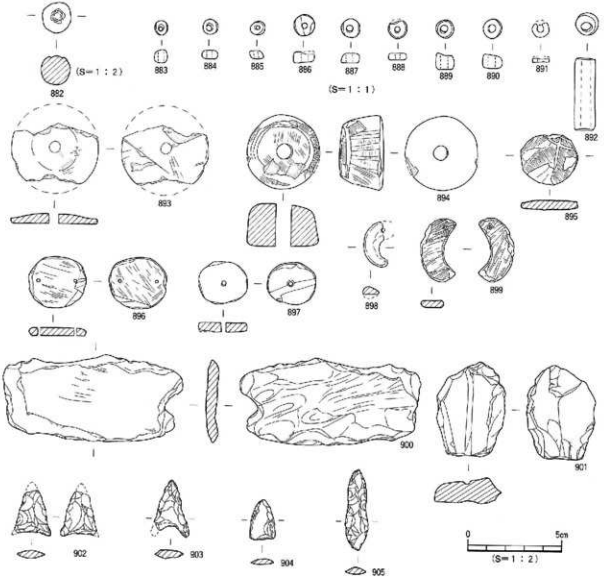
4区 **須恵器** 横瓶（881）：「く」の字状を呈する口頸部を持つ。口縁部は厚く仕上げられ、端部は外方へ僅かにつまみ出される。

〔10〕玉類・石製品・鉄製品（第209～214図）

本書に調査図を掲載していない遺構内出土品及び表採品の中から玉類・石製品に限って記載する。また、鉄製品に関しては、調査図掲載遺構・未掲載遺構・表採を一括して記載する。

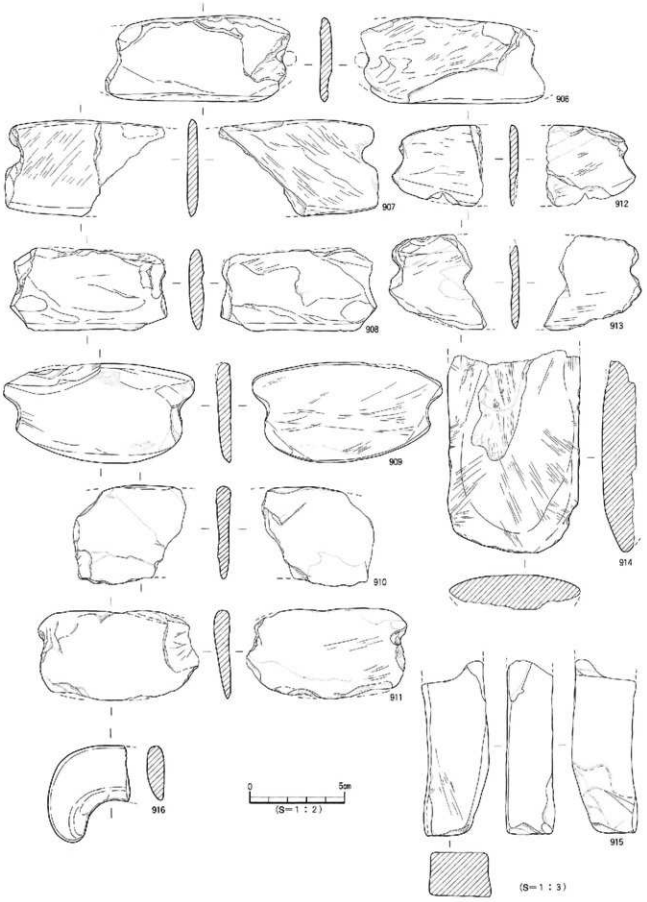
玉 類（第209図） 鉄硫玉（882）：鉛製。形状は球体を呈し、円形の打撃痕が看取される。ガラス小玉（883～885）：全て完存品で濃青色を呈する。883・884は共にＳＢ203内出土品。

石製品（第209・210図） 臼玉（886～891）：全て表採品。管玉（892）：表採品。碧玉製で深緑色を呈する。紡錘車（893・894）：893はＳＢ136内出土。894は出土地不明。円板（895～897）：895は2区表採で穿孔を伴わない。896は出土地不明で完存品。平面は正円形を呈し、器体の中軸両側縁に偏して2孔を伴う。897は1区表採で完存品。平面は楕円形を呈し、器体中央に1孔が穿たれる。勾玉（898・899）：898は表採品。結晶片岩製で先端部分を欠損する。899は2区出土品で平面は「(」形を呈する。石材は緑色系の硬質結晶片岩。石包丁（900）：円礫から剥離した剥片を素材としており、片面には打製調整痕が認められる。両端には不揃いの抉りが打製により作出される。矢柄研磨器（901）：赤色珪

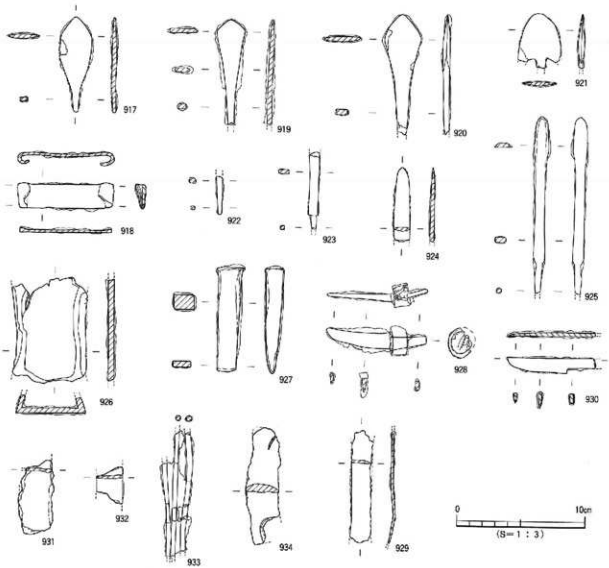


第209図　玉類・石製品(各区出土)実測図

質岩製。石鏃（902～905）：902はＳＢ64内出土。903はＳＫ96内出土。904はＳＢ27内出土。905は２区表採。５区土器溜り出土品（906～915）：906～910は緑色片岩製の石包丁。906・907は磨製で長方形を呈し、表裏に自然面が一部残る。909は直背弧刃形を呈し、両面に丁寧な磨きが施される。５区出土石包丁（911～913）：全て、打製により紐掛け用の抉りが施される。５区出土伐採斧（914）：1／4の残存。緑色片岩製。915は石英粗面岩製の仕上げ用砥石。４面の使用痕を看取。５区出土不明品（916）：平面形態は鎌の先端部を思わせる。石材が石英粗面岩であることより、手持ち砥石の可能性が考えられる。



第210図　石器類（５区出土）実測図



第211図　鉄器類（SB内出土）実測図(1)

鉄製品　①竪穴式住居址（ＳＢ）内出土品（第211図）

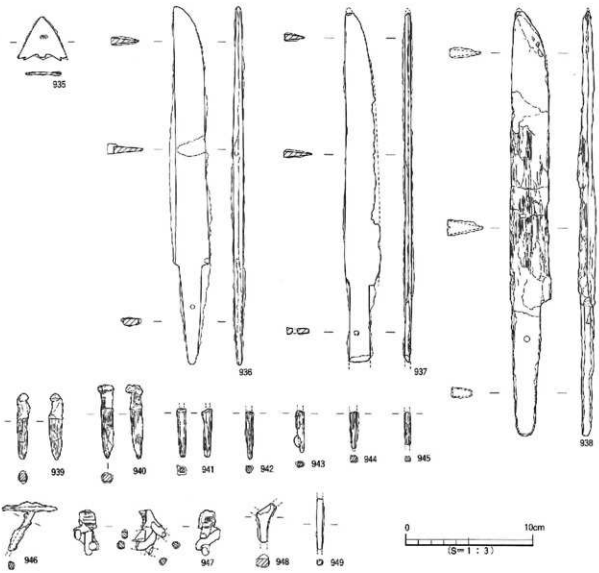
ＳＢ96（917・918）：917は柳葉形鉄鏃。鏃身部の断面は平造により扁平板状を、茎部で長方形を呈す。918は摘鎌或いは手鎌と呼称される穂摘具の完存品。両端は短く180度折り曲げられ、握木を挿入するためのソケット部が遺作される。

ＳＢ53（919）：圭頭形鉄鏃。鏃身関を持たないタイプで残存長8.4cm、刃部幅2.3cmを測る。茎部先端は欠損する。鏃身部断面は平造により扁平板状をなし、茎部断面形態は長方形である。

ＳＢ11（920）：柳葉形鉄鏃。刃部は幅2.8cmを測る。茎部端は欠損。鏃身部は鋳造で断面長菱形、茎部は断面長方形を呈す。

ＳＢ201（921）：ＳＢ内ＳＫ９出土の短茎鉄鏃。茎部端と逆刺部先端を欠損する。鏃身部は鋳造となり、断面形態は菱形を呈す。

ＳＢ126（922～925）：922・923・925は長頸鏃。922は茎部。923は頸部。925は茎部の一部を欠くもの



第212図　鉄器類(SK内出土)実測図(2)

のほぼ完形で、鏃身部は張り出しの弱い柳葉形を呈する。頸部形は直線状で、関部は斜関となる。頸部の断面は長方形である。924は槍先状鉄器で刃部は柳葉形を呈する。

SB65（926）：鋳造の有袋鉄斧。着柄部に近い胴部片で、断面は台形を呈する。表面には錆化による亀甲状のひび割れが多く看取される。

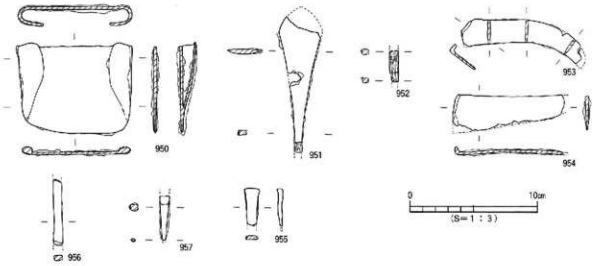
SB98（927）：鑿。握部、先端部共に断面長方形を呈する平鑿。

SB3（928・929）：928はSB3内SK206出土の刀子で完存品。刃部と着柄部との境で曲折し、柄巻き金具が残存する。929は鍛冶素材となる鉄挺である。平面形態は四隅が欠損する長方形を呈する。

SB72（930）：刀子で柄尻を短く欠損するが遺存は良好である。刃部断面は楔形、茎部断面は長方形を呈す。刃部と茎部の境は刃側に段をなす。

SB6（931）：鉄片。

SB111（932）：鉄片。



第213図　鉄器類(SD・SP・SX内出土)実測図(3)

SB69（933）：棒状鉄片。錆化が著しい。

SB93（934）：鉄片。

②土坑（SK）内出土品（第212図）

SK61（935）：無茎鉄鏃のほぼ完存品。平面形は正三角形を呈し、鏃身関部は二重逆刺形状をなす。鏃身中央には矢柄装着用と考えられる透しが2孔穿たれている。

SK71（936）：造込みが平造の小刀。茎尻が幅狭になる茎は生ぶ茎で、中央に1孔の目釘孔が穿たれる。

SK10（937）：小刀。造込みは平造。茎尻は欠損する。茎に1孔の目釘孔を確認。

SK80（938）：造込みが平造の小刀で鞘と考えられる木質が付着する。茎は生ぶ茎と思われる。茎尻は丸く収められる。茎に1孔の目釘孔を確認。

SK182（939～948）：939～946は釘。947・948は部材を繋ぎ合わせる接合金具の可能性が高い。

SK110（949）：釘。

③溝（SD）・柱穴（SP）・性格不明遺構（SX）内出土品（第213図）

SD3（950）：鑿先。基部9.0cm、刃先部幅7.8cm、全長6.8cm、厚さ7㎜を測る。鋳柄を挿入するためのソケット部は基部の両端からほぼ左右対称に折り曲げられる。表面錆化が著しいものの遺存状態は良好である。鍛造品。

SP2761（951）：柳葉形鉄鏃。断面は鏃身部で薄い凸レンズ状を、茎部で長方形を呈す。

SP2762（952）：鉄鏃の茎部。

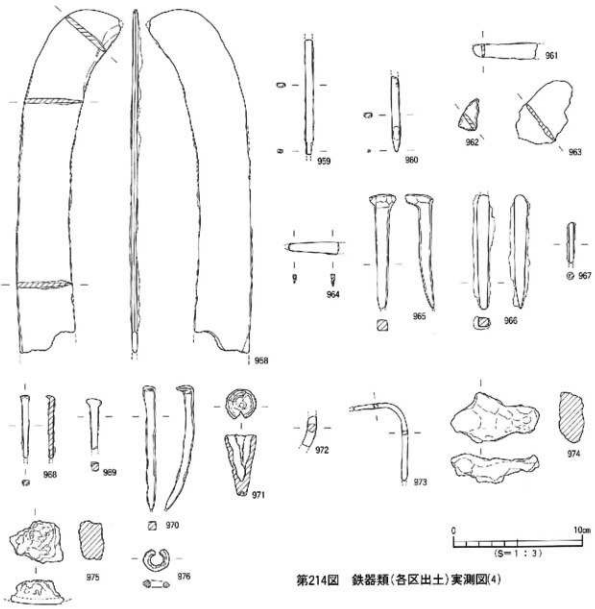
SP1863（953）：背部中位から緩やかに湾曲する曲刃鎌。着柄部端は背側から見て右側に折り曲げられる。

SX120（954）：直刃鎌。先端部は欠損する。着柄部端は背側から見て右側に折り曲げられる。

SP1177（955）：棒状製品。

SX533（956・957）：956は棒状鉄片。957は釘。

④各区出土・地点不明品



第214図　鉄器類(各区出土)実測図(4)

曲刃鎌（958）：5区上器溜り上面出土。背部先端部から緩やかに湾曲する大型曲刃鎌。着柄部は欠損する。

鉄鏃（959・960）：959は2区出土。960は出土地不明。

鉄片（961～963）：961は1区出土。962・963は2区出土。962の形態は三角形を呈する。

刀子（964）：2区出土。刃部先端、茎部は欠損。刃部中央付近は、研ぎ減りによりやや細くなる。

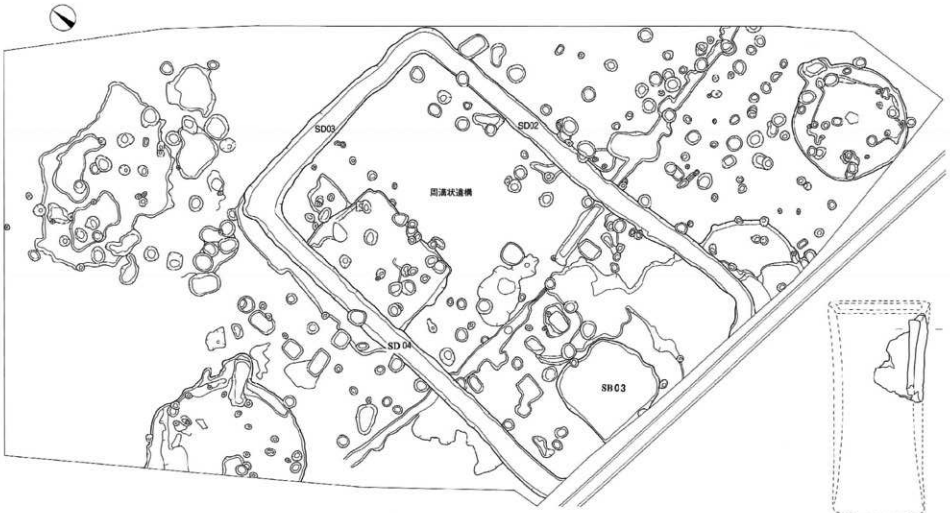
釘（965～970）：965～967は1区出土。968は2区出土。969・970は3区出土。

石突（971）：2区出土。全長4.8cm、最大径2.4cmを測り、断面は円形を呈する。錆化及び欠損により、袋部の合わせ目、目釘痕跡は認められない。

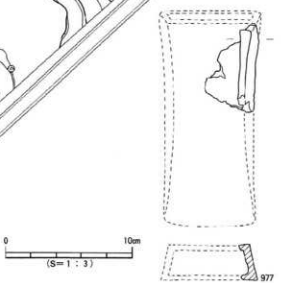
不明品（972）：2区出土。

出土地点不明品（973～975）：973は釘か。974・975は椀形鉄滓。

耳環（976）：2区出土。外径2.0cm、内径1.05cmを測る。内側の一部に金色の光沢が残存するものの腐蝕が著しく表面の大部分は緑青色である。



第215図　筋違B遺跡遺構配置図



第216図　筋違B遺跡(SB03内)出土鉄器実測図

【参考資料】

本調査地に近接する筋違B遺跡ＳＢ03内から鋳造鉄斧１点が出土している。ＳＢ65内からも１点出土(926)していることより参考資料として掲載する。

筋違B遺跡　国道11号線バイパス工事に伴い、建設省四国地方建設局の委託を受けて、松山市教育委員会が、1974（昭和49）年１月から同年８月31日までに実施した発掘調査である。遺跡名と調査区は、地域名と工事計画の中心杭を考慮し設定された。中心杭No19～38を福音寺遺跡とし、その内No33～38を筋違地区とした。さらに筋違地区はＡ区（No37～38）・Ｂ区（No33～36）に細分して調査が進められた。その後、周辺地域内で発掘調査件数が増加し、遺跡名称を再考することとなった。よって福音寺遺跡筋違Ａ地区は、筋違Ａ遺跡に、同じくＢ地区は筋違Ｂ遺跡に名称変更を行った。

遺構は竪穴式住居址、掘立柱建物址、周溝状遺構（ＳＤ２～４　時期：５世紀）、土坑墓等が検出されている。遺物は弥生土器、土師器、陶磁器、鉄製品、石製品等が出土している。

ＳＢ03（第215図）　調査区南側中央部、南壁際に位置する。平面形態は方形を呈し、規模は一辺4.0m、深さ約10cm、床面積16.00㎡を測る。出土遺物は土器細片（時期不明）、鉄製品が出土した。なお当時の調査工程上、遺構認定にやや困難な状況があったことを記しておく。

※１　第215図は報告書（参考文献）から転写・再トレース掲載。

ＳＢ03内出土遺物（第216図）

鉄製品　鉄斧（977）：鋳造の有袋鉄斧。着柄部に近い胴部片で、断面は台形を呈する。

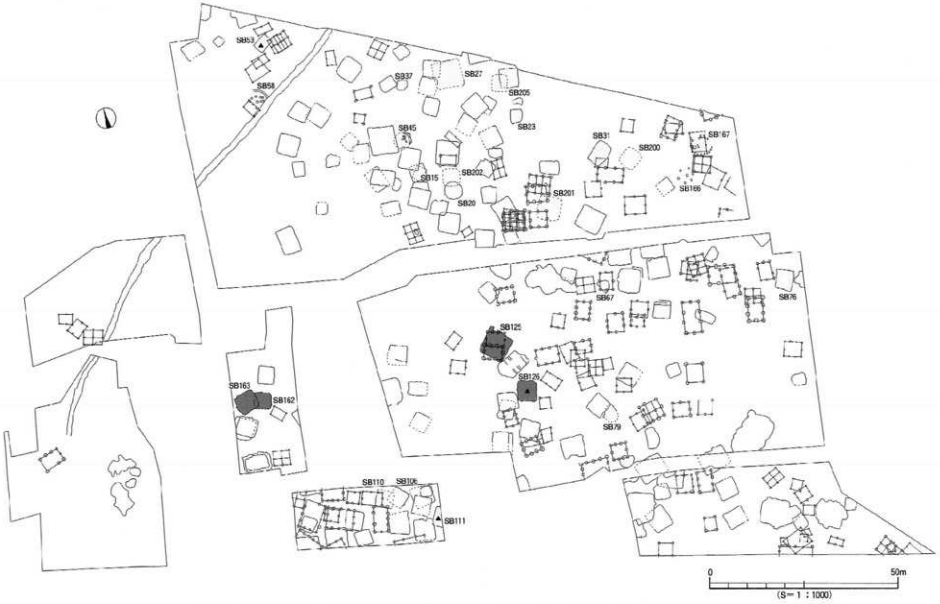
時　　期：出土遺物から古墳時代中期後半以降と考える。

４．小　　結

本調査は、小学校建設工事に先立ち、予定地内に残された先人の軌跡（特に弥生時代～中世）の把握・解明と既に調査されている周辺遺跡との比較・検討を主目的に実施された緊急発掘調査である。その結果、竪穴式住居址（ＳＢ）131棟、掘立柱建物址（掘立）114棟、溝状遺構（溝を含む、ＳＤ）75条、井戸（ＳＥ）２基、土坑（ＳＫ）236基、波板状凹凸遺構（波板）183基、性格不明遺構（ＳＸ）25基、壺棺墓５基、塚３基、柱穴（ＳＰ）11,000基など弥生時代～近現代における遺構・遺物を検出・確認することができた。以下、古墳時代以降の遺構・遺物について時代時期別にまとめを行う。なお、掘立柱建物は出土遺物が少ないことから時期決定が難しい。しかし、今回は遺構の切り合い状況、埋土等から可能性のある時期を積極的に導き出した。他の遺構についても同様である。

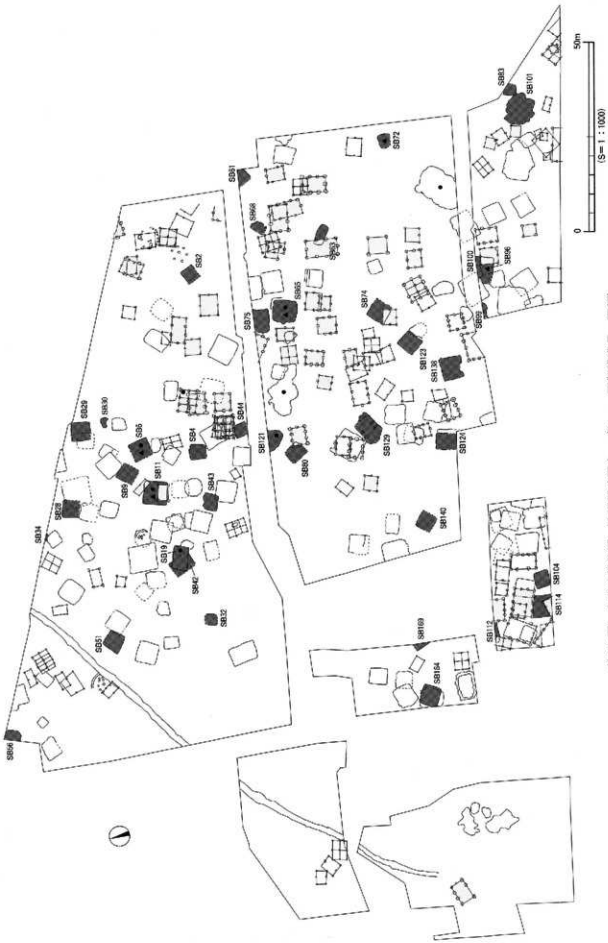
古墳時代前期

前期後半～中期前葉に比定される竪穴式住居址は４棟を検出した。平面形態は方形を呈すＳＢ125（第７図）と隅丸方形を呈すＳＢ126（第９図）・ＳＢ162（図未掲載）・ＳＢ163（第11図）がある。ＳＢ162以外は全て４本の主柱穴を持つ。ＳＢ125の北壁際中央部には焼土塊が検出されており、位置的に竈の痕跡である可能性も考えている。ＳＢ126内からは散在的に鉄製品が４点（922～925）出土している。長頸鏃３点（内１本は、ほぼ完存品）、槍先状鉄器１点といずれも武器類である事が注目される。



第217図　弥生時代・古墳時代前期　遺構概略図（▲…鉄）　〔○…弥生期　●…古墳前期～〕

第218図　古墳時代中期　遺構概略図（▲…鉄　●…石製模造品・玉類）



第219図　古墳時代後期　遺構概観図（・…鉄　・…石製模造品・玉類）

ＳＫ226は壺（２点）、甕（１点）を連結させる土器棺墓である。主棺とみられる壺（618）は山陰系の複合口縁壺である。広口壺（619）は副棺と思われ、口縁部・底部はやや厚く仕上げられる。蓋として利用された甕（620）は胴部中位で上棺の口縁部に納まる。なお、本調査地周辺において当概期の資料、特に搬送関連遺構・遺物の検出例は少ない。

古墳時代中期

竪穴式住居址は中期前半（中期以降を含む）に比定される住居址36棟、中期後半（中葉・後葉を含む）に比定される住居址30棟の計66棟を検出した。

ＳＢ７（第13図）の平面形態は方形を呈し、西壁及び南壁に平行する溝を持つ。建て替え或いは構築材によるベッド状施設の可能性を考える。中央部で検出された焼土は地床炉の痕跡であろう。また、床面にて確認された小穴（主柱穴を除く）の一部には規則性があり、構造上の補助柱穴と思われる。遺物は土師器、石包丁、勾玉、棒状石製品、朱付着磨石が出土している。棒状石製品は両端を欠損するが形状から石杵と思われる。磨石には敲打所の敲打痕が認められる。遺存状態から石杵と磨石は、後世による叩き石に転用された可能性もある。

ＳＢ62（第32図）は内部に柱穴を持たない小竪穴建物址である。平面形態は歪な方形を呈し、４箇所の竈痕跡を残す。出土遺物に甑・塊が多いことと狭小な床面積（11.81㎡）から居住用ではなく、「炊事専用」建物址の可能性を考える。

ＳＢ13（第65図）は１区北側中央に位置する。検出された構造・規模（床面積12.08㎡）等からＳＢ62と同様の性格を有するものと思われる。竈は南東隅に１基配置される。竈の位置を考慮するように建物の南壁体が一部突出する。

ＳＢ102（第47図）の平面形態は歪な方形を呈する。著しい削平により検出状況は良好ではないが、床面直上から非陶邑系須恵器の壺と朱付着石杵が出土している。非陶邑系須恵器の壺は形態・施文等から市場南組窯（愛媛県伊予市所在）系須恵器と思われる（三吉 2002）。また、石杵は側断面の形態から所謂「Ｌ字状石杵」と呼称されるものである。緩くカーブを描く磨面に水銀朱が残存する。

ＳＢ95（第43図）・ＳＢ73（第85図）は検出時の平面形態が不整で、上柱穴、壁体溝等の屋内施設はない。よって住居址としては認定が難しいが、共に完形の手捏土器が出土していることから何らかの祭事的行為に纏わる小建物址の可能性がある。

ＳＢ３（第39図）の平面形態はやや歪な方形を呈する。中央部で検出された焼土は地床炉の痕跡と考える。東壁体の中央部には平面長方形の土坑（ＳＫ206）が配置される。ＳＫ206内からは刀子（928）が出土している。また住居内から鉄鏃（929）が出ている。以上のことから工人が居住していた可能性が考えられる。なお、鍛冶工房に関連する資料（鉄片、鉄滓等）は確認されていない。

ＳＢ137（第55図）は２ａ区西壁際に位置し、平面プラン半分の検出であった。北側壁体中央にある竈痕下で確認されたＳＫ164は、埋土及び不整なプランから竈の前庭部に、また竈痕の北側に位置する小ピットは煙道の痕跡の可能性がある。

ＳＢ85（第87図）は検出された主柱穴から２回の改築（補修）が行われている。四角形的な張り出し部は、改築時の拡張による可能性がある。

掘立柱建物址は中期前半（中期以降を含む）の可能性がある４棟、中期後半（中葉・後葉を含む）の可能性がある８棟の計12棟を検出した。

古墳時代後期

竪穴式住居址は後期前半に比定される住居址12棟、後期後半（古墳以降を含む）に比定される住居址28棟の計40棟を検出した。

ＳＢ121（第117図）は遺存状態が良好ではないが、床面積52㎡を超える大型竪穴式住居である。平面形態は隅丸長方形を呈するものと思われる。出土遺物には、土師器、須恵器、石製品（子持勾玉、勾玉各１点）がある。県内６例目の出土となる子持勾玉は完存品で、動物を連想させる目・口が穿孔やＶ字状の切り込みによって表現される。

掘立柱建物址は後期前半の可能性がある６棟、後期後半（古墳以降を含む）の可能性がある48棟の計54棟を検出した。

ＳＸ533（第192図）の平面形態は不整で、柱穴・壁体溝等の屋内施設はない。遺物の検出状況から古墳時代中期前半～古代にかけて使用された生活物を廃棄するための施設ではないかと考える。注目される出土遺物には、非陶邑系須恵器の壺（753）、特殊扁壺（761）がある。この特殊扁壺と同一個体と考えられる破片が東方40mに位置するＳＢ68から出土している。また、同一個体（748）と考えられる須恵器片が北西120mに位置するＳＢ56から出土していることから利用エリアは広範囲に拡がるものと思われる。なお、ＳＸ534（第196図）も遺構・遺物の検出状況等からＳＸ533と同様の施設であった可能性が高い。

ＳＥ１（第201図）の掘方平面形は楕円形を、断面形は逆台形状を呈する。掘削坑の壁を保護する設備等が確認されていないことから素掘りの井戸と考える。なお井戸底で須恵器大甕の体部片（図化せず）が検出されている。この須恵器片が取水・浄化の役割を果たす「水溜」に代用されたことが考えられる。

ＳＰ4419出土の甑（855）は、柱痕内で口縁部側を下向きに伏せた状態で出土した。体部のみ完形品で口縁部は頸部で切除されている。口縁打欠きⅣ類（浅岡2002）に該当するものである。（註３）

古　代

掘立柱建物址は古代以降の可能性がある23棟を検出した。

波板状凹凸遺構（第189・190図）は、調査区の１区、２ａ・２ｂ区にて部分的に183条が確認された。凹凸部は一定の方向性を持って連続的に掘り込められることにより形成され、重複関係も多い。平面形態は不整楕円形を呈するものが大部分を占める。断面形状は皿状、舟底状、逆台形状など様々である。覆土は灰褐色土、暗灰茶褐色土などの単層で硬くしまっており、パラス状の小石や土器片が人為的に埋め込まれているケースも多く見られた。なお残存的ながら、波板状凹凸遺構の片側及び両側に沿う小溝が検出された。

中　世

掘立柱建物址は中世以降の可能性がある25棟を検出した。

ＳＫ73（第163図）・ＳＫ110（第165図）・ＳＫ133（第167図）は、遺構プラン及び出土遺物から土坑墓と考えられる。人骨・歯等は検出されていない。

ＳＫ10・71・80（図未掲載）からは各一振の小刀（937・936・938）が出土している。ＳＫ71・80の平面形態は隅丸長方形を呈し、断面形は浅い皿状になる。上部からは拳大の川原石が多数配置されていることから中世の集石墓と考える。なお、人骨は確認されていない。

ＳＥ２は出土遺物から中世前期に機能していたものと考えられる。地上の保護柵にあたる「井桁」、井戸本体である「井側」、井側の底に設置して取水・浄化の役割を果たす「水溜」等の施設は全て確認されていない。また周囲の土壙は、検出面である地山から深さ２ｍを超えるまで礫混じりで硬く締まっ

ている。以上のことから、ＳＥ２は素掘りの井戸と考える。
（註３）：検出時の写真を「写真図版編」に掲載。

第Ⅳ章　調査の成果と課題 －古墳時代以降編－

本章では、福音小学校構内遺跡における古墳時代以降の集落変遷を竪穴式住居址・掘立柱建物址を中心に概観する。また、特筆すべき遺構・遺物について列記する。なお、前編である「－弥生時代編－」に掲載できなかった資料についても補足的に記述する。

１．遺跡の立地　本遺跡が所在する福音寺地区の標高は現在27～31ｍである。周辺は、近現代の削平に伴い平坦地となっている。等高線及び河川等の自然的環境観察から付近一帯の旧地形は微高地化しており、当該地が最も高い地点であると考えられる。

２．集落の変遷（第217～219図）　古墳時代の竪穴式住居址［以下、竪穴］は100棟、掘立柱建物址［以下、掘立］が66棟が検出されている。また、古代にかかる掘立23棟、中世の掘立25棟を確認した。

古墳時代前期にかかる検出は竪穴４棟である。このデータは周辺で行われた調査事例と同じく資料的に稀薄な時期であることを裏付けるものである。

古墳時代中期にかかる検出は竪穴66棟（前半期36棟、後半期30棟）、掘立12棟（前半期４棟、後半期８棟）である。居住人口（世帯数）は前の時期と比べ大幅に増加し、前半期と後半期の数値がほぼ同様であることからエリア内での住み替え（移動）が行われた可能性が高い。また、この時期の居住用としては竪穴が中心であり、掘立の大半は倉庫的役割があったのではないかと考える。

古墳時代後期にかかる検出は竪穴40棟（前半期12棟、後半期28棟）、掘立54棟（前半期６棟、後半期48棟）である。竪穴の数値は前の時期より減少し、掘立の数値は増加する。これは居住形態が竪穴から掘立に移行する傾向にあることを示唆している。

古代にかかる検出は掘立23棟であるが、古墳時代後期後半期に含めた竪穴の一部が古代に該当することは十分考えられる。

中世にかかる検出は掘立25棟である。数値的には減少しているが、中世期には掘方をもたない建物が数多く存在することから詳細は不明である。福音寺地区内においては12～15世紀の遺構・遺物の検出例が多い。近接する筋違Ｂ遺跡からは鉄製直刀・輸入陶磁器が出土している。直刀は本調査地出土の小刀（936～938）と形態・時期が同様と思われるものである。以上のことから中世前半期の集落・墓域は同区全域に拡大・継続されていたものと考える。

３．祭祀遺構・遺物　福音寺地区からは数多くの滑石製模造品（勾玉、有孔円板、臼玉等）が出土している。これらは基本的祭祀具として古墳時代中期に出現し、集落・祭祀遺跡に普及する（相田 1991）。本遺跡の石製模造品は古墳時代中期後半～後期後半に位置づけられる一部の竪穴式住居址から出土し、鉄製品が共伴するケースがある（第217～219図）。鉄製品を祭祀遺物と見ることは早計であるが、該当住居址が祭祀を行うべき建物或いは人物が居住していたことは容易に伺われる。

ＳＰ4419では須恵器の口縁部打欠き儀礼が確認された。使用される器種は異なるものの同様の柱穴内における祭祀行為が近接する筋違Ｎ遺跡ＳＰ100で確認されている（加島 2001）。共に古墳時代後期の資料であり、機期の祭祀形態を検討する上で貴重な事例となるものである。なお、ＳＰ4419は子持勾玉

出土地に近接する（第117図）。

4．波板状凹凸遺構　本調査において１区、２ａ・ｂ区にて確認された。不整な楕円形プランは方向性及び連続性を持ち、部分的な残存ながら側溝を伴う。近年、全国各地で確認されている道路遺構（ＳＦ）の補修痕跡に極似する。本調査検出の波板状凹凸遺構は、大部分の盛土（黒土）が締まっている点、部分的に見受けられるバラス（小石、細片土器）の人為的な混入、側溝の付設等から道路関連遺構である。同様の遺構は、近接する筋違Ｅ・Ｌ遺跡においても検出されている。しかし諸条件に若干の差異があり、早計に判断することは避ける。いずれにせよ雨水の浸透面積の拡大、軟弱地盤の補強、或いは道路改修工事等の当時における土木技術・施工の一環であろうと考える。

5．周溝状遺構　ＳＤ91（第187図）は後世の削平により遺存状態は良好とは言えない。平面形態は隅丸方形を呈し、周溝内側の平坦部に施設痕跡はない。検出規模は異なるものの形態的に文京遺跡３次調査ＳＸ１（柴田 1992）と同様であることから祭祀的遺構と考える。出土した弥生後期土器は全て破片資料である。また、埋葬施設は確認されていない。

以上、古墳時代以降の遺構・遺物を中心に概観した。古墳時代中期、福音寺地区の微高地上に突如出現する大集落形成には社会的背景があり、竈の出現、石製模造品を使用した祭祀行為等の変因が密接に絡み合うと思われる。今後は、各々の課題について周辺地域はもとより他地域との詳細なる比較検討を行い、特に今回踏み込めていない福音寺地区の地域性及び集落形成における要因を明らかにしていきたい。

【遺構と遺物　参考文献】

1．石野博信　1991『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館
2．牧本哲雄他 1999『長瀬高浜遺跡Ⅷ　調第６遺跡』財団法人鳥取県教育文化財団　鳥取県埋蔵文化財センター
3．栗山茂敏　1992『文京遺跡－第２・３・５次調査－』松山市文化財調査報告書28
4．梅木謙一他 1995『福音小学校構内遺跡－弥生時代編－』松山市文化財調査報告書50
5．合田幸美　1988「出現期のカマド」『網干善教先生華甲記念考古学論集』網干善教先生華甲記念会
6．松井一明他 1995「古墳時代の集落　収録集」『静岡県考古学会シンポジウムⅧ』静岡県考古学会
7．大久保徹也 1995「讃岐地方における朱関連資料－特に内面朱付着土器について－」『月刊考古学ジャーナルNo394』ニューサイエンス社
8．谷若倫郎他 1993『出作遺跡１』松前町教育委員会
9．相田則美　1991「道後平野における古墳時代の集落内祭祀」『松山大学構内遺跡－第２次調査－』松山市文化財調査報告書20
10．山本健一　1998「松山平野出土の紡錘車－断面形からみた谷町遺跡出土の紡錘車の位置づけ－」『和気・堀江の遺跡Ⅱ』松山市文化財調査報告書64
11．山之内志郎 2000「愛媛県伊予市立伊予小学校保管の石杵」『遺跡37号』遺跡発行会
12．長井数秋　1994「伊豫市市場南組１号窯跡出土の須恵器」ソーシアル・リサーチ　第20号
13．三吉秀充　2002「伊予出土の陶質土器と市場南組窯系須恵器をめぐって」愛媛大学考古学研究室
14．西川真美　2001「道後平野を中心とした７世紀の須恵器」『古代土器研究３』古代の土器研究会

15. 栗山茂敏・加島なおみ 1996「第２章　馬場姥ヶ懐窯址」松山市文化財調査報告書57
16. 西川真美・平田慶子 1998『西野春日谷遺跡 通谷池２号墳』嫦埋9-8　財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
17. 山本健一　1996「第３章　北梅本憲社谷遺跡」松山市文化財調査報告書57
18. 栗田茂敏　1994『石井幼稚園遺跡』松山市文化財調査報告書45
19. 庄内式土器研究ＸＸⅣ 2001「四国地方を中心として」庄内式土器研究会
20. 野口光比古・大滝雅嗣 1986『宮前川遺跡』嫦埋60-2 財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
21. 梅木謙一　1997「伊予における弥生時代の周溝状遺構」『桑原地区の遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書58
22. 森　光晴・西尾幸則他　1983「国道11号バイパス福音寺・星ノ岡・北久米遺跡」松山市文化財調査報告書17
23. 木下　良　1994「古代道路の地表遺構」『季刊考古学第46号』雄山閣
24. 飯田充晴　1994「埼玉県東の上遺跡の道路遺構」『季刊考古学第46号』雄山閣
25. 中世土器研究会編 1995『概説　中世の土器・陶磁器』真陽社
26. 藤山直也他 2002「東谷・中島地区遺跡群２　砂山遺跡（１区・２区・３区）」栃木県埋蔵文化財調査報告書第265集　財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター
27. 杉山秀宏　1988「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集』８　橿原考古学研究所
28. 加島次郎　2001「筋違N遺跡」『福音寺地区の遺跡Ⅲ』松山市文化財調査報告書84
29. 浅岡俊夫　2002「須恵器の口縁部・脚台部の打欠き儀礼」『田辺昭三先生古稀記念論文集』
30. 石岡ひとみ 1999「愛媛県出土中世の蓋棺墓に関する調査報告」『研究紀要第４号』愛媛県歴史文化博物館

遺構・遺物一覧　－凡例－

(1) 以下の表は、本調査検出の遺構・遺物（一部を除く）の計測値及び観察一覧である。
　遺構一覧は武正が、遺物観察表は武正・木下奈緒美・村上真由美・岩本美保が作成した。

(2) 遺構の一覧表中の出土遺物欄の略号について。
　例）弥生 ▸弥生土器、土師 ▸土師器、須恵→須恵器

(3) 遺物観察表の各記載について。
　法量欄　　「]：復元推定値、（ ）：残存値、数値のみ：完存値。
　形態・施文欄 土器の各部位名称を略記。
　例）口体部→口縁部と体部
　胎土欄　　胎土欄では混和剤を略記。
　例）長→長石、石→石英、金→金雲母。数値は混和剤粒子の最大値を示す。
　例）３㎜　石・長→「１～３㎜大の石英・長石を含む」である。

竪穴式住居址一覧

SB	調査区	グリッド	時代時期	平面形	埋土	長さ×幅(cm)	深さ(cm)	床面積(㎡)	主柱穴(基)	周壁溝	内部施設 高床	内部施設 間仕切	内部施設 土坑	カマド(炉) 位置	カマド(炉) 支脚	出土遺物	須恵器型式	備考(柱間距離・単位cm)	図版
1	1区	N1E1	古墳中期後半	長方形	黒色土(黄色混)	645×590	7	38.06	4	溝・小P	無	無	有	焼土(中央)	不明	土師・須恵		P1－2；365, P2－3；225, P3－4；200, P4－1；240	[illegible]
2	1区	N2・1E5	古墳後期前半	方形	黒色土(灰色混)	370×350	削平	12.95	不明	溝	無	無	有	不明	不明	土師			
3	1区	N2W3	古墳中期中葉	方形	黒色土(黄色混)	550×520	20	28.60	4	溝・小P	無	無	有	焼土	不明	土師・須恵・石器		P1－2：220, P2－3：200, P3－4：230, P4－1：205	[illegible]
4	1区	N3W3	古墳後期後半	隅丸方形	黒色土(黄色混)	430×400	10	17.20	2	溝・小P	無	無	無	北壁中央	不明	土師・須恵		P1－2；180	[illegible]
5	1区	N4W3・4	古墳中期後葉	長方形	黒色土(黄色混)	429×375	16	16.09	4	溝・小P	無	無	無	北壁中央	不明	土師・須恵・砥石		P1－2；145, P2－3；160, P3－4；155, P4－1；150	[illegible]
6	1区	N5・6W3	古墳後期前半	方形	黒色土(灰色混)	515×485	7	24.98	(2)	溝	無	無	有	不明	不明	土師・須恵・砥石		P1－2；230	[illegible]
7	1区	N7W3	古墳中期前半	方形	黒色土	545×520	28	28.34	4	溝	無	無	有	焼土(中央)	不明	土師・須恵・勾玉		P1－2；205, P2－3；200, P3－4；200, P4－1；200	[illegible]
8	1区	N6・7W2・3	古墳中期前半以前	隅丸方形	黒褐色土	(350＋α)×340	10	11.90＋α	不明	溝・小P	無	有	無	焼土(中央)	不明	土師			[illegible]
9	1区	N6W4	古墳後期後半	方形	黒褐色土(黄色混)	435×(300＋α)	削平	13.05＋α	4	溝	無	無	無	不明	不明	土師・須恵	TK43	P1－2；300, P2－3；175, P3－4；185, P4－1；175	
10	1区	N2W6	古墳中期前半	隅丸方形	黒色土(灰色混)	550×545	18	29.98	4	無	無	無	有	西壁中央	不明	土師・須恵・石器		P1－2；285, P2－3；255, P3－4；290, P4－1；250	[illegible]
11	1区	N5W5	古墳後期後半	方形	黒色土(灰色混)	610×590	20	35.99	4	溝	無	無	有	北壁中央	不明	土師・須恵・臼玉		P1－2；250, P2－3；260, P3－4；260, P4－1；300	[illegible]
12	1区	N8・9W3	古墳中期後半	方形	黒褐色土	(560＋α)×(280＋α)	8	15.68＋α	(1)	溝・小P	無	有	有	焼土	不明	土師・須恵			
13	1区	N10W6	古墳中期後半	隅丸方形	黒褐色土	350×345	18	12.08	不明	溝	無	無	有	西南隅	不明	土師			[illegible]
14	1区	N3・4W6・7	古墳中期後半	方形	黒褐色土	507×498	6	25.25	4	溝・小P	無	無	有	不明	不明	土師・須恵		P1－2；230, P2－3；200, P3－4；230, P4－1；185	[illegible]
15	1区	N4W6・7	弥生中期以降	長方形	黒色土	416×(194＋α)	12	8.07＋α	不明	無	無	無	無	不明	不明	分銅型土製品			[illegible]
16	1区	N4・5W6・7	古墳中期後半	隅丸方形	黒色土	400×390	20	15.60	不明	無	無	有	無	不明	不明	土師・須恵・砥石			[illegible]
17	1区	N5W6・7	古墳中期後半	方形	暗褐色土	550×530	18	29.15	4	溝	無	無	無	北壁中央	不明	土師・須恵・砥石		P1－2；300, P2－3；290, P3－4；290, P4－1；300	[illegible]
18	1区	N1W4	古墳中期前半	方形	黒色土(灰色混)	500×(430＋α)	18	21.50＋α	4	無	無	無	無	無	無	土師・須恵・有孔円盤		P1－2；170, P2－3；170, P3－4；175, P4－1；180	[illegible]
19	1区	N4・5W7・8	古墳後期前半	長方形	黒褐色土	600×390	24	23.40	不明	無	無	無	無	北壁中央	高坏	土師・須恵・管玉			[illegible]
20	1区	N3・4W5	弥生後期以前	円形	暗茶褐色土	448×440	12	19.71	不明	溝・小P	不明	不明	不明	不明	不明	無			[illegible]
21	1区	N4・5W3	古墳中期前半	隅丸長方形	黒色土(灰色混)	325×260	15	8.26	2	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵		P1－2；300	
22	1区	N3・4W1	古墳中期後半	隅丸長方形	黒褐色土	505×340	28	17.17	不明	無	無	無	無	無	無	土師・須恵・石鏃	TK208		
23	1区	N6W1・2	弥生後期以降	隅丸方形	黒色土	370×320	12	10.44	(2)	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵		P1－2；160	
24	1区	N3W8	古墳中期前半	隅丸方形	黒褐色土	(475＋α)×355	10	16.86＋α	2	溝	無	有	無	無	無	土師・須恵		P1－2：220	[illegible]
25	1区	N4W7	古墳中期後半	方形	黒色土	308×(160＋α)	10	4.43＋α	不明	無	無	無	無	焼土	不明	土師			
26	1区	N6W7・8	古墳中期後半	方形	黒褐色土	720×665	15	47.88	4	溝	不明	有	有	北壁中央	不明	弥生・土師・須恵		P1－2；330, P2－3；320, P3－4；310, P4－1；315	[illegible]
27	1区	N8・9W4	弥生後期？	花弁形？	黒褐色土	685×(587＋α)	削平	40.21＋α	6	溝	有？	有？	有	無	無	弥生・土師・須恵			
28	1区	N9W5	古墳以降	隅丸方形	暗褐色土	450×(401＋α)	削平	18.18	不明	溝	無	無	有	不明	不明	弥生・須恵			
29	1区	N7・8W2	古墳以降	方形	黒褐色土(灰色混)	500×485	削平	24.25	4	溝	無	有	有	無	無	土師		P1－2；200, P2－3；195, P3－4；195, P4－1；220	
30	1区	N7W1・2	古墳後期後半	隅丸方形	黒色土(灰色混)	(255＋α)×(195＋α)	20	4.97＋α	不明	無	不明	不明	有	焼土	不明	土師・須恵	TK43		
31	1区	N3・4E2・3	弥生後期以前	隅丸長方形	黒色土	610×430	15	10.40	4	溝	不明	無	無	炉	不明	無		P1－4；250, P2－3；225	[illegible]
32	1区	N4W11	古墳後期以降	隅丸方形	暗褐色土	(295＋α)×(262＋α)	7	7.73＋α	不明	無	無	無	無	無	無	土師			
33	1区	N3・4W12・13	古墳中期前半	隅丸長方形	黒色土	700×470	10	32.90	不明	無	無	無	有	焼土	不明	土師			[illegible]
34	1区	N10W6	古墳後期以降	隅丸方形	黒褐色土	(200＋α)×(75＋α)	15	1.50＋α	不明	溝	無	無	有	焼土(西隅)	不明	土師・須恵			
36	1区	N6W8・9	古墳中期前半	隅丸方形	黒褐色土	710×(490＋α)	10	34.79＋α	不明	無	無	無	有	無	無	土師・須恵			
37	1区	N8・9W6	弥生後期以降	隅丸方形	黒灰色土	(290＋α)×(210＋α)	7	5.90＋α	(2)	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵		P1－2；155	
38	1区	N8・9W7	古墳中期前半	隅丸長方形	黒褐色土	400×310	9	2.40	不明	溝・小P	無	無	無	焼土(中央)	無	土師・須恵・石器			
39	1区	N9・10W8・9	古墳中期前半	隅丸方形	黒褐色土	565×535	25	30.23	4	溝	無	無	有	北壁中央	高坏	土師・須恵・砥石		P1－2；230, P2－3；205, P3－4；230, P4－1；195	[illegible]
41	1区	N8・9W5	古墳中期後半	隅丸方形	黒褐色土(灰色混)	450×(440＋α)	20	19.80＋α	4	溝・小P	無	無	有	無	無	須恵	TK208	P1－2；200, P2－3；210, P3－4；195, P4－1；200	
42	1区	N4・5W8	古墳後期以降	長方形	黒褐色土(茶色混)	575×(287＋α)	10	16.50＋α	不明	溝・小P	無	無	有	不明	不明	無		SB19に先行	
43	1区	N3W5・6	古墳後期以降	隅丸方形	黒灰色土(黄色混)	405×385	11	14.95	(2)	溝・小P	無	有	有	焼土	不明	土師・須恵		P1－2；155	
44	1区	N1W3	古墳後期以降	方形	暗茶褐色土	303×300	削平	9.09	(3)	溝・小P	無	無	無	無	無	無		P1－2；155, P2－3；－, P3－4；－, P4－1；180	
45	1区	N6W6・7	弥生後期以前	円形	黒灰茶色シルト	不明	2	不明	不明	溝・小P	不明	不明	不明	不明	不明	無			[illegible]
46	1区	N7W5・6	古墳中期後半	隅丸長方形	黒色土	450×395	20	17.78	2	溝	無	無	有	北壁東隅	高坏	弥生・土師・須恵・石器		P1－2；150	[illegible]
47	1区	N6・7W9	古墳中期前半	隅丸方形	暗灰褐色土	削平	削平	不明	不明	無	不明	不明	不明	南壁東隅	高坏	土師			[illegible]
48	1区	N6W11・12	古墳中期後半	長方形	黒灰色土	390×305	10	11.90	1	溝	無	無	無	焼土	無	土師・須恵			
49	1区	N7W11・12	古墳中期後半	方形	黒灰色土	530×520	13	27.56	4	溝	無	無	有	無	無	土師・須恵・砥石		P1－2；260, P2－3；210, P3－4；240, P4－1；225	[illegible]
50	1区	N6W9・10	古墳中期前半	隅丸方形	黒灰色土	375×(330＋α)	10	10.94＋α	不明	無	無	無	有	無	無	弥生・土師			
51	1区	N8W10・11	古墳後期以降	方形	黒色土	475×460	8	21.85	4	溝・小？	無	無	有	無	無	土師・須恵		P1－2；195, P2－3；185, P3－4；200, P4－1；205	
52	1区	N7・8W10	古墳中期前半	方形	暗茶褐色土	462×(385＋α)	削平	17.79＋α	4	溝	不明	不明	有	無	無	土師		P1－2；220, P2－3；240, P3－4；220, P4－1；240	[illegible]
53	1区	N11・12W11・12	弥生後期以降	長方形	茶褐色土	420×280	10	11.76	不明	溝	無	無	有	東壁東隅	不明	弥生・土師・須恵			
54	1区	N12・13W12	古墳中期前半	方形	黒灰色土	(480＋α)×495	9	23.76＋α	4	無	無	無	有	無	無	土師		P1－2；210, P2－3；145, P3－4；215, P4－1；130	
55	1区	N12W13・14	古墳中期以降	隅丸方形	暗褐色土	225×225	20	5.06	不明	溝	無	無	有	無	無	無			
56	1区	N13・14W13・14	古墳後期前半	隅丸方形	暗茶褐色土	(430＋α)×(273＋α)	14	11.88＋α	不明	無	無	無	有	焼土	不明	土師・須恵	TK47		
57	1区	N12W14・15	古墳中期後半	隅丸長方形	黒灰色土	515×415	15	21.37	4	溝	無	無	無	無	無	土師・須恵		P1－2；215, P2－3；145, P3－4；225, P4－1；170	[illegible]
58	1区	N9W12	弥生後期以前	円形	暗灰褐色土	不明	7	不明	不明	溝・小P	不明	不明	不明	不明	不明	無			[illegible]
61	2a区	S3E8・9	古墳以降	隅丸長方形	暗茶褐色土	(392＋α)×(380＋α)	6	14.90＋α	(2)	無	無	無	無	無	無	石鏃		P1－2；180	
62	2a区	S2W1	古墳中期前半	隅丸長方形	黒灰色土	358×336	14	11.81	不明	無	無	無	有	焼土	不明	土師・須恵・有孔円盤			[illegible]
63	2a区	S5・6E5・6	古墳後期以前	隅丸長方形	茶褐色土(黄色混)	553×347	45	13.38	不明	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵			
64	2a区	S3E4	古墳中期後半	隅丸方形	黒灰色土	515×504	削平	25.96	4	無	無	無	有	無	無	石皿	TK23	P1－2；240, P2－3；250, P3－4；230, P4－1；250	
65	2a区	S3・4E2・3	古墳後期後半	隅丸方形	黒灰色土	480×420	10	20.16	4	溝	有？	無	無	西壁中央	不明	土師・須恵・管玉		P1－2；320, P2－3；320, P3－4；300, P4－1；340	[illegible]
67	2a区	S3E1・2	弥生後期以降	円形？	暗茶褐色土	(255＋α)×340	18	8.67＋α	不明	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵			
68	2a区	S3E6	古墳以降	長方形	黒灰色土	326×200	11	5.44	不明	無	無	無	無	無	無	土師・須恵		非陶邑系須恵器片？、特殊扁壺片	
69	2a区	S2E3・4	古墳中期以降	方形	黒灰色土	600×(280＋α)	19	16.80＋α	不明	無	不明	不明	不明	不明	不明	弥生・土師・須恵			
70	2a区	S7・8E3・4	古墳中期	隅丸方形	黒灰色土(黄色混)	330×320	8	10.56	2	溝・小P	無	無	無	無	無	土師・須恵		P1－2：185	[illegible]
71	2a区	S4・5E3・4	古墳中期後半	方形	黒灰色土	470×460	16	21.62	不明	溝・小P	有？	有	有	無	無	弥生・土師・須恵			[illegible]
72	2a区	S9E8・9	古墳後期後半	隅丸方形	黒灰色土	(360＋α)×(330＋α)	削平	11.52＋α	不明	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵	TK209		

竪穴式住居址一覧

SB	調査区	グリッド	時代時期	平面形	埋土	長さ×幅(cm)	深さ(cm)	床面積(㎡)	主柱穴(基)	周壁溝	内部施設 高床	内部施設 間仕切	内部施設 土坑	カマド(炉) 位置	カマド(炉) 支脚	出土遺物	須恵器型式	備考(柱間距離・単位cm)	図版
73	2a区	S9・10E2	古墳中期後半～後期前半	隅丸長方形	黒灰色土	552×306	36	15.41	不明	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵			[illegible]
74	2a区	S7・8E2	古墳後期以降	隅丸方形	暗灰褐色土	524×510	7	26.72	(2)	溝	無	無	有	焼土	不明	無			
75	2a区	S2E2・3	古墳後期以降	隅丸方形	黒灰色土	(460+α)×700	削平	32.20+α	不明	無	無	無	有	焼土	不明	土師			
76	2a区	S4・5E9	弥生後期以降	長方形	暗灰褐色土	534×445	3	23.76	不明	溝	無	無	無	焼土	不明	弥生			
77	2a区	S4・5E10	古墳中期後半	隅丸方形	黒灰色土	390×(225+α)	11	5.62+α	不明	無	無	無	無	無	無	須恵	TK23		
79	2a区	S8W1・E1	弥生後期以降	円形?	黒灰色土	(320+α)×310	削平	8.35+α	不明	無	無	無	無	無	無	弥生・土師・須恵			
80	2a区	S2・3W4・5	古墳後期以降	長方形	黒灰色土	477×395	14	18.84	(2)	溝	無	無	無	無	無	土師・須恵		P1－2：205	[illegible]
81	3a区	S13E4・5	古墳中期前半	方形	暗褐色土(灰色混)	493×486	13	23.96	4	無	無	無	無	北壁中央	不明	弥生・土師・須恵		P1－2：225, P2－3：250, P3－4：215, P4－1：250	[illegible]
82	3a区	S14E5	古墳中期前半	長方形	暗褐色土	510×425	削平	21.68	4	溝	無	無	無	北壁中央	不明	弥生・土師		P1－2：210, P2－3：205, P3－4：210, P4－1：185	[illegible]
83	3a区	S14・15E10	古墳後期前半	隅丸長方形	暗灰茶褐色土	310×289	10	8.96+α	(1)	無	無	無	無	不明	不明	土師・須恵			[illegible]
84	3a区	S15E7・8	古墳中期後半	隅丸長方形	黒色土	395×332	15	13.11	(3)	無	無	無	無	無	無	土師・須恵		P1－2：－, P2－3：225, P3－4：235, P4－1：－	
85	3a区	S14E6・7・8	古墳中期後半	花弁形?	暗灰褐色土	1,035×750	30	57.73	4	小P	無	有	無	焼土	不明	弥生・土師・須恵		P1－2：260, P2－3：300, P3－4：250, P4－1：290 P5－6：270, P6－7：300, P7－8：280, P8－5：300 P9－10：210, P10－7：240, P7－11：230, P11－9：240	[illegible]
93	3a区	S11・12E4・5	古墳中期前半	隅丸長方形	黒色シルト	635×540	3	33.77	不明	無	無	無	無	北壁中央	高坏	土師			[illegible]
94	3a区	S13・14E2	古墳中期前半	隅丸長方形	暗褐色土(黄色混)	575×505	14	28.73	(3)	無	無	無	無	不明	不明	弥生・土師・須恵		**P1-2：-、P2-3：-、P3-4：240、P4-1：270**	[illegible]
95	3a区	S12E2	古墳中期前半	隅丸方形	暗褐色土	420×372	3	15.62	不明	無	無	無	無	不明	不明	土師・[illegible]			[illegible]
96	3a区	S12E2・3	古墳後期前半	隅丸方形	黒灰色土	670×(440+α)	20	27.11+α	(1)	溝	無	無	有	不明	不明	弥生・土師・須恵	TK47		
97	3a区	S12E1・2	古墳中期前半	隅丸方形	暗褐色土	600×(420+α)	5	35.60+α	不明	溝・小P	不明	不明	有	北壁中央	高坏	土師・須恵・砥石			[illegible]
98	3a区	S12・13E1・2	古墳中期後半	隅丸長方形	暗灰茶褐色土	843×(700+α)	25	45.47+α	4	無	無	無	有	北壁中央	不明	弥生・土師・須恵		P1－2：340, P2－3：300, P3－4：340, P4－1：325	[illegible]
99	3a区	S11E1	古墳後期以降	隅丸方形	暗茶褐色土	(360+α)×(90+α)	26	3.24+α	不明	無	不明	不明	不明	不明	不明	須恵			
100	3a区	S12E2・3	古墳後期前半	隅丸方形	黒褐色土	318×(120+α)	10	2.78+α	不明	無	不明	不明	不明	不明	不明	土師・須恵	TK47		
101	3a区	S15E9	古墳後期後半	花弁形?	暗褐色土(黄色混)	865×730	18	46.85	4	無	有?	有	不明	不明	不明	土師・須恵		P1－2：280, P2－3：270, P3－4：280, P4－1：290	[illegible]
102	3b区	S11W10	古墳中期前半	方形	黒灰色土	590×525	12	29.05	(3)	溝	無	無	有	不明	不明	弥生・土師・砥石		P1－2：－, P2－3：285, P3－4：220, P4－1：－	[illegible]
103	3b区	S11・12W9	古墳中期前半	方形	黒色土(灰色混)	560×540	10	29.52	4	溝	無	無	有	不明	不明	土師		P1－2：250, P2－3：255, P3－4：210, P4－1：255	[illegible]
104	3b区	S11・12W11・12	古墳後期後半	方形	暗褐色土	410×360	8	14.21	(1)	小P	無	無	有	不明	不明	土師・須恵・砥石	TK10		
106	3b区	S10W10	弥生後期以降	方形	暗灰色土	(405+α)×(370+α)	削平	14.99+α	(2)	溝	無	無	無	不明	不明	砥石		P1－2：230	[illegible]
107	3b区	S10・11W9	古墳中期前半	方形	暗褐色土	485×450	10	21.83	4	溝	無	無	不明	不明	不明	土師		P1－2：210, P2－3：205, P3－4：210, P4－1：230	
108	3b区	S11W12	古墳中期前半	方形	黒褐色土(灰色混)	470×443	8	20.82	4	溝	無	無	無	不明	不明	土師・石器		P1－2：200, P2－3：180, P3－4：200, P4－1：175	
109	3b区	S10W10・11	古墳中期後半	隅丸方形	黒灰色シルト	385×367	5	14.13	4	無	無	無	無	焼土	不明	土師・須恵		P1－2：135, P2－3：180, P3－4：155, P4－1：170	[illegible]
110	3b区	S10W10・11	弥生後期以降	隅丸方形	黒褐色土(灰色混)	430×(255+α)	8	10.97+α	(2)	無	無	無	有	不明	不明	弥生・土師			
111	3b区	S11W8・9	弥生後期以降	隅丸方形	暗灰褐色土	507×(230+α)	6	11.66+α	(1)	溝・小P	無	無	無	不明	不明	弥生・土師・須恵			
112	3b区	S9W13・14	古墳後期後半	隅丸方形	黒褐色土(灰色混)	333×(95+α)	10	5.06+α	不明	無	無	無	無	不明	不明	土師・須恵	TK43		
113	3b区	S11・12W14・15	古墳中期後半	方形	黒灰色シルト	(580+α)×(340+α)	削平	19.72+α	(2)	無	無	無	有	焼土	不明	土師・須恵		P1－2：275	[illegible]
114	3b区	S11・12W13	古墳以降	方形	黒灰色シルト	560×(490+α)	削平	27.44+α	4	溝	無	無	有	不明	不明	無		P1－2：245, P2－3：250, P3－4：250, P4－1：240	
115	3a区	S14E1	古墳中期後半	隅丸方形	暗褐色土	490×(240+α)	10	11.76+α	不明	無	無	無	無	不明	不明	土師・須恵	TK208		
121	2a区	S1・2W3・4	古墳後期前半	隅丸長方形	黒灰色土	(700+α)×(750+α)	12	52.50+α	不明	無	有?	無	有	不明	不明	土師・須恵・子持勾玉		P1－2：410	[illegible]
123	2a区	S8W1・E1	古墳以降	長方形	黒灰色土	502×456	6	22.89	(2)	溝・小P	無	無	有	不明	不明	無			
124	2a区	S8・9W5・6	古墳後期前半	方形	黒灰色土(茶色混)	435×(315+α)	12	13.70+α	(2)	溝	無	無	有	不明	不明	弥生・土師・須恵	TK47		
125	2a区	S4・5W4・5	古墳前期後半～中期前葉	方形	暗灰色土	733×685	11	50.21	4	溝	無	無	有	焼土	不明	土師・須恵・砥石		P1－2：265, P2－3：220, P3－4：260, P4－1：250	[illegible]
126	2a区	S7W4	古墳前期後半～中期前葉	隅丸方形	黒灰色土	535×515	10	27.55	4	無	無	無	有	不明	不明	土師・須恵・石器		P1－2：220, P2－3：225, P3－4：205, P4－1：230	[illegible]
127	2a区	S5・6W8・9	古墳中期後半	長方形	黒褐色土(黄色混)	495×365	15	18.07	不明	溝・小P	無	無	有	北壁中央	高坏	土師・須恵・石器			[illegible]
128	2a区	S4W9	古墳中期後半	隅丸方形	暗灰褐色土	500×(460+α)	7	23.00+α	4	溝	無	有	有	北壁中央	高坏	土師・須恵・石器		P1－2：190, P2－3：190, P3－4：210, P4－1：185	[illegible]
129	2a区	S5・6W4	古墳後期後半	隅丸長方形	暗灰茶褐色土	730×495	13	34.34	4	溝	無	有	有	無	無	土師・須恵・砥石		P1－2：295, P2－3：135, P3－4：290, P4－1：165	[illegible]
131	2a区	S8・9W4	古墳中期後半	方形	黒褐色土(黄色混)	(515+α)×505	20	26.00+α	4	無	無	無	有	北壁中央	高坏	須恵		P1－2：195, P2－3：210, P3－4：210, P4－1：220	[illegible]
132	2a区	S8・9W4	古墳中期前半	方形	黒褐色土(黄色混)	(425+α)×545	10	23.16+α	(3)	溝	無	有	有	不明	不明	弥生・土師		P5－6：210	[illegible]
135	2a区	S8・9W5	古墳中期前半	長方形	黒灰色土	(295+α)×(100+α)	7	2.35+α	不明	溝	不明	不明	不明	不明	不明	弥生・土師・須恵	TK208		
136	2a区	S7W4・5	古墳中期前半	隅丸長方形	暗灰茶褐色土	510×445	12	22.70	4	溝	無	無	有	焼土	不明	土師・須恵		P1－2：150, P2－3：140, P3－4：135, P4－1：140	
137	2a区	S5・6W9・10	古墳中期前半	隅丸方形	暗灰褐色土	735×(420+α)	12	30.87+α	(1)	無	無	無	有	焼土	不明	土師・須恵		P1－2：265	
138	2a区	S9・10W2・3	古墳後期前半	方形	暗灰茶褐色土	580×580	10	33.54	4	無	無	無	有	北壁中央	不明	土師		P1－2：275, P2－3：245, P3－4：260, P4－1：290	[illegible]
140	2a区	S7W8・9	古墳以降	隅丸方形	暗灰褐色土	(425+α)×(340+α)	10	14.45+α	4	溝	無	無	無	不明	不明	土師		P1－2：190, P2－3：220, P3－4：190, P4－1：215	
144	2a区	S10・11W5	古墳中期後半	隅丸方形	黒灰色土	(335+α)×(260+α)	20	8.71+α	不明	無	無	無	有	不明	不明	弥生・土師・須恵	TK23		
161	2b区	S3・4W13・14	古墳中期前半	方形	黒色シルト	460×425	17	19.55	(1)	無	無	無	無	不明	不明	土師			
162	2b区	S3・4W15	古墳前期前半	隅丸方形	黒色シルト	433×(400+α)	10	17.32+α	不明	無	無	無	無	不明	不明	弥生・土師			
163	2b区	S3・4W15・16	古墳前期後半～中期前葉	隅丸方形	黒色シルト	545×515	10	28.07	4	無	無	無	無	不明	不明	土師		P1－2：230, P2－3：230, P3－4：225, P4－1：220	[illegible]
164	2b区	S4・5W15・16	古墳後期後半	隅丸方形	黒色シルト	509×475	6	24.18	4	溝・小P	無	無	無	北壁中央	不明	弥生・土師・須恵		P1－2：175, P2－3：180, P3－4：185, P4－1：180	[illegible]
166	1区	N2E5・6	弥生後期以前	円形	不明	432×368	不明	15.90	6	不明	不明	不明	不明	不明	不明	無			[illegible]
167	1区	N3E6・7	弥生後期以前	円形	不明	474×456	不明	21.61	不明	小P	不明	不明	不明	不明	不明	無			[illegible]
168	2a区	S7・8W5	古墳中期以前	隅丸方形	暗灰茶褐色土	420×(270+α)	7	11.34+α	不明	無	無	無	有	不明	不明	無			
169	2b区	S6W12・14	古墳以降	方形	黒灰色土	400×(210+α)	20	8.40+α	不明	無	無	無	無	不明	不明	無			
200	1区	N3E3・4	弥生後期以降	隅丸方形?	黒色土(茶色混)	(310－α)×(290+α)	削平	8.99+α	4	無	無	無	無	不明	不明	無		P1－2：280, P2－3：315, P3－4：290, P4－1：315	
201	1区	N2W1・2	弥生後期以降	隅丸方形?	黒色土(焼土混)	(350+α)×(340+α)	削平	11.90+α	4	無	無	無	有	不明	不明	無		P1－2：350, P2－3：320, P3－4：330, P4－1：340	
202	1区	N4W5	弥生後期以降	隅丸方形?	黒灰色土(黄色混)	(215+α)×(210+α)	削平	4.52+α	4	無	無	無	無	不明	不明	無		P1－2：210, P2－3：215, P3－4：210, P4－1：210	
203	3b区	S10W9	古墳中期以前	隅丸長方形	暗褐色土	547×468	8	25.60	4	溝	無	有	有	不明	不明	ガラス小玉		P1－2：230, P2－3：225, P3－4：225, P4－1：250	[illegible]
204	1区	N4・5W6・7	古墳中期以前	隅丸方形	黒色土	350×300	19	10.50	不明	無	無	無	無	不明	不明	無			
206	1区	N7W2	弥生後期以降	隅丸方形	黒褐色土(灰色混)	(410+α)×(150+α)	16	6.15+α	(2)	無	無	無	無	不明	不明	無		P1－2：275	

掘立柱建物址一覧

掘立No.	調査区	グリッド	時代時期	主軸方位	規　模（間）	桁行×梁行（cm）	柱間寸法（cm）	床面積（㎡）	出土遺物	図　版
1	1区	S 1 E 7	古墳後期以降	南北(桁) N－17′ －E	(1＋α)×(1＋α)	(125＋α)×(192＋α)	(125・α)×(192・α)	1.25＋α	土師・須恵	
2－①	1区	N 2・3 E 6・7	古墳後期後半以降	南北(桁) N－18′ －E	2×2（総柱）	455×442	(228・227)×(216・226)	20.11	土師・須恵	第92図
2－②	1区	N 2・3 E 6・7	古墳後期後半以降	南北(桁) N－18′ －E	2×2（総柱）	442×432	(230・212)×(230・202)	19.09	土師・須恵	第92図
3	1区	N 1・2 E 6・7	中世以降	南北(桁) N－38′ －E	2×2	480×435	(280・200)×(230・205)	20.88		
4	1区	N 1 E 7・8	中世以降	南北(桁) N－44′ －E	(1＋α)×(1＋α)	(225＋α)×(210＋α)	(225＋α)×(210＋α)	4.73＋α		
5	1区	N 3 E 6・7	中世以降	南北(桁) N－6′ －E	3×1	515×380	(150・225・140)×(380)	19.57	土師	第93図
6	1区	N 4 E 5・6	古墳後期後半以降	南北(桁) N－17′ －E	(1－α)×1	(256＋α)×430	(256・α)×(430)	11.0		
7	1区	N 4 E 5・6	古墳後期前半以降	南北(桁) N　33′　E	3×2	537×374	(142・209・186)×(178・196)	20.08	弥生・土師・須恵	第93図
8	1区	N 4 E 7・8	古墳後期後半以降	東西(桁) N－94′ －W	(2＋α)×(1＋α)	(335＋α)×(188＋α)	(165・170・α)×(188・α)	6.3＋α	須恵	第94図
10	1区	N 2・3 E 2・3	古墳後期後半以降	東西(桁) N－74′ －W	3×2	656×355	(215・228・213)×(178・177)	23.29	弥生・土師・須恵	第94図
11	1区	N 2・3 E 2	古墳後期前半以降	東西(桁) N－82′ －W	(2－α)×2	(394＋α)×393	(195・199)×(185・208)	15.5＋α	弥生・土師・須恵	第95図
12	1区	N 4・5 E 4	古代以降	南北(桁) N－22′ －E	1×1	334×320	(334)×(320)	10.69		
13	1区	N 1・2 W 1・2	古墳後期以降	東西(桁) N－82′ －W	2×2（総柱）	430×410	(230・200)×(195・215)	17.63	弥生・土師・須恵	第95図
14	1区	N 2・3 W 1・2	古墳後期前半以降	東西(桁) N－83′ －W	3×2	540×410	(195・170・175)×(215・195)	22.14	弥生・土師・須恵	第96図
15	1区	N 3 W 1・2	古墳後期以降	東西(桁) N－73′ －W	3×2（総柱）	530×435	(125・227・178)×(230・205)	23.06	弥生・土師・須恵	第97図
16	1区	N 1・2 E 3・4	古墳後期前半以降	東西(桁) N－79′ －W	2×2	533×465	(272・261)×(238・227)	24.78	須恵	
17	4区	S・N 1 W 20・21	中世前期以降	東西(桁) N－78′ －W	2×2（総柱）	497×375	(253・244)×(195・180)	18.6	土師	第98図
18	4区	N 1 W 21・22	中世以降	南北(桁) N－48′ －E	2×2	385×345	(183・202)×(153・192)	13.28		
19	4区	N 2 W 21・22	中世前期以降	東西(桁) N－75′ －W	2×1	318×245	(182・136)×(245)	7.79		
20	1区	N 1・2 W 2・3	古墳後期以降	東西(桁) N　80′ －W	3×3	530×470	(185・155・190)×(150・150・170)	24.91	弥生・土師・須恵	第98図
21	1区	N 1・2 W 2・3	古墳後期以降	東西(桁) N－78′ －W	3×2（総柱）	540×420	(178・186・176)×(204・216)	22.68	弥生・土師・須恵	
22	1区	N 4 W 3	中世以降	南北(桁) N－2′ －W	2×2（総柱）	460×328	(220・240)×(175・153)	15.1	須恵	
23	1区	N 8・9 W 8	古代以降	東西(桁) N－88′ －W	1×1	435×290	(435)×(290)	12.61		
24	1区	N 7・8 W 8	古代以降	東西(桁) N－14′ －E	1×1	287×243	(287)×(243)	6.97		
25	1区	N 1・2 W 5	古代以降	東西(桁) N－71′ －E	1×1	245×180	(245)×(180)	4.41	弥生・土師	
26	1区	N11・12W11	中世以降	東西(桁) N－71′ －E	2×2（総柱）	420×420	(210・210)×(210・210)	17.64		
27	1区	N12W11・12	中世以降	東西(桁) N－76′ －E	2×1	400×195	(190・210)×(195)	7.80		
28	1区	N11W12	中世以降	東西(桁) N－72′ －E	2×1	385×203	(175・210)×(203)	7.82		
29	1区	N10W12	中世以降	東西(桁) N－70′ －E	2×2（総柱）	530×380	(270・260)×(150・220)	20.14		
32	1区	N 9 W13	中世以降	南北(桁) N－35′ －W	2×1	365×215	(190・175)×(215)	7.85		
33	1区	N 1・2 W 2・3	古墳後期以降	東西(桁) N－74′ －W	3×2（総柱）	560×440	(178・186・176)×(204・216)	24.64		
34	1区	N10W 9	中世以降	南北(桁) N－5′ －E	2×1	360×240	(180・180)×(240)	8.64		
35	1区	N 1・2 W 2・3	古墳後期以降	東西(桁) N－82′ －W	3×2（総柱）	520×450	(170・180・170)×(230・220)	23.4		
41	2a区	S 3 E 5・6	古墳以降	南北(桁) N－3′ －W	3×2（総柱）	485×395	(175・150・160)×(200・195)	19.15	土師	
42	2a区	S 5・6 E 4・5	古墳後期以降	南北(桁) N－6′ －E	3×2	785×433	(270・255・260)×(213・220)	33.99	土師・須恵	
43	2a区	S 5・6 E 7・8	古墳後期後半以降	南北(桁) N－12′ －E	3×2	615×390	(215・195・205)×(190・200)	23.99	弥生・須恵	第99図
44	2a区	S 5 E 7・8	古代以降	南北(桁) N－81′ －W	2×2（総柱）	435×370	(220・215)×(180・190)	16.1	須恵	
45	2a区	S 4・5 E 7	古墳後期以降	南北(桁) N－2′ －W	4×2	635×390	(175・180・170・210)×(212・178)	24.76	須恵	
46	2a区	S 3 E 1・2	古墳後期以降	南北(桁) N－12′ －E	2×2	445×315	(235・210)×(150・165)	14.02		
47	2a区	S 9 E 3・4	古墳後期以降	東西(桁) N－83′ －W	2×2	430×355	(220・210)×(195・160)	15.26		
48	2a区	S 7・8 E 8・9	古代以降	東西(桁) N－75′ －W	3×2	445×390	(140・155・150)×(210・180)	17.36		
49	2a区	S 5・6 W 1	古墳後期以降	東西(桁) N－89′ －W	2×2	418×310	(200・218)×(165・145)	12.96	須恵	
50	2a区	S 10W 1・E 1	古墳中期後葉以降	東西(桁) N－90′ －W	3×2	377×387	(120・122・135)×(195・192)	14.59	弥生・土師・須恵	
51	2a区	S 5・6 W 2・3	古代以降	東西(桁) N－88′ －E	3×2	576×419	(185・173・218)×(190・221)	24.1	土師・須恵	第99図
52	2a区	S 6・7 W 1・2	古墳中期後半以降	南北(桁) N－4′ －E	3×2	475×330	(160・160・155)×(145・185)	15.68		

掘立柱建物址一覧

掘立No	調査区	グリッド	時代時期	主軸方位	規　模（間）	桁行×梁行（cm）	柱間寸法（cm）	床面積(㎡)	出土遺物	図　版
53	2 a区	S 7・8 E 1・2	古墳後期以降	東西(桁) N－78°－W	2×2	402×355	(194・208)×(195・160)	14.27	土師・須恵	
54	2 a区	S 2・3 W 3・4	古墳後期前半以降	東西(桁) N－90°－W	3×2	472×352	(162・153・157)×(193・159)	16.61	弥生・土師・須恵	第100図
55	2 a区	S 4 E 8・9	古墳後期以降	南北(桁) N－2°－E	2×2	448×333	(140・308)×(173・160)	14.9	須恵	
56	2 a区	S 7・8 E 4・5	古墳後期以降	南北(桁) N－9°－E	1×1	435×415	(433)×(415)	18.05	土師・須恵	
57	2 a区	S 4 W 1・E 1	古墳後期後半以降	南北(桁) N－18°－E	3×2	445×355	(160・145・140)×(175・180)	15.79	土師・須恵	
58	2 a区	S 4・5 E 1・2	古墳後期以降	南北(桁) N－6°－W	3×2	490×410	(180・170・140)×(200・210)	20.09	土師・須恵	
59	2 a区	S 8・9 E 2・3	古墳後期以降	東西(桁) N－75°－E	3×2（総柱）	505×465	(170・180・155)×(230・235)	23.48	須恵	
60	2 a区	S 9 E 1・2	古代以降	南北(桁) N－18°－W	2×2	405×400	(205・200)×(200・200)	16.2		
61	3 a区	S 13・14 E 8	古代以降	東西(桁) N－70°－E	2×2	340×305	(160・180)×(138・167)	10.37	土師	
62	3 a区	S 12・13 E 7	古代以降	東西(桁) N－62°－E	2×2（総柱）	425×322	(218・207)×(165・157)	13.69	須恵	
63	3 a区	S 16 E 9	古代以降	東西(桁) N－62°－W	1×2	367×189	(177・190)×(189)	6.94	土師	
64	3 a区	S 16・17 E 11	古墳中期前半以降	東西(桁) N－38°－W	3×2（総柱）	555×417	(200・173・182)×(215・202)	23.14	須恵	第101図
65	3 a区	S 16・17 E 11	古墳以降	東西(桁) N－1°－W	1×1	200×200	(200)×(200)	4.0		
66	3 a区	S 13 E 8	古墳後期以降	南北(桁) N－28°－E	1×1	275×262	(275)×(262)	7.21	土師	
67	3 a区	S 14 E 8	古墳後期後半以降	東西(桁) N－77°－W	1×1	275×250	(275)×(250)	5.25		
68	3 a区	S 15 E 8	古墳中期後半以降	東西(桁) N－83°－E	1×1	194×185	(194)×(185)	3.59	弥生・土師	
69	3 a区	S 15 E 7・8	古墳以降	南北(桁) N－18°－E	1×1	202×178	(202)×(178)	3.60		
70	3 a区	S 15 E 7	古墳以降	東西(桁) N－83°－W	1×1	196×188	(196)×(188)	3.68		
71	3 a区	S 14 E 4	古墳後期以降	南北(桁) N－10°－E	1×1	345×295	(345)×(295)	10.17		
72	3 a区	S 12・13 E 4	古代以降	南北(桁) N－7°－E	3×1	555×375	(190・185・180)×(375)	20.8	土師・須恵	第102図
73	3 a区	S 15 E 2	古代以降	東西(桁) N－78°－W	2×2	360×320	(210・150)×(190・130)	11.52		
81	2 a区	S 4・5 W 4・5	古代以降	東西(桁) N－75°－W	3×2	488×352	(143・177・168)×(175・177)	17.18	土師・須恵	第102図
82	2 a区	S 9・10 W 4	古墳中期前半以降	東西(桁) N－76°－E	3×2	450×365	(140・150・160)×(180・185)	16.43	弥生・土師・須恵	第103図
83	2 a区	S 5 W 4・5	古代以降	東西(桁) N－74°－W	3×2	500×350	(160・160・180)×(165・185)	17.5	弥生・土師・須恵	第103図
84	2 a区	S 7・8 W 4・5	古墳中期後半以降	南北(桁) N－4°－W	3×2	397×314	(125・128・144)×(150・164)	12.47	土師・須恵	
85	2 a区	S 3・4 E 6・7	古墳後期以降	東西(桁) N－83°－W	3×2	670×440	(210・235・225)×(220・220)	29.48	土師・須恵	第104図
121	2 b区	S 4・5 W 14・15	中世以降	南北(桁) N－45°－W	1×1	360×235	(360)×(235)	8.46		
122	2 b区	S 7・8 W 14・15	古代以降	東西(桁) N－83°－W	2×2（総柱）	433×375	(215・218)×(195・180)	16.24		
200	1 区	N 11・12 W 11	中世以降	南北(桁) N－45°－W	2×2（総柱）	420×370	(210・210)×(174・196)	15.54	弥生	
201	1 区	N 3 E 2・3	中世以降	東西(桁) N－77°－W	1×1	325×235	(325)×(235)	7.64		
202	1 区	N 10・11 W 7	中世以降	南北(桁) N－39°－E	2×2（総柱）	420×370	(210・210)×(185・185)	15.54		
203	1 区	N 2 W 7	中世以降	南北(桁) N－45°－W	3×2（総柱）	510×360	(150・175・185)×(170・190)	18.36		
204	1 区	N 5・6 W 4・5	古墳後期後半以降	南北(桁) N－37°－W	2×1	450×155	(240・210)×(155)	6.98		
205	1 区	N 5 W 5	古墳後期後半以降	東西(桁) N－15°－E	1×1	405×260	(405)×(260)	10.53		
221	2 a区	S 5 W 6・7	古墳後期以降	東西(桁) N－70°－W	2×2	375×360	(205・170)×(180・180)	13.5	土師	
222	2 a区	S 4 W 6・7	中世以降	南北(桁) N－48°－E	2×1	380×285	(195・185)×(285)	10.83	須恵	
223	2 a区	S 10・11 W 1・2	古墳中期以降	東西(桁) N－89°－E	4×2	690×280	(150・170・185・175)×(130・150)	19.32	土師・須恵	
224	2 a区	S 2 E 1・2	古墳後期以降	東西(桁) N－57°－W	(2＋α)×(2＋α)	(340＋α)×(295＋α)	(200・140・α)×(143・152・α)	10.0＋α	須恵	
225	2 a区	S 7 W 1	中世以降	南北(桁) N－7°－W	2×1	420×400	(215・205)×(400)	16.8	土師	
226	2 a区	S 6・7 W 1・E 1	古代以降	南北(桁) N－12°－E	2×2（総柱）	410×395	(195・215)×(200・195)	16.2	土師・須恵	
227	2 a区	S 6・7 E 1	古代以降	南北(桁) N－4°－E	1×1	295×250	(295)×(250)	7.38		
228	2 a区	S 5・6 W 1・2	中世以降	南北(桁) N－8°－E	2×2	500×398	(315・185)×(280・118)	19.9		
229	2 a区	S 5・6 W 1・2	中世以降	南北(桁) N－14°－W	2×2	490×360	(310・180)×(210・150)	17.64	土師・須恵	
230	2 a区	S 4 W 2	古墳後期以降	南北(桁) N－22°－E	2×2	375×375	(175・160)×(180・？)	14.06	須恵	
231	2 a区	S 3 W 1・E 1	古墳後期以降	東西(桁) N－83°－W	2×2（総柱）	460×390	(184・276)×(190・200)	17.94	土師・須恵	

掘立柱建物址一覧

掘立No	調査区	グリッド	時代時期	主軸方位	規　模(間)	桁行×梁行(cm)	柱間寸法(cm)	床面積(㎡)	出土遺物	図　版
232	2 a区	S 6・7 W 2・3	中世以降	南北(桁) N－45°－W	3×2	470×320	(150・140・180)×(140・180)	15.04	土師・須恵	
233	2 a区	S 7・8 W 3	中世以降	南北(桁) N－4°－W	1×1	285×270	(285)×(270)	7.70	土師	
234	2 a区	S 9 W 3・4	中世以降	南北(桁) N－0°－E	2×2	348×270	(165・183)×(140・130)	9.39		
235	2 a区	S 5 E 2・3	古墳後期以降	東西(桁) N－74°－W	2×2	360×300	(185・175)×(164・136)	10.80		
236	2 a区	S 4 E 2・3	古墳後期以降	南北(桁) N－16°－E	2×2	388×315	(210・178)×(170・145)	12.22		
237	2 a区	S 3 E 5	古墳後期以降	東西(桁) N－74°－W	1×1	410×335	(410)×(335)	13.74		
238	2 a区	S 3・4 E 5	古墳後期以降	南北(桁) N－18°－E	2×2	420×263	(175・245)×(125・138)	11.05		
239	2 a区	S 9 E 4・5	古墳後期以降	南北(桁) N－16°－W	1×1	370×360	(370)×(360)	13.32		
241	3 b区	S 10・11 W 11	古墳中期前半以降	南北(桁) N－10°－E	4×2	630×365	(170・150・145・165)×(180・185)	23.0	土師・須恵	
242	3 b区	S 10・11 W 12・13	古墳以降	東西(桁) N－16°－W	4×3	680×540	(150・200・180・150)×(180・170・190)	36.72	土師・須恵	
243	3 b区	S 10・11 W 13	古代以降	東西(桁) N－68°－W	2×2	380×305	(190・190)×(145・160)	11.59	土師	
244	3 b区	S 9・10 W 12・13	古墳後期後半以降	東西(桁) N－81°－W	4×(1＋α)	575×(165＋α)	(150・130・140・155)×(165・?)	9.48＋α	土師	
245	3 b区	S 12 W 13	古墳以降	東西(桁) N－75°－E	(3＋α)×(1＋α)	(160＋α)×(530＋α)	(185・175・170)×(160・?)	8.48＋α	土師	
246	3 b区	S 10・11 W 13・14	古墳中期後半以降	南北(桁) N－31°－E	4×3	715×525	(155・195・195・170)×(170・160・195)	37.54	土師・須恵	
247	3 b区	S 9・10 W 14	古墳後期後半以降	南北(桁) N－25°－E	(1＋α)×(2＋α)	(420＋α)×(235＋α)	(225・195・?)×(235・?)	9.87＋α	須恵	
248	3 b区	S 11 W 14	古墳中期後半以降	南北(桁) N－40°－W	5×(1＋α)	745×(150＋α)	(150・145・135・150・165)×(150・?)	11.2＋α		
249	3 b区	S 10 W 12	古代以降	南北(桁) N－19°－E	2×1	310×300	(310)×(170・130)	9.30		
250	3 b区	S 10 W 11	古代以降	東西(桁) N－75°－W	3×2	500×340	(200・190・110)×(160・180)	17.0		
251	3 b区	S 11・12 W 9・10	古墳中期前半以降	東西(桁) N－88°－E	3×(1＋α)	780×(200＋α)	(230・330・220)×(200・?)	15.6＋α	土師	
252	3 a区	S 16 E 7・8	古墳中期後半以降	東西(桁) N－70°－E	2×2	550×396	(260・290)×(206・190)	21.78	土師・須恵	
253	3 a区	S 12 E 3	古墳後期前半以降	南北(桁) N－8°－E	3×2	460×400	(125・185・150)×(200・200)	18.40		
254	3 a区	S 16 E 7	古代以降	東西(桁) N－77°－W	4×(1＋α)	825×(150＋α)	(230・200・140・255)×(150・?)	12.4＋α	土師・須恵	
255	3 a区	S 17 E 12	古代以降	東西(桁) N－50°－W	(α)×2	(α)×255	(α)×(130・125)			
281	5区	S 5 W 24	古墳後期以降	東西(桁) N－70°－E	3×2	445×345	(160・160・125)×(165・180)	15.35		

土坑一覧

SK No.	区	グリッド	時代時期	平面形態	断面形態	法量(cm) 長さ	幅	深さ	埋土	出土遺物	備考
1	1区	S1E7	古墳中期後半以降	長方形	舟底状	128	98	31	暗茶褐色粘質土(灰色混)	弥生・土師・須恵	
2	1区	S1E5	古墳中期前半以降	円	皿状	172	154	16	黒褐色土	土師	
3	1区	N2E5	古墳後期前半以降	長方形	舟底状	95	57	13	黒色土(黄白色混)	土師	SB2内検出
4	1区	S1E6	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	155	112	16	黒色土(黄白色混)	土師・須恵	
5	1区	N4E1	古墳中期後半以降	不整円	逆台形状	193	158	26	黒色土(灰・赤黄色混)	土師・須恵・石器	
6	1区	N3E4	古墳中期前半以降	不整楕円	舟底状	107	65	13	黒色土(灰色混)	土師	
7	1区	N6E3	不明	方形	逆台形状	119	106	36	黒色シルト	無	
8	1区	N6W2	古墳中期後半以降	不整円	皿状	188	160	22	黒灰色土	土師・須恵	
9	1区	N2W1	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	126	70	16	暗灰褐色土	土師・須恵	SB201内検出
10	1区	N2W1	中世	不整楕円	皿状	120	92	3	暗灰褐色土	土師・須恵・鉄器	第212図 (937)
11	1区	N1E4	古墳中期後半以降	長方形	皿状	216	172	13	黒色土(灰色混)	土師・須恵	
12	1区	N2E4	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	164	104	15	灰黄色土(褐色粒混)	土師・須恵	
13	1区	N7W1	不明	不整楕円	皿状	254	187	9	黒色土(灰色混)	無	
14	1区	N7E2	古墳中期前半以降	楕円	皿状	120	72	9	黒色土	土師	
15	1区	N4W1	古墳中期後半以降	楕円	皿状	146	112	15	黒灰色土	土師・須恵	
16	1区	N6E2	古墳中期後半以降	方形	逆台形状	123	115	43	茶褐色土(粘混)	須恵	
18	1区	N4W2	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	233	176	14	黒色土(灰色混)	土師・須恵	
19	1区	N1E2	古墳中期後半	長方形	逆台形状	100	66	24	黒灰色土	土師	SB1内部施設
21	1区	N3E3	古墳中期前半以降	不整楕円	皿状	116	72	9	黒灰色土(茶色混)	土師	
22	1区	N3E3	古墳中期前半以降	不整円	皿状	101	89	12	黒色土(黄茶色混)	土師	
23	1区	N5W15	古墳中期前半以降	不整楕円	舟底状	225	153	36	黒褐色土	土師	
24	1区	N3W12	古墳中期前半	楕円	皿状	137	91+α	11	黒色土	弥生・土師	SB33内部施設
25	1区	N5W1	古墳中期前半以降	円	舟底状	124	110	38	黒灰色土	土師	
26	1区	N4W3	古墳中期前半以降	不整楕円	皿状	175	142	9	黒灰色土(茶色粒混)	土師	
27	1区	N5W3	古墳中期前半以降	不整楕円	舟底状	90	65	25	黒灰色土	土師	SB6内検出
28	1区	N10W7	古墳中期後半以降	長方形	逆台形状	200	130	17	黒色土(茶色B混)	土師・須恵	
29	1区	N1・2W5	弥生中期	円	舟底状	92	89	20	黒褐色土	弥生	弥生時代編に掲載
30	1区	N3W5	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	170	75	19	暗褐色土(黄色混)	土師・須恵	
31	1区	N2W7	古墳中期後半以降	楕円	皿状	149	90	20	?	土師・須恵	
32	1区	N3W7	不明	円	皿状	229	209	9	黒灰色土	無	
33	1区	N4W7	古墳中期後半	不整楕円	舟底状	175	70	18	黒褐色土	無	SB14内部施設
34	1区	N3W7	古墳中期後半	楕円	舟底状	105	50+α	14	黒褐色土	無	SB14内部施設
35	1区	N5W7	古墳中期後半以降	楕円	舟底状	85	75	42	黒灰色土	土師・須恵	
36	1区	N8W3	不明	不整楕円	皿状	156	80	12	黒灰色土	無	
37	1区	N6W5	不明	不整円	皿状	130	121	6	黒灰色土(茶色粒混)	無	
38	1区	N5W5	古墳後期後半以降	不整楕円	舟底・皿状	180	88	20	黒灰茶色シルト(明黄茶色混)	土師	SB12内検出
39	1区	N6W8	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	175	145+α	19	黒色土	土師・須恵	SB26内検出
40	1区	N6W8	古墳中期後半以降	不整円	皿状	145	115	16	黒灰色土(茶褐色混)	石器	SB26内検出
41	1区	N6W8	古墳中期後半以降	楕円	皿状	123	91+α	10	黒灰色土	無	SB26内検出
42	1区	N6W8	古墳中期後半	不整楕円	舟底状	175	134	25	黒色土	無	SB26内部施設
43	1区	N6W7	古墳中期後半以降	不整円	皿状	100	85	12	黒灰色土	無	SB26内検出
44	1区	N7W7	古墳中期後半	不整円	舟底状	125	116	20	黒灰色土	土師	SB26内部施設
45	1区	N7W7	古墳中期後半	不整楕円	逆台形状	130	80	60	茶褐色土	無	SB26内部施設
46	1区	N5W4	古墳中期後半以降	円	皿状	96	84	15	黒灰色土	無	SB5内検出
47	1区	N9W7	古墳中期前半以降	円	皿状	154	139	13	黒灰色土	土師	
49	1区	N5W5	古墳後期後半以降	不整楕円	逆台形状	102	73	30	黒灰色土	土師	SB11内検出
50	1区	N9W6	弥生後期以降	不整楕円	皿状	121	79	15	黒褐色土(茶褐色B混)	弥生	
51	1区	N2W11	不明	長方形	皿状	183	118	13	暗褐色土(黄色混)	無	
52	1区	N1W10	古墳中期前半以降	楕円	皿状	158+α	220	6	灰褐色土(黄色混)	土師	
53	1区	N2W13	不明	不整楕円	皿状	230	98		?	無	
54	1区	N4W11	古墳後期以降	楕円	逆台形状	97	70	8	?	無	SB32内検出
55	1区	N9W3	古墳中期後半	不整円	舟底状	70	67	17	黒色土(灰色混)	土師	SB12内部施設
56	1区	N8W4	不明	楕円	舟底状	98	70	27	灰褐色土	無	
57	1区	N7W2	古墳以降	不整楕円	舟底状	120	109	31	灰褐色土(黒色混)	弥生・土師	SB29内部施設(竈?)
58	1区	N8W4	弥生後期以降	方形	舟底状	94	91+α	15	黒褐色土	土師	SB27内検出
59	1区	N7W4	古墳中期前半	不整楕円	舟底状	89	55	29	黒灰色土	無	SB7内部施設
60	1区	N7W3	古墳中期前半	長方形	皿状	103	51	8	黒褐色土	無	SB7内部施設
61	2a区	S3E8	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	219	138	100	黒灰色土(茶褐色混)	弥生・土師・須恵	
62	2a区	S3E8	弥生後期以降	楕円	皿状	155	73	100	黒灰色土(茶褐色混)	弥生	
63	2a区	S6E6	不明	楕円	皿状	123+α	73	6	黒灰色土(茶色混)	無	
64	2a区	S5E6	古墳中期後半以降	長方形	舟底状	345	90	36	暗灰茶褐色土	須恵	
65	2a区	S10E9	古墳中期後半以降	長方形	逆台形状	229	56	12	黒灰色土	須恵	
66	2a区	S2W2	古墳中期後半以降	楕円	皿状	137	95	8	黒灰色土	弥生・土師・須恵	
67	2a区	S1W2	古墳中期後半以降	楕円	皿状	150	90+α	6	黒灰色土	?	
68	2a区	S1W3	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	216	110+α	21	黒灰色土	土師・須恵・石器	
69	2a区	S11E7	古墳中期後半以降	楕円	皿状	357	330+α	11	黒灰色土	土師・須恵・石器	
70	2a区	S4E5	不明	長方形	皿状	108	83	6	灰茶褐色土(黄色粒混)	無	
71	2a区	S11E7	古墳中期後半以降	長方形	皿状	180	164	9	黒褐色土	土師・須恵	
72	2a区	S9E5	不明	不整円	皿状	184	161	5	黒褐色土	無	
73	2a区	S11E9	中世	楕円	皿状	177	117	10	灰茶褐色土	土師	第163・164図
74	2a区	S11E4	古墳中期前半以降	楕円	皿状	140	59	8	暗褐色土(暗茶色混)	弥生・土師・須恵	
75	2a区	S9E5	不明	不整楕円	皿状	180	120	13	黒灰色土(茶褐色混)	無	
76	2a区	S10E4	中世以降	不整楕円	舟底状	269	152	34	黒褐色土	土師・須恵	SZ1より検出
77	2a区	S12E8	不明	不整円	皿状	97	67+α		灰茶褐色土	無	
78	2a区	S2E5	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	104	84	18	?	土師	
79	2a区	S3W1	古墳中期前半以降	不整円	皿状	90	87	11	灰茶褐色土	土師	
80	2a区	S10W1	古墳中期前半以降	長方形	皿状	134	77	6	明灰褐色土	無	
81	3a区	S13E9	中世	不整楕円	逆台形状	135	117	11	黒色土	須恵	
82	3a区	S13E8	古墳後期以降	不整円	逆台形状	163	162	21	黒色土	土師・須恵	
83	3a区	S13E8	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	200	164	19	暗褐色土(黄色粒混)	弥生・土師・須恵	
84	3a区	S12E7	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	404	208	9	暗灰褐色土	土師・須恵	
85	3a区	S13E6	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	189	90	6	暗茶褐色土(黄色粒混)	須恵	
86	3a区	S12E6	古墳中期前半以降	楕円	舟底状	153	124	24	暗茶褐色土	土師	
87	3a区	S15E7	古墳中期後半以降	楕円	舟底状	109	88	18	茶褐色土	土師・須恵	
88	3a区	S15E7	不明	長方形	舟底状	101	73	10	明茶褐色土	無	
89	3a区	S14E9	古墳中期後半以降	楕円	舟底状	135	120−α	25	黒褐色土	土師・須恵	
90	3a区	S15E6	古墳中期後半以降	不整円	皿状	141	135	14	暗灰褐色土	土師・須恵	
91	3a区	S15E6	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	253	188	12	暗灰褐色土	須恵	
92	3a区	S16E6	不明	不整楕円	皿状	115+α	82	7	暗灰褐色土	無	
93	3a区	S16E6	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	108	88+α	22	暗灰褐色土	土師・須恵	
94	3a区	S16E7	古墳中期後半以降	不整楕円	逆台形状	132	75+α	18	暗灰褐色土(黄茶色混)	土師・須恵	
95	3a区	S16E6	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	100+α	95+α	5	暗灰褐色土	弥生・須恵	

土坑一覧

SK No.	区	グリッド	時代時期	平面形態	断面形態	法量(cm) 長さ	幅	深さ	埋土	出土遺物	備考
96	3a区	S13E7	古墳中期後半以降	不整円	舟底状	93	80	11	黒色土	須恵	
97	3a区	S14E1	古墳中期後半以降	楕円	皿状	173	120	14	?	須恵	
98	3a区	S12E1	古墳中期後半以降	楕円	皿状	130	86	100	暗褐色土(黄色粒混)	弥生・土師・須恵	SB98内検出
99	3a区	S13E3	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	181	96	63	黒色土	須恵	
100	3a区	S12E2	古墳中期前半以降	楕円	舟底状	167	135	19	黒色土	土師・須恵	
101	3a区	S12E6	古墳中期後半以降	円	皿状	185	92+α	12	黒褐色土	土師・須恵	
102	3a区	S12E6	古墳中期前半以降	円	舟底状	96	48+α	14	?	土師	
103	3a区	S15E8	古墳中期後半以降	楕円	舟底状	198	112	21	黒色土	土師・須恵	SB84内検出
104	3a区	S12E6	古墳中期後半以降	円	逆台形状	100	65+α	4	黒灰色土	弥生・土師・須恵	
105	3b区	S12W11	古墳中期後半以降	楕円	舟底状	230	135+α	21	?	土師・須恵	
106	3b区	S10W9	古墳中期前半以降	長方形	舟底状	90	69	14	暗褐色土	土師	
107	3b区	S11W9	古墳中期前半	楕円	舟底状	85	55	12	暗灰褐色土(礫含)	土師	SB107内部施設
108	3b区	S10W12	古墳中期後半以降	不整楕円	逆台形状	104	88	28	暗灰褐色土(礫含)	土師・須恵	
109	3b区	S11W14	古墳中期後半以降	不整円	逆台形状	265	190+α	14	暗灰茶褐色土	土師	SB113内検出
110	3b区	S10W12	中世	長方形	逆台形状	138	81	27	暗灰茶褐色土(礫含)	土師	第165・166図
111	3b区	S11W10	古墳中期前半以降	円	皿状	142	127	13	黒褐色土	土師・須恵	SB102内検出
112	3b区	S11W9	古墳中期前半	円	皿状	74	70	5	黒灰色土	土師	SB103内部施設
113	3b区	S11W9	古墳中期前半	円?	皿状	?	?	?	?	土師	SB107内部施設
114	3b区	S12W10	古墳中期前半以降	円	舟底状	59	47	27	?	土師	SB102内検出
116	3b区	S12W9	古墳中期前半以降	円	舟底状	83	70	25	黒色土	無	SB103内検出
118	3b区	S10W9	古墳中期前半以降	楕円	皿状	95	65+α	14	黒色土	弥生・土師・石器	SB107内検出
119	3b区	S10W9	古墳中期前半以降	楕円	逆台形状	58	45	22	?	無	SB107内検出
120	3b区	S12W13	不明	楕円	舟底状	56	15+α	?	黒色土	無	
121	2a区	S5E10	古墳中期後半以降	円	皿状	112	104	9	?	土師・須恵	
122	2a区	S3W2	不明	円	皿状	135	113	6	黒色土	無	
123	2a区	S3W2	古墳中期後半以降	不整円	逆台形状	115	96	8	暗灰褐色土	土師・須恵	
124	2a区	S3W2	古墳中期後半以降	円	皿状	114	113	6	灰褐色土	須恵	
125	2a区	S3W2	古墳中期後半以降	円	皿状	118	115	9	灰褐色土	須恵	
126	2a区	S2W3	中世	不整楕円	舟底状	135	81	44	灰黄茶褐色土	土師	SB121内検出
127	2a区	S2W3	古墳中期後半以降	円	皿状	152	68+α	11	灰褐色土	須恵	
128	2a区	S3W3	古墳中期後半以降	円	皿状	119	105	7	灰褐色土	土師・須恵	
129	2a区	S8E2	不明	楕円	舟底状	137	113	23	?	?	
130	2a区	S5W7	古墳中期後半以降	楕円	皿状	166	120	9	黒灰色土	弥生・土師・須恵	
131	2a区	S7W5	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	304	250	7	?	土師・須恵	
133	2a区	S5W6	中世	楕円	皿状	165	70	13	暗灰褐色土	土師・須恵・瓦器	第167・168図
134	2a区	S2W9	不明	楕円	皿状	112	81	?	?	?	
135	2a区	S7W4	不明	不整楕円	皿状	206	135	13	暗茶褐色土(黄色粒混)	無	
136	2a区	S8W7	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	130	107	14	暗灰色土(褐色粒混)	土師・須恵	
137	2a区	S5W8	不明	長方形	舟底状	117	82	18	暗灰黄色土	無	
141	2a区	S4W5	古代	不整楕円	逆台形状	240	220	24	暗灰褐色土	土師・須恵	第169・170図
142	2a区	S4W5	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	262	200	18	?	土師・須恵	
144	2a区	S9W6	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	108	66	12	黒灰色土	弥生・土師・須恵	
145	2a区	S9W6	古墳中期前半以降	不整楕円	舟底状	210	118+α	24	暗灰黄色土	土師	
146	2a区	S9W4	古墳中期前半以降	楕円	舟底状	134	119	22	黒褐色土	土師	SB132内部施設
147	2a区	S4W8	古墳中期前半以降	不整楕円	皿状	78	60	5	暗灰褐色土(黄色混)	土師	
148	2a区	S4W5	古墳前期前半以降	不整円	舟底状	131	111	26	暗灰色土(茶褐色微粒混)	土師・須恵	SB125内検出
149	2a区	S4W5	古墳前期前半以降	不整楕円	皿状	88	40	11	暗灰褐色土	無	SB125内検出
151	2a区	S6W9	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	165	80	22	暗茶褐色土	土師・須恵	
152	2a区	S6W9	古代以降	円	皿状	105	99	11	暗灰茶褐色土	須恵・瓦器	
153	2a区	S6W9	古代以降	楕円	舟底状	91	63	15	暗灰茶褐色土	須恵	
154	2a区	S5W4	古墳前期前半	楕円	舟底状	71	54	20	黒灰色土	土師	SB125内部施設(第7・8図)
155	2a区	S4W9	古墳中期後半以降	楕円	舟底状	151	123	16	暗灰褐色土(黄色粒混)	弥生・土師・須恵	
156	2a区	S8W4	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	212	137	14	暗灰褐色土	弥生・土師	SB131内検出
158	2a区	S8W4	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	140	100	12	暗灰褐色土	土師	SB131内検出
160	2a区	S7W5	古墳中期前半	円	皿状	102	82	76	茶褐色土(黄色粒混)	無	SB136内部施設
161	2a区	S8W4	古墳中期後半	不整楕円	皿状	102	72	6	黒褐色土(黄茶色粒混)	土師	SB131内検出
162	2a区	S4W9	古墳中期後半以降	長方形	皿状	175	102	18	暗灰茶褐色土(黄色粒混)	土師	SB128内部施設
163	2a区	S5W4	古墳後期後半以降	不整楕円	皿状	85	62	7	赤黄茶褐色土	無	SB129内検出
164	2a区	S5W9	古墳中期前半	不整楕円	皿状	214	98	16	?	土師・須恵	SB137内部施設
165	2a区	S4W9	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	132	80	13	?	土師	SB128内検出
167	2a区	S2E5	古墳中期後半以降	円	皿状	183	70+α	15	?	須恵	
168	2a区	S6W9	古墳以降	円	舟底状	190	88	49	暗灰褐色土	無	
170	2a区	S7W8	古墳以降	長方形	皿状	93	60	7	?	無	
171	2a区	S8W1	古墳以降	楕円	皿状	100	58	6	?	無	SB123内部施設
172	2a区	S7W4	古墳中期前半	不整楕円	皿状	104	83	20	暗灰色土(灰褐色粒混)	無	SB126内部施設
173	2a区	S7W3	古墳中期前半	長方形	皿状	117	83	20	暗灰茶褐色土(黄色粒混)	無	SB126内部施設
174	2a区	S3E9	古墳以降	不整楕円	舟底状	58	50	20	黒褐色土	石	
175	2a区	S4E3	不明	楕円	舟底状	136	74	18	暗茶褐色土	無	
176	2a区	S3E8	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	146	98		?	土師	
177	2a区	S5E4	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	160	100	11	黒灰色土	弥生・土師・須恵	SB71内検出
178	2a区	S5E4	古墳中期後半	楕円	舟底状	70	57+α	17	黒灰色土(茶褐色粒混)	土師	SB71内部施設
179	2a区	S11E3	不明	楕円	逆台形状	180	51+α	36	?	無	
180	2a区	S9W2	古墳後期前半以降	不整楕円	皿状	218	146	11	黒褐色土	無	SB138内検出
181	2b区	S3W16	古墳中期前半以降	方形	舟底状	202	199	26	黒色シルト	土師	
182	2b区	S3W16	古墳中期後半	方形	舟底状	159	150	78	黒色シルト	土師・須恵	第171・172図
201	1区	N7W3	古墳中期後半	不整楕円	舟底状	84	61	12	暗灰褐色土	無	SB7内部施設
202	1区	N6W7	不明	円	舟底状	93	90	67	暗茶褐色土	無	
203	1区	N9W9	古墳中期後半	楕円	逆台形状	93	70	38	暗茶褐色土	土師	SB39内部施設
204	1区	N4W8	古墳後期以降	不整楕円	逆台形状	95	67	27	黒灰褐色土	土師	SB42内部施設
206	1区	N2W3	古墳中期中葉	長方形	逆台形状	86	55	18	黒灰色土(黄茶色微粒混)	土師・鉄製品	SB3内部施設第21図(S28)
207	1区	N2W3	古墳中期中葉以降	長方形	舟底状	184	60	18	黒褐色土	土師・須恵	SB3内検出
209	1区	N2W1	古墳中期後半	楕円	舟底状	130	88	21	黒灰色土	土師・須恵・臼玉	第173・174図
210	1区	N5W3	古墳後期前半以降	不整楕円	皿状	157	120	15	茶褐色土(暗灰色混)	無	SB6内検出
211	1区	N5W3	古墳後期前半以降	円	舟底状	142	133	15	茶褐色土	無	SB6内検出
212	1区	N6W2	弥生後期以降	不整楕円	皿状	84	62	6	黒灰色土	無	SB23内検出
213	1区	N6W8	古墳中期前半以降	不整楕円	皿状	201	118	14	黒褐色土	無	SB36内検出
214	1区	N2W5	古墳中期前半	不整楕円	舟底状	127	86	14	黒灰色土(暗茶色粒混)	無	SB10内部施設
215	1区	N7W6	不明	不整楕円	皿状	205	127	18	暗褐色土	無	
216	1区	N2W5	古墳中期前半	楕円	舟底状	157	95	18	黒褐色土(暗茶色混)	弥生・土師	SB10内部施設
217	1区	N7W9	古墳中期後半以降	楕円	皿状	172	107	17	黒色土	土師・須恵	

土坑一覧

SK No.	区	グリッド	時代時期	平面形態	断面形態	法量(cm) 長さ	幅	深さ	粗　土	出土遺物	備　考
218	1区	N 7 W 9	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	208	115	14	暗黒褐色土	弥生・須恵	
219	1区	N11W15	古墳中期後半以降	長方形	逆台形状	113	67	50	灰褐色土(黄色粒混)	土師	
220	1区	N11W13	古墳中期後半以降	不整楕円	逆台形状	95	65	41	灰黒褐色土	土師	
221	1区	N 8 W10	古墳中期後半以降	円	台状状	110	104	20	暗褐色土	土師	第175・176図
222	1区	N 8 W10	古墳中期後半以降	楕円	台状状	138	58+α	12	暗茶褐色土	無	
223	1区	N 8 W10	古墳後期以降	円	台状状	75	70	26	暗褐色土	土師	S B51内第1検出
224	1区	N 8 W10	古墳後期以降	楕円	皿状	77	60	6	黄褐色土	無	S B51内第2検出
225	1区	N 6 W12	不明	楕円	皿状	132	75+α	17	暗灰褐色土	無	
226	1区	N 7 W13	古代中期前半	不整楕円	皿状	98	71		黒灰色土	土師	第177・178図
227	1区	N 8 W10	古代中期前半	不整楕円	皿状	106	71	30	暗褐色土	土師	S B52内部検出
229	1区	N 7 W11	古代中期後半	方形	皿状	104	100+α	13	暗褐色土(黄粒色混)	土師・須恵	S B48内部検出
230	1区	N10W 9	不明	楕円	逆台形状	110	61	38	暗茶褐色土	無	
231	1区	N 8 W10	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	180	120	15	暗灰褐色土(茶色粒混)	土師	
232	1区	N 9 W13	不明	不整円	皿状	118	112	14	暗茶褐色土	無	
233	1区	N13W12	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	104	66	16	暗褐色土(黄色粒混)	無	S B54内検出
234	1区	N 8 W10	古墳中期後半以降	不整楕円	舟底状	86	65	10	暗灰茶褐色土	無	S B52内検出
235	1区	N13W14	古墳後期以降	楕円	皿状	100	70	27	暗灰茶褐色土	土師	S B56内検出
236	1区	N13W14	古墳後期以降	円	皿状	77	75	8	茶褐色土(茶色粒混)	無	S B56内検出
237	1区	N13W14	古墳後期以降	楕円	皿状	102	78	5	暗灰茶褐色土	無	S B56内検出
238	1区	N 8 W14	不明	不整円	皿状	111	88	9	暗灰褐色土	無	
239	1区	N12W12	不明	不整楕円	逆台形状	87	58	27	暗灰褐色土	無	
241	5区	S 5 W24	不明	?	?	?	?	15	炭褐色土	土師	
261	2ａ区	S10E 2	弥生中期後半以降	?	皿状	101		15	黄灰褐色土	土師・須恵	
263	2ａ区	S 3 W 4	不明	円	皿状	112	114	12	明灰灰褐色土	無	
264	2ａ区	S10W 2	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	496	340	15	?	土師・須恵	
266	2ａ区	S 7 W 2	不明	不整楕円	皿状	155	63	11	暗灰褐色土	無	
267	2ａ区	S 4 W 1	不明	楕円	皿状	118	95	13	?	無	
268	2ａ区	S11E 1	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	210	143	12	黄茶褐色土	弥生・土師・須恵	S X535内検出
269	2ａ区	S12E 1	古墳中期後半以降	楕円	逆台形状	100	48	18	?	無	
270	2ａ区	S11W 5	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	102+α	98+α	9	?	無	
271	2ａ区	S 2 E 3	不明	楕円	舟底状	98		9	黒褐色土(黄色粒混)	無	
273	2ａ区	S11E 1	古墳中期後半	楕円	舟底状	111+α	82	26	黒灰褐色土	無	
300	1区	N 3 W 6	古墳後期以降	楕円	逆台形状	303	202	30	暗褐色土(茶色混)	無	S B43内検出
301	1区	N 8 W 5	古墳中期後半	楕円	皿状	192	162	25	黒褐色土(灰色混)	無	S B41内部施設
302	1区	N 5 W 5	弥生後期後半以降	円	舟底状	125	120	22	茶褐色土(黒褐色混)	無	S B11内検出
303	1区	N 6 W10	弥生中期後半以降	不整円	皿状	128	120	16	黒褐色土	無	S B50内検出
304	1区	N 6 W10	弥生中期後半以降	楕円	皿状	230	146	10	黒褐色土	無	S B50内検出
305	3ｂ区	S11W14	不明	楕円	逆台形状	120	76	16	?	無	
306	3ｂ区	S11W 9	古墳中期後半以降	方形	逆台形状	100	96	8	?	無	
307	3ｂ区	S11W10	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	222	185	24	?	無	S B102内検出
308	3ａ区	S12E 1	古墳中期後半以降	長方形	皿状	213	130	10	暗黒褐色土	無	S B28内検出
309	1区	N 7 W 5	古墳中期後半	不整楕円	舟底状	123+α	140	30	暗灰褐色土	土師	S B46内第1検出
310	3ｂ区	S13E 2	不明	不整楕円	皿状	275	210	28	暗褐色土	無	
311	2ｂ区	S 5 W 3	不明	楕円	皿状	309	269	10	?	無	
312	1区	N 9 W 5	古墳後期以降	不整楕円	逆台形状	193	143	45	?	無	S B28内検出
313	2ａ区	S 5 W 9	不明	不整楕円	皿状	142	91	8	黒灰色土	無	
314	2ａ区	S 7 W 5	古墳中期後半以降	不整楕円	皿状	146	121	13	?	無	S B13内検出
316	1区	N 7 W12	古墳中期後半	長方形	皿状	234	108	12	暗褐色土	無	S B49内部施設
317	3ａ区	S13E 1	古墳中期後半以降	楕円	逆台形状	100+α	126+α	16	?	無	S B98内検出
318	3ａ区	S12E 1	古墳中期後半以降	不整円	逆台形状	122	83	16	?	無	S B98内検出
319	3ａ区	S12E 1	古墳中期後半以降	楕円	皿状	105	84	18	?	無	S B98内検出
320	3ａ区	S12E 2	古墳中期後半以降	不整円	逆台形状	100	90+α	22	?	無	S B97内部施設
321	3ｂ区	S11W12	古墳後期以降	不整楕円	皿状	118	117	4	?	無	S B104内検出
322	3ｂ区	S12W11	古墳後期以降	不整楕円	皿状	124	75	9	?	無	S B106内部施設
323	1区	N10W 6	古墳中期後半	長方形	皿状	84	40	17	黒褐色土	無	S B13内第1検出
324	1区	N 6 W 7	古墳中期後半	円	皿状	90	89	9	黒色土	無	S B17内第1検出
325	1区	N 2 W 5	古墳中期後半以降	楕円	皿状	125	56	18	黒褐色土	弥生・土師	S B10内検出

溝一覧

SD No.	区	グリッド	平面形	断面形	規模(m)			埋土	出土遺物	図版
					長さ	幅	深さ			
1	1区	N 2 W 2	C字状	U字状	11.58	0.42	0.12	黒灰色土(苔褐色混)	土師	第179図
2	1区	N11W 8 他	L字状	逆台形状	66.8+α	0.64	0.17	暗灰褐色土	土師	
3	1～5区	1区～5区	直線状	U字状	144	1.6	80	黒褐色土	弥生・土師	第181図
4	1区	N12W14他	直線状	U字状	18.96	1.39	0.15	暗灰色土	土師	
5	1区	N10W15他	直線状	U字状	23	1.23	0.3	暗灰褐色土(若干砂混)	不明	
6	1区	N12W14他	直線状	逆台形状	15.1+α	0.35	0.26	灰赤褐色土	不明	
7	1区	N 9 W10他	S字状	U字状	20.02	2.1	0.13	暗灰色土	不明	
8	1区	N11W14他	直線状	逆台形状	8.93+α	0.85	0.23	暗褐色土	不明	
9	1区	N10W13他	直線状	U字状	3.98+α	0.51	0.07	暗灰褐色土	不明	
10	4区	N 4 W17他	L字状	逆台形状	32.7+α	0.87	0.39	黒灰色土	縄文・石器	
11	4区	N 3 W20他	直線状	U字状	22.5+α	1.5	0.11	灰赤褐色土	不明	
12	4区	N 3 W18他	直線状	U字状	4.2+α	0.67	0.08	黒灰色土(褐色混)	不明	
13	4区	N 4 W17他	直線状	U字状	10.2+α	0.67	0.08	暗褐色土	不明	
14	4区	S 1 W16	直線状	U字状	0.49+α	0.21	0.08	黒灰色土(赤色混)	不明	
15	4区	S 1 W17	直線状	U字状	2.79	0.25	0.06	暗灰赤褐色土	不明	
16	4区	N 2 W17他	直線状	U字状	7+α	0.35	0.1	黒灰色土(紫苯色混)	不明	
17	4区	N 2 W17	直線状	U字状	1.68+α	0.44	0.11	黒灰色土	不明	
18	4区	N 2 W16他	直線状	U字状	5.8+α	0.5	0.07	黒灰色土(褐色混)	不明	
19	4区	N 5 W10他	直線状	U字状	1.58+α	0.53	0.09	暗茶褐色土	不明	
20	1区	N 5 W10他	直線状	U字状	12.0+α	0.99	0.15	暗灰褐色土	不明	
21	2a区	S10E 7	直線状	不明	10.2+α	1.04	0.15	暗灰褐色土	不明	
22	2a区	S 9 E 8 他	直線状	U字状	9.8+α	0.95	0.07	暗灰褐色土	不明	
23	2a区	S 8 E 4 他	直線状	U字状	9.8+α	0.95	0.07	暗灰褐色土	不明	
24	2a区	S11E 7 他	直線状	逆台形状	2.74+α	0.32	0.23	暗灰褐色土	不明	
25	2a区	S 3 W 8 他	直線状	U字状	33.5	1.3	12.5	暗灰色土	不明	
26	2a区	S 3 W 8 他	直線状	U字状	32.5	1.05	29.6	暗灰茶褐色土	不明	
27	2a区	S 4 W 8 他	L字状	U字状	12.8	0.57	0.15	黒灰色土	不明	
28	2a区	S 3 W 6 他	L字状	U字状	38.3	0.6	0.2	暗灰褐色土	不明	
29	2a区	S 6 W 7 他	直線状	U字状	22.5	1.1	22.2	黒灰色土	不明	
30	2a区	S 3 W 6 他	直線状	U字状	9.9	1.07	0.16	暗灰色土	須恵	第186図
31	2a区	S 3 W10他	L字状	U字状	51.8+α	0.98	0.19	暗灰褐色土	土師・須恵	第186図
32	2a区	S 2 W 7 他	直線状	U字状	30.4	0.61	0.15	暗灰褐色土	不明	
33	2a区	S 2 W 6 他	直線状	U字状	7.45	0.81	0.27	黒灰色土	不明	
34	2a区	S 2 W 7 他	直線状	U字状	20.1+α	1.16	0.15	暗灰褐色土	不明	
35	2a区	S 1 W 7 他	直線状	U字状	13.8+α	1.05	0.11	黒灰色土	不明	
36	2a区	S 6 W 8 他	直線状	U字状	20.1	0.97	12.5	黒灰色土	不明	
37	2a区	S 2 W10他	直線状	U字状	8.53+α	0.93	0.26	暗褐色土	不明	
38	2a区	S 2 W 8 他	直線状	U字状	3.89	0.97	0.11	暗灰褐色土	不明	
39	2a区	S16E 8 他	丁字状	U字状	13.54+α	0.32	0.09	暗灰茶褐色土	不明	
40	3a区	S17E12他	直線状	U字状	6.2+α	1.67	0.1	暗茶褐色土	不明	
41	3a区	S 12W11	直線状	U字状	2.03+α	0.59	0.07	暗灰褐色土	不明	
42	3b区	S 9 W12他	直線状	U字状	10.65+α	1.01	0.23	暗灰褐色土	不明	
43	1区	N10W14	直線状	U字状	1.66	0.47	0.15	暗灰茶褐色土	不明	
44	1区	N10W14他	直線状	U字状	8.16	0.6	0.2	暗灰茶褐色土	不明	
45	1区	N13W14他	直線状	U字状	0.84+α	0.18	0.15	暗茶褐色土	不明	
46	2a区	S10W 3 他	直線状	U字状	21.9+α	1.2	0.11	暗茶褐色土	石器	
47	2a区	S 3 W 5 他	直線状	U字状	28.8+α	1.3	0.12	暗灰褐色土	不明	
48	2a区	S 7 W 5 他	L字状	U字状	11.9+α	1.1	0.07	暗灰褐色土	不明	
49	2a区	S11W 1 他	直線状	逆台形状	12+α	1.05	0.35	暗灰褐色土	不明	
50	2a区	S 2 W10他	直線状	逆台形状	5.76+α	0.71	0.14	暗褐色土(赤色粒混)	不明	
51	2a区	S 6 W 2	直線状	U字状	3.96	0.64	0.11	暗灰褐色土	不明	
52	2a区	S 2 W 7	直線状	U字状	2.22+α	0.28	0.11	灰褐色土	不明	
53	2a区	S 3 W10他	直線状	U字状	9.4	1.05	0.12	暗灰褐色土	不明	
54	2a区	S11W 4 他	直線状	U字状	5.83+α	0.38	0.21	暗灰色土	不明	
55	2a区	S10W 5 他	直線状	不明	12.4+α	0.35		暗灰色土	不明	
56	2a区	S 8 W 7 他	C字状	U字状	20.2	1.26	0.08	**黒褐色土**	弥生・土師・石器	第187図
101	2b区	S 3 W16他	直線状	U字状	10.1−α	0.96	0.14	暗灰色土	不明	
102	2b区	S 3 W16他	丁字状	U字状	17.8−α	0.99	0.09	黒色土(赤褐色混)	不明	
104	2b区	S 2 W14他	直線状	逆台形状	6.73−α	0.71	0.2	黒色土(灰褐色混)	不明	
105	2b区	S 2 W13	直線状	U字状	2.4	0.31	0.06	黒色土(灰褐色混)	不明	
106	2b区	S 1 W13他	直線状	U字状	6.4+α	0.58	0.23	黒色土(灰褐色混)	不明	
107	2b区	S 1 W13	直線状	逆台形状	3.85+α	0.49	0.23	黒色土(灰褐色混)	不明	
108	2b区	S 2 W14	直線状	U字状	2.06−α	0.94	0.16	不明	不明	
121	5区	S 3 W25他	直線状	不明	7.1+α	0.82		茶褐色土	不明	
201	1区	N 4 W15他	直線状	U字状	24.6	0.7	0.05	灰褐色土	不明	
202	1区	N 1 W13他	直線状	U字状	21.6	0.85	0.05	不明	不明	
203	1区	N 2 W15他	直線状	U字状	8.14	0.56	0.09	不明	不明	
204	1区	N12W14	直線状	U字状	1.53+α	0.33	0.12	不明	不明	
205	1区	N 6 W11他	直線状	U字状	4.05+α	0.3	0.09	不明	不明	
206	1区	N 6 W12	直線状	U字状	0.63+α	0.14	0.03	不明	不明	
207	1区	N 6 W12	直線状	U字状	0.59	0.18	0.07	不明	不明	
208	1区	N 6 W12	丁字状	U字状	0.85+α	0.25	0.1	不明	不明	
209	3b区	S 9 W12他	丁字状	U字状	2.3	0.36	0.16	不明	不明	
210	2a区	S 2 W 3 他	直線状	不明	17.5	0.35		不明	不明	
211	2a区	S 4 E 3 他	直線状	不明	3.8+α	0.3	0.03	不明	不明	
212	2a区	S11E 5 他	直線状	不明	2.0	0.3		不明	不明	

性格不明遺構一覧

SX No.	区	グリッド	時代時期	種別	平面形態	法量(cm) 長さ	幅	深さ	埋土	出土遺物	図版
1	1区	N 4 E 5	古墳	不明	不整楕円	455+α	115	12	黒色土(赤褐色混)	土師・須恵・石器	
2	1区	N 1 E 5	不明	不明	不定形	140	39	7	黒色土(赤褐色混)	無	
8	1区	N 6 E 2	古墳以降	不明	不整楕円	127	54	11	黒褐色土(黄褐色混)	土師	
9	4区	N 1 W16	不明	不明	不整円	232	210	9	暗灰色土(黄色斑)	無	
10	4区	N 4 W17	不明	不明	不整楕円	103+α	67	19	黒色土(赤褐色混)	無	
11	4区	N 4 W17	不明	不明	不整楕円	66+α	31	7	暗灰色土(黄色斑)	無	
12	1区	N 4 W 7	古代	掘板状	不整楕円	102	37	8	黒灰色土	土師・須恵	
13	1区	N 4 W 7	古代	掘板状	不整楕円	98	39	14	黒灰色土	土師・須恵	
14	1区	N 4 W 7	古代	掘板状	不整楕円	136	38	8	黒灰色土	土師	
15	1区	N 4 W 7	古代	掘板状	不整楕円	114	38	5	黒灰色土	土師・須恵	
16	1区	N 4 W 8	古代	掘板状	楕円	63	32	8	黒灰色土	土師・須恵	
17	1区	N 4 W 8	古代	掘板状	不整楕円	87	32	9	黒灰色土	土師・須恵	
18	1区	N 4 W 8	古代	掘板状	不整楕円	82	35	5	黒灰色土	土師・須恵	
19	1区	N 4 W 8	古代	掘板状	不整楕円	120	72	9	黒色土	土師	
20	1区	N 4 W 8	古代	掘板状	不整楕円	50	27	3	黒灰色土	土師	
21	1区	N 6 W 8	古代	掘板状	不整楕円	85	46	12	黒灰色土	土師	
22	1区	N 1 W 8	古代	掘板状	楕円	35	29	4	黒灰色土	無	
23	1区	N 1 W 8	古代	掘板状	不整楕円	119	32	9	暗灰褐色土	無	
24	1区	N 10 W 8	古代	掘板状	不整楕円	142	55	12	暗灰褐色土	無	
25	1区	N 10 W 8	古代	掘板状	不整楕円	132	53	11	暗灰褐色土	無	
26	1区	N 10 W 8	古代	掘板状	楕円	116	47	6	暗灰褐色土	無	
27	1区	N 8 W 3	不明	不明	不整楕円	57	30	5	灰褐色土	無	
28	1区	N 8 W 3	不明	不明	不整楕円	41	19	2	灰褐色土	無	
29	1区	N 9 W 13	不明	その他	1667	264+α	22		暗茶褐色土(黄褐色斑)	無	
61	2ａ区	S 6 E 5	古代	掘板状	不整楕円	80	27	5	黒灰色土(赤色斑)	無	
62	2ａ区	S 6 E 5	古代	掘板状	不整楕円	44	28	2	黒灰色土(赤色斑)	無	
63	2ａ区	S 6 E 6	古代	掘板状	不整楕円	43	11	6	黒灰色土(赤色斑)	無	
64	2ａ区	S 6 E 6	古代	掘板状	不整楕円	42	17	3	黒灰色土(赤色斑)	無	
65	2ａ区	S 6 E 6	古代	掘板状	楕円	40	18	3	黒灰色土(赤色斑)	無	
66	2ａ区	S 6 E 6	古代	掘板状	不整楕円	56	18	3	黒灰色土(赤色斑)	無	
67	2ａ区	S 7 E 5	古代	掘板状	楕円	100	20	6	黒灰色土(赤色斑)	無	
68	2ａ区	S 7 E 5	古代	掘板状	楕円	143	20	6	黒灰色土(赤色斑)	無	
69	2ａ区	S 7 E 6	古代	掘板状	楕円	105	18	2	黒灰色土(赤色斑)	無	
70	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	不整円	30	28	6	灰褐色土	無	
71	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	不整楕円	81	33	3	灰褐色土	無	
72	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	不整楕円	45+α	21	3	灰褐色土	無	
73	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	不整楕円	97	28	5	灰褐色土	無	
74	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	楕円	100	30	3	灰褐色土	無	
75	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	楕円	61	25	3	灰褐色土	無	
76	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	不整楕円	83	34	5	灰褐色土	無	
77	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	不整楕円	108	45	10	灰褐色土	無	
78	2ａ区	S 5 E 1	古代	竪板状	楕円	86	45	5	灰褐色土	無	
79	2ａ区	S 6 E 2	古代	竪板状	楕円	41	19	4	灰褐色土	無	
80	2ａ区	S 6 E 2	古代	竪板状	不整楕円	58	32	2	灰褐色土	無	
81	3ａ区	S 15 E 7	古墳以降	不明	不整楕円	145	108	15	暗褐色土	土師	
101	2ａ区	S 9 W 4	不明	不明	不整楕円	233	185	15	黒灰色土(黄色B混)	無	
102	2ａ区	S 6 W 9	不明	不明	不整楕円	310	107	10	暗灰褐色土(黄色混)	石器	
103	2ａ区	S 4 W 8	不明	不明	長楕円	94	28	6	暗褐色土	無	
104	2ａ区	S 3 W 5	古代	竪掘状	楕円	58	39	5	暗灰茶褐色土	無	
105	2ａ区	S 3 W 5	古代	竪掘状	不整楕円	53	32	7	暗灰茶褐色土	無	
106	2ａ区	S 3 W 5	古代	竪板状	楕円	94	35	7	暗灰茶褐色土	無	第190図
107	2ａ区	S 3 W 5	古代	竪板状	不整楕円	191	37	10	暗灰茶褐色土	石器	
108	2ａ区	S 3 W 5	不明	竪板状	不整楕円	233	43	8	暗灰茶褐色土	無	
109	2ａ区	S 3 W 5	古代	竪板状	不整楕円	185	43	11	暗灰茶褐色土	無	
110	2ａ区	S 9 W 8	古代	竪板状	不整楕円	65+α	26	4	暗灰茶褐色土	無	
111	2ａ区	S 9 W 8	古代	竪板状	楕円	111	30	4	暗灰茶褐色土	無	
112	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	不整楕円	257	55	16	暗灰茶褐色土	無	
113	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	不整楕円	300	54	15	暗灰茶褐色土	無	
114	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	楕円	283	48	11	暗灰茶褐色土	無	
115	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	楕円	229	35	5	暗灰茶褐色土	無	
116	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	楕円	83	30	5	暗灰茶褐色土	無	
117	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	楕円	122	34	6	暗灰茶褐色土	無	
118	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	楕円	119	31	5	暗灰茶褐色土	無	
119	2ａ区	S 8 W 8	古代	竪板状	楕円	47	21	2	暗灰茶褐色土	無	
120	2ａ区	S 3 W 1	古代	竪板状	不整楕円	60	26	9	灰褐色土	無	
121	2ａ区	S 3 W 1	古代	竪板状	楕円	81	29	3	灰褐色土	無	
122	2ａ区	S 5 W 1	古代	竪板状	不整楕円	53	35	6	灰褐色土	無	
123	2ａ区	S 5 W 1	古代	竪板状	不整楕円	86	47	10	灰褐色土	無	
124	2ａ区	S 5 W 1	古代	竪板状	楕円	65	32	17	灰褐色土	無	
125	2ａ区	S 7 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	49+α	24	7	暗灰茶褐色土(黄色B混)	無	
126	2ａ区	S 7 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	48+α	25	3	暗灰茶褐色土(黄色B混)	無	
127	2ａ区	S 8 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	54+α	36	4	明灰赤褐色土	無	
128	2ａ区	S 8 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	112+α	47	7	明灰赤褐色土	無	
129	2ａ区	S 8 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	98+α	43	14	明灰赤褐色土	無	
130	2ａ区	S 8 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	101+α	30	7	明灰赤褐色土	無	
131	2ａ区	S 8 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	93+α	36	11	暗灰茶褐色土(黄色B混)	無	
132	2ａ区	S 8 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	50+α	31	5	灰褐色土	無	
133	2ａ区	S 8 W 7	古代	竪掘状	不整楕円	41+α	39	2	灰褐色土	無	

性格不明遺構一覧

SX No.	区	グリッド	時代時期	種別	平面形態	法量(cm) 長さ	幅	深さ	覆土	出土遺物	図版
134	2 a 区	S 5 W 1	古代	波板状	不整円	143+α	138	17	灰褐色土	石器	
135	2 a 区	S 5 W 1	古代	波板状	不整楕円	83	34	20	灰褐色土	無	
136	2 a 区	S 5 W 6	古代	波板状	不整楕円	120	90	15	暗灰茶褐色土	無	
137	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	115	25	13	暗灰茶褐色土	無	
138	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	104+α	38+α	17	暗灰茶褐色土	須恵	
139	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	125+α	45+α	13	暗灰茶褐色土	無	
140	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	83+α	35	21	暗灰茶褐色土	無	
141	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	不整楕円	118	37	12	暗灰茶褐色土	無	
142	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	不整楕円	121	39	9	灰褐色土	無	
143	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	不整楕円	65+α	33	7	灰褐色土	無	
144	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	不整楕円	65	31	8	灰褐色土	無	
145	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	不整円	43	42	7	暗灰茶褐色土	無	
146	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	楕円	30	20	3	暗灰茶褐色土	無	
147	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	楕円	72	33	5	暗灰茶褐色土	無	
148	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	楕円	75	23	3	暗灰茶褐色土	無	
149	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	不整楕円	135+α	34	3	暗灰茶褐色土	石器	
150	2 a 区	S 3 W 6	古代	波板状	不整楕円	134+α	37	12	暗灰茶褐色土	無	
151	2 a 区	S 3 W 7	古代	波板状	不整楕円	115+α	43	14	暗灰茶褐色土	無	
152	2 a 区	S 3 W 7	古代	波板状	不整楕円	108+α	44	9	暗灰茶褐色土	無	
153	2 a 区	S 3 W 7	古代	波板状	不整楕円	112+α	32	4	暗灰茶褐色土	無	
154	2 a 区	S 3 W 7	古代	波板状	不整楕円	119	54	5	暗灰茶褐色土	無	
155	2 a 区	S 3 W 7	古代	波板状	不整楕円	111+α	52	12	暗灰茶褐色土	無	
156	2 a 区	S 3 W 7	古代	波板状	不整楕円	101+α	42	3	暗灰茶褐色土	無	
157	2 a 区	S 7 W 9	古代	波板状	不整楕円	115+α	63	12	暗灰茶褐色土	無	
158	2 a 区	S 7 W 9	古代	波板状	不整楕円	270+α	57	7	暗灰茶褐色土	無	
159	2 a 区	S 7 W 9	古代	波板状	不整楕円	171	49	8	暗灰茶褐色土	無	
160	2 a 区	S 7 W 9	古代	波板状	不整楕円	200	56	18	暗灰茶褐色土	無	
161	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	140+α	53	17	暗灰茶褐色土	無	
162	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	161+α	57	16	暗灰茶褐色土	無	
163	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	200	57	17	暗灰茶褐色土	無	
164	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	145+α	48	15	暗灰茶褐色土	石器	
165	2 a 区	S 4 W 2	古代	波板状	不整楕円	90+α	43	19	暗灰茶褐色土	無	
166	2 a 区	S 4 W 2	古代	波板状	不整楕円	195	68	13	暗灰茶褐色土	無	
167	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	105	47	9	暗灰茶褐色土	無	
168	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	楕円	83	51	8	暗灰茶褐色土	無	
169	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	楕円	100	34	10	暗灰茶褐色土	無	
170	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	90+α	53	9	暗灰茶褐色土	無	
171	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	80	32	3	暗灰茶褐色土	無	
172	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	楕円	60	22	15	暗灰茶褐色土	無	
173	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	49	35	15	暗灰茶褐色土	無	
174	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	105	38	16	暗灰茶褐色土	無	
175	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	42	19	9	暗灰茶褐色土	無	
176	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	45+α	39	15	暗灰茶褐色土	無	
177	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	108	50	5	暗灰茶褐色土	無	
178	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	115	58	9	暗灰茶褐色土	無	
179	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整形	113	89	5	暗灰茶褐色土	無	
180	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整形	58	50	4	暗灰茶褐色土	無	
181	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整楕円	97	45	6	暗灰茶褐色土	無	
182	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整楕円	100	33	9	暗灰茶褐色土	無	
183	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整円	37	25	6	暗灰茶褐色土	無	
184	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整円	37	29	5	暗灰茶褐色土	無	
185	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整楕円	61	30	8	暗灰茶褐色土	無	
186	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整楕円	69	52+α	11	暗灰茶褐色土	無	第190図
187	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整楕円	113	69	18	暗灰茶褐色土	無	第190図
188	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	楕円	72	27	7	暗灰茶褐色土	無	第190図
189	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整楕円	76+α	46	10	暗灰茶褐色土	無	第190図
190	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	楕円	74	43	15	暗灰茶褐色土	無	第190図
191	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	楕円	108	45	15	暗灰茶褐色土	無	第190図
192	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	不整楕円	92+α	39	20	暗灰茶褐色土	無	第190図
193	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	不整楕円	42+α	25	11	暗灰茶褐色土	無	第190図
194	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	楕円	40+α	22	3	暗灰茶褐色土	無	第190図
195	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	楕円	101	38	4	暗灰茶褐色土	無	第190図
196	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	不整楕円	150	56	8	暗灰茶褐色土	無	第190図
197	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	不整楕円	96	53	7	暗灰茶褐色土	石器	第190図
198	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	楕円	60	49	6	暗灰茶褐色土	無	第190図
199	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	楕円	58	44	5	暗灰茶褐色土	無	
200	2 a 区	S 3 W 5	古代	波板状	楕円	51	33	6	暗灰茶褐色土	無	
201	2 a 区	S 6 W10	古代	波板状	不整楕円	236+α	60	16	暗灰褐色土	無	
202	2 a 区	S 6 W 9	古代	波板状	不整楕円	225+α	57	19	暗灰褐色土	無	
203	2 a 区	S 6 W10	古代	波板状	不整楕円	143+α	49	9	暗灰褐色土	無	
204	2 a 区	S 6 W10	古代	波板状	不整楕円	81+α	75	8	暗灰褐色土	無	
205	2 a 区	S 5 W 1	古代	波板状	楕円	125	31	10	暗灰褐色土	無	
206	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	不整楕円	112	24	4	暗灰褐色土	無	
207	2 a 区	S 5 W 2	古代	波板状	楕円	93	45	10	暗灰褐色土	無	
208	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	不整楕円	67	36+α	13	暗灰褐色土	無	
209	2 a 区	S 4 W 3	古代	波板状	楕円	76	41	10	暗灰褐色土	無	
210	2 a 区	S 4 W 4	古代	波板状	不整楕円	115	35	7	暗灰褐色土	無	第190図
211	2 a 区	S 4 W 5	古代	波板状	不整楕円	172	47	10	暗灰褐色土	無	第190図
212	2 a 区	S 2 W13	古代	波板状	不整楕円	55+α	21	3	黒色土(灰褐色混)	無	
213	2 a 区	S 2 W14	古代	波板状	不整楕円	107	25	9	黒色土(灰褐色混)	無	

性格不明遺構一覧

SX No.	区	グリッド	時代時期	種別	平面形態	法量(cm)			埋土	出土遺物	図版
						長さ	幅	深さ			
214	2a区	S2W13	古代	波板状	不整楕円	32	22	6	黒色土(灰褐色混)	無	
215	2a区	S2W14	古代	波板状	不整楕円	88	31	5	黒色土(灰褐色混)	無	
216	2a区	S2W14	古代	波板状	不整楕円	132	31	8	黒色土(灰褐色混)	無	
217	2a区	S2W14	古代	波板状	長方形	76	31	10	黒色土(灰褐色混)	無	
218	2a区	S2W9	古代	波板状	不整楕円	86	35	16	暗灰褐色土	無	
219	2a区	S2W9	古代	波板状	楕円	75	34	12	暗灰褐色土	無	
220	2a区	S2W9	古代	波板状	不整楕円	87	42	16	暗灰褐色土	無	
221	2a区	S2W9	古代	波板状	楕円	61	36	13	暗灰褐色土	無	
222	2a区	S2W10	古代	波板状	不整楕円	92+α	41+α	90	暗灰褐色土	無	
223	2a区	S2W10	古代	波板状	不整楕円	95+α	43	5	暗灰褐色土	無	
224	2a区	S2W10	古代	波板状	不整楕円	97+α	54	6	暗灰褐色土	無	
225	2a区	S2W10	古代	波板状	不整円	70	60	4	暗灰褐色土	無	
226	2a区	S2W10	古代	波板状	不整楕円	95+α	33+α	11	暗灰褐色土	無	
227	2a区	S2W10	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	無	
228	2a区	S2W9	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	無	
501	2a区	S5W2	古代	波板状	不整楕円	79	33	10	暗灰茶褐色土	無	
502	2a区	S5W2	古代	波板状	不整楕円	87	31	14	暗灰茶褐色土	無	
503	2a区	S5W2	古代	波板状	不整楕円	101	39	13	暗灰茶褐色土	無	
504	2a区	S4W2	古代	波板状	不整楕円	130	53	17	暗灰茶褐色土	無	
505	2a区	S4W2	古代	波板状	不整楕円	111	49	15	暗灰茶褐色土	無	
506	2a区	S4W2	古代	波板状	不整楕円	58	36	17	暗灰茶褐色土	無	
507	2a区	S4W3	古代	波板状	不整楕円	60	56+α	8	暗灰茶褐色土	無	
508	2a区	S4W3	古代	波板状	不整楕円	53	40	6	暗灰茶褐色土	無	
509	2a区	S4W3	古代	波板状	楕円	52	25	18	暗灰茶褐色土	無	
510	2a区	S4W3	古代	波板状	不整楕円	80	32	7	暗灰茶褐色土	無	
511	1区	N11W8	古代	波板状	不整楕円	81	29	6	暗灰茶褐色土	無	
512	2a区	S3W8	古代	波板状	楕円	89	29	10	暗灰褐色土	無	
513	2a区	S3W8	古代	波板状	不整楕円	123	54	2	暗灰褐色土	無	
514	2a区	S6W7	不明	不明	長方形	757	356	31	暗灰褐色土	無	
515	1区	N10W8	古代	波板状	不整楕円	55+α	29	4	暗灰茶褐色土	無	
516	2a区	S8W7	不明	不明	不整楕円	780+α	407	13	暗灰褐色土	無	
517	2a区	S10E8	古代	波板状	不整楕円	67	42	4	暗灰褐色土	無	
518	2a区	S10E8	古代	波板状	不整楕円	67	33	7	暗灰褐色土	無	
519	2a区	S9E8	古代	波板状	不整楕円	149	39	2	暗灰褐色土	無	
520	2a区	S9E8	古代	波板状	不整楕円	96	28	5	暗灰褐色土	無	
521	2a区	S9E7	古代	波板状	不整楕円	193	50	3	暗灰褐色土	無	
522	2a区	S9E8	古代	波板状	不整楕円	123	21	7	暗灰褐色土	無	
523	2a区	S9E7	古代	波板状	不整楕円	113	27	3	暗灰褐色土	無	
524	2a区	S9E7	古代	波板状	不整楕円	87	23	2	暗灰褐色土	無	
525	2a区	S8E8	不明	不明	不整楕円	346	157	不明	不明	無	
526	2a区	S8E8	不明	不明	不整形	226	205	不明	不明	無	
527	2a区	S9W6	不明	不明	不整形	447	245+α	13	黒色土	無	
528	2a区	S1W13	不明	不明	楕円	142	28	3	不明	無	
529	2a区	S1W14	不明	不明	不整楕円	164	66	11	不明	無	
530	2a区	S9W5	不明	不明	不整楕円	380+α	215	24	不明	無	
531	3a区	S13E9	不明	不明	不整楕円	244+α	280	5	黒褐色土	無	
532	3a区	S13E10	不明	不明	不整円	127+α	228	4	不明	無	
533	2a区	S2・3W1・2	古墳中期~古代	不明	不整楕円	1360	690	45	黒灰色土	特殊扁壷非陶邑須恵	第192図
534	2a区	S11E6・7	古墳中期~古代	不明	隅丸長方形	1170+α	770	25	黒灰色土	土師・須恵・石製品	第196図
535	2a区	S11E1	古墳中期	不明	不整楕円	383+α	317+α	21	黒灰褐色土	土師・須恵	第199図

井戸一覧

SE No.	区	グリッド	時代時期	平面形態	断面形態	法量(cm)			埋土	出土遺物	備考	図版
						長さ	幅	深さ				
1	2a区	S11E4	古墳後期	楕円	逆台形	90	68	85	黒褐色シルト	須恵		第201図
2	2a区	S2W5	中世	円	逆台形	218	200	380	灰褐色土	土師・瓦器		第203図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)[推定値]・(残存値) 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
SB125	1	土師器	甕	口頸胴部	[22.2]	(10.4)		外面：ハケ 内面：ハケ→ナデ	4㎜長・石・金	良	淡黄褐	淡黄褐		第8図
SB125	2	土師器	壺	復元完形	[10.8]	(17.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	4㎜長・石・金	良	黒茶褐	暗灰褐		第8図
SB125	3	土師器	壺	復元完形	[11.2]	(15.0)		外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ、ナデ	2㎜長・石・金	良	淡黄褐	淡黄褐		第8図
SB125	4	土師器	壺	完存	10.4	13.7	2.2	外面：ハケ 内面：ハケ→ナデ	2㎜長・石	良好	暗黄灰	暗黄灰		第8図
SB125	5	土師器	壺	復元完形	10.0	(8.2)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、指頭痕	4㎜長・石・金	良	淡黄褐	淡黄褐		第8図
SB125	6	土師器	小型丸底壺	完存	7.3	9.9		外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ、ナデ	2㎜長・石	良好	灰褐	灰褐		第8図
SB125	7	土師器	低脚椀	完存	14.6	8.0	5.3	外面：ナデ、ハケ 内面：摩滅	精製土	良好	黄灰	黄灰	SK154	第8図
SB125	8	土師器	椀	完存	14.0	7.5	7.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、指頭痕	微粒砂	良	淡黄褐	淡黄褐		第8図
SB125	9	土師器	椀	復元完形	11.0	6.7	3.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、指頭痕	4㎜長・石	良	淡黄褐	淡黄褐		第8図
SB125	10	土師器	高坏	坏部	[19.6]	(6.9)		外面：摩滅 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	灰褐	灰褐		第8図
SB125	11	土師器	高坏	完存	18.4	13.3	11.7	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	灰黄褐	灰黄褐	SK154	第8図
SB125	12	土師器	高坏	復元完形	21.0	14.6	[13.5]	外面：摩滅 内面：ナデ、指頭痕	微粒砂	良	明黄橙	明黄橙		第8図
SB125	13	土師器	高坏	坏部	[19.0]	(4.6)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	精製土	良好	黄灰	赤灰		第8図
SB125	14	土師器	高坏	坏部	[17.4]	(6.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	灰茶	赤茶		第8図
SB125	15	土師器	高坏	脚裾部欠損	[19.5]	(14.4)		外面：摩滅 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	赤茶	赤茶		第8図
SB125	16	土師器	高坏	坏部	[15.1]	(6.0)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良	黄灰	乳黄		第8図
SB125	17	土師器	高坏	坏部	[15.5]	(7.8)		外面：ナデ 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	淡赤褐	淡赤褐		第8図
SB125	18	土師器	高坏	脚部		(4.0)	[12.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第8図
SB125	19	陶磁器	白磁碗	復元完形	[16.5]	(6.7)	[8.2]	外面：施釉 内面：施釉	精製砂粒	良好	淡白黄	淡白黄		第8図
SB125	20	土師器	皿	1／2	[8.8]	1.6	[5.4]	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	7㎜長・石	良好	灰黄	灰黄		第8図
SB125	21	土師器	皿	完存	8.9	1.6	5.8	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	精製土	良好	乳灰	黄褐		第8図
SB125	22	土師器	皿	1／3	[7.7]	1.5	[4.0]	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	精製土	良好	乳橙	乳橙		第8図
SB125	23	土師器	皿	4／5	[8.6]	0.9	[6.8]	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	精製土	良	乳白	乳白		第8図
SB125	24	瓦器	坏	1／3	[9.8]	(1.7)	[4.0]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	良	淡青灰	淡青灰		第8図
SB125	25	瓦器	坏	1／4	[4.9]	(2.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	灰	灰		第8図
SB125	26	須恵質	擂鉢	口縁部	[30.8]	(8.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	6㎜長・石	良好	淡青灰	淡青灰		第8図
SB125	27	須恵質	鉢	底部		(3.0)	[9.6]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	良好	灰	灰		第8図
SB126	28	土師器	甕	口頸部	[19.2]	(6.0)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、指頭痕	3㎜長・石	良	淡褐	淡褐		第10図
SB126	29	土師器	甕	口頸部	[18.9]	(5.8)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良好	淡灰褐	淡灰褐		第10図
SB126	30	土師器	高坏	坏部	[14.7]	(5.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	淡橙	淡黄		第10図
SB126	31	土師器	高坏	脚柱部		(8.0)	[9.9]	外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	微粒砂	良	淡黄	淡黄		第10図
SB126	32	土師器	高坏	脚部		(7.8)	[13.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡橙	淡橙		第10図
SB126	33	須恵器	甕	口頸部	[37.2]	(8.1)		外面：回転ナデ、タタキ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第10図
SB163	34	土師器	甕	口頸部	[14.5]	(3.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石・金	軟	淡黄褐	淡黄褐		第12図
SB163	35	土師器	甕	口頸部	[29.6]	(3.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石・金	良	淡黄灰褐	淡黄灰褐		第12図
SB163	36	土師器	甕	口頸部	[12.0]	(5.8)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ、指頭痕	1㎜長・石・金	良	淡橙褐	淡黒褐		第12図
SB163	37	土師器	甕	底部		(5.1)	[3.2]	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ、指頭痕	1㎜長・石・金	良	淡橙褐	淡黒褐		第12図
SB163	38	土師器	壺	口縁部	[18.4]	(10.7)		外面：ナデ、ハケ、指頭痕 内面：摩滅	3㎜長・石・金	良好	淡黄褐	淡黄褐		第12図
SB163	39	土師器	高坏	坏部	[22.6]	(6.8)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	1㎜長・石・金	良好	橙赤褐	橙赤褐		第12図
SB163	40	土師器	高坏	脚部		(3.0)	[11.0]	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	1㎜長・石・金	良好	明黄褐	茶褐		第12図
SB163	41	土師器	高坏	脚部		(3.9)	[12.0]	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	3㎜長・石・金	良好	橙茶褐	橙茶褐		第12図
SB163	42	土師器	椀	口縁部	[14.4]	(4.3)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	1㎜長・石・金	良	黄灰褐	茶褐		第12図
SB163	43	土師器	椀	1／2	13.2	7.9	7.5	外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	微粒砂	良	暗橙	暗褐		第12図
SB7	44	土師器	甕	口頸部	[14.0]	(5.2)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	黒	黄灰		第14図
SB7	45	土師器	甕	口頸部	[14.4]	(5.2)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良好	白灰黄	乳灰黄		第14図
SB7	46	土師器	甕	完存	13.0	14.7	2.0	外面：ナデ 内面：ナデ、ハケ、指頭痕	3㎜長・石	良好	赤橙	乳黄		第14図
SB7	47	土師器	甕	口頸部	[14.2]	(4.7)		外面：指頭痕、ハケ 内面：指頭痕、ハケ	微粒砂	良好	浅黄橙	浅黄橙		第14図
SB7	48	土師器	甕	口頸部	[15.4]	(5.7)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	3㎜長・石	良好	灰褐	灰褐		第14図
SB7	49	土師器	甕	口頸部	[15.6]	(5.9)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良	黄灰	黄灰		第14図
SB7	50	土師器	甕	口頸部	[13.4]	(4.6)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第14図
SB7	51	土師器	甕	口縁部	[17.0]	(4.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	黄灰	淡赤		第14図
SB7	52	土師器	甕	口頸部	[12.3]	(4.0)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第14図
SB7	53	土師器	甕	口頸部	[15.6]	(5.2)		外面：指頭痕 内面：指頭痕	4㎜長・石	良好	暗褐	暗褐		第14図
SB7	54	土師器	甕	口頸部	[13.0]	(4.7)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良好	暗黄橙	暗黄橙		第14図
SB7	55	土師器	甕	口頸胴部		(7.5)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ケズリ	8㎜長・石	良好	黄灰	暗黄褐		第14図
SB7	56	土師器	甕	口頸胴部	[14.0]	(5.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第14図
SB7	57	土師器	甕	口頸部	[22.0]	(7.2)		外面：ナデ 内面：ナデ、ハケ	2㎜長・石	良	灰褐	乳黄		第14図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)［推定値］・(残存値) 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
SB7	58	土師器	小型丸底壺	復元完形	[7.2]	(7.2)	1.5	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	3㎜長・石・金	良好	黄灰	黄灰		第14図
SB7	59	土師器	小型丸底壺	復元完形	[8.6]	9.0	3.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、指頭痕	3㎜長・石・金	良好	灰黄褐	黄褐		第14図
SB7	60	土師器	小型丸底壺	完存	8.5	8.6	3.5	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石・金	良好	淡茶褐	淡茶褐		第14図
SB7	61	土師器	小型丸底壺	完存	9.4	14.6	3.0	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	1㎜長・石	良好	乳黄	乳黄		第14図
SB7	62	土師器	壺	胴底部		(7.7)	[5.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第14図
SB7	63	土師器	高坏	復元完形	[18.0]	10.4	11.7	外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐		第15図
SB7	64	土師器	高坏	坏部	[20.2]	(4.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	灰褐	黄灰		第15図
SB7	65	土師器	高坏	坏部	[18.0]	(5.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐		第15図
SB7	66	土師器	高坏	坏部		(7.3)		外面：摩滅 内面：摩滅	7㎜長・石	良好	赤褐	黄灰		第15図
SB7	67	土師器	高坏	坏部	[17.2]	(5.0)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	茶褐	茶褐		第15図
SB7	68	土師器	高坏	坏部	[18.0]	(3.3)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	1㎜長・石・金	良	黄灰	黄灰		第15図
SB7	69	土師器	高坏	坏部	[17.2]	(4.5)		外面：ナデ 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第15図
SB7	70	土師器	高坏	坏部	[15.6]	(5.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第15図
SB7	71	土師器	高坏	坏部	[22.2]	(6.6)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	橙	橙		第15図
SB7	72	土師器	高坏	坏部	[13.6]	(3.4)		外面：摩滅 内面：摩滅	4㎜長・石	良	淡黄	淡黄		第15図
SB7	73	土師器	高坏	坏部	[16.2]	(4.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	黄灰	黒灰褐		第15図
SB7	74	土師器	高坏	坏底部		(2.3)		外面：摩滅 内面：摩滅	4㎜長・石	良好	暗灰黄	暗灰黄		第15図
SB7	75	土師器	高坏	脚柱部		(7.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第15図
SB7	76	土師器	高坏	脚裾部		(1.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	乳黄橙	乳黄橙		第15図
SB7	77	土師器	高坏	脚裾部		(2.4)	[13.4]	外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良	淡黄褐	黄灰		第15図
SB7	78	土師器	高坏	脚柱部		(7.3)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良	乳黄	乳黄		第15図
SB7	79	土師器	高坏	脚柱部		(9.4)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良	乳橙	乳黄		第15図
SB7	80	土師器	高坏	脚柱部		(7.2)	[11.0]	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	5㎜長・石	良好	茶褐	茶褐		第15図
SB8	85	土師器	碗	復元完形	13.0	4.3	3.8	外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	浅黄橙	黒		第17図
SB10	86	土師器	甕	口縁部	[15.8]	(2.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良	黄灰褐	黒灰		第19図
SB10	87	土師器	甕	口頸部	[16.6]	(5.2)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	4㎜長・石	良好	暗黄橙	暗黄橙		第19図
SB10	88	土師器	甕	口頸部	[15.4]	(4.7)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	2㎜長・石	良好	淡灰褐	淡灰褐		第19図
SB10	89	土師器	高坏	坏部	[16.4]	(3.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	橙	橙		第19図
SB10	90	土師器	高坏	完存	15.7	11.6	10.8	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	乳茶	乳茶		第19図
SB10	91	土師器	高坏	坏部	15.0	(7.0)		外面：摩滅 内面：摩滅	精製土	良好	黄灰	黄灰		第19図
SB10	92	土師器	高坏	坏底部		(2.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	淡黄褐	黄灰褐		第19図
SB10	93	土師器	高坏	坏部	[15.8]	(5.4)		外面：摩滅 内面：摩滅	1㎜長・石	良好	黄灰	乳白		第19図
SB10	94	土師器	高坏	脚柱部		(6.0)	10.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第19図
SB10	95	土師器	碗	完存	8.0	9.7	5.6	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良好	灰茶褐	灰茶褐		第19図
SB10	96	土師器	碗	完存	13.2	5.9	3.5	外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	黄灰褐	乳灰		第19図
SB10	97	須恵器	甕	口縁部	[21.6]	(3.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	緑灰	緑灰		第19図
SB18	99	土師器	甕	口頸部	[12.4]	(4.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	橙	橙		第21図
SB18	100	土師器	甕	口頸部	[14.6]	(8.0)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	微粒砂	良好	橙	橙		第21図
SB18	101	土師器	甕	口頸部	[19.6]	(8.1)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	浅黄橙	明褐		第21図
SB18	102	土師器	高坏	脚裾部欠損	14.1	(11.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	黄橙	黄橙	脚柱部未貫通孔（3方向）	第21図
SB24	107	土師器	甕	口頸胴部	[13.6]	(13.8)		外面：頸・胴部ハケ→ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙、灰褐		第23図
SB24	108	土師器	甕	口頸部	[12.2]	(4.3)		外面：口頸部ハケ→ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	黄橙	黄橙		第23図
SB24	109	土師器	坏	復元完形	15.3	4.4	9.0	外面：ナデ底部回転 糸切り 内面：ナデ	微粒砂	良好	灰白	灰白、浅黄橙		第23図
SB24	110	土師器	高坏	坏部	[22.6]	(5.2)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	微粒砂	良好	浅黄橙	黄橙		第23図
SB24	111	土師器	高坏	坏部	[22.8]	(3.8)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	微粒砂	良好	浅黄橙	黄橙		第23図
SB24	112	土師器	高坏	坏部	[18.6]	(5.6)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	灰褐	灰褐		第23図
SB24	113	土師器	高坏	脚部		(9.2)	[13.8]	外面：裾部ハケ 内面：ケズリ→ナデ	微粒砂	良好	明褐灰、浅黄橙	暗橙		第23図
SB24	114	土師器	高坏	脚部		(6.5)	[10.6]	外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	橙、褐灰	橙		第23図
SB24	115	土師器	高坏	脚部		(8.2)	[12.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	6㎜長・石	良好	橙	橙		第23図
SB24	116	土師器	高坏	脚部		(8.4)	[11.8]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄橙	浅黄橙		第23図
SB24	117	須恵器	坏	底部欠損	[10.4]	(4.0)	[7.2]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	良好	灰	灰		第23図
SB33	118	土師器	甕	口縁部	[15.8]	(3.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	淡褐	淡褐		第25図
SB33	119	土師器	甕	口頸部	19.6	(4.9)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	淡赤褐	淡黄褐		第25図
SB33	120	土師器	甕	口頸部	[12.6]	(3.5)		外面：口縁ナデ、胴部ハケ 内面：口縁摩滅　胴部指頭痕	2㎜長・石	良好	淡褐	淡褐		第25図
SB39	121	土師器	甕	口頸部	[15.0]	(3.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	黄橙	黄橙		第27図
SB39	122	土師器	甕	口頸部	[13.0]	(4.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	黄橙	黄橙		第27図
SB39	123	土師器	甕	口頸部	[15.8]	(8.0)		外面：口縁ナデ　頸・肩部ハケ 内面：ナデ	2㎜長・石	良	淡黄茶	淡黄灰		第27図
SB39	124	土師器	高坏	坏部	[16.8]	(5.1)		外面：ナデ 内面：摩滅	3㎜長・石・金	良好	黄橙	黄褐		第27図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)［推定値］・(残存値) 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
SB39	125	土師器	高坏	坏部	16.0	(5.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	暗橙	暗橙		第27図
SB39	126	土師器	高坏	坏部	[14.8]	(5.3)		外面：ナデ 内面：摩滅	1㎜長・石	良好	橙	橙		第27図
SB39	127	土師器	高坏	坏部	[16.0]	(5.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	暗橙	暗橙		第27図
SB39	128	土師器	高坏	坏部	[17.0]	(5.2)		外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良	暗橙	橙		第27図
SB39	129	土師器	高坏	脚柱部		(4.1)	[10.4]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良	淡黄褐	淡黄褐		第27図
SB39	130	須恵器	甕	口縁部	[26.2]	(5.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	良好	明灰	明灰		第27図
SB47	132	土師器	高坏	完存	17.5	12.3		外面：ナデ 内面：摩滅	4㎜長・石	良好	橙	黄橙		第29図
SB52	133	土師器	高坏	坏部	[16.0]	(3.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	淡黄茶褐	淡黄茶褐	SK227	第31図
SB52	134	土師器	高坏	坏部	16.0	(2.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	暗赤褐	暗赤褐	SK227	第31図
SB62	135	土師器	甕	口頸部	[24.3]	(19.7)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ	5㎜長・石	良好	黒灰・赤橙	灰黄茶		第33図
SB62	136	土師器	甕	口頸部	18.5	(7.7)		外面：摩滅 内面：指頭痕	4㎜長・石	良	乳灰黄	乳灰黄		第33図
SB62	137	土師器	甕	口頸部	21.2	(10.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石・金	良	淡黄褐	淡黄褐		第33図
SB62	138	土師器	甕	口頸部	[16.0]	(8.0)		外面：ナデ、胴部ハケ 内面：ヘラケズリ→ナデ	2㎜長・石・金	良	乳灰茶	乳灰茶		第33図
SB62	139	土師器	甕	口頸部	[19.2]	(6.3)		外面：ナデ 内面：ヘラケズリ→ナデ	3㎜長・石	良好	灰黄褐	灰黄褐		第33図
SB62	140	土師器	甕	口頸部	17.8	(7.3)		外面：ナデ、胴部ハケ 内面：ハケ、ナデ	1㎜長・石	良	乳赤褐	乳赤褐		第33図
SB62	141	土師器	甕	口頸部	[15.8]	(5.6)		外面：ナデ、頸部ハケ 内面：ハケ、ナデ	1㎜長・石	良好	淡灰茶	淡灰茶		第33図
SB62	142	土師器	甕	口頸部	17.8	(5.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	6㎜長・石	良好	淡黄	淡黄		第33図
SB62	143	土師器	甕	口縁部	[15.8]	(3.0)		外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	5㎜長・石	良好	灰黄	灰黄		第33図
SB62	144	土師器	甕	口頸部	[18.8]	(6.2)		外面：ハケ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	黄灰	黄灰		第33図
SB62	145	土師器	甕	口頸部	[15.2]	(8.2)		外面：ナデ、胴部ハケ 内面：ナデ、胴部指頭痕	2㎜長・石	良好	黄灰	淡黄灰褐		第33図
SB62	146	土師器	甕	口頸部	[20.8]	(5.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	茶褐	茶褐		第33図
SB62	147	土師器	高坏	完存	15.8	11.9	11.0	外面：坏部ハケ→ナデ 内面：坏部ナデ	1㎜長・石	良好	黄茶褐	黄茶褐		第33図
SB62	148	土師器	高坏	坏部	[16.8]	(4.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	乳茶褐	赤褐		第33図
SB62	149	土師器	埦	完存	10.6	5.4	4.3	外面：ミガキ、ハケ 内面：ナデ、ミガキ	2㎜長・石・金	良好	乳黄茶	乳黄茶		第33図
SB62	150	土師器	埦	完存	10.2	5.1	2.0	外面：ハケ 内面：ナデ	精製土	良好	茶褐	茶褐		第33図
SB62	151	土師器	埦	完存	11.3	5.6	4.5	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	精製土	良好	灰褐	灰黄褐		第33図
SB62	152	土師器	埦	完存	10.0	5.6	2.5	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	精製土	良好	茶褐	茶褐		第33図
SB62	153	土師器	甑	底部欠損	26.0	19.8		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、指頭痕	3㎜長・石	良	橙	橙		第34図
SB62	154	土師器	甑	底部欠損	[23.2]	(23.8)		外面：摩滅 内面：指頭痕	3㎜長・石	良	黄灰褐	黄灰褐		第34図
SB62	155	土師器	甑	底部欠損	[24.2]	(14.9)		外面：ナデ 内面：ナデ	6㎜長・石	良好	暗灰乳茶	暗灰乳茶		第34図
SB81	157	土師器	甕	口頸部	[24.0]	(4.9)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	暗黄橙	暗黄橙		第36図
SB81	158	土師器	甕	口頸部	[11.6]	(3.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第36図
SB81	159	土師器	壺	口縁部	[14.9]	(3.7)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	淡褐	白褐		第36図
SB81	160	土師器	小型丸底壺	口縁端部欠損		(13.0)	2.5	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐		第36図
SB81	161	土師器	高坏	完存	19.4	13.7	12.5	外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	2㎜長・石	良好	黄橙	黄橙		第36図
SB81	162	土師器	高坏	完存	14.6	11.9	11.2	外面：ハケ 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	茶褐	茶褐		第36図
SB81	163	土師器	高坏	復元完形	[14.2]	12.5	9.6	外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	黄茶褐	黄茶褐		第36図
SB81	164	土師器	高坏	復元完形	14.0	11.6	[10.0]	外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	黄褐	黄褐		第36図
SB81	165	土師器	高坏	坏部	[15.6]	(5.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	1㎜長・石	良好	黄灰	黄茶		第36図
SB81	166	土師器	高坏	坏部	15.0	(7.0)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	黄灰	赤茶		第36図
SB81	167	土師器	高坏	坏部	[15.6]	(5.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	軟	明橙	明橙		第36図
SB81	168	土師器	高坏	脚柱部		(10.2)	13.5	外面：指頭痕 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	茶褐	茶褐		第36図
SB81	169	土師器	高坏	脚柱部		(6.9)	9.0	外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	黄茶褐	黄茶褐		第36図
SB81	170	土師器	高坏	脚柱部		(5.7)	9.8	外面：摩滅 内面：摩滅	5㎜長・石	良	黄茶褐	黄茶褐		第36図
SB81	171	土師器	高坏	脚柱部		(6.6)	[11.3]	外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良	乳黄	乳黄		第36図
SB81	172	土師器	高坏	脚柱裾部		(3.9)	[12.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	黒灰	黄茶		第36図
SB81	173	土師器	甑	復元完形	24.8	26.0	9.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡黄	淡黄		第36図
SB81	174	土師器	鉢	口頸部	[15.6]	(5.5)		外面：ナデ 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	黒灰	黄灰		第36図
SB81	175	土師器	埦	完存	11.2	4.6	5.2	外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	黄灰	黄灰		第36図
SB81	176		紡錘車	1／2	[3.3]	1.8	[5.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄橙	浅黄橙		第36図
SB82	177	土師器	甕	口頸部	[18.6]	(5.1)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	明黄	暗黄橙		第38図
SB82	178	土師器	高坏	坏部	13.8	(7.4)		外面：摩滅 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	黄橙	橙		第38図
SB93	179	土師器	高坏	復元完形	14.2	11.6	9.0	外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良	茶褐	茶褐		第40図
SB93	180	土師器	高坏	復元完形	13.0	12.2	9.8	外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良	茶褐	茶褐		第40図
SB93	181	土師器	埦	口縁部	[11.4]	(3.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	浅黄橙	暗黄橙		第40図
SB94	182	土師器	甕	口頸部	[14.5]	(6.9)		外面：ハケ 内面：ハケ、ナデ	2㎜長・石	良好	黄灰褐	黄灰褐		第42図
SB94	183	土師器	甕	口頸部	[20.9]	(5.7)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良好	褐	褐		第42図
SB94	184	土師器	甕	口頸部	[17.0]	(4.2)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	暗黄褐	黄橙		第42図
SB94	185	須恵器	壺	口縁部	[18.0]	(6.4)		外面：回転ナデ、波状紋 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	暗青灰	緑灰		第42図

出土遺物観察表　土製品

遺構名 層・グリッド名	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)(基定値)・(残存値) 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
S B94	186	須恵器	高杯	口縁部	[16.2]	(4.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	暗青灰	青黒		第42図
S B95	187	土師器	甕	口縁部	[18.5]	(5.0)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	3 mm長・石	良好	灰黄茶	灰黄茶		第44図
S B95	188	土師器	甕	口縁部	[14.4]	(6.0)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、強調痕	4 mm長・石	良好	黄灰	黄灰		第44図
S B95	189	土師器	甕	口縁胴部	[12.4]	(12.7)		外面：ナデ、ケズリ 内面：ナデ	4 mm長・石	良好	乳褐灰	淡黄灰		第44図
S B95	190	土師器	壺	完存	13.4	6.9	4.3	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡茶褐	淡茶褐		第44図
S B95	191	土師器	壺	1／2	[12.5]	(5.6)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	精製土(金)	良好	淡茶褐	淡褐灰		第44図
S B95	192	土師器	壺	1／2	[12.5]	(5.1)		外面：ナデ 内面：ナデ、ケズリ	1 mm長・石・金	良好	黄褐	黄褐		第44図
S B95	193	土師器	壺	1／2	[11.4]	(4.9)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	淡褐灰	乳黄褐		第44図
S B95	194	土師器	壺	口縁部	[11.0]	(5.3)		外面：ナデ、強調痕 内面：ナデ、強調痕	2 mm長・石	良好	茶褐	茶褐		第44図
S B95	195	土師器	手捏ね	2／3	4.9	2.5	3.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、指頭痕	3 mm長・石	良好	褐	褐		第44図
S B95	196	須恵器	坏蓋	復元完形	[14.0]	4.6		外面：回転ナデ、ヘラケズリ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	黒灰	灰		第44図
S B95	197	須恵器	坏蓋	口縁部	[13.5]	(3.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	黒灰	青灰		第44図
S B95	198	須恵器	坏身	口縁部	[12.6]	(4.8)		外面：回転ナデ、ヘラケズリ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	灰		第44図
S B95	199	須恵器	坏身	口縁部	[11.4]	(4.7)		外面：回転ナデ、ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3 mm長・石	堅緻	灰	青灰		第44図
S B95	200	須恵器	壺	口縁部		(3.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2 mm長・石	堅緻	青灰	黄灰		第44図
S B95	201	須恵器	壺	口縁部	[13.4]	(5.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2 mm長・石	堅緻	灰	灰		第44図
S B95	202	須恵器	壺	口縁胴部	[15.0]	(10.5)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	3 mm長・石	堅緻	暗灰	暗灰		第44図
S B95	203	須恵器	甑	胴部		(11.3)		外面：回転ナデ、指頭痕 内面：回転ナデ、指頭痕	精製土	堅緻	灰	灰	円孔1.5cm	第44図
S B97	204	土師器	甕	口縁部	[19.6]	(11.2)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	7 mm長・石	良	暗褐	淡褐		第46図
S B97	205	土師器	甕	底部		(3.4)	[9.6]	外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	黄褐	橙		第46図
S B97	206	土師器	壺	口縁部	[26.6]	(5.9)		外面：ナデ 内面：ハケ	2 mm長・石	良好	赤褐	明黄褐		第46図
S B97	207	土師器	高杯	坏部	[18.8]	(8.7)		外面：摩滅 内面：ナデ	精製土	良	明褐	明褐		第46図
S B97	208	土師器	高杯	脚部		(7.5)	[11.2]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	白橙	橙		第46図
S B97	209	土師器	壺	口縁部	[13.2]	(5.6)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良	白褐	褐灰		第46図
S B97	210	須恵器	坏身	体部		(3.0)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第46図
S B102	212	土師器	甕	口頸部	[19.7]	(6.5)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	微粒砂	良好	黄灰	黄灰		第48図
S B102	213	土師器	甕	口頸部	[19.4]	(4.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	4 mm長・石	良好	暗黄橙	暗黄橙		第48図
S B102	214	土師器	高杯	坏部	[14.2]	(4.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	3 mm長・石	良好	橙	橙		第48図
S B102	215	土師器	高杯	復元完形	[15.8]	(9.1)	11.8	外面：ナデ、ミガキ 内面：ナデ、指頭痕	微粒砂	良好	褐	橙		第48図
S B102	216	土師器	高杯	坏部	[20.1]	(7.8)		外面：ナデ、指頭痕 内面：摩滅	微粒砂	良好	褐	橙		第48図
S B102	217	土師器	高杯	脚柱部		(6.4)	8.8	外面：摩滅 内面：ナデ	2 mm長・石	良	橙	橙		第48図
S B102	218	土師器	高杯	脚接続		(5.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	1 mm長・石	良好	橙	橙		第48図
S B102	219	土師器	手捏ね	完存	2.0	3.3	1.5	外面：ナデ、強調痕 内面：ナデ、強調痕	4 mm長・石	良好	浅黄	浅黄		第48図
S B102	220	須恵器	坏身	口縁部	[12.0]	(4.4)	[7.0]	外面：回転ナデ、ヘラケズリ 内面：回転ナデ	5 mm長・石	堅緻	青灰	暗青灰		第48図
S B102	221	須恵器	坏身	口縁部	[11.2]	(3.1)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	4 mm長・石	軟	緑灰	灰白		第48図
S B102	222	須恵器	高杯	口縁部	[15.1]	(3.3)		外面：回転ナデ、波状紋 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	緑灰	灰		第48図
S B102	223	須恵器	壺	復元完形	[17.0]	28.8	10.0	外面：回転ナデ、カキメ、押さえ 内面：回転ナデ、指頭痕	微粒砂	堅緻	灰	灰		第48図
S B103	225	土師器	甕	口頸部	[21.6]	(4.5)		外面：ナデ、指頭痕 内面：摩滅	2 mm長・石	良	淡灰褐	淡灰褐		第50図
S B103	226	土師器	甕	口頸胴部	[19.8]	(13.0)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	1 mm長・石	良好	灰茶	灰茶		第50図
S B103	227	土師器	甕	口頸部	[18.8]	(4.7)		外面：ナデ、ケズリ 内面：ナデ	3 mm長・石	良好	灰黄褐	黄褐		第50図
S B103	228	土師器	甕	口頸胴部	[17.2]	(7.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	4 mm長・石	良好	暗黄褐	黄褐		第50図
S B103	229	土師器	壺	口縁部	[7.8]	(4.2)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	微粒砂	良好	黄褐	黄褐		第50図
S B107	230	土師器	甕	口縁部	[14.0]	(4.7)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	1 mm長・石	良好	明茶褐	灰茶褐		第52図
S B107	231	土師器	甕	口縁部	[15.6]	(2.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	5 mm長・石	良好	灰茶褐	灰茶褐		第52図
S B107	232	土師器	甕	口縁部	[20.6]	(3.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	2 mm長・石	良	暗赤褐	褐		第52図
S B107	233	土師器	甕	口頸部	[13.0]	(4.6)		外面：ハケ→ナデ 内面：ナデ	1 mm長・石	良好	暗赤褐	暗茶褐		第52図
S B107	234	土師器	壺	復元完形	13.0	6.6	4.8	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	橙	褐		第52図
S B107	235	土師器	高杯	坏部	[16.6]	(5.5)		外面：ナデ、強調痕 内面：ナデ	微粒砂	良好	暗茶褐	暗茶褐		第52図
S B107	236	土師器	高杯	脚柱部		(5.3)	[8.8]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良	橙	暗褐		第52図
S B108	237	土師器	甕	口頸部	[20.0]	(4.2)		外面：ナデ 内面：ナデ	3 mm長・石	良好	淡黄	淡黄		第54図
S B108	238	土師器	甕	口頸部	[21.9]	(4.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	2 mm長・石	良	茶褐	茶褐		第54図
S B108	239	土師器	鉢	口縁部	[23.0]	(5.9)		外面：摩滅 内面：ナデ	微粒砂	良好	褐灰	暗褐		第54図
S B108	240	土師器	高杯	脚柱部		(5.9)		外面：摩滅 内面：摩滅	3 mm長・石	良	橙	橙		第54図
S B108	241	土師器	高杯	裾基部		(1.7)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	淡黄褐	淡黄褐		第54図
S B137	242	土師器	甕	完存	20.4	27.9	8.2	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ、指頭痕	2 mm長・石・金	良好	赤褐	赤褐		第56図
S B137	243	土師器	甕	口頸部	[13.0]	(4.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	2 mm長・石	良	淡茶褐	淡褐		第56図
S B137	244	土師器	甕	口頸部	[12.4]	(3.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	3 mm長・石	良好	暗黄褐	褐灰		第56図
S B137	245	土師器	高杯	坏部	10.4	(3.6)		外面：摩滅 内面：摩滅	1 mm長・石	良	淡赤褐	黄褐		第56図

出土遺物観察表　土製品

遺構名（区・グリッド名）	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)［推定値］・(残存値） 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
SB137	246	土師器	高坏	脚部		(3.8)	[15.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	暗黄橙	明黄橙		第56図
SB137	247	須恵器	壺	口縁部	[12.0]	(3.5)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第56図
SB131	248	土師器	甕	口頸胴部	[16.0]	(8.9)		外面：ナデ 内面：ケズリ→ナデ	3㎜長・石	良好	暗茶褐	暗茶褐		第58図
SB131	249	須恵器	坏蓋	1／6	[14.6]	4.1		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第58図
SB131	250	須恵器	坏蓋	1／5	[13.0]	4.1		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第58図
SB131	251	須恵器	坏蓋	4／5	12.8	4.0		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	緑灰	灰		第58図
SB132	252	土師器	甕	口頸胴部	[15.0]	(12.0)		外面：ナデ 内面：ケズリ→ナデ	3㎜長・石	良好	灰茶褐	灰茶褐		第58図
SB132	253	土師器	甕	口頸部	[15.4]	(6.4)		外面：摩滅 内面：指頭痕	2㎜長・石	良	淡茶褐	淡茶褐		第58図
SB132	254	土師器	甕	口頸部	[21.2]	(3.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	橙	橙		第58図
SB132	255	土師器	甕	口頸部	[17.2]	(5.1)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第58図
SB132	256	土師器	壺	胴部		(6.8)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	微粒砂	良好	黄橙	浅黄橙		第58図
SB132	257	土師器	高坏	坏部	[16.5]	(4.8)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	赤茶褐	赤茶褐		第58図
SB132	258	土師器	高坏	坏部	[13.6]	(6.6)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	橙	橙		第58図
SB3	259	土師器	甕	口頸部	[17.4]	(6.6)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石・金	良好	明黄褐	明黄褐		第60図
SB3	260	土師器	甕	口頸部	[17.0]	(8.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	淡黄	浅黄橙		第60図
SB3	261	土師器	甕	口頸胴部	[19.4]	(16.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	橙	橙	SK206	第60図
SB3	262	土師器	甕	口頸部	[17.1]	(8.6)		外面：ナデ、頸部ハケ 内面：ナデ、指頭痕	2㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第60図
SB3	263	土師器	甕	口頸部	[16.4]	(4.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	淡黄	淡黄		第60図
SB3	264	土師器	甕	口頸部	[15.6]	(3.6)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	淡黄	灰白		第60図
SB3	265	土師器	壺	口頸部	[13.6]	(7.3)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	3㎜長・石	良好	明赤褐	暗橙		第60図
SB3	266	土師器	壺	1／2	[9.7]	10.2	[3.0]	外面：ハケ→ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良	褐灰	浅黄橙		第60図
SB3	267	土師器	高坏	坏・柱部	14.0	(8.8)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	微粒砂	良好	暗黄橙	暗黄橙		第60図
SB3	268	土師器	高坏	復元完形	16.2	12.0	[11.5]	外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	暗橙	浅黄橙		第60図
SB3	269	土師器	高坏	復元完形	16.2	12.1	11.4	外面：摩滅 内面：摩滅	5㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第60図
SB3	270	土師器	高坏	復元完形	[18.5]	12.9	[12.4]	外面：ナデ 内面：ナデ	8㎜長・石	良好	明褐	明褐		第60図
SB3	271	土師器	高坏	脚柱部		(6.4)	[12.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄	灰黄		第60図
SB3	272	土師器	高坏	脚柱部		(8.1)	[13.6]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄橙	浅黄橙		第60図
SB1	274	土師器	甕	口頸部	[14.2]	(5.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	褐灰	淡黄		第62図
SB1	275	土師器	甕	口頸部	[16.2]	(5.0)		外面：ハケ 内面：ハケ	微粒砂	良好	淡黄	浅黄橙		第62図
SB1	276	土師器	甕	口頸部	[16.0]	[16.1]		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ、ケズリ	2㎜長・石	良好	浅茶褐	浅茶褐		第62図
SB1	277	土師器	小型丸底壺	完存	9.8	11.4		外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	暗茶褐	暗茶褐	SK19	第62図
SB1	278	土師器	高坏	坏部	[16.7]	(6.0)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	3㎜長・石	良好	橙茶褐	橙茶褐	SK19	第62図
SB1	279	土師器	高坏	脚裾部		(2.7)	[14.8]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄橙	浅黄橙		第62図
SB1	280	土師器	高坏	脚柱部		(7.0)	[12.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	暗黄橙	灰黄褐		第62図
SB1	281	土師器	高坏	脚柱部		(6.4)	[9.8]	外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	2㎜長・石・金	良	暗橙	暗橙		第62図
SB1	282	須恵器	坏蓋	体部		(3.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰白		第62図
SB1	283	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.0]	(4.7)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	青灰	灰		第62図
SB1	284	須恵器	坏蓋	口縁部	[13.6]	(4.5)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第62図
SB1	285	須恵器	坏蓋	口縁部	[13.4]	(4.7)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第62図
SB1	286	須恵器	坏蓋	口縁部	[10.2]	(3.9)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第62図
SB1	287	須恵器	高坏	脚部		(4.9)	[7.2]	外面：回転カキメ・ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰白	灰		第62図
SB1	288	須恵器	甕	口縁部	[14.6]	(3.9)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	灰		第62図
SB5	289	土師器	甕	口頸部	[16.8]	(5.9)		外面：口縁端部ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石・金	良好	明黄橙	明黄橙		第64図
SB5	290	土師器	甕	口頸部	[14.8]	(5.2)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	黄橙	黒褐		第64図
SB5	291	土師器	壺	口縁部	[12.2]	(4.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	橙	淡橙		第64図
SB5	292	土師器	甑	口縁胴部	[21.7]	(17.5)		外面：ハケ→ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	淡茶褐	乳白褐		第64図
SB5	293	土師器	埦	口縁部	[15.4]	(3.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	橙	橙		第64図
SB5	294	土師器	高坏	脚柱部		(7.4)	[10.3]	外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	橙	橙		第64図
SB5	295	須恵器	坏身	1／2	[11.0]	(5.0)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、底部回転ヘラケズリ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第64図
SB5	296	須恵器	坏蓋	口縁部	[15.6]	(2.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第64図
SB5	297	須恵器	𤭯	口縁部	[8.4]	(3.5)		外面：回転ナデ、波状紋 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	暗緑灰		第64図
SB5	298	須恵器	甕	口縁部		(5.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	暗灰	暗緑灰		第64図
SB13	301	土師器	甕	口頸部	[15.4]	(5.3)		外面：摩滅 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	橙	橙		第66図
SB13	302	土師器	甕	口縁部	[12.0]	(3.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	明褐	灰褐		第66図
SB13	303	土師器	甕	口縁部	[16.6]	(3.9)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	橙	橙		第66図
SB14	304	土師器	埦	口縁端部欠損		(5.0)	4.5	外面：摩滅 内面：摩滅	4㎜長・石	良好	明褐	灰褐		第68図
SB14	305	須恵器	坏蓋	口縁端部欠損		(3.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第68図
SB14	306	須恵器	高坏	口縁部	[13.6]	(5.6)		外面：回転ナデ、波状紋 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	暗灰	暗緑灰		第68図
SB16	307	土師器	甕	口頸部	[21.6]	(5.4)		外面：摩滅 内面：摩滅	5㎜長・石	良	淡灰黄	黄灰		第70図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)[推定値]・(残存値)			調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
					口径	器高	底部径							
SB16	308	土師器	甕	口縁部	[11.6]	(4.2)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	4mm長・石	良好	淡橙褐	淡橙褐		第70図
SB16	309	土師器	甕	口頸胴部	[12.2]	(14.0)		外面：ハケ 内面：工具ケズリ痕	4mm長・石	良好	灰黄	灰黄		第70図
SB16	310	土師器	甕	口縁部	[14.4]	(3.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	精製土(金)	良好	乳黄灰	淡黄灰		第70図
SB16	311	土師器	壺	口縁部	[10.4]	(4.8)		外面：ハケ 内面：ナデ、指頭痕	精製土	良好	灰黄	灰黄		第70図
SB16	312	土師器	壺	口頸胴部		(8.0)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	3mm長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐		第70図
SB16	313	土師器	壺	口縁部	[18.8]	(7.1)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	1mm長・石	良好	黒褐	黒灰		第70図
SB16	314	土師器	壺	口縁部	[14.4]	(5.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	1mm長・石	良好	淡黄	淡黄		第70図
SB16	315	土師器	壺	底部		(5.0)	4.3	外面：ナデ 内面：ナデ	2mm長・石	良好	暗灰黄	暗灰		第70図
SB16	316	土師器	高坏	復元完形	[18.7]	13.2	[12.5]	外面：摩滅 内面：摩滅	4mm長・石	良	茶褐	黄茶褐		第70図
SB16	317	土師器	高坏	坏部	[19.0]	(4.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	7mm長・石	良好	淡黄	淡黄		第70図
SB16	318	土師器	高坏	坏部	[15.4]	(5.3)		外面：摩滅 内面：摩滅	1mm長・石	良	乳黄	乳黄		第70図
SB16	319	土師器	高坏	坏部	[15.8]	(3.7)		外面：摩滅 内面：摩滅	2mm長・石	良好	淡黄	淡黄		第70図
SB16	320	土師器	高坏	坏部	[17.0]	(3.6)		外面：摩滅 内面：摩滅	2mm長・石	良好	淡黄	淡黄		第70図
SB16	321	土師器	高坏	坏部	[13.8]	(5.3)		外面：ナデ、指頭痕 内面：摩滅	5mm長・石	良好	黄褐	黄褐		第70図
SB16	322	土師器	高坏	脚柱部		(5.6)	[12.8]	外面：摩滅 内面：摩滅	2mm長・石	良好	黄褐	黄褐		第70図
SB16	323	土師器	高坏	脚柱部		(9.0)	11.8	外面：ナデ 内面：ナデ	4mm長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐		第70図
SB16	324	土師器	高坏	脚柱部		(5.6)	[12.6]	外面：摩滅 内面：摩滅	精製土	良好	淡黄茶	淡黄茶		第70図
SB16	325	土師器	ミニチュア土器	口縁端部欠損		(6.0)	4.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	4mm長・石	良好	黄灰	黄灰		第70図
SB16	326	須恵器	𤭯	完存	10.5	11.2	4.0	外面：回転ナデ、波状紋描画痕 内面：ナデ、指頭痕	3mm長・石	堅緻	灰	淡灰	円孔1.1cm	第70図
SB16	327	須恵器	𤭯	口縁部欠損		(9.3)	4.0	外面：回転ナデ、波状紋刺突紋、タタキ 内面：ナデ	3mm長・石	堅緻	灰	灰	円孔1.3cm	第70図
SB16	328	須恵器	高坏	脚柱部		(6.1)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	灰黄茶		第70図
SB16	329	須恵器	坏身	口縁部	[10.5]	(5.4)	[5.0]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2mm長・石	堅緻	灰	灰		第70図
SB17	330	土師器	甕	口頸部	[15.0]	(6.4)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	3mm長・石	良好	暗褐	暗褐		第72図
SB17	331	土師器	甕	口頸部	[21.6]	(6.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	5mm長・石	良好	橙	暗橙		第72図
SB17	332	土師器	甕	口頸部	[15.8]	(3.9)		外面：摩滅 内面：摩滅	3mm長・石	良好	赤	赤		第72図
SB17	333	土師器	壺	頸胴部		(9.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡赤橙	淡黄橙		第72図
SB17	334	土師器	高坏	脚裾部欠損	14.6	(11.9)		外面：摩滅 内面：摩滅	4mm長・石	良好	黄橙	黄橙		第72図
SB17	335	土師器	高坏	脚柱部		(7.0)	[10.2]	外面：ナデ 内面：ナデ	3mm長・石	良好	黄橙	黄橙		第72図
SB17	336	土師器	高坏	脚裾部欠損	14.0	(11.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	黄橙	黄橙		第72図
SB17	337	土師器	坩	口縁部	[14.7]	(4.0)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	黄橙	淡黄橙		第72図
SB17	338	須恵器	壺	口縁部	[15.4]	(3.7)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第72図
SB26	341	土師器	甕	口縁部	[16.2]	(3.8)		外面：ナデ 内面：摩滅	精製土	良好	黄褐	黄褐		第74図
SB26	342	土師器	甕	口縁部	[20.8]	(5.2)		外面：摩滅 内面：ナデ	4mm長・石	良好	橙	明黄橙		第74図
SB26	343	土師器	高坏	完形	13.0	13.1	11.4	外面：ナデ 内面：ナデ、脚柱部ハケ	微粒砂	良好	黄灰褐、橙	黄灰褐、橙		第74図
SB26	344	土師器	高坏	脚裾部欠損	14.8	12.1	[10.0]	外面：ハケ→ナデ 内面：ナデ	3mm長・石	良好	橙	橙		第74図
SB26	345	土師器	高坏	口縁端部欠損	[14.2]	[12.0]	11.4	外面：ナデ 内面：ナデ	4mm長・石	良好	明赤褐	明赤褐		第74図
SB26	346	土師器	高坏	坏部	[15.3]	(5.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	3mm長・石	良好	淡茶褐	淡茶褐		第74図
SB26	347	土師器	高坏	坏部	15.2	(7.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	2mm長・石	良好	黄灰褐	黄灰褐		第74図
SB26	348	土師器	高坏	坏部	14.0	(5.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	7mm長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐	7と同一個体か	第74図
SB26	349	土師器	高坏	脚柱部		(6.8)	9.1	外面：摩滅 内面：摩滅	5mm長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐	3と同一個体か	第74図
SB26	350	土師器	高坏	脚柱部		(6.6)	10.0	外面：ナデ 内面：摩滅	5mm長・石	良好	茶褐	茶褐		第74図
SB26	351	土師器	坩	1／4	[12.0]	6.5		外面：ナデ 内面：ナデ	2mm長・石	良好	淡黄褐	暗褐		第74図
SB26	352	土師器	坩	完存	9.3	5.95		外面：ナデ 内面：ナデ	3mm長・石	良好	明黄褐	明黄褐		第74図
SB46	353	土師器	甕	口頸部	[17.8]	(4.6)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	淡黄褐	淡黄褐		第76図
SB46	354	土師器	甕	口頸部	[13.1]	(5.8)		外面：ナデ→ハケ 内面：ナデ	4mm長・石	良好	淡灰褐	淡褐		第76図
SB46	355	土師器	甕	口頸部	[30.9]	(8.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	淡茶褐	淡黄		第76図
SB46	356	土師器	高坏	裾部欠損	17.5	(12.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良好	黄	淡黄		第76図
SB46	357	土師器	高坏	坏部	14.2	(6.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	1mm長・石	良好	黄茶	黄茶		第76図
SB46	358	土師器	高坏	完形	22.4	14.6	15.8	外面：摩滅 内面：ナデ、裾部ハケ	5mm長・石	良好	黄茶褐	黄茶褐		第76図
SB46	359	土師器	高坏	坏部	[22.7]			外面：ナデ 内面：ナデ	2mm長・石	良好	灰黄褐	灰黄		第76図
SB46	360	土師器	壺	口縁部	[11.6]	(8.5)		外面：ナデ 内面：ナデ、頸部指頭痕	1mm長・石	良好	淡黄褐	淡黄褐		第76図
SB46	361	土師器	壺	口縁部	[10.6]	(9.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	5mm長・石	良好	淡黄灰	淡黄灰		第78図
SB46	362	土師器	鉢	1／2	[10.3]	(9.8)		外面：ハケ 内面：ナデ、指頭痕	6mm長・石	良	暗黄褐	暗灰褐		第76図
SB46	363	須恵器	壺	胴・底部		(14.9)	[4.3]	外面：ナデ、叩き 内面：ナデ	微粒砂	良好	緑灰	灰		第78図
SB49	365	土師器	甕	口縁部	[14.4]	(3.7)		外面：摩滅 内面：摩滅	4mm長・石・金	良	暗黄灰	暗黄灰		第78図
SB49	366	土師器	甕	口縁部	[18.7]	(5.5)		外面：ナデ 内面：摩滅	2mm長・石	良	灰黄	黄茶		第78図
SB49	367	土師器	甕	口縁部	[21.4]	(3.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	3mm長・石	良好	暗褐	赤茶		第78図
SB49	368	土師器	甕	口縁部	[17.7]	(5.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	5mm長・石	良	黄灰	暗灰褐		第78図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)[推定値]・(残存値) 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
SB49	369	土師器	甕	復元完形	14.0	19.1	5.0	外面：口縁ナデ、胴部ハケ 内面：ハケ→ナデ	3㎜長・石	良好	暗灰褐	暗灰褐		第78図
SB49	370	土師器	高坏	坏部	[21.4]	(7.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	淡褐灰	淡橙灰		第78図
SB49	371	須恵器	高坏	坏部	[17.2]	(7.3)		外面：ナデ、波状紋 内面：ナデ	精製土	良好	灰	灰		第78図
SB57	373	土師器	甕	口頸部	[15.0]	(3.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石・金	良好	暗褐	暗褐		第80図
SB57	374	土師器	甕	口頸部	[17.0]	(3.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第80図
SB57	375	土師器	甕	口頸部	[16.0]	(3.4)		外面：摩滅 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第80図
SB57	376	土師器	壺	口頸部	[14.6]	(5.2)		外面：ナデ、頸部ハケ 内面：ナデ	6㎜長・石	良好	灰白	灰白		第80図
SB57	377	土師器	高坏	脚柱部		(8.5)		外面：ナデ、ハケ 内面：摩滅	微粒砂	良好	橙	淡黄褐		第80図
SB70	378	土師器	高坏	坏部	[17.2]	(5.9)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	微粒砂	良	橙褐	淡褐		第82図
SB70	379	土師器	甕	口頸部	?	(4.0)		外面：指頭痕 内面：摩滅	微粒砂	良	橙褐	橙褐		第82図
SB71	380	土師器	甕	口頸部	[11.1]	(5.0)		外面：ナデ→ハケ 内面：ナデ、ハケ	2㎜長・石	良	淡白黄褐	淡白黄褐		第84図
SB71	381	土師器	甕	口縁部	[19.6]	(3.9)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良	明褐	明褐		第84図
SB71	382	土師器	壺	口頸部	[12.0]	(6.9)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	橙	橙		第84図
SB71	383	土師器	甕	口頸部	[13.0]	(5.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良	淡橙褐	淡橙褐		第84図
SB71	384	土師器	高坏	脚柱部		(6.9)	[10.0]	外面：裾部ナデ 内面：ヘラケズリ	微粒砂	良	黒灰褐	黒灰褐		第84図
SB71	385	土師器	ミニチュア土器	完存	3.8	3.2	1.8	外面：指頭圧痕 内面：指頭圧痕	6㎜長・石	良	淡白黄褐	淡白黄褐		第84図
SB71	386	土師器	ミニチュア土器	完存	4.0	3.3	1.7	外面：指頭圧痕 内面：指頭圧痕	6㎜長・石	良	淡白茶	淡白茶		第84図
SB73	387	土師器	甕	口頸部	[14.4]	(4.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良	淡黄	淡橙		第86図
SB73	388	土師器	甕	口頸部	[14.8]			外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良	淡黄褐	淡黄褐		第86図
SB73	389	土師器	甑	胴底部		(8.4)	[11.5]	外面：ハケ→ナデ、ハケ 内面：ナデ、指頭痕	微粒砂	良好	橙	橙		第86図
SB73	390	土師器	甑	把手		(5.3)		外面：ナデ	微粒砂	良好	橙	橙		第86図
SB73	391	土師器	手捏	復元完形	[5.4]	4.9		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第86図
SB73	392	須恵器	坏身	復元完形	10.6	[5.3]		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	4㎜長・石	堅緻	淡黄	淡黄		第86図
SB73	393	須恵器	坏蓋	復元完形	[11.3]	(4.2)		外面：天井回転ヘラケズリ、口縁回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第86図
SB73	394	須恵器	坏蓋	復元完形	[12.9]	4.3		外面：天井回転ヘラケズリ、口縁回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰白		第86図
SB73	395	須恵器	高坏	坏部	[10.3]	(4.5)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	暗灰	灰		第86図
SB73	396	須恵器	高坏	脚柱部		(5.6)	8.6	外面：回転ナデ、カキメ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第86図
SB73	397	須恵器	高坏	脚柱部		(4.1)	[11.9]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	緑灰		第86図
SB85	398	土師器	甕	口頸胴部	[13.4]	(7.8)		外面：摩滅 内面：ハケ、ナデ	2㎜長・石	良	橙褐	橙褐		第88図
SB85	399	土師器	甕	口頸部	[15.2]	(5.1)		外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	黄橙	黄橙		第86図
SB85	400	土師器	手捏ね	完存	3.6	2.5		外面：指頭痕 内面：指頭痕	微粒砂	良好	明褐	明褐		第88図
SB85	401	須恵器	坏蓋	つまみ部		(2.3)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	淡灰	暗青灰	つまみ径1.8㎝	第88図
SB85	402	須恵器	坏蓋	つまみ部		(1.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	灰	つまみ径3.0㎝	第88図
SB85	403	須恵器	坏蓋	完存	11.8	5.2		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	青灰	つまみ径1.6㎝	第88図
SB85	404	須恵器	坏蓋	復元完形	[11.4]	5.5		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	5㎜長・石	堅緻	灰	淡青灰	つまみ径1.8㎝	第88図
SB85	405	須恵器	坏蓋	口縁部	[11.0]	(4.2)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第88図
SB85	406	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.4]	(3.5)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	精製土	軟	淡灰	淡灰		第88図
SB85	407	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.2]	(3.9)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第88図
SB85	408	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.6]	(3.9)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	暗青灰	暗青灰		第88図
SB85	409	須恵器	坏蓋	口縁部	[14.8]	(4.3)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	淡灰	淡青灰		第88図
SB85	410	須恵器	坏蓋	口縁部	[15.2]	(4.1)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	青灰		第88図
SB85	411	須恵器	坏身	口縁部	[10.6]	(4.2)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密	堅緻	淡灰	淡青灰		第88図
SB85	412	須恵器	坏身	口縁部	[10.8]	(4.8)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	青灰	青灰		第88図
SB85	413	須恵器	坏身	口縁部	[12.6]	(4.4)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	淡灰	淡灰		第88図
SB85	414	須恵器	坏身	口縁部	[13.6]	(4.9)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	淡青灰	淡青灰		第88図
SB85	415	須恵器	坏身	口縁部	[9.8]	(5.2)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第88図
SB85	416	須恵器	坏身	口縁部	[10.0]	(3.7)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第88図
SB85	417	須恵器	坏身	復元完形	[9.8]	5.9	5.0	外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	暗灰	暗灰		第88図
SB85	418	須恵器	高坏	脚部		(5.3)	8.2	外面：回転ナデ・カキメ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	淡灰	暗灰		第88図
SB85	419	須恵器	高坏	脚部		(3.6)	[8.8]	外面：回転ナデ・カキメ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	明褐	暗灰		第88図
SB85	420	須恵器	高坏	脚部		(3.7)	[7.8]	外面：回転ナデ・カキメ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	淡灰	灰		第88図
SB85	421	須恵器	高坏	脚基部		(3.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	淡灰	淡灰		第88図
SB85	422	須恵器	高坏	脚部		(4.7)	[7.8]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第88図
SB98	423	土師器	甕	口頸部	[14.6]	(5.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	赤褐	明赤褐		第90図
SB98	424	土師器	甕	口頸部	[23.6]	(7.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜長・石	良	茶褐	茶褐		第90図
SB98	425	土師器	甕	口頸部	[15.8]	(6.0)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	2㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第90図
SB98	426	土師器	甕	口頸部	[13.4]	(4.7)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	1㎜長・石	良	灰茶褐	灰茶褐		第90図
SB98	427	土師器	甕	口頸部	[17.6]	(3.7)		外面：摩滅 内面：摩滅	精製土	良	茶褐	茶褐		第90図
SB98	428	土師器	甕	口頸部	[17.8]	(7.8)		外面：ハケ 内面：ハケ	1㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第90図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)[推定値]・(残存値)			調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
					口径	器高	底部径							
SB98	429	土師器	埦	口縁部	[14.0]	(3.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	橙	暗橙		第90図
SB98	430	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.0]	(4.7)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	軟	灰	灰		第90図
SB98	431	須恵器	坏蓋	復元完形	13.2	4.8		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	軟	灰白	灰白		第90図
SB98	432	須恵器	坏蓋	天井部		(3.8)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰白	灰白		第90図
SB98	433	須恵器	坏蓋	口縁部	[14.0]	(4.3)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第90図
SB98	434	須恵器	坏蓋	口縁部	[15.0]	(3.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	灰白	灰黄		第90図
SB98	435	須恵器	坏身	口縁部	[12.0]	(4.0)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	灰	灰		第90図
SB98	436	須恵器	高坏	脚基部		(5.0)		外面：回転ナデ・カキメ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	青灰	青灰		第90図
SB98	437	須恵器	高坏	脚裾部	[9.0]	(1.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	青灰	青灰		第90図
SB98	438	須恵器	盌	口縁部	[19.0]	(4.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	軟	灰白	灰白		第90図
SB98	439	須恵器	盌	口縁部	[13.0]	(2.5)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	軟	灰白	灰白		第90図
SB98	440	須恵器	鉢	口縁部	[8.4]	(4.2)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第90図
SB109	441	土師器	甕	口頸部	[16.8]	(5.2)		外面：ナデ 内面：指頭痕	3㎜長・石	良好	灰茶褐	暗灰黄		第92図
SB109	442	土師器	甕	口頸部	[18.4]	(7.2)		外面：ナデ、ハケ 内面：摩滅	微粒砂	良	明褐	淡褐		第92図
SB109	443	土師器	壺	胴底部		(10.0)	[8.2]	外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	淡黄	黄灰		第92図
SB109	444	土師器	皿	1／2	[13.6]	3.3		外面：摩滅 内面：摩滅	精製土	良好	乳白	乳白		第92図
SB109	445	土師器	皿	1／2	[8.2]	1.4	[4.8]	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	精製土	良好	乳白	黄橙		第92図
SB109	446	土師器	皿	完存	8.0	1.5	5.4	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	精製土	良	乳白	黒灰		第92図
SB109	447	須恵器	坏蓋	完存	12.0	4.5		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第92図
SB109	448	須恵器	坏身	復元完形	10.4	4.5	5.5	外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	4㎜長・石	堅緻	灰	灰		第92図
SB109	449	須恵器	坏身	1／2	[10.6]	4.3	[5.0]	外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	4㎜長・石	堅緻	灰	灰		第92図
SB109	450	須恵器	高坏	脚部		(4.8)	7.8	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第92図
SB113	451	土師器	高坏	復元完形	14.2	12.5	9.9	外面：ナデ 内面：ナデ、ミガキ	微粒砂	良好	橙	橙		第94図
SB127	452	土師器	甕	口頸部	[19.8]	(7.0)		外面：ハケ 内面：ナデ、指頭痕	5㎜長・石	良	灰黄褐	灰黄褐		第96図
SB127	453	土師器	高坏	復元完形	14.1	11.5	[10.8]	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、ケズリ	1㎜長・石	良好	黄褐	黄褐		第96図
SB127	454	土師器	高坏	坏部	13.8	(6.7)		外面：ナデ、指頭痕 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	淡黄褐	黄茶		第96図
SB127	455	土師器	高坏	坏部	15.8	(6.2)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	黄茶褐	黄茶褐		第96図
SB127	456	土師器	埦	完存	13.0	6.0	3.0	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ、指頭痕	1㎜長・石	良好	乳黄褐	乳黄褐		第96図
SB128	457	土師器	甕	口頸部	[18.2]	(5.0)		外面：ハケ 内面：指頭痕	4㎜長・石	良好	灰黄褐	灰黄褐		第98図
SB128	458	土師器	高坏	坏部	8.0	(5.5)		外面：ハケ、ナデ 内面：ハケ、ナデ	2㎜長・石	良好	乳黄褐	乳黄褐		第98図
SB128	459	土師器	高坏	脚柱部		(5.0)	[11.6]	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	精製土	良好	乳茶	乳茶		第98図
SB128	460	土師器	高坏	脚柱部		(6.8)	12.2	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	精製土	良好	黄褐	黄褐		第98図
SB128	461	土師器	高坏	脚部		(6.0)	16.8	外面：摩滅 内面：摩滅	精製土	良	赤橙	赤橙		第98図
SB128	462	土師器	埦	完存	11.3	4.5	3.0	外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	灰黄褐	灰黄褐		第98図
SB128	463	土師器	坏	1／2	[15.0]	4.0	[8.0]	外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	黄茶	黄橙		第98図
SB128	464	須恵質	擂鉢	口縁部	[30.4]	(6.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	4㎜長・石	良	淡灰	淡灰		第98図
SB6	465	土師器	甕	口頸部	[16.0]	(7.1)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	暗橙	浅黄橙		第100図
SB6	466	土師器	甕	口頸部	[12.0]	(7.2)		外面：ハケ、ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	赤褐	赤褐		第100図
SB6	467	土師器	埦	復元完形	[10.2]	5.7		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	微粒砂	良好	赤褐	黄褐		第100図
SB19	470	土師器	甕	口頸部	[19.8]	(6.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	4㎜長・石	良好	黄橙	黄橙		第102図
SB19	471	土師器	甕	口頸部	[16.0]	(7.1)		外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	4㎜長・石・金	良好	赤橙	淡赤橙		第102図
SB19	472	土師器	甕	口頸部	[12.8]	(4.4)		外面：ハケ→ナデ 内面：ハケ→ナデ	微粒砂	良好	橙	橙		第102図
SB19	473	土師器	甕	口頸部	[11.2]	(3.8)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	黄	淡黄		第102図
SB19	474	土師器	高坏	完存	15.5	11.0	10.0	外面：摩滅 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	明赤褐	明赤褐		第102図
SB19	475	土師器	高坏	坏部	16.5	(5.8)		外面：ハケ、ナデ 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	橙	浅黄橙		第102図
SB19	476	土師器	埦	復元完形	[11.3]	4.6	4.0	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	橙	黄橙		第102図
SB19	477	土師器	埦	復元完形	10.9	5.0	3.8	外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	微粒砂	良好	橙	橙		第102図
SB19	478	須恵器	坏蓋	口縁端部 大部欠損		(4.2)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第102図
SB19	479	須恵器	壺	口縁部	[18.8]	(4.5)		外面：回転ナデ、カキメ 内面：回転ナデ	4㎜長・石	堅緻	灰	灰		第102図
SB83	481	土師器	甕	口頸部	[15.6]	(3.9)		外面：摩滅 内面：摩滅	3㎜長・石	良好	黄褐	暗黄褐		第104図
SB83	482	土師器	高坏	坏部	19.7	(6.8)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	褐	淡黄		第104図
SB83	483	土師器	甑	口頸胴部	[20.8]	(17.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡黄	淡黄		第104図
SB83	484	土師器	坏	完存	13.3	4.1	8.1	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	3㎜長・石	良	灰白	黒		第104図
SB83	485	須恵器	坏身	口縁部	[11.3]	(2.9)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第104図
SB83	486	須恵器	坏身	口縁部	[12.5]	(3.1)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第104図
SB83	487	須恵器	坏身	口縁部	[11.1]	(3.8)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第104図
SB138	488	土師器	埦	1／4	[10.4]	(4.6)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	明緑灰	灰		第105図
SB138	489	須恵器	坏蓋	1／2	[12.0]	(4.5)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第105図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)[推定値]・(残存値) 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
SB4	490	土師器	壺	底部		(2.8)	[4.6]	外面：ナデ 内面：ナデ	2㎜長・石	良	浅黄橙	暗黄橙		第108図
SB4	491	須恵器	坏蓋	口縁部	[14.3]	(2.5)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	暗赤褐	赤褐		第108図
SB11	492	土師器	甕	口頸部	[19.0]	(5.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	5㎜長・石	良好	明褐	暗橙		第110図
SB11	493	土師器	甕	口縁部	[10.4]	(2.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	良好	黒褐	黒褐		第110図
SB11	494	土師器	甕	口縁部	[16.9]	(3.0)		外面：摩滅 内面：摩滅	5㎜長・石	良好	褐	褐		第110図
SB11	495	土師器	甑	把手		(7.0)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	浅黄橙	浅黄橙		第110図
SB11	496	土師器	高坏	口縁部	[15.8]	(2.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡橙	橙		第110図
SB11	497	土師器	椀	復元完形	[13.6]	5.6	2.5	外面：ケズリ、ミガキ 内面：ケズリ、ミガキ	2㎜長・石	良好	橙	橙		第110図
SB11	498	須恵器	坏身	口縁部	[10.4]	(2.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第110図
SB65	501	土師器	甕	口縁部	[28.8]	(4.3)		外面：ナデ 内面：ナデ	1㎜長・石	良好	橙	橙		第112図
SB65	502	土師器	甕	口縁部	[23.0]	(4.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡褐	淡褐		第112図
SB65	503	土師器	甕	口縁部	[20.6]	(4.0)		外面：ハケ 内面：ハケ	微粒砂	良	橙	橙		第112図
SB65	504	土師器	高坏	坏部	15.0	(5.2)		外面：ナデ、ハケ、指頭痕 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡黄灰褐	淡黄灰褐		第112図
SB65	505	須恵器	坏蓋	復元完形	[13.0]	4.1		外面：天井回転ヘラケズリ、口縁回転ナデ 内面：回転ナデ	5㎜長・石	堅緻	灰、自然釉	灰		第112図
SB65	506	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.0]	(3.7)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第112図
SB65	507	須恵器	坏蓋	口縁部	[15.0]	(3.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	軟質	灰白	灰白		第112図
SB65	508	須恵器	坏身	口縁部	[12.0]	(4.1)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰白	灰白		第112図
SB65	509	須恵器	高坏	坏部	[10.0]	(3.1)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	青灰	青灰		第112図
SB65	510	須恵器	坏身	口縁部	[13.0]	(3.7)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	灰		第112図
SB65	511	須恵器	坏身	口縁部	[12.0]	(2.4)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第112図
SB65	512	編製品			(3.6)	(2.7)		人面様の線刻	微粒砂	良好	暗黄灰	暗黄灰		第112図
SB80	515	土師器	高坏	復元完形	[19.4]	11.5	10.4	外面：摩滅 内面：摩滅	5㎜長・石	良好	橙	浅黄橙		第114図
SB101	516	土師器	甕	口頸部	[25.6]	(6.1)		外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ、ハケ	1㎜長・石	良	灰褐	灰褐		第116図
SB101	517	土師器	甕	口縁部	[22.2]	(3.7)		外面：摩滅 内面：摩滅	精製土	軟	茶褐	茶褐		第116図
SB101	518	須恵器	坏蓋	完存	[16.2]	(5.0)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第116図
SB101	519	須恵器	坏身	口縁部	[11.0]	(3.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第116図
SB101	520	須恵器	短頸壺	口頸胴部	[7.4]	(7.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰		第116図
SB121	521	土師器	甕	口頸部	[16.0]	(2.9)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	軟	灰茶褐	灰茶褐		第118図
SB121	522	須恵器	坏蓋	1／4	[12.0]	(3.1)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	青灰	赤茶		第118図
SB121	523	須恵器	坏身	口縁部		(3.5)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	灰	灰		第118図
SB121	524	須恵器	坏身	口縁部		(2.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第118図
SB121	525	須恵器	坏身	1／6	[11.8]	(3.0)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第118図
SB121	526	須恵器	高坏	脚基部		(2.6)		外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ヘラケズリ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰白		第118図
SB121	527	須恵器	高坏	口縁部		(3.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	軟	灰	灰		第118図
SB121	528	須恵器	甕	口縁部	[28.0]	(2.9)		外面：回転ヘラケズリ 内面：回転ヘラケズリ	微粒砂	堅緻	灰	灰白		第118図
SB121	529	須恵器	甕	口縁部	[22.4]	(3.7)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰白	灰白		第118図
SB121	530	須恵器	甕	口縁部	[22.0]	(3.8)		外面：回転ナデ、タタキ 内面：回転ナデ	3㎜長・石	堅緻	灰	灰		第118図
SB129	533	土師器	高坏	復元完形	13.9	13.0	[11.2]	外面：ナデ、指頭痕 内面：摩滅	2㎜長・石	良好	灰茶	淡黄茶	カマド内出土	第120図
SB129	534	土師器	高坏	脚柱部		(7.2)	12.1	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	4㎜長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙		第120図
SB129	535	土師器	高坏	脚部		(4.8)	[11.4]	外面：摩滅 内面：摩滅	1㎜長・石	軟	淡灰褐	淡灰褐		第120図
SB129	536	土師器	坏	口縁部	[13.8]	(2.4)		外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良	黒褐	黒褐		第120図
SB129	537	土師器	坏	復元完形	[12.8]	3.2	8.0	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄褐	灰白		第120図
SB129	538	土師器	坏	口縁部	[15.0]	(3.0)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄	浅黄		第120図
SB129	539	土師器	手捏ね	胴底部		(1.7)	[0.8]	外面：ナデ 内面：ナデ	精製土	良	浅黄	浅黄		第120図
SB129	540	須恵器	鉢	口縁部	[13.4]	(3.9)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	堅緻	灰黄	黄灰		第120図
SB129	541	須恵器	坏蓋	口縁部	[11.2]	(4.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	淡黄	淡黄		第120図
SB129	542	須恵器	坏身	坏部		(2.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	精製土	堅緻	灰	灰		第120図
SB164	543	土師器	甕	口頸胴部	[19.0]	(10.5)		外面：ナデ 内面：摩滅	3㎜長・石・金	良好	橙	橙		第122図
SB164	544	土師器	高坏	坏部	12.8	(4.1)		外面：ナデ 内面：ナデ	3㎜長・石	良好	橙	橙		第122図
SB164	545	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.4]	(2.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	青灰	青灰		第122図
掘立2	546	須恵器	坏身	底部		(3.1)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰	SP52	第124図
掘立5	547	土師器	甕	口頸部	[13.4]	(4.5)		外面：ハケ 内面：ハケ	3㎜長・石	良好	暗褐	暗褐	SP98	第126図
掘立7	548	須恵器	坏蓋	口縁部	[15.0]	(2.2)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	灰	灰	SP135	第128図
掘立8	549	須恵器	坏蓋	口縁部	[11.8]	(2.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	緑灰	灰	SP126	第130図
掘立8	550	須恵器	坏身	口縁部	[9.2]	(2.5)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰	SP126	第130図
掘立8	551	須恵器	坏身	体部		(3.0)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	良	灰	灰	SP126	第130図
掘立8	552	須恵器	高坏	脚裾部		(1.6)	[14.0]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰	SP123	第130図
掘立10	553	須恵器	坏蓋	口縁部	[12.6]	(2.8)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1㎜長・石	堅緻	灰	灰	SP308	第132図
掘立10	554	須恵器	坏身	口縁部	[10.8]	(2.9)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2㎜長・石	堅緻	灰	灰	SP312	第132図

出土遺物観察表　土製品

遺構名(区・グリッド名)	報告番号	種類	器種	残存	法量(cm)[推定値]・(残存値) 口径	器高	底部径	調整・特徴	胎土	焼成	外面色調	内面色調	備考	図版
掘立11	555	土師器	壺	底部		(3.0)	6.0	外面：ナデ 内面：摩滅	4mm長・石・金	良好	淡黄	暗灰	SP339	第134図
掘立11	556	須恵器	坏身	口縁部	[10.9]	(4.6)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	5mm長・石	堅緻	灰	灰	SP339	第134図
掘立13	557	土師器	甕	口縁部	[21.8]	(3.7)		外面：摩滅 内面：摩滅	3mm長・石	良好	暗橙	暗橙	SP437	第136図
掘立13	558	須恵器	坏蓋	口縁部	[11.4]	(3.0)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	2mm長・石	堅緻	灰	灰	SP438	第136図
掘立13	559	須恵器	坏身	口縁部	[8.3]	(2.7)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰	SP438	第136図
掘立13	560	須恵器	高坏	脚部		(3.2)	[10.2]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰	SP443	第136図
掘立14	561	土師器	甑	把手		(5.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	微粒砂	良好	黄橙	黄橙	SP444	第138図
掘立14	562	須恵器	坏身	口縁部	[11.4]	(4.0)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2mm長・石	堅緻	灰	灰	SP444	第138図
掘立15	563	須恵器	坏身	口縁部	[12.2]	(1.9)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	軟	灰	灰	SP463	第140図
掘立15	564	須恵器	坏身	口縁部	[14.0]	(2.8)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	軟	灰白	灰白	SP463	第140図
掘立15	565	須恵器	坏身	1／6	[11.0]	(3.3)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3mm長・石	堅緻	灰白	灰白	SP457	第140図
掘立15	566	須恵器	坏身	1／4	[12.9]	(3.6)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	3mm長・石	堅緻	灰	灰	SP457	第140図
掘立15	567	須恵器	高坏	脚部		(3.2)	[10.2]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm長・石	堅緻	黄灰	黄灰	SP457	第140図
掘立17	569	土師質	擂鉢	底部		(3.2)	[7.0]	外面：底部回転糸切り 内面：ナデ	4mm長・石	良好	浅黄橙	浅黄橙	SP694	第142図
掘立20	570	土師器	甕	口縁部	[15.6]	(4.5)		外面：ナデ 内面：摩滅	3mm長・石	良好	暗橙	暗橙	SP888	第144図
掘立43	571	須恵器	坏身	体部		(2.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm長・石	堅緻	灰	灰	SP2057	第146図
掘立51	572	土師器	坏	底部		(1.5)	7.6	外面：摩滅 内面：摩滅	1mm長・石	良好	乳白	乳白	SP3406	第148図
掘立51	573	土師器	皿	2／3	[7.8]	1.1	[5.6]	外面：摩滅 内面：摩滅	2mm長・石	良好	乳白	乳白	SP3406	第148図
掘立54	574	須恵器	坏蓋	口縁部	[14.4]	(3.4)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	3mm長・石	堅緻	灰白	灰白	SP3926	第150図
掘立54	575	須恵器	坏身	口縁部	[12.8]	(4.0)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	4mm長・石	堅緻	灰	灰	SP3927	第150図
掘立54	576	須恵器	埦	口縁部	[11.6]	(3.8)	[8.0]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm長・石	堅緻	灰白	灰白	SP3927	第150図
掘立64	577	須恵器	坏身	口縁部		(3.8)		外面：回転ナデ・ヘラケズリ 内面：回転ナデ	2mm長・石	堅緻	灰	灰	SP2380	第152図
掘立72	578	須恵器	甕	口縁部	[20.2]	(2.6)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	緑灰	緑灰	SP2974	第154図
掘立81	579	瓦器	埦	口縁部	[13.6]	(4.4)		外面：ナデ、ヘラミガキ 内面：ナデ、ヘラミガキ	微粒砂	良好	灰白	灰白	SP4470	第156図
掘立81	580	土師器	皿	1／2	[9.0]	1.8	[5.8]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	浅黄橙	橙	SP4776	第156図
掘立81	581	陶磁器	碗	1／6	[10.0]	(1.9)		外面：施釉 内面：施釉	微粒砂	良好	緑灰	緑灰	SP4776	第156図
掘立82	582	土師器	甕	口縁部	[19.2]	(3.5)		外面：摩滅 内面：摩滅	4mm長・石	良好	暗黄橙	浅黄橙	SP4835	第158図
掘立83	583	土師質	鉢	底部		(4.0)	[5.0]	外面：摩滅 内面：ナデ	3mm長・石	良好	明黄褐	明黄褐	SP4812	第160図
掘立83	584	須恵質	埦	口縁部	[16.2]	(2.3)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm長・石	良好	灰白	灰白	SP4810	第160図
掘立83	585	須恵器	坏身	口縁部	[11.0]	(2.8)		外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	良	灰	灰	SP4813	第160図
掘立85	586	須恵器	坏蓋	つまみ部		(1.8)		外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	良好	灰白	灰白	SP3970	第162図
掘立85	587	須恵器	高坏	脚基部		(4.0)		外面：回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	3mm長・石	良好	黒褐	灰白	SP6696	第162図
SK73	588	土師器	皿	完存	8.0	1.0	6.4	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	3mm長・石	良好	淡茶褐	淡茶褐		第164図
SK73	589	土師器	皿	完存	7.8	1.2	6.4	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	1mm長・石	良好	淡茶褐	淡茶褐		第164図
SK73	590	土師器	皿	完存	7.6	1.0	5.8	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	3mm長・石	良好	淡茶褐	淡茶褐		第164図
SK73	591	土師器	皿	完存	8.0	1.3	5.8	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	2mm長・石	良好	淡茶褐	淡茶褐		第164図
SK110	592	土師器	坏	復元完形	11.4	2.8	8.5	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	1mm長・石	良好	淡茶	淡茶		第166図
SK133	593	土師器	坏	完存	15.0	6.5	8.0	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	1mm長・石	良好	淡茶褐	淡茶褐	柱状高台	第168図
SK133	594	土師器	皿	復元完形	8.2	1.5	6.4	外面：ナデ、底部糸切り、板状圧痕 内面：ナデ	3mm長・石	良好	淡茶褐	淡茶褐		第168図
SK133	595	陶磁器	白磁碗	口縁部		(3.2)		外面：施釉 内面：施釉	微粒砂	良好	淡黄白	淡黄白		第168図
SK141	596	須恵器	高坏	復元完形	[12.0]	7.8	8.7	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	1mm長・石	軟	灰白	灰白		第170図
SK141	597	須恵器	坏	1／5	[15.8]	4.6	[7.5]	外面：ナデ 内面：ナデ	1mm長・石	堅緻	灰	灰		第170図
SK141	598	須恵器	坏	2／3	[10.0]	4.6	[5.3]	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	堅緻	灰	灰		第170図
SK182	599	土師器	甕	口縁部	[14.4]	(6.9)		外面：ハケ、ナデ 内面：ケズリ→ナデ	2mm長・石	良好	灰茶褐	灰茶褐		第172図
SK182	600	土師器	高坏	坏部	19.0	(9.1)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	5mm長・石	良好	暗茶褐	暗茶褐		第172図
SK182	601	土師器	高坏	坏部	[15.4]	(5.1)		外面：ナデ、指頭痕 内面：ナデ	2mm長・石	良好	橙茶褐	橙茶褐		第172図
SK182	602	土師器	皿	復元完形	13.6	1.8	10.6	外面：ナデ、底部回転ヘラ切り 内面：ナデ	微粒砂	良好	明茶褐	明茶褐		第172図
SK182	603	土師器	坏	1／6	[12.7]	4.1	[6.1]	外面：ナデ、ハケ 内面：ナデ	微粒砂	良好	淡赤褐	淡赤褐		第172図
SK182	604	土師器	坏	復元完形	[13.0]	3.8	6.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	微粒砂	良好	橙	橙		第172図
SK182	605	土師器	坏	1／3	[14.0]	3.9	[8.0]	外面：摩滅 内面：摩滅	2mm長・石	良好	浅黄橙	橙		第172図
SK182	606	土師器	坏	底部		(2.3)	[7.2]	外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	黄茶褐	黄茶褐		第172図
SK209	607	土師器	甕	口縁部	[15.4]	(4.7)		外面：ナデ 内面：ナデ	2mm長・石	良好	灰	暗茶褐		第174図
SK209	608	土師器	甕	復元完形	11.6	13.1	1.5	外面：ナデ 内面：ナデ、指頭痕	微粒砂	良好	赤茶褐	赤茶褐		第174図
SK209	609	土師器	高坏	坏部	[13.0]	(4.1)		外面：ナデ 内面：ナデ	微粒砂	良好	明茶褐	明茶褐		第174図
SK209	610	土師器	高坏	脚柱部		(6.9)	9.8	外面：ナデ、絞痕 内面：ケズリ・ナデ	微粒砂	良好	明茶褐	明茶褐		第174図